

(文部科学省委託事業)

平成26年度免許更新制高度化のための調査研究事業

報 告 書

研究課題

- I. 教員免許更新制の需要把握及び効果検証に関する調査研究事業
(2) 平成26年度の免許状更新講習の場を活用した需要調査・分析事業
- II. 現代的な教育課題に対応するための実践的な講習内容・方法の研究
開発事業

平成27年3月

信州大学

も く じ

I. 免許更新制高度化のための調査研究の内容・方法・組織	1
II. 教員免許更新制の需要把握及び効果検証に関する調査研究	
1. 文部科学省平成26年度免許状更新講習受講者アンケートから	3
2. 信州大学版必修講座に関するアンケートから	19
3. 受講後実施する通常アンケートの経年分析から	31
4. 更新修了者に対するアンケートから	38
5. 選択講習受講者へのアンケートから	123
III. 現代的な教育課題に対応するための実践的な講習内容・方法の研究開発	133
カウンセリング方法	

資料

I 免許更新制高度化のための調査研究の内容・方法・組織

1 調査研究の概要

平成21年度から実施している信州大学教員免許状更新講習では、人文・教育・経済・理・医・工・農・繊維の各学部と全学教育機構のすべてが講習を開講しており、それぞれの講習内容や教育方法については、教員免許更新支援センターが、各担当教員に対して、個別の支援を行うことで、現職教員の意識と大学での講習との間に発生するであろうミスマッチを最小限に抑える努力をしてきている。また、年を追うごとに本講習に対する受講者の意識の高まりに対応すべく、昨年度より事前・事後のアンケート分析をシラバスや使用教材の分析も連動させて行い、分析結果等を担当教員にフィードバックする作業を充実させてきている。

そこで、本研究では、これまでのデータ分析等では、見えてこない受講者自身の「教員としての資質向上に関する学びの意識」、講習担当大学教員の「授業力向上」、「現代的な教育課題への対応」等について、本年度実施する必修ならびに選択講習において、通常のアンケートに加えて文部科学省が設定する調査項目及び大学等が独自に設定する調査項目についてアンケート調査を行い、受講者の実態を探るとともに、今後の交渉の従事のあり方を探った。

また、平成25年度までに免許状更新講習修了者に対して、受講した講座内容等に対する感想と、受講後の様子についてアンケートを実施し、免許状更新講習が教師のキャリア形成にどのような成果をもたらしているかを探った。

さらに、現代的な課題であり、本学の講習でも希望者の高いカウンセリングに関する講習の充実のため、デジタル教材を作成した。

成果は、全国どこで利用できるようにweb上等で公開するなど、新たな内容として提言していく。

2 調査研究の実施方法

(1) 方針の決定（7月上旬）

事務局において有識者による検討委員会を設置及び委員を任命し、アンケート項目等について検討した。

(2) 講習修了者に対するアンケート調査の実施と分析（7月中旬～10月）

平成25年度までに免許状更新講習を受講し更新を修了した長野県内の義務教育学校に勤務する教員に対して、公聴会を通して、アンケート調査を依頼し、657名からの回答を得た。

(3) 平成26年度の受講者並びに担当教員にアンケート調査の実施

（7月中旬～10月）

受講者自身の教員としての資質向上に関する学びの意識について、必修領域講習と選択

領域講習と講習担当教員の授業に関わる意識についてのアンケートを実施した。

(4) 調査の分析 (10月中旬～3月)

教員免許更新支援センター員を中心とする「制度・内容」調査チームにおいて、調査結果について分析を行い、制度並びに内容の課題と効果を洗い出した。

(5) 現代的な教育課題に対応した講習内容の開発 (7月中旬～11月)

教員免許更新支援センター員を中心とする「現代的な教育課題」研究開発チームにおいて、カウンセリングに関する指導ビデオを作成した。

(6) 有識者による検討委員会を開催 (12月、2月)

有識者による検討委員会を3回開催。進捗状況の確認と、研究のまとめに対する提言を得た。

3 調査研究に関する実施体制

(1) 検討委員会 (外部有識者による委員会)

谷田部 玲生 桐蔭横浜大学 スポーツ健康政策学部 教授
田部 俊充 日本女子大学 人間社会学部 教授
二川 正浩 東京家政大学 家政学部 准教授
渡部 竜也 東京学芸大学 教育学部 准教授
玉川 隆雄 長野市教育センター主任指導主事

【活動内容について】メール審議

- ・第1回委員会 (7月)
実施方法の検討及び調査方法ならびに講習開発方法の検討
- ・第2回委員会 (12月)
調査・分析結果の確認と開発講習内容の検討
- ・第3回委員会 (3月)
分析結果の確認、研究成果の提言に向けての確認

(2) 調査チーム

主査 赤羽 貞幸 信州大学副学長 (教員免許更新支援センター長)
小山 茂喜 信州大学教授 (教員免許更新支援センター員)
庄司 和史 信州大学教授 (教員免許更新支援センター員)
荒井英治郎 信州大学准教授 (教員免許更新支援センター員)
田村 徳至 信州大学講師 (教員免許更新支援センター員)
河野 桃子 信州大学講師
神谷真由美 信州大学講師

Ⅱ. 教員免許更新制の需要把握及び効果検証に関する調査研究

1. 文部科学省平成26年度教員免許状更新講習受講者アンケート (基本情報・必須調査)の結果

1-1. 受講資格

受講資格	回答数	構成比
幼稚園教諭	16	1.9%
幼稚園助教諭	1	0.1%
幼稚園養護助教諭	1	0.1%
幼稚園講師	2	0.2%
保育士	5	0.6%
小学校教諭	263	30.6%
小学校養護教諭	8	0.9%
小学校養護助教諭	2	0.2%
小学校栄養教諭	8	0.9%
小学校講師	49	5.7%
中学校教諭	167	19.4%
中学校養護教諭	17	2.0%
中学校養護助教諭	2	0.2%
中学校栄養教諭	3	0.3%
中学校講師	20	2.3%
高等学校教諭	144	16.7%
高等学校養護教諭	4	0.5%
高等学校講師	19	2.2%
高等学校見込まれる者	5	0.6%
中等教育学校教諭	1	0.1%
中等教育学校講師	2	0.2%
特別支援学校教諭	27	3.1%
特別支援学校養護教諭	1	0.1%
特別支援学校講師	6	0.7%
免許保有実習助手	2	0.2%
免許保有大学等職員	3	0.3%
教員採用内定者	3	0.3%
教職希望経験者	40	4.7%
認定保育所保育士	11	1.3%
リスト掲載者	17	2.0%
資格を得た者	8	0.9%
その他	3	0.3%
計	860	100.0%



人数構成としては小学校・中学校・高等学校の教員の順で、幼稚園・保育園・その他の資格の方の受講が増えた。

1-2. 年齢

年齢	回答数	構成比
30代	102	11.9%
40代	122	14.2%
50代	126	14.7%
無回答	510	59.3%
計	860	100.0%

無回答が6割弱となっており、正確な年齢構成がこのアンケートからは取れなかったが、それぞれの世代の割合は、受講者登録名簿の比率と回答者の比率とで、ほぼ一致している。

1-3. 所有している免許状の種類

[回答者全体の保有免許状総数]

所有している免許状	回答数	構成比
幼稚園教諭	129	6.7%
小学校教諭	432	22.3%
中学校教諭	650	33.6%
高等学校教諭	574	29.7%
特別支援学校教諭	96	5.0%
養護教諭	38	2.0%
栄養教諭	10	0.5%
無回答	6	0.3%
計	1935	100.0%

- ・幼稚園教諭免許状所有者は、他校種の免許状を所有している割合は低い。
- ・小学校に勤務している教員は、他校種（特に中学校）の免許を所有している割合が高い。
- ・中学校に勤務している教員は、ほとんどが高等学校免許状を所有しており、同時に約半数が小学校教員免許状を所有している。
- ・高等学校に勤務している教員の約7割が、中学校免許状を所有している。
- ・その他受講者は、中学校・高等学校免許状所有者が比較的多い。

[幼稚園・保育園等に勤務している者]

受講資格	幼稚園教諭	幼稚園助教諭	幼稚園養護助教諭	幼稚園講師	保育士	認定保育所保育士
所有免許状						
幼稚園教諭	14	0	0	2	2	11
小学校教諭	1	0	0	1	0	0
中学校教諭	2	1	1	0	0	0
高等学校教諭	1	1	1	0	0	0
特別支援学校教諭	1	0	0	0	0	0
養護教諭	0	0	1	0	0	0
栄養教諭	0	0	0	0	0	0
無回答	0	0	0	0	3	0
合計	19	2	3	3	5	11

[小学校に勤務している者]

受講資格 所有免許状	小学校 教諭	小学校 養護教諭	小学校 養護助教諭	小学校 栄養教諭	小学校 講師
幼稚園教諭	57	0	0	0	13
小学校教諭	246	0	0	0	45
中学校教諭	210	0	2	4	35
高等学校教諭	140	0	0	1	23
特別支援学校教諭	36	0	0	0	5
養護教諭	1	8	2	0	0
栄養教諭	0	0	0	8	0
合計	690	8	4	13	121

[中学校に勤務している者]

受講資格 所有免許状	中学校 教諭	中学校 養護教諭	中学校 養護助教諭	中学校 栄養教諭	中学校 講師
幼稚園教諭	6	0	0	0	1
小学校教諭	72	0	0	1	4
中学校教諭	163	2	0	2	20
高等学校教諭	149	1	0	0	14
特別支援学校教諭	19	0	0	0	2
養護教諭	0	17	2	0	0
栄養教諭	0	0	0	2	0
合計	409	20	2	5	41

[高等学校に勤務している者]

受講資格 所有免許状	高等学校 教諭	高等学校 養護教諭	高等学校 講師	高等学校見 込まれる者	中等教育 学校教諭	中等教育 学校講師
幼稚園教諭	1	0	0	0	0	1
小学校教諭	11	0	2	1	0	1
中学校教諭	99	1	13	5	1	2
高等学校教諭	140	0	18	4	1	1
特別支援学校教諭	1	0	0	0	0	0
養護教諭	0	3	0	0	0	0
栄養教諭	0	0	0	0	0	0
合計	252	4	33	10	2	5

[特別支援学校に勤務している者]

受講資格 所有免許状	特別支援学校 教諭	特別支援学校 養護教諭	特別支援学校 講師
幼稚園教諭	9	0	1
小学校教諭	19	0	2
中学校教諭	22	0	6
高等学校教諭	18	0	4
特別支援学校教諭	23	0	5
養護教諭	0	1	0
栄養教諭	0	0	0
合計	91	1	18

[その他の者]

受講資格 所有免許状	免許保有 実習助手	免許保有 大学等職員	教員採用 内定者	教職希望 経験者	リスト掲 載者	資格を 得た者	その他
幼稚園教諭	0	0	0	4	6	1	0
小学校教諭	0	1	1	16	5	1	2
中学校教諭	1	3	1	35	11	6	2
高等学校教諭	2	2	1	33	12	5	2
特別支援学校教諭	0	0	0	2	2	0	0
養護教諭	0	0	1	2	0	0	0
栄養教諭	0	0	0	0	0	0	0
合計	3	6	4	92	36	13	6

[免許種]

免許種	回答数	構成比
幼稚園教諭専修免許状	2	0.2%
幼稚園教諭一種免許状	21	2.4%
幼稚園教諭二種免許状	51	5.9%
小学校教諭専修免許状	36	4.2%
小学校教諭一種免許状	279	32.4%
小学校教諭二種免許状	90	10.5%
中学校教諭専修免許状	17	2.0%
中学校教諭一種免許状	203	23.6%
中学校教諭二種免許状	16	1.9%
高等学校教諭専修免許状	15	1.7%
高等学校教諭一種免許状	74	8.6%
特別支援学校教諭専修免許状	0	0.0%
特別支援学校教諭一種免許状	1	0.1%
特別支援学校教諭二種免許状	0	0.0%
特別支援学校自立教科教諭一種免許状	1	0.1%
特別支援学校自立教科教諭二種免許状	0	0.0%
養護教諭専修免許状	0	0.0%
養護教諭一種免許状	28	3.3%
養護教諭二種免許状	10	1.2%
栄養教諭一種免許状	9	1.0%
栄養教諭二種免許状	1	0.1%
無回答	6	0.7%
計	860	100.0%

- ・ 所有免許状の多くが1種免許状である。
- ・ 2種免許状は、比較的幼稚園教諭・小学校教諭免許状に多い。
- ・ 専修免許状所有者は、それほど多くなく、一番多い小学校教諭免許状でも、4.2%で、中学校教諭免許状で2.0%、高等学校教諭で1.7%で所有率は低い。

なお、年代別に見ると、50代が多く40代、30代と世代が若くなるにしたがって少なくなっている。

	30代	40代	50代
幼稚園教諭専修免許状	1	0	0
小学校教諭専修免許状	2	5	6
中学校教諭専修免許状	2	0	1
高等学校教諭専修免許状	1	3	6
合計	6	8	13



[免許状の教科]

教科	回答数	構成比
中学校国語	84	6.9%
中学校社会	35	2.9%
中学校数学	39	3.2%
中学校理科	48	3.9%
中学校音楽	31	2.5%
中学校美術	25	2.1%
中学校保健体育	37	3.0%
中学校技術	7	0.6%
中学校家庭	24	2.0%
中学校外国語（英語）	63	5.2%
中学校中国語	1	0.1%
中学校イスパニア語	1	0.1%
高等学校国語	60	4.9%
高等学校社会	23	1.9%
高等学校地理歴史	20	1.6%
高等学校公民	21	1.7%
高等学校数学	53	4.4%
高等学校理科	54	4.4%
高等学校音楽	33	2.7%
高等学校美術	17	1.4%
高等学校工芸	4	0.3%
高等学校書道	18	1.5%
高等学校保健体育	43	3.5%
高等学校保健	4	0.3%
高等学校家庭	25	2.1%
高等学校情報	7	0.6%
高等学校農業	7	0.6%
高等学校農業実習	1	0.1%
高等学校工業	11	0.9%
高等学校工業実習	2	0.2%
高等学校商業	6	0.5%
高等学校外国語（英語）	33	2.7%
高等学校中国語	1	0.1%
高等学校イスパニア語	1	0.1%
視覚障害者に関する教育の領域	4	0.3%
聴覚障害者に関する教育の領域	4	0.3%
知的障害者に関する教育の領域	81	6.7%
肢体不自由者に関する教育の領域	37	3.0%
病弱者に関する教育の領域	36	3.0%
埋療	4	0.3%
合計	1005	100.0%

・教科は多岐にわたっているが、特別支援教育の免許状の所有者が多いのが特筆すべきことである。

・中学校勤務の教員の場合、受講した教員の教科は、人数の多い順から、理科・国語・外国語（英語）・保健体育・美術・数学・社会・音楽・家庭・技術であった。

・高等学校勤務の教員の場合、受講した教員の教科は、人数の多い順では、数学・理科・国語・工業・外国語（英語）・書道・情報・地理歴史・公民・家庭・商業・農業・社会・保健体育・音楽・美術・工業実習であった。

※ 実際に教科の免許持っていて、中学校で教えている割合は、以下のとおりであった。

教 科	人 数	免許所有者に 対する割合
理科	26	54%
国語	23	27%
外国語（英語）	19	30%
保健体育	18	49%
美術	11	44%
数学	14	36%
社会	12	34%
音楽	10	32%
家庭	8	33%
技術	2	29%

※ 実際に教科の免許持っていて、高等学校で教えている割合は、以下のとおりであった。

教 科	人 数	免許所有者に 対する割合
数学	19	36%
理科	15	28%
国語	11	18%
工業	11	100%
外国語（英語）	10	30%
書道	8	44%
情報	7	100%
地理歴史	6	30%
公民	6	29%
家庭	6	24%
商業	5	83%
農業	4	57%
社会	3	13%
保健体育	3	7%
音楽	2	6%
美術	2	12%
工業実習	2	100%

2-1. あなたの受講資格にあてはまるのはどれですか。

受講資格	回答数	構成比
教育職員、または教育の職にある者【受講義務者】	732	85.1%
教員採用内定者	0	0.0%
教員勤務経験者	68	7.9%
認定こども園、認可保育園等に勤務する保育士	25	2.9%
教育職員になることが見込まれる者 (教育委員会等が作成した臨時任用又は非常勤教員リストに登載されている者)	21	2.4%
その他	7	0.8%
無回答	7	0.8%
合 計	860	100.0%

- ・おおかた、受講義務者であった。

2-2. 修了確認期限及び有効期間（以下、「修了確認期限等」という）は経過していますか。

	回答数	構成比
受講期間内であり、まだ修了確認期限等は到来していない	818	95.1%
修了確認期限等修了確認期限等はすでに過ぎているはすでに過ぎている	39	4.5%
無回答	3	0.3%
合 計	860	100.0%

- ・ほとんどが、期限内であった。
- ・期限を過ぎている受講者は、ほとんどが延長の手続きをとっているものであった。

2-3. 自身の更新時期（修了確認期限等）について、どのように確認されましたか。

確認方法	回答数	構成比
都道府県教委、市区町村教委から通知等があった	80	8.4%
勤めている学校（園）の校長（園長）等から連絡があった	525	54.9%
文部科学省のホームページで調べた	184	19.2%
文部科学省に電話やメールなどで問い合わせた	0	0.0%
都道府県及び市区町村教委のホームページで調べた	127	13.3%
都道府県及び市区町村教委に電話やメールなどで問い合わせた	7	0.7%
その他	28	2.9%
無回答	5	0.5%
合 計	956	100.0%

- ・半程度が、学校長等の所属長からの確認があったとされている。
大学としては、校長会に対して教育委員会から周知していただきよう要請しているが、徹底されているとはいえない状況である。
また、大学から要項を長野県内の学校すべてに配布しているが、自由記述を見ると、教員に知らされていなかった旨の記載もあり、教育委員会等と連携し、いっそう周知の方法を工夫する必要がある。
- ・教員が個々に調べているケースも3割程度あることから、自己責任で対応している教員もかなりいるといえる。

2-4. 取得した教員免許状をどのように保管していますか。

	回答数	構成比
すぐに確認できる場所に保管している	506	58.8%
すぐに確認はできないが、保管場所は把握	229	26.6%
保管している場所がすぐに思い当たらない	89	10.3%
その他	16	1.9%
無回答	20	2.3%
合計	860	100.0%

- ・すぐに確認できるところに保管しているが、6割弱であった。
保管場所を把握しているを含めると、8割強の教員が保管ができているといえる。
- ・1割強の教員が保管があいまいで、これまでに確認がどのような形でなされてきたのかが課題として残る形となった。
- ・その他に該当する教員は、ほとんどが再発行を依頼していると回答している。

2-5. 免許状所有者が更新講習の受講時期などを把握できるように、現行の教員免許状をカード化してはどうかとの意見がありますが、カードになった場合、どのような機能を期待しますか。

	回答数	構成比
教員免許としての機能だけでよい	494	56.4%
公的な身分証明書としての機能	282	32.2%
民間企業等が提供するサービスを享受できる機能	77	8.8%
その他	20	2.3%
無回答	3	0.3%
合計	876	100.0%

- ・約半数が免許状としての機能だけでよいとしている。
- ・付加価値をつけるとしても、身分証明書程度で、カード化に対する期待は薄いといえる。

- 2-6. 修了確認期限等の延長により更新講習の受講時期が変わったり、また、平成21年4月以降に初めて免許状を授与された者（新免許状所有者）の場合は免許状の有効期間は最も遅く満了する有効期間に統一されるなど、次の更新時期などを正しく把握するためには、免許所持者としてお持ちの免許状の情報をしっかりと管理する必要がありますが、行政側にはどのようなサービスを期待しますか。

期待するサービス	回答数	構成比
インターネットで簡単に自分の免許状の情報を確認することができるサービスの提供	374	40.5%
新たな免許状の取得などにより有効期間が変更となった際に、更新講習の受講期間などの情報についても併せて提供	373	40.4%
申請に基づく全所有免許状の情報に係る証明書等の発行	108	11.7%
その他	33	3.6%
無回答	36	3.9%
合計	924	100.0%

- ・回答からは、自分の免許状の期限情報が受け取ればよいという程度にとらえていると考えられる。

- 2-7. 現在の更新講習においては、学校種・免許種にかかわらず共通に履修すべき内容を必修領域として受講することとされております。しかし、この必修領域については、扱う内容が多岐にわたり内容が薄いなどの意見があり、履修内容を精選すべきと言われております。そのため、教員にとって学ぶ必要性が高いと考える現代的な課題やテーマについては、学校種・免許種や教職経験に応じて履修内容を調整できる「選択必修領域」として新たに設けることを検討しております。現在の学校現場での必要性等から、あなたが受講を希望する研修内容はどれですか。

受講を希望する研修内容	回答数	構成比
学校を巡る近年の状況の変化	457	18.5%
学習指導要領の改訂の動向等	240	9.7%
法令改正及び国の審議会の状況等	115	4.7%
様々な問題に対する組織的対応の必要性	232	9.4%
学校における危機管理上の課題	201	8.1%
教育相談	412	16.7%
進路指導及びキャリア教育	142	5.7%
学校、家庭並びに地域の連携及び協働	183	7.4%
道徳教育	102	4.1%
英語教育	82	3.3%
国際理解及び異文化理解教育	66	2.7%
教育の情報化	235	9.5%
無回答	3	0.1%
合計	2470	100.0%

- ・昨今の教育事情を反映してか、学校を巡る近年の状況の変化が1位であった。
- ・2位は、子どもや保護者との対応の多様化に対応すべく、教育相談であった。
- ・学習指導要領の改訂の動向等、教育の情報化、様々な問題に対する組織的対応の必要性、学校における危機管理上の課題といった内容も、要望の高いものである。

[世代ごとの希望]

受講を希望する研修内容	30代		40代		50代	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
学校を巡る近年の状況の変化	50	18.7%	63	18.1%	66	18.9%
学習指導要領の改訂の動向等	34	12.7%	29	8.3%	35	10.0%
法令改正及び国の審議会の状況等	8	3.0%	18	5.2%	20	5.7%
様々な問題に対する組織的対応の必要性	19	7.1%	32	9.2%	47	13.4%
学校における危機管理上の課題	22	8.2%	33	9.5%	47	13.4%
教育相談	46	17.2%	52	14.9%	52	14.9%
進路指導及びキャリア教育	10	3.7%	19	5.5%	18	5.1%
学校、家庭並びに地域の連携及び協働	26	9.7%	23	6.6%	18	5.1%
道徳教育	17	6.4%	14	4.0%	5	1.4%
英語教育	10	3.7%	18	5.2%	4	1.1%
国際理解及び異文化理解教育	3	1.1%	8	2.3%	12	3.4%
教育の情報化	21	7.9%	38	10.9%	26	7.4%
無回答	1	0.4%	1	0.3%	0	0.0%
合計	267	100.0%	348	100.0%	350	100.0%

- ・30代は、「学校を巡る近年の状況の変化」「教育相談」「学習指導要領の改訂の動向等」が上位であった。
- ・40代は、「学校を巡る近年の状況の変化」「教育相談」「教育の情報化」が上位であった。
- ・50代は、「学校を巡る近年の状況の変化」「教育相談」「様々な問題に対する組織的対応の必要性」「学校における危機管理上の課題」が上位であった。
- ・世代ごとに、キャリアに応じた課題意識が見られた。

[校種別]

受講を希望する 研修内容	幼稚園		小学校		中学校		高等学校		特別支援学校	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
学校を巡る近年の状況の変化	17	17.3%	182	19.2%	110	18.2%	95	19.5%	11	11.6%
学習指導要領の改訂の動向等	8	8.2%	112	11.8%	58	9.6%	36	7.4%	10	10.5%
法令改正及び国の審議会の状況等	3	3.1%	52	5.5%	33	5.4%	17	3.5%	4	4.2%
様々な問題に対する組織的対応の必要性	15	15.3%	78	8.2%	62	10.2%	44	9.0%	12	12.6%
学校における危機管理上の課題	9	9.2%	70	7.4%	54	8.9%	43	8.8%	8	8.4%
教育相談	16	16.3%	167	17.6%	105	17.3%	62	12.7%	16	16.8%
進路指導及びキャリア教育	0	0.0%	19	2.0%	38	6.3%	65	13.3%	12	12.6%
学校、家庭並びに地域の連携及び協働	20	20.4%	62	6.5%	30	5.0%	32	6.6%	10	10.5%
道徳教育	3	3.1%	50	5.3%	30	5.0%	8	1.6%	2	2.1%
英語教育	0	0.0%	40	4.2%	9	1.5%	14	2.9%	3	3.2%
国際理解及び異文化理解教育	3	3.1%	19	2.0%	9	1.5%	24	4.9%	2	2.1%
教育の情報化	4	4.1%	96	10.1%	68	11.2%	47	9.7%	5	5.3%
合計	98	100%	947	100%	606	100%	487	100%	95	100%

- ・幼稚園の教員の研修内容希望上位は、「学校、家庭並びに地域の連携及び協働」「学校を巡る近年の状況の変化」「教育相談」「様々な問題に対する組織的対応の必要性」であった。
- ・小学校の教員の研修内容希望上位は、「学校を巡る近年の状況の変化」「教育相談」「学習指導要領の改訂の動向等」「教育の情報化」であった。
- ・中学校の教員の研修内容希望上位は、「学校を巡る近年の状況の変化」「教育相談」「教育の情報化」「様々な問題に対する組織的対応の必要性」であった。
- ・高等学校の教員の研修内容希望上位は、「学校を巡る近年の状況の変化」「進路指導及びキャリア教育」「教育相談」であった。
- ・特別支援学校の教員の研修内容希望上位は、「教育相談」「進路指導及びキャリア教育」「学校を巡る近年の状況の変化」「学習指導要領の改訂の動向等」「学校、家庭並びに地域の連携及び協働」であった。
- ・それぞれの校種での研修希望内容を見ると、それぞれの校種で抱えている課題の順位性が反映されているといえる。

2-8. 教員免許更新制の概要について、現在、文部科学省のホームページ等で周知を行っていますが、明瞭な情報提供を求める内容はどれですか。

明瞭な情報提供を求める内容	回答数	構成比
旧免許状と新免許状の考え方や違いについて	190	8.8%
修了確認期限等及びそれに付随する更新講習の受講期間について	401	18.5%
免許状の更新手続きについて	473	21.8%
更新講習の受講資格（受講対象者）について	177	8.2%
修了確認期限等を経過した場合の対応について	155	7.1%
更新講習の開設状況について	295	13.6%
更新講習の受講方法や受講すべき講習について	325	15.0%
修了確認期限等の延長及び更新講習の受講免除について	126	5.8%
その他	12	0.6%
合 計	2171	100.0%

- ・ 行政側に求めるサービス同様、更新手続きについてが一番の関心事であることが、うかがえる。
- ・ 更新講習については、自己責任で行うことが原則とされていることから、時期や内容についても、情報提供を求めていることがうかがえる。

2-9. 教員免許更新制の概要について、どのような方法による情報提供を望みますか。

情報提供の方法	回答数	構成比
現在のホームページ掲載内容を明瞭にするだけで良い	18	5.5%
いつでも確認できるリーフレット等を提供してほしい	29	8.9%
授与される免許状等（裏面等）に記載してほしい	225	68.8%
とくに改善等の必要なし	55	16.8%
その他	0	0.0%
合 計	327	100.0%

- ・ 煩瑣な作業を避けるよう免許状への記載が一番多くなっている。
- ・ リーフレット等での周知については、このデータを見る限り効果は上がらないと考えられる。

「a. 教育職員、または教育の職にある者【受講義務者】」及び「d. 認定こども園、認可保育園等に勤務する保育士」以外の方

2-10-1 免許状更新講習を受講した理由は何ですか。

受講した理由	回答数	構成比
今すぐにもでも教員になる意思があるから	11	17.2%
教員採用試験に合格、また、学校等から内定をもらったから	2	3.1%
了確認期限等は過ぎてしまったが、将来、いつか教員になれるようにしておきたいから	20	31.3%
教員になるつもりはないが、免許の有効性を維持したいから	15	23.4%
その他	16	25.0%
合 計	64	100.0%

- ・すぐに教職に就くという明確な目的がある受講者は、該当者全体の17.2%とそれほど多くはない。基本的には、もし機会が生じたときのためにという、保険的なイメージで受講していることがうかがえる。
- ・現行の教員配置事情からすると、講師依頼が急に発生することが多いので、対応する側としても、更新期に受講しておかざるを得ない状況にあるといえる。

2-10-2 免許状更新講習の申込及び受講などで苦勞したことは何ですか。

申込及び受講などで苦勞したこと	回答数	構成比
受講することができる資格を得ること	8	10.8%
講習を開設している大学等を探すこと	12	16.2%
自分の都合にあった日程で開講している講習を探すこと	39	52.7%
その他	15	20.3%
合 計	74	100.0%

- ・現在、他の仕事についている場合が多く、日程調整が難しかったようである。また、大学での講習内容についても、大学としてはホームページで周知しているが、そのこと自体理解されていないという状況の方が多く、申し込み等の情報収集で大変だったようである。
- ・その他の多くが、最終勤務校に書類をお願いすることが大変であったり、対応してもらえなかったというものであった。

「d. 認定こども園、認可保育所等に勤務する保育士」と回答をした方

2-11-1. 免許状更新講習を受講した理由は何ですか。

受講した理由	回答数	構成比
保育教諭になるから	11	40.7%
今すぐにも幼稚園等の教諭になる意思がある	0	0.0%
将来、いつか幼稚園等の教諭になれるように	6	22.2%
免許の有効性を維持したい	5	18.5%
その他	5	18.5%
計	27	100.0%

- ・制度の変更にとまなう対応ということがうかがえる。

2-11-2. 免許状更新講習の申込及び受講などで苦勞したことは何ですか。

申込及び受講などで苦勞したこと	回答数	構成比
受講することができる資格を得ること	8	22.2%
講習を開設している大学等を探すこと	4	11.1%
自分の都合にあった日程で開講している講習を探すこと	22	61.1%
その他	2	5.6%
合計	36	100.0%

- ・現在の勤務の状況などから、日程調整等が一番の課題といえる。
- ・2-10-2と同様の傾向が見られた。

「e. 教育職員になることが見込まれる者（教育委員会等が作成した臨時任用又は非常勤教員リストに登載されている者）」と回答をした方

2-12-1. 搭載されている名簿を作成しているところはどこですか。

名簿を作成しているところ	回答数	構成比
県教委	15	68.2%
市町村教委	5	22.7%
学校法人	2	9.1%
私立学校関係団体	0	0.0%
その他	0	0.0%
合計	22	100.0%

- ・おおかた、教育委員会への名簿搭載での対応となっている。

2-12-2. 名簿への掲載のために苦労したことは何ですか。

	回答数	構成比
掲載までに時間を要した	14	34.1%
名簿を作成している団体等がなかなか見つからなかった	2	4.9%
近い将来教員になる意思を示さない限り、名簿には掲載しないと 言われた	2	4.9%
その他	23	56.1%
合 計	41	100.0%

- ・複数回答している場合が多く、手続き上どのようにしたらよいのかがわからず困ったという内容が多かった。

2. 信州大学版必修講座に関するアンケートの結果

文部科学省指定のアンケート形式では、細かな受講者の意識を拾うことができないことから、必修講座について、信州大学独自のアンケート項目を作成し、アンケートを実施した。アンケートは、教育学部と全学教育機構教職教育部（以降教職教育部）の2部局で必修講座が開講されていることから、両方の講座で任意で実施し、教育学部では195部、教職教育部では367部の回答を得ることができた。

(1) 最新の教育事情について新しい知見に触れることができましたか

新しい知見に触れることができたか	回答数	構成比
とてもそう思う	214	38.4%
まあそう思う	327	58.7%
あまりそう思わない	16	2.9%
そう思わない	0	0.0%
合計	562	100.0%

- ・ 97%の受講者が満足していることから、大学として提供した情報等は問題がなかったと考えられる。

(2) 最新の教育事情について新たに得た内容は何ですか

○得られたとされた主な内容

[教育学部受講者]

- ・ 21世紀型のスキル
- ・ 国際調査(PISAやPIAAC)の成果
- ・ コミュニティースクール
- ・ 小中一貫教育、カリキュラム
- ・ 中高一貫教育
- ・ 海外の教育事情
- ・ 教育政策
- ・ 政治と教育
- ・ ICTの活用
- ・ 反転授業
- ・ 文部科学省のサイト情報
- ・ 少子化にともなう教育改革
- ・ 少人数指導
- ・ アントプレナーシップ教育
- ・ 心理学の知見
- ・ カウンセリング
- ・ 情報モラル
- ・ 学習形態
- ・ 学校組織

[教職教育部受講者]

- ・ 現代の教育政策
- ・ 特別支援教育（障がいの名前が変わるなど）
- ・ データに関して（読み取り方法・操作されていることなど）

- ・教育課題（勤務実態、教師の心の様子など他）
- ・学力観
- ・キャリア教育の重要性
- ・スクールカースト
- ・カウンセリング
- ・危機管理に関して
- ・著作権
- ・長野県と他県の違い
- ・SWOT分析に関して
- ・PISAに関して
- ・反転授業
- ・ホリスティック
- ・LOCK INからの解放

[考察]

- それぞれの部局の担当教員に得意分野について、新しい知見として受講者に受け止めてもらえたようである。
- 政策やカリキュラムや生徒理解等については、ほぼ同じ傾向が見られた。
- 教育学部では海外事情が、教職教育部では子どもの健康管理が特色としてあげることができよう。

(3) 最新の教育事情についてもっと触れて欲しいことは何ですか

○挙げられた内容で主だったもの

- ・21世紀型スキルや諸外国の教育の工夫について
 - ・発達障害の子どもたちの指導について
 - ・国内での最新の授業の取り組み(これまでには見られなかったもの)
 - ・子どもが陥りやすい情報トラブル
 - ・大学入試の内容等がどのように変わるのか(予想も踏まえて)
 - ・新学習指導要領の内容
 - ・保護者への対応
 - ・脳科学
 - ・反転授業のような新しい方法
 - ・道徳教育の教科化について
 - ・小中一貫校やコミュニティ・スクール
 - ・グローバル力、キャリア教育等
 - ・ICT活用と実践例
 - ・他県の様子（外国の事情、先進校の事例、他と比較した長野県の実態含む）
 - ・現在の教育諸課題
 - ・幼・保一小一中の連携、中一高連携
 - ・これからの教育・展望
 - ・危機管理
 - ・感染症など医療系
 - ・カウンセリング
 - ・教師像、全国学テ
- *「最新の・・・」なのだから最新のことが知りたい

[考察]

- 受講者の需要は多岐に渡り、固定された枠の中で消化することは無理である。28年度以降の更新講習の改正にあるように、制度・政策等にかかわる最新事情と、教育現場の課題に対応する内容とに分けて、教師の課題意識に即した内容を提案していくことが重要であるといえる。

- 選択の内容としては、このアンケートを見る限り、具体での解説を望む声が多く、理論では確かにイメージしづらい部分もあるので、実践例など具体的な内容を示すことが、短時間での講習を効果的にするポイントかもしれない。その際に、ICTの活用も考慮すべき内容と考える。
- それほど多くはないが、教師像や教育観について、考え直す機会をとという要望もあることから、選択必修に課題にかかわることだけでなく、教師資質の根幹を問う内容も加えることが望ましいと考える。

(4) 国の教育政策や世界の教育の動向について理解できましたか

国の教育政策や世界の教育の動向について理解できた	回答数	構成比
とてもそう思う	102	18.5%
まあそう思う	394	71.6%
あまりそう思わない	52	9.5%
そう思わない	2	0.4%
無回答	12	-
合計	562	100.0%

[考察]

- 「とてもそう思う」は2割弱であるが、3の回答でも詳しく知りたいという要望が強い内容であることを考えると、時間の関係で詳しく触れることができていないことから、もう少し知れたらという願望が、「まあそう思う」の7割に現れているのではと考える。
- 「あまりそう思わない」「そう思わない」が1割弱ということを見ると、内容ならびに扱い方については、おおむね問題はないと考える。

(5) 国及び世界の教育の動向で新たに得た内容は何ですか

○挙げられた内容で主だったもの

- ・国際教育調査の内容 PISAなど
- ・キーコンピテンシー
- ・海外の教育事情
- ・海外からの日本の教育の評価（授業研究など）
- ・21世紀型スキル
- ・ICTの活用（国内外）
- ・反転授業などの教育方法
- ・小中一貫などのカリキュラム
- ・法改正
- ・図書館の活用

- ・アントレナーシップ教育
- ・現政権下における教育政策
- ・日本の教育制度
- ・日本の教員の仕事内容や働き方は世界でも特別なこと
- ・データの読み方
- ・教師の多忙化について
- ・マスコミ報道と実際の教師の実態とのズレ

(6) 国及び世界の教育の動向でもっと触れて欲しいことは何ですか

○挙げられた内容で主だったもの

- ・各国の現状を詳しく…良い点悪い点を含めて
- ・国内での最新の授業の取り組み
- ・子どもの貧困問題について
- ・ICT教育の活用法
- ・発達障がいの子どもたちに対する各国の指導法
- ・コミュニティスクール
- ・小中一貫校の様々な工夫されたカリキュラム
- ・インクルーシブ教育とその問題点
- ・シチズンシップ教育
- ・危機管理
- ・外国における生徒指導
- ・多忙化を解消する方法

(7) 子ども観、教育観などについて理解が深まりましたか

子ども観、教育観などについて理解が深まった	回答数	構成比
とてもそう思う	112	20.7%
まあそう思う	391	72.3%
あまりそう思わない	36	6.7%
そう思わない	2	0.4%
無回答	21	-
合計	562	100.0%

[考察]

○「とてもそう思う」が2割、「まあそう思う」の7割強ということから、おおむね内容は達成されているといえるが、もっと知りたい内容に教育観や発達障害の子への対応のしかたやコミュニケーションのとり方などが挙がっていることから、より内容等充実させることが重要である。

(8) 子ども観、教育観などの内容に触れて自分を見直そうと思ったことは何ですか

○挙げられた内容で主だったもの

- ・自分の今までの教育を見つめ直す
- ・教育のプロであるという自覚
- ・子ども・家庭とのつながりについて（格差含む）
- ・スクールカーストについて
- ・特別支援教育の在り方（発達障害の子への対応方法など）
- ・インクルーシブ教育
- ・自律的動機付けの必要性
- ・やる気を出すためにはどうしたらよいか
- ・生徒指導（生徒との接し方含む）
- ・カウンセリング（生徒との接し方・話し方・聴き方）
- ・ソーシャルスキルの必要性
- ・多様な見方の大切さ（生活環境・学習環境に関することも含む）
- ・教材研究の大切さ
- ・学力とは何か（PISA 型学力の育成法など）
- ・ジグソー教育
- ・キャリア教育の重要性
- ・ICTを使って何ができるか
- ・危機管理について

(9) 子ども観、教育観などについてもっと触れて欲しいことは何ですか

○挙げられた内容で主だったもの

- ・教育観 不易なもの
- ・今の子どもたちの意識について
- ・具体例
- ・つながり格差に関して
- ・長野県と他県の相違点
- ・海外の教育事情
- ・国の教育政策、捉え方
- ・教師と保護者の教育観のズレについて
- ・特別支援の具体的支援例
- ・生徒指導のやり方
- ・教科指導のあり方（PISA 型学力にかんすること含む）
- ・いのちの学習
- ・学級づくり
- ・子どものみとり方
- ・カウンセリング
- ・ICT活用
- ・9歳の壁について他
- ・スクールカーストについて

(10) 特別支援教育に関するものを含め、子どもの発達に関する脳科学、心理学等における最新の知見を得ることができましたか

子どもの発達に関する最新の知見が得られた	回答数	構成比
とてもそう思う	198	36.8%
まあそう思う	298	55.4%
あまりそう思わない	38	7.1%
そう思わない	4	0.7%
無回答	24	-
合計	562	100.0%

[考察]

○「とてもそう思う」が36%、「まあそう思う」の55%で、双方を合計すると93%ということから、おおむね内容は達成されているといえる。

(11) 子どもの発達に関する脳科学、心理学等で新たに得たことは何ですか

○挙げられた内容で主だったもの

- ・ 21世紀型スキル
- ・ ADHD,LD の子どもたちに対して有効な支援の方法
- ・ DSM-V
- ・ SST
- ・ アレルギー疾患
- ・ アンダーマイニング効果
- ・ インクルーシブ社会、特別支援のあり方
- ・ ウイルス性の病気にかかわること
- ・ カウンセリングについての知識スキル
- ・ グレーゾーンの子たちに対する対応の仕方
- ・ ケガの対応
- ・ シュタイナー教育など
- ・ スチューデントファーストの意味
- ・ ソーシャルスキルの方法
- ・ てんかんについて詳しく知ることができた
- ・ ノーマライゼーションということ
- ・ ペアレントトレーニング/対処方法
- ・ 愛着の形成
- ・ 解決志向カウンセリングのながれについて
- ・ 内発的動機付け、自律的動機付け
- ・ 学習障害の原因
- ・ 学力観、能力観の考え方

- ・感染症について
- ・教育相談
- ・最新の発達障害の考え方
- ・子供の頭部外傷で気をつけるべきこと
- ・自閉症とアスペルガーのはっきりした違い
- ・社会的スキル教育
- ・ジグソー学習
- ・障がいのとらえ方
- ・頭痛の原因
- ・特別支援、発達障がいについて
- ・脳の構造
- ・保護者者との接し方のポイント

[考察]

- 特に新しく得られたものはないと回答が多い反面、新しく得られたと回答されている内容を見ると、日常の教育実践の中である程度は接している内容であることから、表面的に知ったつもりでいた内容について、再認識もしくは確認ができ方という事項が多いのではないかと考えられる。
- 講義を担当する大学教員の個別分野の内容については、新たな知見として受け入れられている傾向が見られる。
- 医学部が担当している子どもの健康については、基本的な内容であるが、教員にとってほとんど知る機会がなかった内容なので、新鮮さがあまったといえる。

(12) 子どもの発達に関する脳科学、心理学等でもっと触れて欲しいことは何ですか

○挙げられた内容で主だったもの

- ・ADHD, LD等のグレーゾーンの子どもたちへの対応
- ・DSM-Vによる変更について
- ・カウンセリングの方法など
- ・ジグソー学習の実践例
- ・てんかんや頭痛
- ・ひきこもり・不登校の原因などと解決方法
- ・メディア(ゲーム、ケータイ含)と脳科学、心理学
- ・最新の脳科学
- ・愛着障害
- ・医療面での分析の進み具合について
- ・家庭との対応
- ・海外の事例など
- ・外傷の対処、処置法
- ・各障害に対する対応の仕方をさらに詳しく

- ・学級経営と特別支援
- ・具体的な指導法。
- ・最新の心理学を臨床的に生かした、子どもの発達に関わる諸問題の具体的手段
- ・子供の医学
- ・自律的動機付けの具体的方法
- ・社会的スキル教育
- ・諸検査のやり方（WISCなど）
- ・特別支援教育について
- ・認知特性に応じた学習スタイル
- ・発達障害について

[考察]

○11の回答も連動しているが、新しく知ったというものが少ないというのが、受講者の実感ととれる内容であるが、反面きちんとした研修ができていないことへの不安や、教室の指導ですぐに活用できる即効性のあるものを求めているという傾向もある。

13. 子どもの生活の変化を踏まえた課題を理解し、教科指導や生徒指導の改善をしようとする契機になりましたか

教科指導や生徒指導の改善をしようとする契機になった	回答数	構成比
とてもそう思う	145	27.7%
まあそう思う	334	63.9%
あまりそう思わない	42	8.0%
そう思わない	2	0.4%
無回答	39	-
計	562	100.0%

[考察]

○「とてもそう思う」が27.7%、「まあそう思う」の63.9%で、2つを合計すると91.6%となり、おおむね内容は達成されているといえる。

しかし、「まあそう思う」が大多数ということは、とりあえず課題としては把握したが、改善の方策がつかみきれていないということも示唆され、教育センター等での研修を含めてより具体的な内容を後付けとして学んでいくことが必要であると考えられる。

(14) 教科指導や生徒指導について改善しようと思ったことがあったらお書きください

○挙げられた内容で主だったもの

- ・「教える」ということから子どもの勉強や友達関係への欲求を汲み取り子どもの傍に寄って指導していく
- ・1人で考え解決する学習から共同で解決できるようなコミュニケーションを考えた学習をしなければいけないと思った
- ・21世紀に必要な力に基づいた授業づくり
- ・ADHDやLDに関すること
- ・ICTの活用
- ・カウンセリングマインド
- ・PCK理論・反転授業など
- ・Pisaで求められる力の育成
- ・キャリア教育の視点
- ・グループ学習、ジグソー学習
- ・ソーシャルスキル教育
- ・チーム支援
- ・チェック用紙を用いた自己の振り返り
- ・ドラマティックな授業
- ・ユニバーサルデザインの研究
- ・一律一斉指導以外での学力の付け方
- ・栄養教諭として、他の教職員と連携
- ・家庭学習と授業との連携
- ・発的動機付けや自律的動機付け
- ・子どもの情報の共有
- ・学級単位ではなく、もっと学年、学校単位でやれること
- ・学習観の見直し
- ・起業体験
- ・教科指導、学級経営
- ・教材研究
- ・教師力を高めるための校内研修
- ・個への配慮と全体の環境(雰囲気も含め)づくり
- ・細かい作業の解析方法
- ・山積みしている仕事の精選
- ・子ども1人1人にあった言葉がけ
- ・自分の"くせ"発見
- ・就学指導、進路指導(特別支援)
- ・小学校からのキャリア教育も必要
- ・生徒指導 見取り方 傾聴 職員間の共通理解

[考察]

○どの項目も、新しいものはないが、こういった研修を通して、基本に立ち返るという機会が得られているといえる。

(15) 教科指導や生徒指導の改善についてもっと触れて欲しいことは何ですか

○挙げられた内容で主だったもの

- ・ 21世紀型の学習にどのように組み込んでいったら良いか
- ・ ADHDの対応
- ・ ICTの実践例とその考察（含・生徒指導）
- ・ メディアリテラシーについて
- ・ カウンセリング
- ・ キャリア教育
- ・ ソーシャルスキル
- ・ チーム支援。同僚性の機能を生かした生徒指導のあり方
- ・ 家庭との連携のあり方
- ・ 愛着障がいについて
- ・ 英語教育
- ・ 道徳教育
- ・ 最新の学習理論
- ・ 海外の教育情勢
- ・ 学級経営（含・指導）
- ・ 学力向上のための対策
- ・ 子ども健康管理
- ・ 教員自身の心のケア
- ・ 教科指導、教材研究など
- ・ 具体事例と対処の方法
- ・ 障害と進路指導
- ・ 人権指導・平和学習
- ・ 生徒指導(暴言などいろいろな生徒指導)における生徒への対応の仕方 等々
- ・ 発達障害のある子の生徒指導事例
- ・ 反転授業への具体的な取り組み
- ・ 不登校対策
- ・ 保護者,行政,地域との連携の仕方
- ・ 幼稚園教育にかかわる内容

[考察]

○教科指導や生徒指導で扱ってほしい内容は、他の質問項目に対する回答に比べ、より日々の教育現場で迫られている課題についてのものが多かった。

反面、教科指導や生徒指導については、短時間で扱えるものではないので、更新講習の選択講座や教育センターの研修を受講することで、充実すべきという意見や特になしという回答がかなりあり、受講者も必修講習の限界を自覚しての回答になっているといえる。

(16) 他の研修（総合教育センター研修、初任者研修、十年経験者研修、その他の研修）と重複している内容がありましたか

他の研修と重複していたか	回答数	構成比
とても重複している	9	1.9%
一部重複している	114	23.8%
重複していない	356	74.3%
無回答	83	-
計	562	100.0%

[考察]

○大学が行っている講習は、教育センター等で野研修のような喫緊の課題に対する即実践に対応した内容というより、基本的な内容を扱っているため、重複している部分が少ないという回答になっていると考えられる。

しかし、要望等のアンケートでは、実践に対応した具体での内容を希望している受講者が多く、更新講習の意図と受講者のねらいとにずれが発生していることも否めない事実である。

28年度以降、必修講習と選択必修講習とに内容が分割されるが、受講者の意識が大きく変わることは期待できないので、講習の内容の改善と講習そのものの運営について、大学としては検討していく必要がある。

(17) 設問16で1もしくは2と回答された場合、他の研修と重複していると思われた内容は何ですか

○挙げられた内容で主だったもの

- ・ソーシャルスキル教育
- ・ICTの活用
- ・心理学・児童理解全般
- ・文科省の動きについての話
- ・情報セキュリティ
- ・新たな指導要領について
- ・発達障害について
- ・特別支援教育に関する部分
- ・カウンセリング 聴く態度
- ・最近の教育事情
- ・子ども健康管理

[考察]

- 重複する内容の中心は、10年経験者研修と重複するということが挙げられていた。
しかし、特別支援やカウンセリング等生徒指導にかかわる内容については、繰り返し研修することが望ましいとする回答が多く、否定的ではなかった。
- 子どもの健康管理に関しては、養護教諭にとってると専門性から教育センター等での研修を受けており、重複しているという指摘がされたが、養護教諭以外の受講者からは、エビペン対応については、校内研修等受けた経験があるという回答があったのみで、受講対象者による差といえる。
- 幼稚園関係者は、重複ではなく内容的に職場に適合しないというストレスを感じていることから、幼稚園関係の内容は別途提案すべきである。
- 長野県の場合、長野県総合教育センターの講師を信州大学の教員が勤めていること講座が多いことから、同じ教員から講義を受ける確率が高くなるため、重複しているとの回答が多くなっている側面もある。

□まとめ

必修講習に求められている「教育の最新事情」については、おおむね受講者は満足していると評価できるが、細かなところで見ると10年経験者研修と重複する内容がかなりある部分と、現場のニーズに対しての具体的な提案で薄くなっているということを考えると、内容的には、より改善していく余地があるといえる。

ただし、内容等の改善については、大学単体で行うだけでは、効果が上がらないので、長野県教育委員会等と県下で展開されている諸研修の内容との整合性を精査して、より充実した講習内容にしていくことが必要であろう。

また、「他県の教育事情や外国（特に北欧諸国）と比較」することでより長野県の実情を把握したいという先生方が多いことを考えると、内容の担保という観点から担当スタッフの問題も含めて、現行2部局で展開している講習の内容を調整していくことも必要であろう。

同じく、先進校の授業事例（成果・課題）についての要望もかなりあることから、大学側からの提案も必要に応じて行わなければならないが、限られた時間の中での公衆を考えると、教育委員会等とも連携して、長野県の先生方の積極的に情報雌雄集をして、事故の教育実践に生かしていくという意識改革を今後提案していくことも必要である。

子ども理解や生徒指導に関する需要も高いが、前述の課題とも重複するが、教育センター等での通常研修でもかなり開講されていることから、教育センターとの連携や扱う内容の精選による効果を挙げる工夫も必要である。特に、実践をとまなう具体論による展開でないと、大学の講義ではないので、「知ったけれど」でとどまってしまう可能性が大きく、せっかくの講習の機会を能動的に活用していただく機会を逸してしまう可能性がある。

幼稚園（保育園）—小学校—中学校—高等学校の連携に関する講義も、現在の教育改革の動向をとらえていく上では必要で、幼稚園関係の受講者の学びに対する要求をどこまで具現化できるかが課題である。

3. 受講後実施する通常アンケートの経年分析から

免許状更新講習開始以来のアンケートを見直す作業を通して、今後のあり方を探ろうと試みた。

(1). 事後アンケートの変化から

(ア) 評価項目 1 について

1. 学校現場が直面する諸状況や教員の課題意識を反映して行われていた。
2. 講習のねらいや到達目標が明確であり、講習内容はそれらに即したものであった。
3. 受講生の学習意欲がわくような工夫をしていた。
4. 適切な要約やポイントの指摘等がなされ、説明が分かりやすかった。
5. 配付資料等使用した教材は適切であった。
6. 本講習の内容・方法についての（上記の1～5の視点を踏まえた）総合的な評価

教育学部	評価項目 1			
	4	3	2	1
平成21年	25%	62%	12%	0%
平成22年	27%	64%	8%	0%
平成23年	32%	62%	5%	0%
平成24年	41%	55%	4%	1%
平成25年	47%	50%	3%	0%
平成26年	48%	49%	3%	0%

[考察]

免許更新講習が始まった当初は、最新事情といっても必修の内容なので、何をどのように扱ったらよいかかわからない状況であったため、教育学部と教職教育部の評価に、それほど大きな差はなかった。

教育学部は、年を追うごとに評価を上げてきているが、その理由として考えられるのは、事後評価カードの自由記述の項目を独自の内容を設定し、講義方法・内容についての受講者の意識をリサーチし、単に担当教員の得意分野（専門領域）の内容を示すのでなく、

より具体的に即した形で提示するように心がけてきていることが、功を奏していると考えられる。

一方、教職教育部は医学部の教員が加わり、子どもの健康管理について、専門的な立場での内容を組み込んだことで、普段の研修では得られない情報を提供したこと、また担当教員がほとんど実務経験者であったことから、現場感覚で内容を構成していたことが、平成24年度まで高い評価が得られていた要因と考えられる。平成25年度以降、スタッフが大きく入れ替わり、研究系の若手教員が担当する時間が増えたことと、一つのテーマを扱う時間が短縮化されたことが、質的な厚みが薄くなり、この程度はすでに知っている、もしくはもう少し詳しく解説してほしいといった意識を生み出し、現場のニーズからずれてしまった感があり、評価が下降傾向にあると考えられる。

(イ) 評価項目2について

7. 教職生活を振り返るとともに、教職への意欲の再喚起、新たな気持ちでの取り組みへの契機となった。
8. 教育を巡る様々な状況、幅広い視野、全国的な動向等を修得することができた。
9. 各教育活動に係る学問分野の最新の研究動向、これまでの研修等では得られなかった理論・考え方・指導法や技術等を学ぶことができ、今後の教職生活の中での活用や自らの研修での継続した学習が見込まれる。
10. 受講前よりも講習内容への興味が深まり、教員としての知識技能の厚みや多様さを増す一助となった。
11. 本講習を受講したあなたの最新の知識・技能の修得の成果についての（上記の6～9の視点を踏まえた）総合的な評価

教育学部	評価項目Ⅱ			
	4	3	2	1
平成21年	19%	62%	19%	1%
平成22年	23%	62%	13%	1%
平成23年	24%	62%	13%	1%
平成24年	31%	59%	8%	1%
平成25年	36%	57%	7%	1%
平成26年	36%	57%	7%	0%

[考察]

評価項目Ⅱについても、評価項目Ⅰと同様な傾向が見られた。

特に、「教職生活を振り返るとともに、教職への意欲の再喚起、新たな気持ちでの取り組みへの契機」という観点からすると、具体がない中での講義は、大学での講義と同じでイメージ化が難しく、受講者が「明日から自分もがんばるぞ」という気持ちに高めることに課題を感じる。

感想を見ると、二日間の詰め込み方の座学なので、意識の持続が難しいこともあり、とにかく時間

に追われているので、一つ一つの内容を受講者が消化しきれていないというのが実態ではないだろうか。

理想的に考えるならば、講習を何部かに分割して受講者が扱う内容について、自己のキャリアと照らし合わせ振り返りながら、自己課題を模索するゆとりある研修にすることが望ましいともいえる。

(ウ) 評価項目 3 について

12. 本講習の運営面（受講者数、会場、連絡等）についての評価

教育学部	評価項目 Ⅲ			
	4	3	2	1
平成21年	29%	55%	14%	2%
平成22年	41%	51%	7%	1%
平成23年	46%	48%	6%	1%
平成24年	52%	44%	2%	1%
平成25年	67%	30%	2%	1%
平成26年	64%	34%	2%	1%

運営面については、年を追うごとに大きな差が拡大してきている。

教育学部の講座は、はじめの3年間は教育学部・繊維学部。長野県総合教育センター等と複数会場で講習を開催していたが、その段階ではそれほど大きな差は発生していない。

会場を教育学部に限定してからは、評価が高く、高評価を維持している。

教職教育部は、松本キャンパス・農学部（南箕輪キャンパス）・飯田女子短期大学・長野県総合教育センターと、複数会場で大学の施設以外を借用して開催していること

教職教育部	評価項目 Ⅲ			
	4	3	2	1
平成21年	44%	46%	9%	1%
平成22年	49%	48%	3%	0%
平成23年	58%	40%	2%	0%
平成24年	43%	42%	11%	4%
平成25年	44%	49%	6%	1%
平成26年	37%	54%	7%	2%

ことから、細部にわたってのサービスが行き届いていないのが実際である。

特に、地域の特性もあり、受講者のほとんどが車での移動のため、駐車場の有無が評価を大きく左右している。教育学部は、職員駐車場を開放して対応しているが、松本キャンパスは駐車場自体がないため、公共交通機関を利用する受講になることから、会場面での満足度が低くなっている。

また、長野県総合教育センターの会場は、駐車場はあるが空調がうまく作動しないため、夏の講習は「暑い」か「寒い」かの両極端で、冬の講習は「寒い」というように、受講環境がある意味「劣悪」で、受講者からは不評となっている。

長時間の講習を実施しなければならない現状を考えると、会場環境の改善は必要であるが、実際には対応が厳しい状況にある。

そもそも、必修講座を担当する教員数が限られていて、年間1200名程度受け入れなければならないことから、1講習の定員を100名としているため、その人数が収容可能な会場を確保すること自体が難しく、講習によっては150名を超える希望者が発生することもあり、対応には苦慮しているのが実際である。定員を50名程度にして、開講回数を増やせば問題解消にもつながるが、現実には人的な問題があり無理である。

(2). 教育学部受講者の事後アンケートから

評価が向上してきている教育学部の事後アンケートを、経年分析することで、今後の改善ならびに高度化につなげる手がかりを探ろうと試みた。

分析対象にしたデータは、評価が向上した平成23年度から平成25年度までの3年間の事後アンケートである。

(ア) アンケート記述にみるプラス評価内容

- ・現場が直面している課題（不登校・いじめ・発達障害）は2学期からすぐに実践で活かせるものであった。
- ・今の教育制度の背景が理解できた。
- ・教育心理は大変約にたった。
- ・発達障害の中でもLD、ディスレクシアに重点を置いた内容はよかった。
- ・学習障害の解説はとても役に立った
- ・教育界における政治的・制度的な免の理解情報モラルの現状がよかった。
- ・動機付け、リラックスの方法は参考になった。
- ・メンタルヘルス、うつ病の内容は、総じて高い評価を得ている。
- ・カウンセリングについて、総じて高い評価を得ている。
- ・キャリア教育がなぜ必要なのか理解できた
- ・呼吸法について、
- ・情報セキュリティについて
- ・児童生徒の問題行動についての理解と対応
- ・海外の教育事情とコミュニティスクールについての内容
- ・心理学系の教員の内容が総じて評価が高い
- ・D先生、S先生の講義内容は現場に活かすことができる。
- ・認知行動療法に興味をもった
- ・学校を取り巻く状況、授業改善
- ・発達障害児童への支援方法
- ・現場の実態に沿った内容だったのでわかりやすかった。
- ・社会的スキルの講習は目からうろこだった。
- ・情報モラルについては考えさせられた
- ・T先生の休憩の取り方はよかった。
- ・A先生の講習は実演や情報交換ができてよかった。
- ・直接、活かすことができる内容が多くよかった。
- ・具体的事例やDVDは理解するのにとても役だった。
- ・実践的で楽しく役に立つ内容が多かった。
- ・食堂・生協もあり満足
- ・図書館での講習はよかった
- ・適切に休憩をとってよかった
- ・駐車場があり助かった
- ・時間通りに進めてくれてよかった
- ・空調面が整っていてよかった
- ・他大学より案内が丁寧
- ・支援センターの電話対応がよい
- ・座席表、名札、資料など
- ・エアコンの温度は28℃でよい

(イ) アンケート記述にみる内容・方法に関する主な要望

- ・質問やディスカッションがほしい
- ・ワークショップ、グループワークを取り入れるといいと思う。
- ・固定席なので、ワークショップなどメンバーが固定していてつまらなかった。
- ・配付資料の中に読みづらいものがあった（文字の大きさ、色づかい）
- ・もっと現場の声を聞いてほしい
- ・更新講習で学ぶ内容ではなく、日頃の学校生活で掘っておく必要がある。
- ・短時間で内容が多い
- ・情報セキュリティに関する講義がほしい。

- ・資料の出典を明記してほしい
- ・各学校種に応じた講習にしてほしい
- ・具体的な例を挙げながら、理論的な背景を教えてください
- ・教育行政の講義はもう少し熱意をもって教授してほしい
- ・T先生の不登校のとらえ方は自分の子どもの不登校のとらえ方と違うと思ひ残念だった。
- ・必ずしも試験が必要な講習とは思えない。
- ・O先生の講義が全くわからない
- ・教育史的なものは悪くはないが、「教育の最新事情」としてはカットしてもよいのでは
- ・学習指導要領の変遷は分かったが、重要なのは今の指導要領のことではないか。
- ・専門用語が多すぎである
- ・充実した講習もあったが、なかには3時間も数十枚のスライドを見続けさせられた講習もあり残念だった。
- ・失礼ながら、講師の先生に差がある。
- ・テスト時間が短すぎる（30分はほしい）
- ・Y先生の講義が短すぎる。せめて60分はしてもらいたい。
- ・質問時間を確保してほしい
- ・すぐに活かせる教授法（話術・共感的な聴き方など）を学びたかった。
- ・教師同士の話し合いも大切だが、様々なケースを短く、たくさん紹介してもらった方がいい。
- ・演習事態は悪くないが、多すぎる！
- ・プロジェクターに投影する資料は受講者にも配布してほしい。
- ・統計の講義がほとんどわからなかった。
- ・講義の内容が事前にわかるともっとよい。
- ・ICT、情報教育の内容をもっと聞きたかった
- ・専門用語が理解できなかった。現場に即した言葉にかみ砕いてほしい
- ・英語が多すぎる
- ・質問時間をさらに増やしてほしい
- ・教材研究のディスカッションは校種別の方がよかった。
- ・もう少し参加型であるといい
- ・1コマの講義時間が長すぎる
- ・講座の内容が全く「最新の事情」でない
- ・講義によっては、内容の絞り込みが不足している
- ・グループディスカッションがどの講座にも入っているとよかった。
- ・資料が多すぎる講習があった。
- ・声が聞きにくかった
- ・資料が見にくいし、講義だけだった
- ・資料が難しい
- ・教育史は必要ないのではないか

(ウ) アンケート記述にみる運営面に関する主な要望

- ・机が平机のため、後方座席はスクリーンが見ずらかった。
- ・講習生120人にしては教室が狭い。空調も効かず、暑かった。
- ・2日間連続の日程は辛い。
- ・夏休み以外の日程もお願いしたい（大会や出張があるので・・・）
- ・土日以外の平日開催をしてほしい
- ・東信地区にも会場を設けてほしい
- ・南信にも会場があるとありがたい
- ・駐車場の確保をしてほしい
- ・ホチキスを止める位置がおかしい
- ・空調、プロジェクターを改善してほしい
- ・プロジェクターの端が映っていない
- ・休憩がこまめにあるとありがたい
- ・年代別に講習してはどうか

- ・パソコンのみの申し込みが大変。紙媒体のものもほしい
- ・資料は8ポイント以下のものはやめてほしい
- ・試験のやり方などを周知してほしい
- ・お昼休みは1時間ほしい
- ・ノート使用可にならないか（試験）
- ・タイムスケジュールを紙でもほしい
- ・固定式の机と椅子で2日間は辛い
- ・2日間連続でなくてもいいのではないか
- ・16:35まで行うなら時間通りにするべきだ。
- ・必修の内容をより深く学べる選択があるとよい
- ・マイクのエコーが強く聞きづらいときがあった。
- ・テストの時、持ち込み不可にする必要があるのか疑問
- ・教育センターで受講できる講座を増やしてほしい
- ・受講料、もっと安くないか
- ・3時間で休憩が10分しかないのは拷問だ。
- ・欠席者が出たときには再募集してほしい
- ・二次募集を6・7月にやってほしい
- ・名札はいらないと思う
- ・駐車場をもっと確保してほしい
- ・希望する講座は全て認定の対象にしてほしい。
- ・トイレ休憩がなくて辛かった（1日目午前の講義）
- ・女子トイレの数が少なすぎる
- ・清掃がよくない
- ・レーザーポイントが見えなかった
- ・もう少し広い部屋がよい
- ・資料の刷り方・綴じ方を統一してほしい
- ・受付の対応がぶっきらぼうで官僚的で不愉快だった
- ・早口の先生がいて、聞き取りにくかった
- ・常にマイクを使ってほしかった。
- ・工学部の方が長野駅に近い
- ・会場が狭い
- ・後方席からスクリーンが見えない

(エ) まとめ

① 講習の内容について

3年間を通して、「心理学」と「特別支援教育」分野の評価が高く、25年度から始めた「社会的スキル」も評価が高く、現場の先生方が着喫緊の課題としてとらえている内容への適切な提案となっている。同様に、現場のニーズに沿った内容（カウンセリング、LD・発達障害児童生徒への対応方法など）が高評価を得ている。逆のとらえをすると、これまでの教員生活の中で、この分野の研修が不十分であったともいえ、このような機会に学ぶことを通して、現場での教育実践での活用につなげられたらと期待するところでもある。

海外の教育事情や、国内の他地域の教育実践にかかわる内容も高い評価を得ている。日々の業務の中で、最新の情報を得る機会が少ない状況がうかがえる。

教育の情報に関しては、ICTの活用がなかなか進まない現状があるが、このような講習があることによって、関心を持ってもらう機会にはなっているようである。ここで得た情報と関心を現場でどのように持続してもらうかが課題でもある。限られた時間の中で扱うことから、受講者の関心は授業での活用より、情報セキュリティーや生徒指導

とのかかわり中でのメディアリテラシーにウエートがかかっていることも否めない。

講習方法についてみると、座学よりもグループワーク・グループディスカッションを求めていることがわかる。しかし、2日間の連続講習という特殊性もあり、グループワークやディスカッションを多用すると、「受講料を出している」「最新の情報を得にきている」という意識があることから、評価が落ちる傾向にある。講師の持ち時間の関係もあり、内容が過多になっている傾向もみられることから、限られた時間の中での作業や活動の時間配分や講習全体を見渡した調整等が必要であることも示唆された。

資料については、「文字の大きさ」「文字数」「印刷の鮮明度」など、ハード的に改善すべき点が指摘されている。講習料を徴収しての講座であることを考えると、受講者にとっての利益とは何かをいう視点を担当教員も再認識する必要もあるし、資料過多を訴える受講者のいることから、資料内容の精選も検討すべき内容である。また、出展の明示等基本的な事項についても指摘されている部分があるので、大学人として果たすことはきちんとしなければならないことを、開設要領等で確認する必要がある。

プロジェクターやポインター、マイクなど情報提示装置に対する要望も出されていることから、教育の基本である事前の会場点検や授業開始前の始業点検をきちんとすべきである。

教育史関係は、学習指導要領の変遷も含めて評価が低い内容である。評価が低いから必要ないというわけではなく、教育を考える基本としては重要な内容であるから、講師も取り上げているのであるが、その意図が受講者に伝わらないと、限られた短時間の中での講習なので、「講習料を払っているのだから、もっと最新の情報を知りたい」「明日使える資料や対応法を知りたい」という要望にはこたえられないので、構成を工夫することが必要であろう。

② 運営面について

23年度の途中から「駐車場」を確保できるようになってから、評価が高くなっている。生協（食堂）等が開いている場合は評価が高いが、休日営業は対応は無理である。会場については、ハードな部分なので、改善は難しいがトイレの件や清掃の件については、有料講習ということを考えると、受付での対応についても要望があったが、きちんとした対応をしていかなければならない内容である。特に、受講者が教員ということから、将来本学を志願してくれる学生を育てていただいているという発想を持って、「信州大学は、人的環境も施設環境も良い」というイメージを持って帰っていただくことが重要となる。「対応も悪いし、整備されていない大学はだめだよ」というイメージを持たれることのないように、対応していくことが重要である。

4. 更新修了者に対するアンケートから

(1) アンケートについて

(ア) アンケートの名称と目的

①名称 「教員免許更新講習」修了者へのアンケート

②目的

平成25年度までは、主として選択講習の内容・方法等について各年度の受講者の評価書等を集計・分析し、次年度の更新講習の改善点を指摘することにより、開設者の改善努力について働きかけてきた。また、25年度は高度化に関わる課題を提言した。

今回は、必修講座を中心に、平成21年度から平成25年度までの過去5年間の受講者の意識を把握することにより、今後の更新講習の課題と方向性を明らかにすることを目的とした。

(イ) アンケートの実施方法

① 長野県の義務教育郡市校長会を通じ、各郡市（東信：佐久、上小 南信：諏訪、上伊那、下伊那 中信：松本、塩筑、木曾、南安、北安 北信：長水、上高、下高、飯水）校長会長に、各郡市の小学校・中学校の中から任意の免許更新講習修了者、更新講習受講中の者を抽出し、7月から8月にかけてアンケートを実施した。

② アンケートの回収にあたっては、各郡市校長会長校で集め、更に、県校長会事務局にて全郡市校長会長により回収した。

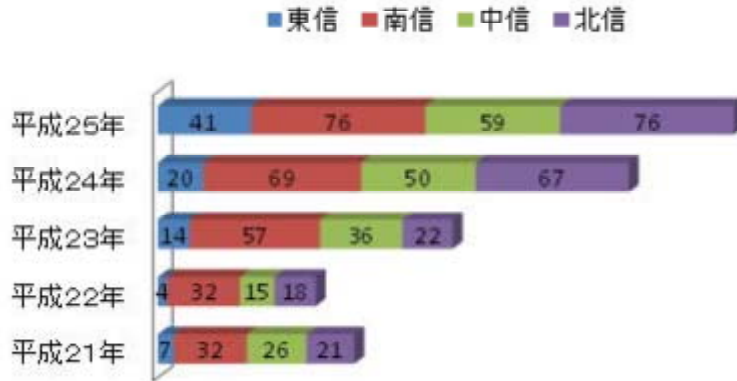
③ アンケート回収数は657件であった。集計に当たって、複数回答の質問項目があるため、個別の集計においては、アンケート回収数と合わない場合が生じた。

また、任意にてアンケートを行ったため、地域別の数にかたよりがあり、東信がやや少なめで、逆に南信がやや多めである。よって、分析の結果に、南信の意向がやや強めに現われ、東信の意向がやや少なめに出ているかも知れない。

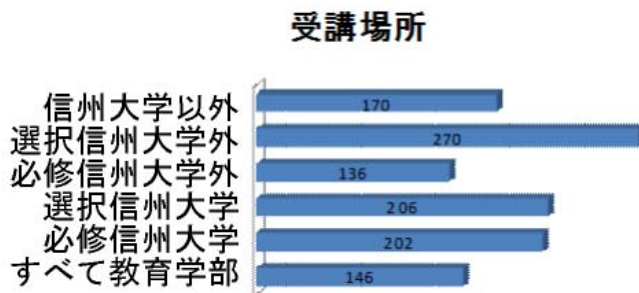
(2) アンケートの項目別集計

(ア) 受講年度

受講者数 (年度別 東信・南信・中信・北信の地域別)

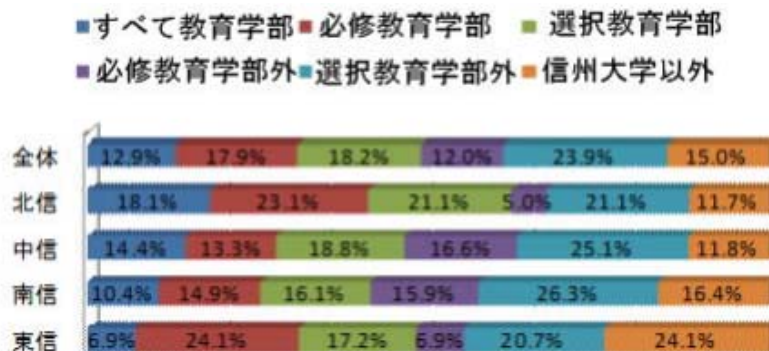


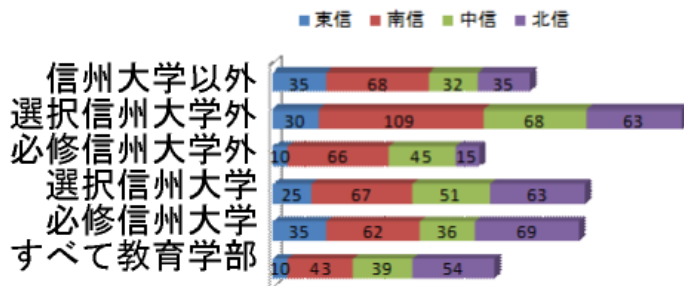
(イ) 受講場所



信州大学を受講場所とする対象者が7割以上であり、信州大学の果たしている役割が大きい。

(ウ) 地域受講者数





ポイント低い。会場が松本市のため少ないものと思われる。地理的条件が会場選択の大きな観点となっている。

②南信

地理的条件からすると、愛知等県外大学を受講する割合が高くてなってもいいと思われるが全体（15%）とほぼ同じである。交通条件あるいは出身大学の関係なのかも知れない。

信州大学教育学部を選択している割合（41%）が、全体（49%）より8ポイント低い。逆に、信州大学他学部（42%）の選択は、全体（36%）より6ポイント高い。松本市や伊那市の信州大学専門学部等、地理的条件で選択していることがはっきり表われている。

③中信

地理的に近い信州大学他学部選択（42%）が、全体（36%）より6ポイント高い。木曽地域は愛知県等の他大学を選択していると思われる。逆に、信州大学教育学部の選択（46%）は、全体（49%）より3ポイント低い。

また、選択講座の受講場所は信州大学他学部（23%）と全体（24%）がほぼ同じである。

④北信

信州大学教育学部を受講場所として選択している割合が62%であり、全体（49%）を13ポイント上回っている。特に必修の受講場所については教育学部が41%、信州大学他学部が5%と大きな違いが出ている。

⑤全体考察

長野県の場合は、受講者の勤務場所と受講会場の距離が会場選択に大きな影響を与えている。

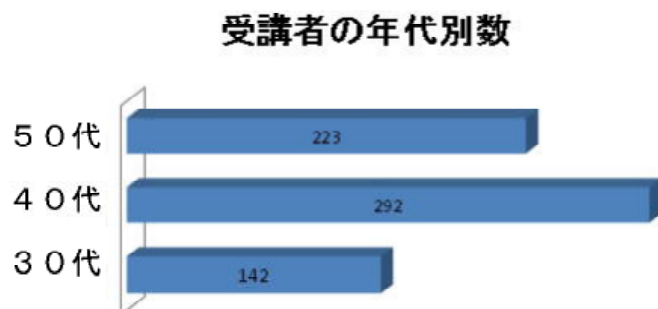
当然、講習時期（期日）も含めて選択しているはずである。交通の便、講習内容、出身大学、経費等も関係し、受講者が置かれた条件の中での選択結果である。

①東信

信州大学以外を選択している割合が高い。地理的・交通条件から首都圏大学や上田市内の他大学を選択している。

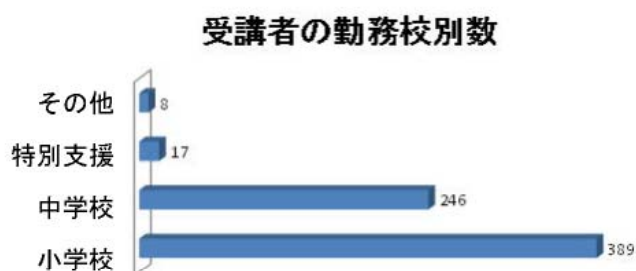
必修で信州大学他学部を選択している割合が、全体より5ポイント

(エ) 年代別受講者数

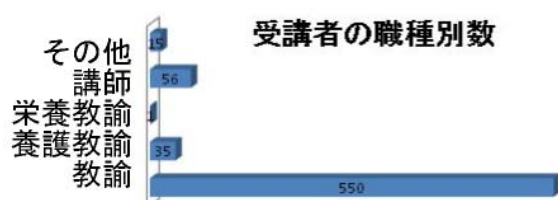


統計上、40代の意向がやや強く反映されているのではないかとと思われる。

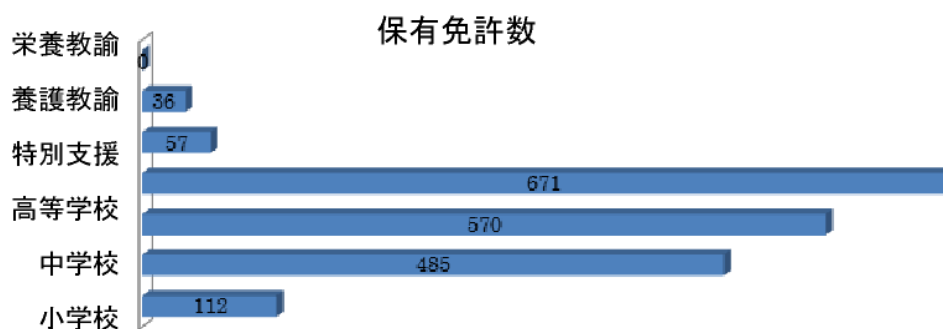
(オ) 勤務校（受講時点での勤務学校）



(カ) 職種別受講者数

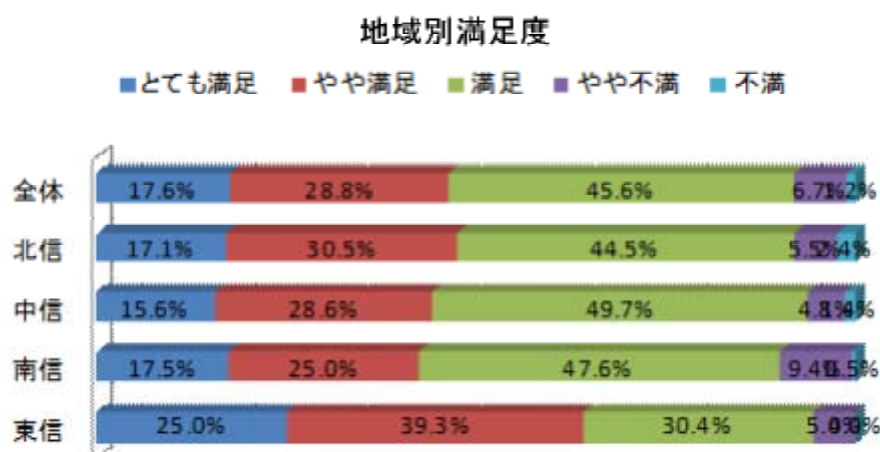


(キ) 取得免許状別受講者数（複数回答）



小学校、中学校においては学校種をまたがった複数免許所持者が多い。単純平均すると一人あたり2.9個の複数免許を所持していることになる。

(ク) 信州大学を受講しての満足度



① 全県的傾向

満足の範疇と回答した受講者は530人（80.7%）、不満の範疇の回答が47人（7.2%）であったことからすると、信州大学での更新講習の講習内容、講習方法、講習に係わる手続き等はおおむね好評であったと思われる。

しかし、「満足」との回答は一方で不満を内包している（消極的満足）とも考えられるので、「その他」を含め、満足はほぼ半数であるという受け止めも必要であろう。

また、「その他」の内容については記述により明らかにする。

② 地域別での傾向

「とても満足」「やや満足」が東信においては六割以上であり、他の地域の四割代であるのと大きな違いがある。理由として考えられることは、信州大学以外での受講場所の選択肢が広く、講座内容の観点を重視しているからかもしれない。

また、南信の「やや不満」が高めであるのは、木曾以外は受講場所を松本を中心に選択しなければならないからであろう。

③ アンケートの記述内容

記述内容は、大きく「講習内容に関する事項」と「受講方法に関わる事項」及び「その他」三つに分類し、文言を修正せず記述内容を全て以下に掲載する。

「講習内容に関する事項」

[必修講座について]

- ・講習を受講してから3年が経過したが、その講習の内容が今の自分の中に大して残っていないことを考えるとそれを受講したことで免許が更新される事の意味、免許更新制度の意味自体に疑問を感じる。
(東信) (平成23年) (30代) (小学校)
- ・受講したことが現場に行かされたと思わない。やるなら活かせる内容にして欲しい。
(南信) (平成21年) (40代) (小学校)
- ・現場に生きる(求めている)内容とずれがあった。
(中信) (平成23年) (40代) (小学校)
- ・特に必修講習では教師の力量を上げるものとは感じられなかった。
(中信) (平成21年) (40代) (小学校)

- ・大学でやったことをもう一度やることに疑問。(北信)(平成24年)(40代)(中学校)
- ・日々の指導に生かせる内容だったかと問われると疑問です。
(北信)(平成22)(平成23年)(40代)(特別支援学校)

[選択講座について]

- ・分野によっては専門的すぎて理解が困難なものがあった。
(北信)(平成24年)(平成25年)(40代)(小学校)
- ・今後役に立つ内容があまりなかった。教員免許更新講習なのだから教員として役立てることが出来る内容が良い。
(北信)(平成22)(30代)(小学校)
- ・あまり役に立つ内容ではなかったという印象が残っています。ただし、自分の職種を高めるような講座は多くが現場に必要な内容で受講して良かったと思いました。
(北信)(平成21年)(50代)(小学校)
- ・自分の教科に役立つと思い選択講習を選んだが全部落ちてしまい、使わないだろうと思う講習を受けざるを得なかったため。
(北信)(平成24年)(50代)(小学校)
- ・受講したい講習は遠くでやっており、居住地に近い会場の講習をやむを得ず受講したため。
(北信)(平成21年)(30代)(小学校)
- ・選択講習は満足いくものもあった。
(東信)(平成23年)(30代)(小学校)
- ・教育の現場にすぐ使えるものが少なかった。
(南信)(平成23年)(50代)(小学校)
- ・視野は広がったが、今後の教育に生かせない内容のため。
(南信)(平成23年)(50代)(小学校)
- ・選択は農学部が近いので、そこで受講した。内容が教育とはちがうもので、あまり役立つものではなかった。
(南信)(平成23年)(50代)(小学校)
- ・日程が合わず教科外のものを受講したため。
(南信)(平成24年)(30代)(中学校)
- ・実際の仕事には全く生かしようがない内容である。
(南信)(平成23年)(40代)(小学校)
- ・子どもへの指導にあまり役立たない内容もあった。専門的な内容過ぎるものもあった。
(南信)(平成21年)(50代)(小学校)
- ・選択できる講座が少なく専門分野で興味を持てなかったものもあった。
(南信)(平成23年)(平成24年)(50代)(小学校)
- ・実際になかなかすぐに役立つような内容でなかった。
(南信)(平成22)(30代)(中学校)
- ・現在の勤務にすぐ生かすことのできるものでは無かった。大学数学を学ぶのはおもしろいが、やはり、今現場で直接生かすことのできる講座が欲しい。
(南信)(平成25年)(30代)(中学校)
- ・雑学的な教養としては勉強になるが日常にはあまり活用せず教職の更新に必要な疑問に思う。制度も。
(南信)(平成23年)(30代)(小学校)
- ・受講したいと思う講座が少なかった。
(南信)(平成21年)(平成22)(40代)(小学校)
- ・楽しみで出かけた選択講習が専門過ぎて分かりませんでした。
(南信)(平成24年)(40代)(小学校)
- ・理学部の講習を受講しましたが内容が専門的すぎて日々の授業に活かせるものではなかった。
(中信)(平成22)(30代)(小学校)
- ・経済学部で受講したので「法と・・・」のような内容で難しくて授業等に生かせなかった。
(中信)(平成21年)(40代)(小学校)
- ・講習内容が一般的教養的なものであり教員の免許更新講習として疑問を感じる。目的に応じた講習になることを求めたい。
(北信)(平成21年)(30代)(中学校)
- ・講師の先生が専門的な言葉ばかり使っていてほとんど理解できませんでした。質問しても応えられない状態でした。その他の説明も不親切で困りました。他大学はもっと細かい配慮があり受講しやすかったです。
(北信)(平成25年)(50代)(小学校)

受講方法に関わる事項

- ・受けたい講座は希望者が多く抽選にもれてしまった。
(南信)(平成23年)(50代)(小学校)
- ・講座数が制限され、自分の専門分野に生かすことのできるものを受講できなかった。
(南信)(平成24年)(平成25年)(30代)(中学校)
- ・選択希望講座が受講できないということが残念。抽選で決められるのではなく、せっかくの研修なの

- で、できるだけ希望の講座を受けられるようにしてほしい。 (南信) (平成23年) (50代) (小学校)
- ・希望したものを受講することができなかった。 (中信) (平成25年) (50代) (小学校)
- ・二日間の講座に一貫性がなく最後の振り返りをして自分の実践と結びつけていくような時間が一切無かった。 (中信) (平成25年) (30代) (中学校)
- ・第1希望の講座を受講出来なかった。 (中信) (平成23年) (40代) (小学校)
- ・申し込みから受講までの煩雑さ (北信) (平成24年) (平成25年) (50代) (小学校)
- ・内容どころか抽選で拾ってもらえませんでした (北信) (平成25年) (40代) (小学校)
- ・希望講座が受講出来ず二次募集で当たったところに仕方なく行ったので。 (北信) (平成24年) (40代) (中学校)

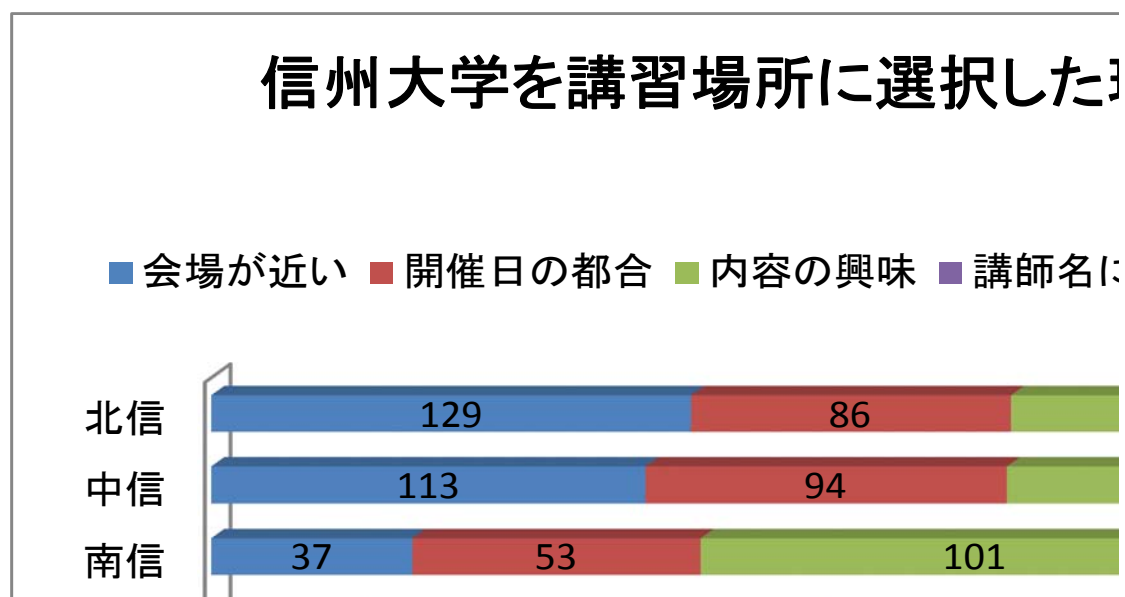
その他

- ・必修は会場が松本だったので宿泊をした。お金もかかり大変だった。 (南信) (平成23年) (50代) (小学校)
- ・内容よりも場所の面で、南信地区での開催場所(農学部)は開催講座の数・種類が少ない。平等に開催しないことで、交通費・駐車代・移動時に大きな差がでる。勤務にも影響します。 (南信) (平成23年) (40代) (中学校)
- ・この講習が始まったばかりで教える側の教授の方々も少し困ったような感じが出ていました。 (南信) (平成22) (30代) (中学校)
- ・講師の先生がしょうが無くやっていると分かる。 (南信) (平成23年) (40代) (小学校)
- ・更新講習自体に疑問を感じています。 (南信) (平成21年) (40代) (小学校)
- ・不要だと思います。 (南信) (平成25年) (40代) (小学校)
- ・パワーポイントでの講義。暗くてメモも取れないのに、試験はA3一枚のレポート。受講環境を考えしてほしい。 (中信) (平成23年) (50代) (中学校)
- ・講習代金がかかるから (中信) (平成23年) (40代) (小学校)
- ・後々使うことの無かった書籍をテキストとして購入しなければならなかったこと。 (中信) (平成21年) (40代) (特別支援学校)
- ・日程が合わなかったため。 (中信) (平成23年) (50代) (小学校)
- ・大学の先生も何を教えたらいかが分からないといった感じがありました。 (北信) (平成21年) (30代) (中学校)
- ・土、日ということで、その期間は部活もあり休養がとれないこと。 (北信) (平成24年) (40代) (中学校)
- ・私が受講したときは講座数も少なくあまり興味の無いものが多かったので。 (北信) (平成21年) (30代) (中学校)

[考察]

「やや不満」「不満」は記述に現れた事項からすると、選択講座の内容に対する不満、受講方法特に選択講習受講に関わる「抽選」という方法への不満が、その中心となっている。

(ケ) 信州大学を講習場所に選択した理由（複数回答）



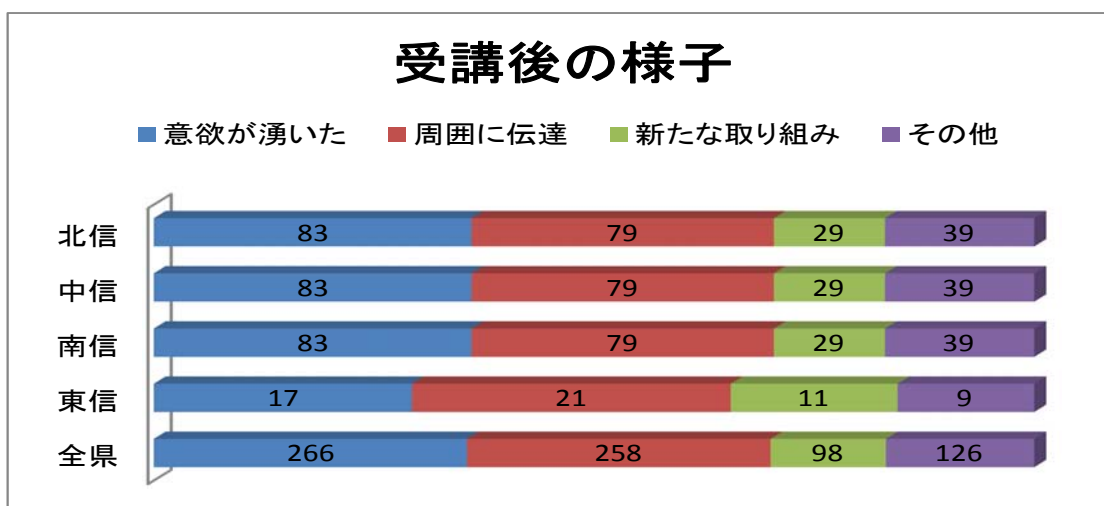
会場選択の観点として、「会場が近い」と「開催日が都合よい」が30パーセント強で重視されていることが分る。20パーセント強であるが「講習内容」も重要な観点である。長野県の場合地理的条件が会場選択に大きな影響を与えている。

以下に「選択した理由」に記述された内容を掲載する。

「選択した理由の記述内容」

- ・申し込みパンフレットがあり、他の先生方にも相談できるから。
いくつか申し込んだうち受け付けてもらえたものを受講しました。
- ・出身大学だったので
- ・子どもが教育学部在学中のため、宿泊なども都合が良かった。母校でもあるので親近感を感じた。
- ・他校で講習が開かれていなかったため。
- ・受講者も多く、申し込み方法なども教えていただき、てっとり早かったので
- ・信州大学でしか、講座が開設されていないと思っていました。
- ・希望する県で受講出来なかった
- ・手軽に申し込める方法があったから母校で勝手に分かっていたから。
- ・自分の出身校だから
- ・開催されているんっいに合わせるしかなかった
- ・他の大学でとれなかったから
- ・信大出身なので受けやすい
- ・産育休明けの秋（冬）の講座を開設しているところは限られていた。

(コ) 受講後の様子（複数回答）



講習で得た情報を回りの人（同僚）に伝えたり、受講することにより教育活動に新たな意欲付けとなったりすることは、更新講習が一定の成果を上げていることになる。今後の更新講習の改善の観点として、受講者の行動化につながる内容や方法を一層工夫が必要がある。（行動に結びつくのは、具体的手順や方法を演習、実習を通し見通しを持てること、あるいは、自己の振り返り（省察）の時間が確保される必要がある。）

受講後の様子の自由記述

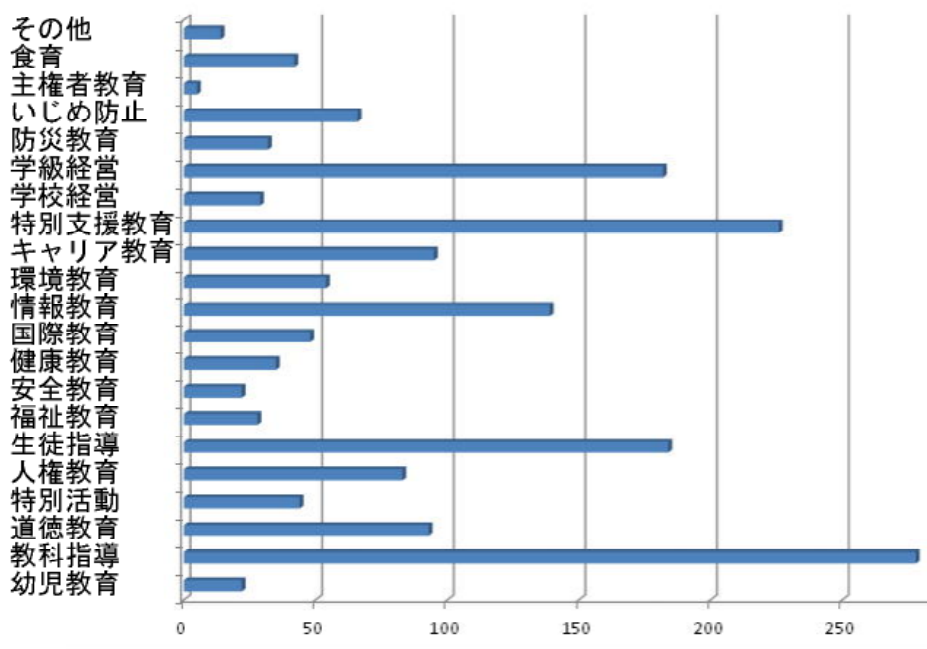
- ・すぐに大きく変化することなかった (東信) (平成25年) (40代) (中学校)
- ・ポジティブになれない (東信) (平成25年) (50代) (小学校)
- ・興味深いもので、内容も良かったが、小学校担任としての日常に大きく影響していない。
(東信) (平成25年) (50代)
- ・更新してほっとしている (東信) (平成24年) (50代) (小学校)
- ・特に免許更新をしたことで何が変わったということはない。日々の研修会、講習会等と位置づけに変わりはない (東信) (平成23年) (30代) (小学校)
- ・今まで気づけなかった視点、教育観に触れて、物事のとらえ方が変わってきた (東信) (平成24年) (40代) (小学校)
- ・今まであまり関心がなかったことに目を向けることができるようになった
(東信) (平成21年) (40代) (小学校)
- ・特になし (東信) (平成25年) (40代) (小学校)
- ・支援員をしているので、取り組み方が少し違います
(南信) (平成21年) (50代) (小学校)
- ・今までとあまりかわりなく仕事をしています (南信) (平成23年) (50代) (小学校)
- ・何らかの学びはあったのでしょうかけれども、特にそれを自覚できる程のことでもありません。
(南信) (平成24年) (40代) (小学校)
- ・直接すぐに指導に生かせるような内容ではなく知識や見識を広げるような内容だったので。
(南信) (平成25年) (50代) (小学校)
- ・特に変わらない (南信) (平成22年) (40代) (小学校)
- ・教員としてというより一般教養としておもしろかったです

- (南信) (平成24年) (50代) (小学校)
- ・更新講習の前後でそれほど変わったところはありません。日々充実しています
(南信) (平成24年) (平成25年) (50代) (小学校)
- ・近い場所を優先させたため、自分が学びたい講義を受けることはできなかった。従って、ア～ウに結びつく研修はありませんでした
(南信) (平成23年) (40代) (中学校)
- ・選択講習で自分の教科に関するものを一つしかとれませんでした。その講習内容は、今の指導に役立ちました。専門外の講習は、自分の興味がある分野だったので、人としての幅が広がり知識が豊かになりました
(南信) (平成21年) (50代) (中学校)
- ・講習で大きな変化はしていない
(南信) (平成21年) (40代) (中学校)
- ・教員の立場にいない
(南信) (平成21年) (50代) (中学校)
- ・教科外のものを受講してしまったので、伝える等はないが、内容としてはおもしろく、自分の知識として取り入れている
(南信) (平成24年) (30代) (中学校)
- ・変化なし
(南信) (平成24年) (30代) (中学校)
- ・受講した23年度は働いていませんでした。今年度より支援員として働き始めました。
(南信) (平成23年) (30代) (小学校)
- ・特に変化なし
(南信) (平成23年) (40代) (小学校)
- ・今のところ直接生かしている点がないように感じます
(南信) (平成22年) (40代) (小学校)
- ・特に意欲のわくものではない
(南信) (平成23年) (40代) (小学校)
- ・第一希望の講習内容を定員の関係で受講出来なかった。やむを得ず日程の関係であまり興味の無い講座を受講した
(南信) (平成23年) (40代) (小学校)
- ・変わらない
(南信) (平成21年) (50代) (小学校)
- ・最新の情報をもとに支援に生かしている
(南信) (平成24年) (50代) (小学校)
- ・変化ない
(南信) (平成23年) (30代) (中学校)
- ・特に変化はない
(南信) (平成22年) (平成23年) (40代) (中学校)
- ・教科の特性について考えることができた
(南信) (平成25年) (40代) (中学校)
- ・特に変化無い
(南信) (平成24年) (30代) (中学校)
- ・今までの実践を継続している
(南信) (平成23年) (40代) (中学校)
- ・大学在学中の教職課程にはなかった新しい情報
(南信) (平成22年) (40代) (中学校)
- ・仕事には直接関係ないが興味があったから。
(南信) (平成25年) (40代) (小学校)
- ・特にあたら棚取り組みを始めると言うことはなく現在に至っている。
(南信) (平成23年) (40代) (小学校)
- ・初心に戻って責任を持って職務に当たらなければと思います。
(南信) (平成21年) (40代) (小学校)
- ・教員としての現場でというより、自分の興味があったことや知らなかったことを知る事が出来て良かったと思っている
(南信) (平成23年) (平成24年) (50代) (小学校)
- ・特別新たなことには取り組んでいない
(南信) (平成24年) (40代) (小学校)
- ・特に変化はない
(南信) (平成24年) (30代) (中学校)
- ・自分の思い描いていた内容のものは良かったのですが、少し違ったもの(選択するとき に思っていたものと違った内容)は、少し残念でした。
(中信) (40代) (中学校)
- ・教科とは関係の薄い講座でした。特に今の状況に影響はありません。
(中信) (平成23年) (50代) (中学校)
- ・教員を続けていく困難さを感じている
(中信) (平成24年) (平成25年) (40代) (中学校)

- ・特に変わりなし (中信) (平成25年) (40代) (中学校)
- ・講習直後はとても刺激をいただいた。日々の教育活動には生かせていない。 (中信) (平成24年) (平成25年) (40代) (小学校)
- ・講習で得たものを教員としてだけでなく人間として全部の面で役立てようとする気持ちになった。 (中信) (平成24年) (50代) (小学校)
- ・新たな取り組みはあまりないが、新たな気持ちで再出発しようという気持ちにはなれた。また、学年主任等の年齢になっての受講であったので同僚を支え、守る育てるという責任も感じる事が出来その点は今も生きている (中信) (平成23年) (40代) (小学校)
- ・なかなか選ぶことのない内容の研修を受けられて刺激になりました (中信) (40代) (中学校)
- ・更新講習は研修を受けるいい機会となったが日常生活にお戻ると日々の仕事に追われている (中信) (平成25年) (40代) (小学校)
- ・講習で得た情報は知識、教養として自分自身の蓄えとなっているが直接的に日常での指導に反映されていない (中信) (平成22年) (平成23年) (50代) (小学校)
- ・かわらない (中信) (平成25年) (50代) (小学校)
- ・担当学年で即生かせない事も多いので資料と考えている。(発想のヒントとしても) (北信) (平成24年) (平成25年) (50代) (小学校)
- ・更新できて良かった (北信) (平成24年) (40代) (中学校)
- ・教員としての自覚を再確認し納得のいく指導を目指して勤務している。 (北信) (平成24年) (50代) (小学校)
- ・自分を見つめるときが持てたので自分の可能性を広げることが出来たと思う。 (北信) (平成24年) (平成25年) (40代) (小学校)
- ・8でも書いたが使えない講習だったため。 (北信) (平成24年) (50代) (小学校)
- ・特に変わらない (北信) (平成25年) (50代) (小学校)
- ・学習に活用している (北信) (平成24年) (50代) (小学校)
- ・再確認できた。研修などもしているので更新講習をする意味があるかどうか疑問。 (北信) (平成24年) (40代) (中学校)
- ・以前も努力していたので特に変わらない (北信) (平成22年) (平成23年) (50代) (中学校)
- ・特に受講による変化はありません (北信) (平成25年) (50代) (中学校)
- ・あまり生かされていない部分もある (北信) (平成21年) (40代) (小学校)
- ・ほとんど役に立ちませんでした (北信) (平成25年) (50代) (小学校)
- ・特に変化なし (北信) (平成21年) (30代) (小学校)
- ・特に変化なし (北信) (平成23年) (40代)
- ・受講前とあまり変わらない (北信) (平成22年) (平成23年) (40代)
- ・自分の教育に関する知識として積み重ねている (北信) (平成21年) (50代)
- ・特に新しい取り組みはしていないが日々の仕事に取り組んでいます (北信) (平成24年) (30代) (中学校)
- ・いつも通り頑張っている (北信) (平成21年) (平成22年) (50代) (中学校)
- ・変わりなし (北信) (平成25年) (40代) (小学校)
- ・講習は興味深く受講することができたが、そのことを今生かしているかと問われると自信が無い。生かし切れていないと思う。 (中信) (平成22年) (40代) (小学校)
- ・あまり生かしていない (中信) (平成21年) (40代) (小学校)
- ・特に変わらない (中信) (平成23年) (平成24年) (50代) (小学校)

- ・あまり変化はない (中信) (平成22年) (40代) (中学校)
- ・特に変わりなく日々努力しています (中信) (平成25年) (40代) (小学校)
- ・自分で必要と思ったことを自ら研修に出向き、学び、職場に還元しているつもり (中信) (平成21年) (40代) (小学校)
- ・リセットされた気分になりました (中信) (平成24年) (50代) (小学校)
- ・特に目新しく感じたものはない (中信) (平成24年) (30代) (小学校)
- ・講習内容がおもしろく新たに学習、研修したいと思った (中信) (平成23年) (50代) (小学校)
- ・特に日々の仕事とは関係なさそうだが知識の幅が広がった (選択講習) (中信) (平成21年) (40代)

(サ) 来年度以降の充実のために (3項目選択) <棒グラフ>



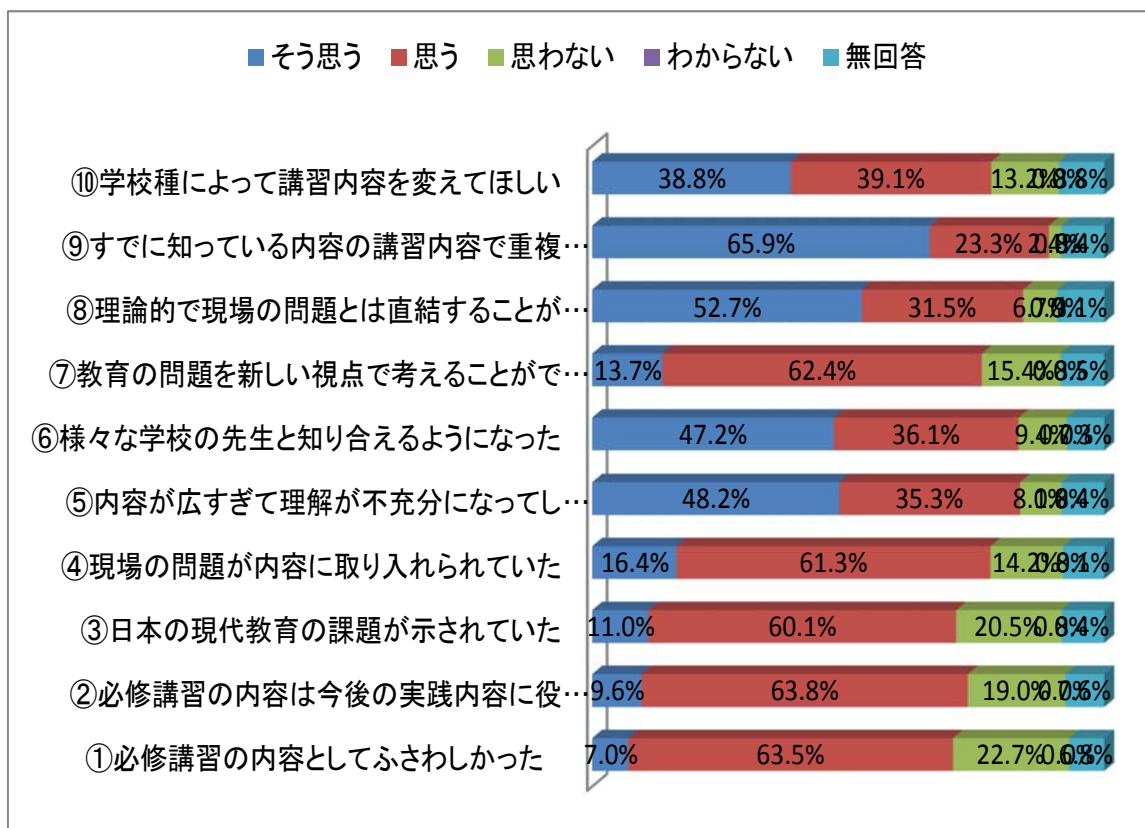
要望が多かった講座の内容は、①教科指導、②特別支援教育、③生徒指導 (いじめ防止を含む)、④学級指導、⑤情報教育であった。

受講者にとって、日常の指導に直結する内容に要望が高いことがうかがわれる。しかし、要望数は前述の5つに比べ少ないものの、「道徳教育」「人権教育」「特別活動」「キャリア教育」などは、学校教育のベースとなる内容と思われるので、講習として意図的に開講する必要があると考える。

また、環境教育、学校運営、防災教育などの講座は、要望数に多くは表れないが、その他の項での、受講者の要望が多い。今後の教育を考えていく上で、これらは重要であると思われるので、開設することが望ましい。

(シ) 免許更新講習のあり方

「免許更新講習のあり方」の集計



「免許更新講習のあり方」の各項目の考察

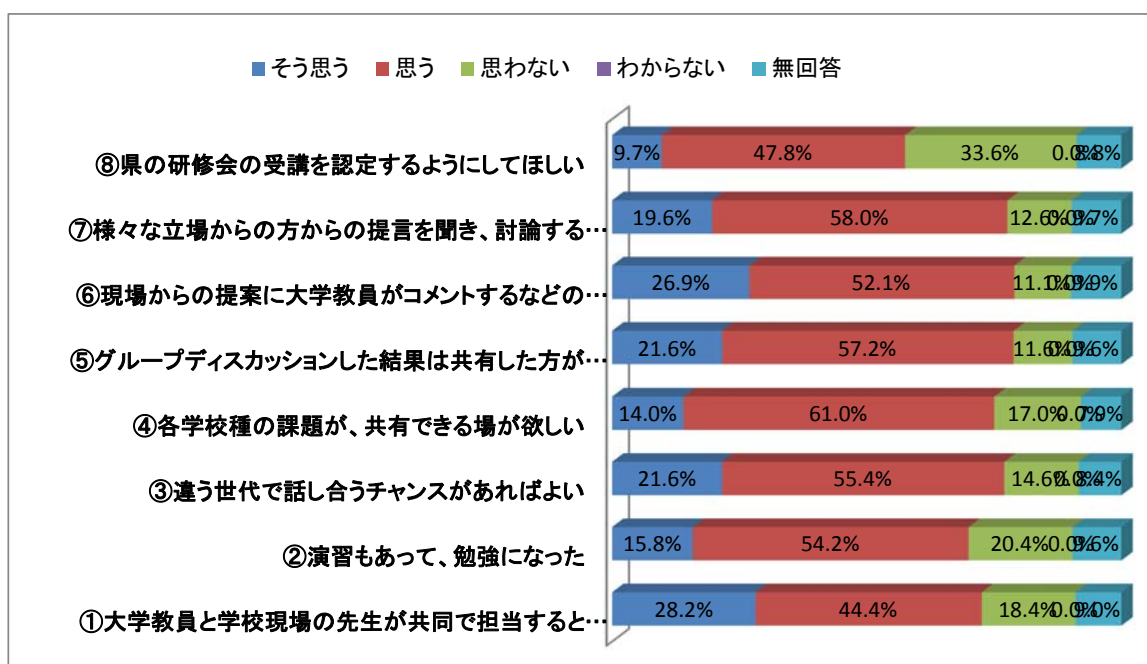
- ・「必修講習の内容がふさわしい」について、「ふさわしい」が70.5%で、肯定的な受け止めがされている。一方、「ふさわしいと思わない」と無回答を合わせると29.5%となる。
- ・「今後の実践内容に役立つ」については、「役立つ」が73.4%で、肯定的な受け止めがされている。一方、「役立つと思わない」と無回答を合わせると22.6%となる。
- ・「現代教育の課題が示されていた」について、「示されていた」が71.1%で、肯定的な受け止めがされている。一方、「示されていない」と無回答を合わせると28.9%となる。
- ・「現場の問題が取り入れられていた」については、「取り上げられていた」が77.7%で、肯定的な受け止めがされている。特に「そう思う」が16%と高い。反面、「取り上げられていない」と無回答を合わせると22.3%となる。
- ・「内容が広すぎ理解が不十分になった」については、「理解が不十分になった」が83.5%と否定的な受け止めが非常に高い。特に「そう思う」が約5割近く、内容が理解されていないことは問題である。「内容が広すぎる」は「更新講習」で扱わなければならない内容に対して講習時間が十分でないことを表していると思われる。その結果として、概括的、説明的講義になっているのが現状では無いだろうか。
- ・「様々な学校の先生と知り合える機会となった」については、「多くの先生と知り合える機会となった」が81.3%と非常に高い。特に「そう思う」が約5割である。反面、「知り合う機会となっていない」と無回答を合わせると16.3%である。講習方法やグループ分け等が関係しているのかも知れない。

い。

- ・「教育の問題を新しい視点で考えられた」については、「新しい視点で考えることができた」が76.1%とほぼ肯定的であるが「そう思う」が13%と低いことが問題である。また、「新しい視点で考えられなかった」と無回答を合わせると23.9%と否定的な受け止めが高い。
- ・「理論的で現場の問題と直結できなかった」については、「直結できなかった」が84.2%、その内「そう思う」が5割以上で非常に高い。必修ではあるが現場とのつながりについて更に工夫していききたいところである。
- ・「すでに知っている内容で重複している」については、「重複している」と感じたが、89.2%、その内「そう思う」が6割以上あるので非常に高い。重複の中味が不明であるがリニューアルの観点を更に明確した講習内容の工夫が必要である。
- ・「学校種によって講座内容をかえて欲しい」については、「変えて欲しい」がトータルで77.9%、その内「そう思う」が約4割、「思わない」が1割強であるので、希望する割合が高い。選択必修で学校種別講習を設定すべく検討する必要がある。

(ス) 必修講習の形式

「必修講習の形式」の集計



「必修講習の形式」の考察

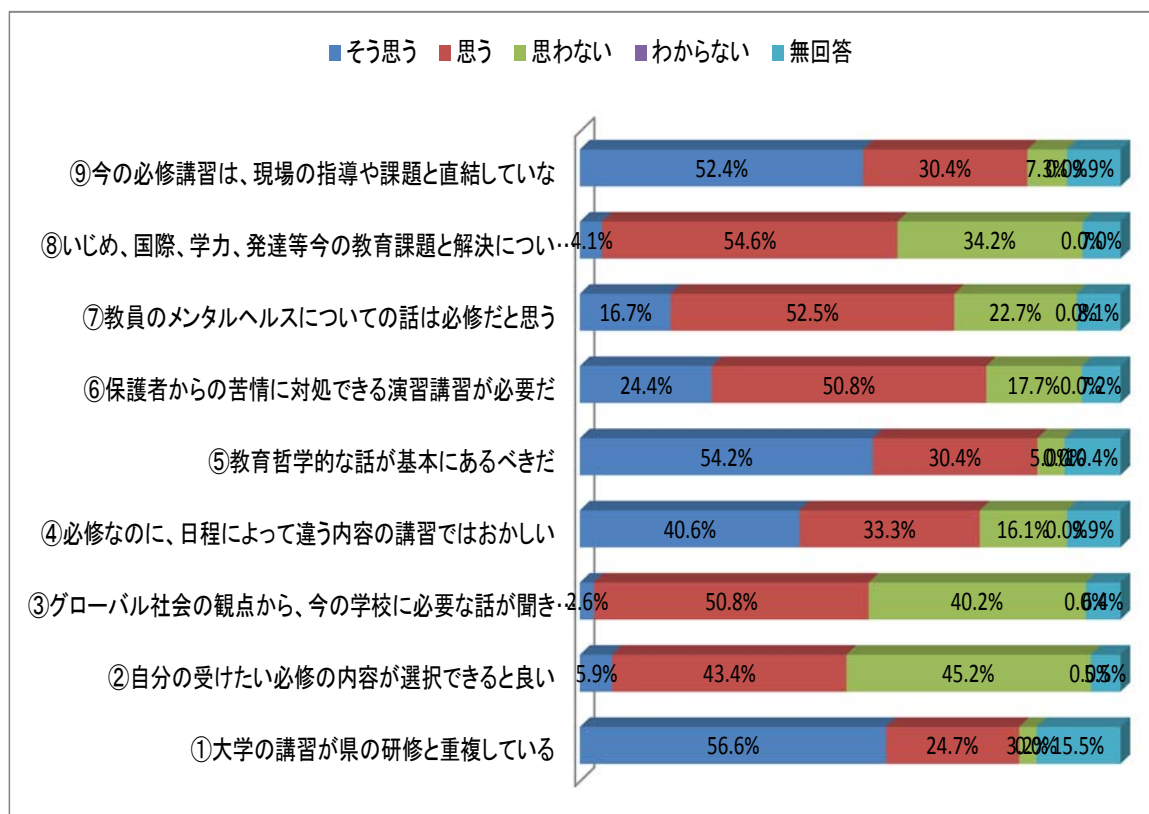
- ・「大学と現場が共同で担当するとよい」については、「共同が良い」はトータルで72.6%、その内「そう思う」が約3割、「思わない」が約2割であるので希望は高いものと受け止められる。（「現場と直結しない」との関連を考えると、講義形態として取り入れるべく工夫していききたいところである。
- ・「演習もあって、勉強になった」については、「勉強になった」がトータルで70.0%、その内「思う」が5割強、「思わない」が2割であるので、演習の良さを感じている割

合がやや高い。具体的事例に即した講習を期待しているものと思われる。

- ・「違った世代で話し合うチャンスがあればよい」については、「あれば良い」がトータルで77.0%あるので、違った世代との交流を希望する割合が高い。必修の中でどのように取り入れられるか、選択必修ならどうか等、今後検討が必要である。
- ・「各学校種の課題が共有できる場が欲しい」については、「場が欲しい」とする意見が、75.0%で高い。必修の中で可能なのか、選択必修ならどうか等、今後検討が必要である。
- ・「グループディスカッションの結果は共有した方が良い」については、「共有」希望が、78.8%と高い。グループディスカッションした場合は当然その結果について報告なり発表のばを確保するべきである。無回答約1割は迷いの表れか。
- ・「現場の提案に大学がコメントする内容が良い」については、「そのような内容が良い」が97.0%と非常に高い。ただ、更新講習の目的を考えた時、内容構成の一貫性が確保できるかを充分検討しなければならない。無回答約1割は迷いの表れか。
- ・「様々な立場からの提案を討議する形が良い」については、「討議する形が良い」は、77.6%と高い。講義のみで無く講習形態の変化を期待しているのかも知れない。問題は更新講習の目的としての内容構成と時間設定が可能であるかである。無回答約1割は迷いの表れか。
- ・「県が認定した研修を認定するようにして欲しい」については、「認定して欲しい」が、57.5%、「思わない」が33.6%であるので、希望は半々と受け止めた。満足度や全体感想の記述からすると希望する割合がもっと高く出ても良いと思われたが意外であった。更新講習は通常の研修とは異なるものとの理解が深まってきたのかも知れない。更新講習の内容を更にレベルアップする必要がある。

(セ) 必修講習全体に関わる要望

「必修講習全体に関わる要望」の集計



「必修講習全体に関わる要望の」集計の考察

- ・「大学の講習が県の研修と重複している」については、「重複している」との受け止めが81.3%と非常に高いので現実として受け止めざるを得ない。しかし、前出「県の研修を認定して欲しい」がそれほど多くない。また、無回答が15.5%もあることから、更新講習における「必修の内容」と「県の研修の内容」の棲み分けを、検討する必要がある。
- ・「自分の受けたい必修の内容が選択できると良い」については、「選択できると良い」が49.3%、「思わない」が45.2%で半々である。回答者は、必修は自ら選択出来ないものと考えていたと思われる。しかし、この質問項目によって、自分で選択出来る必修講座があれば良いかもしれないという考え方が生じて、半々になったものと思われる。
- ・「グローバル社会の観点から、今の学校に必要な話が聞きたい」については、「聞きたい」が53.4%、「思わない」が40.2%でほぼ半々である。受講者が、「グローバル社会」をどのように受け止めているのかによるものと思われる。
- ・「必修なのに、日程によって違う内容の講習ではおかしい」については、「おかしい」が73.9%、「思わない」が16.1%であるので、多くがそう感じていると受け止められる。前出の「自分の受けたい必修の内容が選択できると良い」と合わせて考えると、必修内容は受講者全てに同じであってほしいと考えているのであろう。

- ・「教育哲学的な話が基本にあるべきだ」については、「あるべき」が84.6%、「思わない」が5.0%であるので、非常に多くが教育哲学的な内容を必修として求めていると受け止められる。
- ・「保護者からの苦情に対処できる演習講習が必要だ」については、「演習講習が必要だ」が75.2%で相当多くが希望しているが、反面、「思わない」が約2割あるのは必修の内容とするのはいかなるものかとの表れだろう。演習という形態については、具体的な事例に即して考えたいとする表れかも知れない。
- ・「教員のメンタルヘルスについての話は必修だと思う」については、「必修だ」が69.2%高めである。反面、「思わない」も22.7%ある。必修とするには疑問を感じるということかも知れない。
- ・「いじめ、国際、学力等今の教育課題と解決について知らせるべきだ」については、「知らせるべきだ」が58.7%、「思わない」が34.2%、「無回答」が9.9%である。「知らせるべき」がやや高めではあるが、ほぼ半々と受け止めたい。
- ・「今の必修講習は、現場の指導や課題と直結していない」については、「直結していない」が82.8%で非常に高い。更新講習の意義「最新の知識・技能等を修得する」からして、必修講習の内容を現場の指導や課題とのつながりで厳しく検討しなければならない。

(ソ) 信州大学の選択講習に関するコメント

(良かった記述された講習名と理由を以下に掲載)

1) 教科・領域的内容

○<国語・文学>

- ・「国語」(藤森先生):教科指導に役立つものだった (東信)(平成25年)(50代)(小学校)
- ・「国語の講座」 (南信)(平成22年)(30代)(中学校)
- ・「漢詩の世界」:興味関心があったため (東信)(平成24年)(平成25年)(50代)(中学校)
- ・「漢文講座」:大学に戻ったような気持ちになった (南信)(平成23年)(40代)(中学校)
- ・「漢詩に親しむ」「伝統的な言語文化」 (南信)(平成25年)(40代)(中学校)
- ・「日本のアヴァンギャルド文学を読む」:自分の興味にあっていた
(南信)(平成25年)(30代)(中学校)(南信)(平成23年)(30代)(中学校)
- ・「ジブリ作品を読み解く内容の講座」:新しい視点からのとらえ方が出来ておもしろかったです
(南信)(平成24年)(50代)(中学校)
- ・「太宰治」:同一作品のとらえ方や現在の扱いという視点がおもしろく、中学2年で作品を扱うから。
(南信)(平成24年)(30代)(中学校)
- ・「太宰治 人間失格」:文学に興味があったから (中信)(平成24年)(50代)(小学校)
- ・「グリムの話」:深く歴史を理解することができた
(中信)(平成24年)(平成25年)(50代)(小学校)
- ・「グリム童話のルーツを探る」:ドイツのグリム、フランスのペロー、イタリアのバジレで、一つの童話がこんなにもちがうのかと感じとても興味深かった
- ・「グリム童話のルーツを探る」:自分の興味ある分野の研修が深められた
(北信)(平成25年)(50代)(小学校)
- ・「グリム童話」:知らなかったが多かった (中信)(平成21年)(50代)(中学校)
- ・「グリム童話のルーツを探る」:教育に直結するものではなかったが、物の見方を変えるという視点で興味深く楽しかった
(中信)(平成21年)(平成22年)(40代)(小学校)
- ・「丸山真男の思想」:普段はあまりとれない思索の時間となった

- (中信) (平成24年) (40代) (小学校)
- ・「国語 万葉集」：直接の授業に使用せずとも、演習が楽しく、応用して授業で扱えそうだった
 - (北信) (平成24年) (平成25年) (40代) (小学校)
- ・「書道」：実技があつて良かったから (北信) (平成24年) (平成25年) (50代) (小学校)
- ・「書写指導」：実際に子どもたちに下ろせる内容でためになりました。教室で子どもたちに教えたところとても集中して取り組みました
 - (北信) (平成25年) (40代) (小学校)
- ・「国語言語の～」：とてもおもしろかった。言語というものの意味を改めて考えることが出来た
 - (北信) (平成24年) (50代) (小学校)
- ・「論理的思考を伴う国語教育」：講義と演習で日頃の授業に活かせる内容が多かった。伝統的文学の俳句の演習も日頃の生活をベースに使えるという点が分かりやすかった
 - (北信) (平成25年) (50代) (小学校)
- ・「校種を貫く伝統的な言語文化を読み書く」 (北信) (平成25年) (50代) (中学校)
- ・「古典 羅生門・古今・新古今」：中学教材の枕草子に生かさせた
 - (北信) (平成22年) (平成23年) (50代) (中学校)
- ・「文学 美しい論理力」 (北信) (平成25年) (50代) (中学校)
- ・「楽しく育成する言語力」：国語の教材を読み取る方法として紹介していただいたバタフライマップはとても興味深かった。歌も詠むなど自習も興味深く楽しかった。
 - (北信) (平成24年) (40代) (小学校)
- ・「国語 読解の基礎」：教材研究の工夫など実際の授業にすぐ役立つもので良かった
 - (中信) (平成21年) (40代) (小学校)
- ・「ピーターラビット」「人間失格」：ともに、いつもは考えないことを知り新しい世界が広がった
 - (中信) (平成24年) (平成25年) (40代) (小学校)

○＜社会科＞

- ・「N I E」：新聞のスクラップの作り方・書き方・活用の仕方などがわかったので
 - (東信) (40代) (小学校)
- ・「たかが新聞されど新聞ーN I E入門ー」：自分で教材を開発する視点を教えてもらうことができた。
 - (東信) (平成25年) (50代) (小学校)
- ・「N I Eについての講習」：新聞づくりの現場の見学もあり実習が充実していた。
 - (南信) (平成25年) (40代) (小学校)
- ・「たかが新聞 されど新聞」「N I E入門」：実習が中心であったこと。教科を問わず授業に役立てることができそうなところ、内容も大変わかりやすかったです。勉強になりました。
 - (中信) (40代) (中学校)
- ・「たかが新聞されど新聞」：教科指導に直結する内容で早速実践してみたいと思った。
 - (北信) (50代) (小学校)
- ・「新聞を読むという講習」：周りの人に伝えたり実践にも役だったりしたから
 - (北信) (平成24年) (40代) (中学校)
- ・「新聞を活用する授業について」 (北信) (平成24年) (平成25年) (50代) (小学校)
- ・「実地研修」：長野市内を回り現場目線の見方を教えてもらったこと
 - (北信) (平成23年) (平成24年) (40代) (小学校)
- ・「信濃毎日新聞社での講習」：記者の生の声を聞いたり、実習したり、現場の見学など豊富で飽きさせない活動であったため
 - (北信) (平成25年) (30代) (中学校)
- ・「たかが新聞されど新聞」「N I E入門」：新聞の読み方が分かった。子どもへの指導のポイントが分かった
 - (北信) (40代) (中学校)
- ・「信濃毎日新聞社で行った講習」：実践に近い内容になっていた
 - (北信) (平成24年) (平成25年) (50代) (小学校)
- ・「たかが新聞されど新聞ーN I E入門ー」 (北信) (平成25年) (50代) (小学校)
- ・「新聞社の方の講座」：新聞に対する見方が変わったから
 - (中信) (平成25年) (50代) (中学校)

- ・「新聞 globeの活用講座」 (中信) (平成25年) (30代) (中学校)
- ・「N I Eの講習」 (北信) (平成24年) (平成25年) (50代) (小学校)
- ・「N I E入門」：授業で活用できることが多々あった
(中信) (平成25年) (40代) (中学)
- ・「日本史学」 (東信) (平成24年) (40代) (小学校)
- ・「社会データを分析」「世界経済の歩み」 (東信) (30代) (小学校)
- ・「諏訪信仰のお話」(人文学部)：知らないことを知ることができ新鮮だった。
(南信) (平成21年) (40代)
- ・「松本市内の水巡り」 (東信) (平成21年) (平成22年) (50代) (中学校)
- ・「善光寺の歴史」：改めて善光寺について学ぶことができ、子どもに教えることができた。
(南信) (平成21年) (40代) (小学校)
- ・「経済の話」：学校現場では聞けない経済の話が聞けて難しかったけどおもしろかった。
(南信) (平成24年) (30代) (中学校)
- ・「社会科教育法」：指導実践例やグループワークで指導案を作るなどがあった
(中信) (平成 21 年) (30代) (小学校)
- ・「経済学講座」：改めて勉強する楽しさを自分自身が感じたから
(中信) (平成24年) (平成25 年) (50代) (小学校)
- ・「世界史 戦争の流れ」：演習がある。納得のいく知識が得られる
(北信) (平成25年) (50 代) (中学校)
- ・「地理」(フィールドワークがあった講習)：実際に見て歩いてとても参考になった
(北信) (平成24年) (50代) (中学校)
- ・「聖徳太子」(牛山先生)：根拠のはっきりした論説でとても気持ちが良かったです。実証の仕方資料の示し方等も為になりました
(北信) (平成23年) (30代) (中学校)
- ・「世界経済の歩み」：久しぶりに大学の勉強をした感じで良かったです
(中信) (平成25年) (40代) (小学校)
- ・「植物と食の文化論」：アジアにおけるそばの起源と信州の風土とそばの文化について
また、アフリカにおけるそばと似たもの食文化等興味深かった
(中信) (平成21年) (40代) 特支校)

○<算数・数学>

- ・「『博士の愛した数式』の中の数学を見てみよう」
(東信) (平成23年) (40代) (中学校)
- ・「博士の愛した数式」 (中信) (平成22年) (50代) (小学校)
- ・「博士の愛した数式」：久しぶりに数式の学習をしました。友愛数など数列に潜む仕組みを学びました
(中信) (50代) (中学校)
- ・「博士の愛した数式」：専門外の教科で広い視野で考えられた。
(北信) (平成21年) (40代) (小学校)
- ・「博士の愛した数式」「統計論」 (北信) (平成24年) (50代) (中学校)
- ・「博士の愛した数式を読もう」：難しい数学を本を通して学べた。また、DVDを通して更に数の奥深さや数学者たちの苦悩や、偉大さを知る事が出来、生徒にも話したくなったから
(中信) (平成23年) (30代) (中学校)
- ・「博士の愛した数式」(理学部) (中信) (平成23年) (40代) (小学校)
- ・「やさしい数学を通して見た数学の諸相」：数学と社会とのかかわり、数学が果たす役割について改めて考えたり知ったりする機会となった。
(東信) (平成23年) (平成24年) (40 代) (中学校)
- ・「付属小の公開授業」 (東信) (平成25年) (40代) (小学校)
- ・「付属小の公開とあわせて行った講座」：実践を見て考えられたため
(南信) (平成25年) (40代) (中学校)
- ・「小学校算数」(信大付属松本小学校公開授業参加と授業に関わる講義)：子どもの具体的な学びの姿を見ることが出来てとても良かったです。

- ・「数学教育」：実践的だった (南信) (平成25年) (40代) (小学校)
- ・「素数の神秘性を垣間見る」：普段触れることのない内容だったから (南信) (平成21年) (40代) (中学校)
- ・「統計学について」(松岡先生) (南信) (50代) (小学校)
- ・「素数・行列」の講習」：どのように日常とつながっているか、今どんな研究がされているかとても興味深いものだった (北信) (平成24年) (平成25年) (40代) (中学校)
- ・「算数数学」(茅野先生)：全国学力・学習状況調査とリンクした内容、今大事にしたい 授業について理解が進んだ (中信) (平成21年) (40代) (小学校)
- ・「算数 リーマン予想」 (北信) (平成22年) (平成23年) (30代) (特支)
- ・「素数 リーマン予想」 (北信) (平成24年) (40代) (中学校)
- ・「算数・数学科における実践的指導力の育成」 (北信) (平成25年) (40代) (小学校)
- ・「算数・数学の授業づくり」：実践例、グループでの指導案づくり、新教育課程の変更点についての解説等今後の授業づくりに役立つ内容でした (中信) (平成25年) (50代) (中学校)

○<理科>

- ・「化学実験」(理学部)：専門分野を深め、授業にも生かせる内容でした。 (東信) (平成23年) (40代) (小学校)
- ・「低温のフシギな世界」：授業でも扱うことのある液体窒素だが、教師にとっても生徒にとっても機会多くないので研修で学ぶことで自分でも知識が広がり、生徒にも触れさせてあげることができたから。 (東信) (平成25年) (40代) (中学校)
- ・「理学部・農学部での講座」：教職を離れて知的好奇心をかきたてられる体験となった。 (南信) (平成24年) (40代) (小学校)
- ・「遺伝子」：学校の授業で役立つ最新の研究についても扱ってくれた (南信) (平成22年) (50代) (中学校)
- ・「理科の実習」 (南信) (平成24年) (30代) (中学校)
- ・「光で探る分子の世界」：実験・実習があり、興味をもって学ぶことができた。 (南信) (平成23年) (平成24年) (40代) (小学校)
- ・「岩石や地層のでき方と地質図・地形図の利用法」：現地実習が有りよかった。 (東信) (平成25年) (30代) (小学校)
- ・「地学や化学の講習」(理学部)：専門的で自分の知識が広がった。 (南信) (平成23年) (40代) (小学校)
- ・「野外地質観察法」自分の世界が広がり興味深かった (南信) (平成24年) (平成25年) (50代) (小学校)
- ・「日々の衣生活の中の化学とは」 (南信) (平成24年) (平成25年) (50代) (小学校)
- ・「志賀高原で動植物を実際に見る講座」：志賀のことだけでなく学校でキャンプや登山に行ったときの注意点なども教えていただき勉強になりました。ただ座っているのではなく、体を動かさせたところも良かったです。 (南信) (平成24年) (平成25年) (30代) (小学校)
- ・「地震発生のメカニズムと建物の耐震性」：豊富な資料と興味深いエピソードがよかった (南信) (平成24年) (40代) (中学校)
- ・「バイオテクノロジー最前線」：i p s細胞やクローン等よく聞く言葉がでてきたから (南信) (平成22年) (平成23年) (50代) (小学校)
- ・「鉱物の結晶の講座」 (南信) (平成23年) (30代) (中学校)
- ・「木材の科学」 (中信) (平成24年) (40代) (特支)
- ・「森林関連」(農学部)：理科指導へ (中信) (平成23年) (40代) (中学校)
- ・「身の周りにある化学を発見しよう」：実験が主に良かった。専門分野の話が参考になった。 (中信) (平成25年) (50代) (小学校)
- ・「地震」：最近何かと話題のことで、興味があったので (中信) (平成25年) (40代) (中学校)
- ・「なぜ理科で学び合いなのか」：学び合いの学習形態が広く認知されはじめて来た時期であったので興味があった (北信) (平成21年) (40代) (小学校)

- ・「学び合いの講習」(三崎教授) (中信)(平成23年)(40代)(中学校)
- ・「科学」:光電池を作る、モーターを回す化学 (中信)(平成25年)(50代)(小学校)
- ・「流体力学」(工学部)全く新しい視点から学べて新鮮でした(北信)(平成25年)(50代)(中学校)
- ・「ウシガエルの解剖」:解剖に必要なカエルの入手先や具体的な解剖の進め方について分かりやすく教えていただき現場ですぐに生かせる者であったため (北信)(平成25年)(40代)(小学校)
- ・「身近科学を考える」 (北信)(平成25年)(50代)(小学校)
- ・「現代電気電子工学概論」 (北信)(平成22年)(40代)(中学校)
- ・「身近な化学から先端科学の話と実験」:化学の歴史や理論について興味の持てる話を交えながら全く専門外であっても飽きることなく聞くことが出来た。また、実験では高校・中学・小学校他を上手にグループ編成してくださって化学反応の実験をすることが出来た (北信)(50代)(小学校)
- ・「ポリフェノールの化学」:興味があったから (北信)(平成24年)(50代)(小学校)
- ・「志賀高原の実習」:グループの人たちとなかよくなり、実際に森を見ながらだったのでよく分かった (北信)(平成25年)(50代)(小学校)
- ・「動物の生態ー托卵する鳥とされる鳥の攻防戦と進化ー」「森林・樹木が持つ機能ー生物的特性からその利用までー」:教科に関わることで最新の情報であるから(北信)(平成24年)(40代)(中学校)
- ・「土木」:今まで知らなかったことばかりでとても興味深く聞けました。土木そのものに興味がわきました (北信)(平成24年)(30代)(中学校)
- ・「地学関係の講義」 (北信)(平成21年)(30代)(中学校)
- ・「岩石」:内容は難しかったが、川へ石を拾いに行けたのが良かった (北信)(平成23年)(40代)(小学校)
- ・「光化学についての講習」:最近の脳科学の進歩からの見地によるお話が興味深かった (北信)(平成24年)(平成25年)(50代)(小学校)
- ・「科学技術の先端に関する講義」(工学部):興味深く聞くことができた (中信)(平成22年)(50代)(中学校)
- ・「生活と化学」:シャンプーの成分の話とかおもしろかったです (中信)(平成25年)(40代)(小学校)
- ・「志賀高原の自然に関する講座」:自然の中に出て山歩きや説明を聞けてとても楽しかった (中信)(平成24年)(50代)(小学校)
- ・「気象観測の実際」:フィールドワークを取り入れながらの講習でその後の指導に生かされた (中信)(平成21年)(40代)(中学校)
- ・「屋外に出たのフィールドワーク」 (南信)(平成22年)(40代)(中学校)

○<音楽>

- ・「現代音楽」:かなり専門的だったが、内容が濃く、ワーグナー以降の作曲法の変遷についてしっかりと学べたから (東信)(平成24年)(50代)(小学校)
- ・「共通事項を活かした感性を育む授業」(音楽):感性、心情等について再び考えることができ新たな指導の視点となった。演習で他校種の展開も知ることができ勉強になった。 (東信)(平成25年)(50代)(小学校)
- ・「音楽史」 (東信)(平成21年)(30代)(小学校)
- ・「音楽」:講師の先生のお話があり、グループでのかつどう、発表会等あり、楽しかったし、大変勉強になりました (東信)(平成23年)(平成24年)(50代)(小学校)
- ・「音楽関係の講習」:すぐ授業に活かせる鑑賞の内容や、アフリカの音楽を紹介してくださった(ウォータードラム)映像が4年たった今も心に残っています。 (南信)(平成22年)(40代)(小学校)
- ・「楽しい音楽科授業づくり」:普段学校では使うことのない楽器を使って音楽作りの授業づくりのヒントをいただけありがたかったです (南信)(平成21年)(50代)(小学校)
- ・「共通事項を生かした感性を育む授業」:講義だけでなく演習があり感性を育むための音楽の授業について考えることが出来た (南信)(平成25年)(50代)(小学校)
- ・「管楽器指導」:専門的な楽器の奏法を教えていただいたり、実際に指揮を一人一人が振り、ご指導いただいたり、合奏を体験したりと大変充実した講習会でした。現場ですぐに生かせる内容で、講習を受けたかいがあった。 (中信)(平成25年)(40代)(小学校)

○<図工・美術>

- ・「美術史」：自分としてはパラダイムモデルの中に見方が偏っていた中で、覆される見方を教えていただけたように思えた (南信) (平成25年) (50代) (小学校)
- ・「新学習指導要領と図画工作・美術科」：今の時代だからこそ人間性を豊かにする教科が必要と考え受講しました。表現や鑑賞など体で感じながら理解を深めることが出来大変良かったです (中信) (平成21年) (50代) (中学校)
- ・「美術」鑑賞：作品の見方や湯女狩りを学べてとても勉強になりました。実技：じっくり制作に取り組む時間がなかなかとれないので、思う存分制作に取り組めて充実した時間になりました (北信) (平成24年) (平成25年) (30代) (中学校)
- ・「美術 鑑賞」：テストの形式が良かった (北信) (平成23年) (40代) (小学校)
- ・「図工演習」：自分が苦手なため (北信) (平成21年) (40代) (小学校)
- ・「鑑賞教育」(岡田先生)：実践向きでした (北信) (平成24年) (30代) (小学校)

○<技術・家庭>

- ・「テキスタイルとその快適性・評価コース」 (東信) (平成21年) (40代) (小学校)
- ・「テキスタイルとその快適性計測・評価コース」実習がとてもおもしろかった。制作した作品は家庭科の授業でも使えてよかった (東信) (平成21年) (40代) (小学校)
- ・「新しい発想を生み出すものづくり技術教材」：生活と技術とを結びつけて考える新たな視点をたくさん示唆していただいた (東信) (平成23年) (30代) (小学校)
- ・「はじめて学ぶ繊維と感性」：専門的な内容を分かりやすく楽しく講義していただきとても楽しかったです (東信) (平成25年) (40代) (小学校)
- ・「衣食住で使用される色材」 (東信) (平成25年) (50代) (小学校)
- ・「衣食住で使用される色材」：身近にある色について興味があり分かりやすく教えていただけたから (南信) (平成24年) (平成25年) (40代) (中学校)
- ・「繊維に関する講習」(繊維学部) (東信) (平成21年) (平成22年) (30代) (中学校)
- ・「色についての講習」(繊維学部)：とても興味深く受講できました。 (東信) (平成24年) (40代) (小学校)
- ・「農業に関わる講習」(農学部)：何気なく学校で作物を作っていますが、目に見えない部分での仕組みや働きがわかったからです (南信) (平成23年) (30代) (小学校)
- ・「新しい発想を生み出すものづくり・技術教材」日々の授業に活かせるひんとをたくさん手に入れることができた (南信) (平成25年) (50代) (中学校)
- ・「新しい発想を生み出しものづくり」(技術教材) (北信) (平成22年) (40代) (中学校)
- ・「繊維の話」：しっかり専門的なことでもなく親しみやすかった (北信) (平成22年) (40代) (小学校)
- ・「衣服内気候について」：科学的に着方が分かった (北信) (平成24年) (平成25年) (50代) (小学校)

○<保健・体育>

- ・「ジョキング・ウォーク」：講義以外に、実技とその解説があり、一日実りある研修となった (東信) (平成25年) (30代) (小学校)
- ・「小学校体育における教材作りと授業分析」：日々の保健体育の授業に役立ったから (東信) (平成25年) (40代) (小学校)
- ・「保健教育と学習指導法」：保健指導で使える教材を教えてくださいました。夏休み明けにその教材で保健指導しました (南信) (平成25年) (30代) (小学校)
- ・「子どもの健康と保健指導」：より専門的な内容を学べたから (南信) (平成25年) (50代) (小学校)
- ・「器械運動の基礎」(渡辺先生)：実践に役立ちアイデアが豊富にあった (南信) (平成21年) (40代) (中学校)
- ・「ニュースポーツの理論と実践」：実際に体を動かしながら学ぶことが出来たので

- (南信) (平成24年) (30代) (小学校)
- ・「体育」：小学校の体育の授業導入に活用できる教材紹介。
(南信) (平成21年) (40代) (小学校)
- ・「剣道」：体を動かして楽しかった
(南信) (平成24年) (30代) (中学校)
- ・「医師の講義」
(南信) (平成25年) (50代) (小学校)
- ・「子どもの脳の発達について」：経験、体験の重要性
(南信) (平成21年) (40代) (小学校)
- ・「性教育」(金井先生)：現場で生かせる内容だった
(中信) (平成25年) (50代) (小学校)
- ・「頭部外傷」(医学部)
(中信) (平成22年) (50代) (小学校)
- ・「小児への救急治療」：緊急時を想定しながらお聞きすることが出来た。
(南信) (平成24年) (40代) (小学校)
- ・「子どもの健康と保健指導」発達障害への具体的な指導法を学ぶことが出来た。
(南信) (平成24年) (40代) (小学校)
- ・「学校の先生に気をつけてもらいたい子どもの頭の病気やけが」：専門的に子どもたちのけがや病気についてわかりやすい講義だった。
(中信) (平成24年) (平成25年) (50代) (小学校)
- ・「ニュースポーツ等」：学校でも使えるものが多かった。
(中信) (平成23年) (平成24年) (30代) (小学校)
- ・「ニュースポーツ」：体を動かして自分がリフレッシュ出来、チームのメンバーと協力することで子どもたちの視点に立って体験できた。
(北信) (平成25年) (30代) (小学校)
- ・「小学校体育における教材づくりと授業分析」：実技を通して、走り高跳びの指導のこつを学ぶことができたから
(中信) (平成25年) (40代) (小学校)
- ・「最新体カトレーニングの理論と実践」：世代や個人差に応じたトレーニング方法を学ぶことができた
(中信) (平成23年) (40代) (中学校)
- ・「小学校体育」：現場ですぐに生かせるような運動や実践を紹介していただいたため
(中信) (平成25年) (40代) (小学校)
- ・「体育の実技を含めた講習」：とても為になりました
(中信) (平成24年) (平成25年) (30代) (小学校)
- ・「子どもの健康と保健指導」
(北信) (平成21年) (40代) (中学校)
- ・「救命救急？」：救命救急の医師や子どもの心診療部の医師の講習はとても良かったです
(中信) (平成23年) (30代) (小学校)
- ・「小学校体育に生かすスポーツ運動学の教材づくり」：日々の実践に生かせる内容であったため
(北信) (平成25年) (30代) (小学校)
- ・「小学校体育に生かせるスポーツ運動学の教材づくり」：すぐに生かせる
(北信) (平成25年) (40代) (小学校)
- ・「小学校体育における教材づくりと授業分析」「(小学校) 体育活動のスポーツ運動学の教材づくり」
「ニュースポーツの思想と実践」：実技を通して教材の良さを学ぶ事が出来た
(北信) (平成25年) (50代) (小学校)
- ・「ジョギングとウォーキング」：自分自身の体力向上、自分の可能性を調べるために良かった
(北信) (平成24年) (平成25年) (40代) (小学校)
- ・「小学校体育における教材づくりと授業分析」：学習したことを教材づくりに取り入れることが出来たから。子どもの意欲を高める声かけが学べたから
(北信) (平成25年) (40代) (小学校)
- ・「ニュースポーツの思想と実践」
(北信) (平成24年) (50代) (小学校)
- ・「性教育に関わる課題1・2」：現在の課題が分かりやすく医療現場での切実な実態が分かったから
(北信) (平成24年) (40代) (小学校)
- ・「子どもの健康管理一歯科指導とアレルギー」：具体的な事例対処法を学べて良かった
(北信) (平成25年) (30代) (小学校)
- ・「体育の実技」：こんな種目もあるんだな
(北信) (平成24年) (40代) (小学校)
- ・「ニュースポーツ」：参加されている先生方との交流の場にもなったから
(北信) (平成25年) (30代) (中学校)
- ・「ストレッチング」
(北信) (平成25年) (40代) (中学校)
- ・「体育」(渡辺先生)：体が動かして良かったし、実際の体育で使えそうだった

- ・「体育の実技講習」：どれも良かった。恩師に会えたことが一番良かった（北信）（平成23年）（40代）（小学校）
- ・「子どもの健康と保健指導」（飯田女子短 菊池先生）：学生さんの作った命のビデオメッセージに心打たれ、私自身も小学校の勤務校で作ってみた。その他、教材の紹介から先生の子どもたちに伝えたいものを感じることができた（中信）（平成24年）（50代）（中学校）
- ・「体育実技」（北信）（平成22年）（平成23年）（40代）（小学校）
- ・「ニュースポーツ」：は実技があり、道具さえあればすぐにできるものであった（北信）（平成24年）（平成25年）（30代）（小学校）
- ・「フライングディスク」：実技を通してスポーツの楽しさを実感することができた（中信）（平成25年）（40代）（中学校）
- ・「ニュースポーツ」：学校現場で使えるものがあり、体験できたから（北信）（平成25年）（40代）（小学校）
- ・「ジョギング&ウォークの指導法」：具体的に体を動かすことを通して今までの自分の動きを振り返り見直すことが出来た（北信）（平成24年）（平成25年）（50代）（小学校）
- ・「?（講座名忘れてしまいました）」：ドクターから具体的な話をお聞きすることが出来て良かった。基礎知識から今の保健室で必要な課題まで幅広く話を聞くことが出来て良かった（北信）（平成24年）（40代）（小学校）
- ・「医学部の講習」：最新の知識を得る事ができ良かった（中信）（平成24年）（40代）（中学校）
- ・「歯科のお話」（医学部）：口の中のこと、歯の成長のことをお聞きし、小さい子や小学生に必要なあごを作っていくことが体を作っていくことにも共通していると感じこれからの体作りにとっても参考になった（中信）（平成24年）（50代）
- ・「体育専科の実技しながらの講習」：これからの学習に生かすことがたくさんありとても勉強になった（中信）（平成24年）（50代）
- ・「ジョギング&ウォーク」（中信）（平成24年）（平成25年）（40代）（小学校）
- ・「最新体カトレーニングの理論と実践」：バンクーバーオリンピック女子団体パシュート銀メダリストである、小平奈緒選手を指導している講師の話は実践を分かりやすく説明してくれてとてもおもしろかった（中信）（平成22年）（50代）（中学校）

○＜外国語活動＞

- ・「外国語教育」（東信）（平成24年）（40代）（小学校）
- ・「外国語活動いろはのい」：授業で活用したい内容が多く含まれていました（東信）（平成23年）（40代）（小学校）
- ・「外国語活動基本のき」：外国語活動の授業がこれでよいのか確認させてもらった。（南信）（平成23年）（平成24年）（30代）（小学校）
- ・「外国語教育の講座」：現場の課題を熟知された先生と見受けられた。（南信）（平成24年）（40代）（小学校）
- ・「英語の講習」（南信）（平成23年）（30代）（中学校）
- ・「語学から学ぶ英文法Q&A」：担当の先生が黒板を多に活用され何回も消しては書くことをされていきました。そして、参考文献を多く持参され閲覧できました。英語に対する先生の姿勢、楽しい授業が大変勉強になりました（南信）（平成25年）（50代）（中学校）
- ・「外国語活動」：すぐに授業に生かせるものが多かった（南信）（平成23年）（30代）（小学校）（特支）
- ・「英語学講座」（南信）（平成21年）（平成22年）（40代）（中学校）
- ・「小学校外国語活動 基本のき」：外国語活動を指導することに対する抵抗感を低くすることが出来たため（南信）（平成23年）（40代）（小学校）
- ・「英語史の講習」（人文学部）：おもしろかったです（南信）（平成22年）（30代）（中学校）
- ・「ピーターラビット」：環境を守っていこうとするビクトリア・ポーターの気持や考えを知る事が出来たから（中信）（平成24年）（40代）（小学校）
- ・「ピーターラビット」：映像や資料が豊富でまた楽しく初めて知る事がたくさんあり小学校の授業でも活かせるようなことがたくさんあった（中信）（平成25年）（40代）（小学校）
- ・「ピーターラビット」：専門の立場から深い知識・見識に大変刺激を受けた。美しい湖水地方の映像や

豊富な資料から、一服の清涼剤のような世界が広がった。何度も渡英して、ご自身のテーマを追求し続けていらっしゃる先生の学問探究の姿に感銘を受けた

(中信) (平成22年) (平成23年) (50代) (小学校)

- ・「ピーターラビット」：自分の興味ある分野の研修が深められた
(北信) (平成25年) (50代) (小学校)
- ・「ピーターラビット」：作者の生き様に触れたこと、イギリスの様子を知れたことなど、見識が広がった。教育問題ばかりでなくこうした講座も大切であると思う (中信) (平成24年) (40代) (小学校)
- ・「ピーターラビットの世界」：興味があった。写真等あって分かりやすかった
(中信) (平成23年) (平成24年) (50代) (小学校)
- ・「小学校外国語活動 基本のき」：実際の活動紹介があり英語絵考える機会を与えることの大切さを感じた
(北信) (平成24年) (平成25年) (40代) (中学校)
- ・「英文法の講義」：考え方が少し分りました
(北信) (平成24年) (50代) (中学校)
- ・「くまのプーさんに関する講習」(英語)：当時のイギリスの反響や作者ミルン親子関係について学ぶ事が出来て良かったです
(北信) (平成24年) (50代) (小学校)
- ・「外国語かつどう基本のき」現場で実践できる内容が含まれていたと思います。
(北信) (平成22年) (40代) (小学校)
- ・「小学校外国語活動指導法」(教育学部)
(中信) (平成23年) (40代) (小学校)
- ・「英語の講座」(酒井先生)：おもしろかったです
(中信) (平成21年) (30代) (中学校)
- ・「外国語活動」
(中信) (平成23年) (30代) (小学校)

○<総合的学習>

- ・「県立歴史館のバックヤード」：とても勉強になった
(東信) (平成24年) (平成25年) (40代) (小学校)
- ・「歴史館で教材開発」：自分で教材を開発する視点を教えてもらうことができた
(東信) (平成25年) (50代) (小学校)
- ・「歴史館での演習」：とてもためになりました。高学年だと、すぐいかせるので
(東信) (平成24年) (40代) (小学校)
- ・「歴史館で学ぶ」：普段見られない裏側を見たり話を聞いたりすることができたから
(南信) (平成25年) (40代) (小学校)
- ・「歴史館で教材開発」：バックヤードの様子を見学できたこと、教材化について具体的に考えることができた。
- ・「歴史館での教材開発」：県立歴史館のバックヤードを見学し、グループごと、教材として使えるものは何か考え作り上げていく過程がとてもおもしろく様々な考え方を他の先生と出し合って作り上げていく楽しさを味わえた貴重な体験が出来た
(中信) (平成24年) (平成25年) (40代) (小学校)
- ・「歴史館での教材研究」：普段入れない場所での講義と見学体験。
(中信) (平成25年) (50代) (小学校)
- ・「歴史館で教材開発」長野県立歴史館のバックヤードをゆっくりと見学でき、また社会の授業で歴史館にある展示品を見たり、専門主事の先生からお話をいただいたりすることも想定した指導案を作成する演習があり、小学校高学年を担当している私としては大変参考になりました
(北信) (平成24年) (平成25年) (40代) (小学校)
- ・「歴史館での教材研究」：展示を使って学習問題を解決していく事を学びました。それがとても良かった。(1 展示物の教材化 2 課題設定解決の仕方 3 自分が子どもになって考えた) また、いろいろな学校の先生方とグループを作り課題解決しながら情報を共有でき知り合いになることが出来た
(北信) (平成25年) (50代) (小学校)
- ・「歴史館で教材開発」：歴史館の一つ一つの展示野意味を深く考えてので、より具体的に指導出来るようになった
(北信) (平成25年) (40代) (小学校)
- ・「県立歴史館での講習」：その後の社会科見学でも活用できる内容だった。「液体窒素を扱った講習」演習は興味深く未知のことを知る機会となった
(北信) (平成25年) (50代) (小学校)
- ・「歴史館で教材開発」：普段見ることの出来ない博物館のバックヤードを見せていただくことが出来勉強になった
(北信) (平成22年) (平成23年) (40代) (特支)

○＜特別活動＞

- ・「仲間づくりや校外学習でのレクリエーション：すぐに実践できる内容で、自分も楽しかった
(東信) (平成24年) (平成25年) (40代) (小学校)
- ・「宿泊を伴う行事で活用できるレクリエーション、エンカウンター体験型講習」：学級経営に生かすことができました
(南信) (平成21年) (50代) (小学校)
- ・「ネイチャーゲーム等」：学校の行事・キャンプ・野外活動。学校経営に生かせる内容であった
(南信) (平成21年) (平成22年) (40代) (小学校)
- ・「レクリエーション実習」
(北信) (平成24年) (40代) (中学校)
- ・「野外活動」
(北信) (平成23年) (50代) (中学校)
- ・「長期集団宿泊活動の企画と指導」：学校行事に生きる情報や知識を吸収することが出来た
(北信) (平成23年) (平成24年) (30代) (中学校)
- ・「長期集団宿泊学習」
(北信) (平成24年) (40代) (中学校)
- ・「宿泊学習についての講習」：高学年の担任をしていたのですぐに役だった。人間関係づくりのゲームもすぐ生かせてありがたかった
(北信) (平成24年) (平成25年) (40代) (小学校)
- ・「宿泊学習でできる活動」：人間関係を高めるための声かけについて学ばせていただいた
(中信) (平成22年) (平成23年) (40代) (中学校)
- ・「フィールドキャンプトレーニング」
(中信) (平成21年) (平成22年) (40代) (小学校)

その他の教育

＜特別支援教育＞

- ・「障害のある子どもの支援」
(東信) (平成23年) (40代) (中学校)
- ・「障害を持つ子どもの支援」：現場ですぐ使える
(東信) (50代) (小学校)
- ・「障害のある子どもの支援」：実情に合っていた 職場で活かせるお話だった
(東信) (平成24年) (30代) (小学校)
- ・「特別支援教育（松本）」：発達障害の理解が深まり、実際の指導に役立つ。
(東信) (平成25年) (40代) (小学校)
- ・「障がいのある子の支援」：新しい情報を伝えていただいたこと。大学生、社会人になっても自分の特性のために苦勞しているのだということをお聞きして広い視野で見ていく必要を感じる事ができた
(南信) (平成24年) (40代) (小学校)
- ・「特別支援の講座」
(南信) (平成24年) (50代) (小学校)
- ・「コミュニケーションの障がいを疑似体験しよう」：アイマスクやノイズなどの体験ができ、他の受講者と感想を共有し合う中で障がいへの理解、他者理解を深めることができた
(南信) (平成25年) (40代) (小学校)
- ・「コミュニケーションの障がいを疑似体験しよう（A）」：グループディスカッションしながら体験活動でき理解しやすく、自分の指導にも生かせる内容だった
(南信) (平成25年) (40代) (小学校)
- ・「発達障害についての講義」
(南信) (平成23年) (50代) (小学校)
- ・「特別支援に関わる講習」：大変参考になったと思っています
(南信) (平成24年) (50代) (小学校)
- ・「コミュニケーション障がいを疑似体験しよう」：自分が学びたいと思った内容に近いものだったから
(南信) (平成23年) (平成24年) (40代) (小学校)
- ・「コミュニケーションの障がいを疑似体験しよう」：疑似体験はなかなかできないことの理解のために大変役立ったから
(南信) (平成23年) (平成24年) (50代) (中学校)
- ・「脳科学と特別支援教育」「環境が子どもを育てる」
(南信) (平成25年) (40代) (小学校)
- ・「コミュニケーションの障がいを疑似体験しよう」：グループワーク等で体験しながらの講習で発達障害の子どもの気持ちを考えることができ印象に残っています
(南信) (平成25年) (30代) (小学校)
- ・「発達障害の疑似体験」：子どもに寄り添う、理解すると言うことがどういうことなのか、新しい視点をいただけた。現場の指導に生かせる内容であった
(南信) (平成23年) (50代) (小学校)
- ・「コミュニケーション障がいを疑似体験しよう」：グループワークで話し合う場面もあり、他の方の意見がとても参考になりました
(南信) (平成25年) (50代) (中学校)
- ・「障がいを疑似体験しよう」：アイマスクをしたり耳栓をしたりという体験が初めてだったのでとても

- 考えさせられました (南信) (平成25年) (40代) (小学校)
- ・「障がいをもつ児童におけるコミュニケーション」：実際に難聴者がどのように聞こえるか体験したりコミュニケーションについての演習をして体験したり、実際にやってみて感じる事がとても刺激になった (南信) (平成24年) (平成25年) (40代) (小学校)
 - ・「コミュニケーションの障がい」 (南信) (50代) (小学校)
 - ・「コミュニケーションの障がいを疑似体験しよう」：体験的学習があり大変参考になった。 (南信) (平成25年) (40代) (特支)
 - ・「特別支援関係の障がい体験」：アイマスク、耳栓など (南信) (平成23年) (平成24年) (50代) (中学校)
 - ・「障害のある子どもの支援」：実際の児童と結びつけながら講習を受けることが出来た (南信) (平成23年) (平成24年) (50代) (小学校)
 - ・「障害について考える」：体験的に学べた (中信) (平成24年) (40代) (特支)
 - ・「特別支援講習」(農学部)：現場の問題点や今後の支援法など現場の課題にあった内容であった。ワークショップも良かった (中信) (平成25年) (30代) (特支)
 - ・「コミュニケーション障害」：子どもたちの苦労を体験することができた。 (中信) (平成24年) (平成25年) (50代) (小学校)
 - ・「特別障害に関するもの」：発達障害を体験できるものが良かったです。 (中信) (平成24年) (50代) (中学校)
 - ・「コミュニケーションの障がいを疑似体験しよう」：自分の専門分野での新しい情報が参考になった (中信) (平成25年) (50代) (小学校)
 - ・「発達障害に関する講習」：大変勉強になりました (中信) (平成23年) (40代) (小学校)
 - ・特別支援教育に関する内容」：クラスにいる発達障害のお子さんへの対応への参考になりました (中信) (平成24年) (40代) (小学校)
 - ・「特別支援教育のあり方」：演習あり (南信) (平成21年) (50代) (小学校)
 - ・「寒天でレリーフを作る」：特別支援の生徒に身につけたいスキルを含んでいた。非日常的作業が新鮮でした (南信) (平成23年) (50代) (中学校)
 - ・「脳科学と特別支援教育(B)」：脳の機能や構造、発達科学について、とてもわかりやすい講義ですすぐ実践できそうな内容だったため (東信) (平成25年) (40代) (小学校)
 - ・「脳科学と特別支援教育」：脳の科学的仕組みを詳細に知ることで相手(子どもたち)への理解が全く変わり、表出している言語に感情的にならないことは基より、教育のアプローチの仕方に工夫できる可能性を教えていただいた (東信) (平成24年) (40代) (小学校)
 - ・「脳科学について」：脳の発達の過程がよく分かり障害のある児童への理解が深まった (北信) (平成25年) (50代) (小学校)
 - ・「アイスブレイク・エンカウンター・フィールドワーク」：どのように児童と行動すれば良いかを学びました。本で読むのとは異なりすぐに現場で生かせる内容で、周りの職員にも広めることが出来ました (北信) (平成25年) (30代) (小学校)
 - ・「特別支援教育の講座」2種免許を取りたいので重ねて勉強になりました。子育てにも悩んでいたのので我が子と照らし合わせて考えることが出来ました (北信) (平成23年) (40代) (小学校)
 - ・「特別支援教育と脳科学」 (北信) (平成25年) (50代) (中学校)
 - ・「コミュニケーションの障がいを疑似体験しよう」：目の前の生徒の感じ方を体験でき困難さが分かった。分かることでほんの少し寄り添える気持ちになれた。 (北信) (平成24年) (平成25年) (40代) (中学校)
 - ・「障がいを持っている児童についての講習」 (北信) (平成23年) (30代) (小学校)
 - ・「難聴や目が見えない人の不安を体験したり、ディスカッションする講座」 (北信) (平成24年) (50代) (中学校)
 - ・「障がいのある子どもの支援」：内容は広くなってしまうが、学級内でいろいろな子どもたちのいる現状に合ってとても参考になった (北信) (平成25年) (50代) (小学校)
 - ・「特別支援教育に関わる講座」：発達障害を持つ子どもへの対応、問題行動の分析 (中信) (平成23年) (平成24年) (40代) (小学校)

- ・「障がいのある子どもの支援」：実習も含まれ (中信) (平成21年) (平成22年) (40代) (小学校)
- ・「コミュニケーションの障がいを疑似体験しよう」：体験を通して実感できたり他の参加者と感想の交換ができた (中信) (平成25年) (50代) (小学校)
- ・「発達障害の指導法」 (中信) (平成24年) (平成25年) (40代) (小学校)
- ・「特別支援教育2」：脳の働きと自閉症児の特性等についてのお話を伺い、過去に担任した子と重ね合わせたり、当時担任していた子に対して別の角度からその子の行動をとらえたり学習の仕方と考えたりすることができた (中信) (平成21年) (40代) (特支)
- ・「発達障害」 (中信) (平成21年) (40代) (小学校)
- ・「石膏を使った実習」 (中信) (平成21年) (平成22年) (40代) (小学校)
- ・「障がいのある子どもの支援」；現在、教育現場で直面している問題を踏まえた内容であった (中信) (平成23年) (30代) (小学校)
- ・「特別支援に関する講習」 (中信) (平成21年) (40代) (小学校)
- ・「発達障害の実際」(脳科学の面から教えていただいた講義)：クラスの児童を思い浮かべ日々の対応について具体的に考えることができた (中信) (平成24年) (平成25年) (40代) (小学校)
- ・「発達障害について」 (中信) (平成23年) (平成24年) (50代) (小学校)

○＜心理・哲学等＞

- ・「子どもを変える心理学」：なるほどと思う内容が多く、具体的な事例もあり、大変参考になった (東信) (平成23年) (40代) (中学校)
- ・「心理学クラティカルシンキング」 (東信) (30代) (小学校)
- ・「心理学からのクリティカル・シンキング入門」 (南信) (平成24年) (平成25年) (50代)
- ・「心理学からのクリティカルシンキング」：今までと違った方向から物事を考えることができたから (南信) (平成24年) (50代) (中学校)
- ・「心理学からのクリティカルシンキング」：新しい見方をしようと思うきっかけとなった (南信) (平成22年) (40代) (小学校)
- ・「心理学からのクリティカルシンキング」：ものの考え方を見直す良い機会になりました (南信) (平成25年) (30代) (中学校)
- ・「心理学からのクリティカル・シンキング」：内容が充実していた (中信) (平成23年) (40代) (中学校)
- ・「心理学からのクリティカルシンキング」：生徒と向かい合う上で参考になった (中信) (40代) (中学校)
- ・「クリティカルシンキング」：考え方の根本を聞き広き応用がきく (中信) (平成23年) (40代) (中学校)
- ・「カウンセリング講座」 (南信) (平成23年) (30代) (中学校)
- ・「教員のメンタルにかかわる内容」 (南信) (平成21年) (40代)
- ・「仏教」：宗教としてではなく考え方と日本人への影響という視点が新鮮だったから (南信) (平成24年) (30代) (中学校)
- ・「子どもを変える心理学」：三つの事例から具体的にどのように子どもたちに接していくか話していただき分かりやすかった。日常の教育実践に取り入れていけると感じた (北信) (平成24年) (平成25年) (50代) (小学校)
- ・「？(講座名を忘れてしまいました)」：血液型が差別につながるという見方を変えれば考えも変わるの話がおもしろく今もしっかり覚えています (北信) (平成23年) (30代) (中学校)
- ・「中国の思想世界に学ぶ」：とても興味のある内容だったので (南信) (平成22年) (50代) (中学校)
- ・「カウンセリングの関わる内容」：演習を伴ったグループで行った講習 (中信) (平成24年) (平成25年) (40代) (小学校)
- ・「教育心理関係」(教育学部) 生徒指導へ、地震のメンタル面へ (中信) (平成23年) (40代) (中学校)
- ・「子どもを変える心理学」：臨床心理学を学べる良い機会になりました (北信) (平成24年) (平成25年) (40代) (中学校)

- ・「子どもを変える心理学—学習とカウンセリングの理論から—」：認知行動療法等について内容も味深かった。難しかったですが (北信) (平成25年) (50代) (中学校)
- ・「自分の価値は自分で作る」：というようなお話。自分へのエールのように聞こえとても元気をいただきました。とても心に残っています (北信) (平成24年) (40代) (小学校)
- ・「子どもを変える心理学—体験は子どもを変える」：行動理論の応用と事例—具体的な事例に基づいた内容で分かりやすく実践に役立つ内容だった (中信) (平成23年) (30代) (中学校)
- ・「教育相談の理論と実際」(必修) (中信) (平成21年) (40代) (小学校)
- ・「作業療法に関する講義」：自分の中には無かった視点からのお話だったので興味深かったです (中信) (平成24年) (平成25年) (40代) (小学校)

○＜教育＞

- ・「最新の教育事情」いろいろな先生方から教えていただくことが出来たので。 (南信) (30代) (小学校)
- ・「最新の教育事情」：学長先生のお人柄と経験から寄せられた言葉に重みがあった、また発達障害を考える講義ではモラルジレンマのような問いにたい対して自分の価値観を見直したり、参加型だったりしてより主体的に学ぶ事が出来たから (中信) (平成24年) (40代) (中学校)
- ・「教育の最新事情」：直近の教育に関わる情報や課題を知ることが出来、これからの教育活動の参考にすることが出来た (南信) (平成23年) (50代) (小学校)
- ・「教育の最新事情」 (北信) (平成23年) (40代) (中学校)
- ・「グローバル社会と教育」：4人グループでの話し合いが子どもを指導する上で参考になった。人数が少なかったのも良かった (中信) (平成25年) (50代) (小学校)
- ・「教育の本質と教師の役割」：教師としてのあり方を考えることが出来た (中信) (40代) (中学校)
- ・「最新の教育事情」：一番はじめにお話しされた先生はお若い方でしたが現場の様子や教育について今検討されている事などとても詳しくおもしろく話してくださいました。授業の流れ、組み立ての参考にもなりました (中信) (平成25年) (30代) (中学校)
- ・「最新の教育事情」 (北信) (平成25年) (50代) (小学校)
- ・「教育の本質と教師の役割」：現状の課題を踏まえた内容だったから (中信) (平成25年) (40代) (中学校)

○＜法律＞

- ・「少年院の中の実情」(法学)：教授がとても興味深く話され、現場にいても知らないことがよくわかりました。ぜひ、小・中学校でもお話ししていただきたい (南信) (平成23年) (40代) (小学校)
- ・「法律に関わる内容」：新CSになったので、その時期と内容が関わっていて良かったと思います (南信) (平成21年) (平成22年) (40代) (小学校)
- ・「? (講座名を忘れました)」(荒井先生の講習) (東信) (平成25年) (50代) (小学校)

○＜環境教育＞

- ・「環境について」おもしろかった (南信) (平成23年) (50代) (小学校)
- ・「稲作農業と地域保全の～日本とタイの稲作農村の事例から～」：自分の世界が広がり興味深かった (南信) (平成24年) (平成25年) (50代) (小学校)
- ・「環境教育 (森林の現状と課題)」 (南信) (平成21年) (40代) (中学校)
- ・「長野県の森林の植生や水利の変遷についての講習」(南箕輪キャンパス)：得られた視点を授業に生かすことができた (南信) (平成24年) (50代) (中学校)
- ・「緑の景観保全」：環境について視点を広げることが出来た (南信) (平成23年) (50代) (小学校)
- ・「環境の変遷と緑の役割」：紫外線についての実情が具体的に説明され、非常に身近に感じられた (南信) (平成21年) (50代) (小学校)
- ・「地球温暖化に関係した講座」：今年のような異常気象を専門的に学べておもしろかった (南信) (平成23年) (50代) (中学校)
- ・「地図から防災を考える 防災地理教育講座」：地図上で考える避難対策についての実習や、古地図か

- ら見る危険地形の判断など具体的で新しい見方を教えられた（南信）（平成21年）（50代）（小学校）
- ・「森林伐採と木材加工」：楽しく体を動かせたから（南信）（平成24年）（30代）（中学校）
- 「ランドスケープデザインと防災からみた地域 新しい環境教育」（南信）（平成23年）（平成24年）（40代）（小学校）
- ・「森林について」：興味深かった（南信）（平成23年）（40代）（中学校）
- ・「持続可能な社会を求めて」： 脱原発が叫ばれている中で、小水力発電について知る事ができた（中信）（平成25年）（30代）（中学校）
- ・「環境教育」：実際に現地へ赴いての体験を日本と比較し講義していただき興味、関心を持って聞けた（中信）（平成25年）（50代）（小学校）
- ・「持続可能な社会を求めて」（工学部）（北信）（平成22年）（40代）（中学校）
- ・「環境教育」（熊谷先生）；授業でも内容を扱っています。子どもたちも興味を持って授業に取り組んでいます（北信）（平成23年）（30代）（中学校）
- ・「信州の気候風土を生かした住環境教育：」 授業の中に生かせる内容であった（北信）（平成24年）（40代）（中学校）

○＜国際化＞

- ・「国際理解教育にかかわる講習」：講習の内容、形式（グループ活動等）がとてもよく、他の先生方ともつながりが持て、学習が深められた。（東信）（平成24年）（平成25年）（40代）（中学校）
- ・「アフリカ森の民のライフサイクルから学ぶ知恵」：自分が思いもしなかった生活と価値観を知ることができた（東信）（平成25年）（40代）（小学校）
- ・「アフリカ、森の民のライフサイクルから学ぶ知恵」：異文化・異民族について学ぶことは非常に重要だと思いました。自分たちの当たり前を振り返る貴重な時間でした。（南信）（平成24年）（平成25年）（50代）（小学校）
- ・「外国籍生徒とともに学ぶ国際交流のあり方」：日頃の教育実践と直結していたため（南信）（平成24年）（50代）（小学校）
- ・「アフリカの馬鹿族の話」：自分たちの生きる力を振り返る良い機会になった。（南信）（平成25年）（30代）（小学校）
- ・「移民と移動の社会学ー外国人集住従都市の事例を中心としてー」：外国人の子ども、親への対応は現場では個別の問題としてしかとらえることが出来ないが、社会学として学問的にとらえていくことが必要だと感じた（南信）（平成22年）（50代）（中学校）
- ・「発展途上国の子どもの健康」：衛生面、食育、健康教育など、日本の生活のとかげ離れている国の現状を知って考えさせられた（中信）（平成25年）（40代）（小学校）
- ・「開発途上国の子どもたちの健康と環境」：保健・健康教育の世界的潮流とエコヘルズ教育の導入ー日本の国内では考えられないような環境の中で学習する子どもたちがいることに気づかされ目が開かれました（北信）（平成24年）（平成25年）（50代）（中学校）
- ・「アフリカの民族の話」：興味があった内容だったのでとてもおもしろかったです（北信）（平成23年）（30代）（中学校）
- ・「発展途上国における環境」（北信）（平成25年）（40代）（小学校）

○＜食育＞

- ・「食品機能性の科学」：専門外の分野でしたが、最新の研究のお話をお聞きできたこと、これからの食の安全性という重要なことを真剣に考えることができたこと。講師の先生のお話や資料がわかりやすかったということが理由です（南信）（平成25年）（40代）（小学校）
- ・「あばれると健康」（三野たまき先生）：研究の方法や研究結果を興味深く聞くことができました（南信）（平成24年）（平成25年）（50代）（小学校）
- ・「ポリフェノールの化学」「食の安全と持続的食料生産」（農学部）：全く今まで学習したことがなく、新鮮で大変興味深い内容だった（南信）（平成24年）（40代）（中学校）
- ・「食に関する内容」（農学部）（南信）（平成25年）（30代）（中学校）
- ・「家畜についての講習」（農学部）：教科専門外でしたが新しいことを知るきっかけになったので（南信）（平成25年）（30代）（中学校）

- ・「学校における食育推進」：子どもたちの生活環境や食に対する意識の多様化など、考えていかなければならない問題について考えてみる事が出来ました (南信) (平成24年) (40代) (中学校)
- ・「食の安全と持続的食料生産」：すぐに生徒に語って話し合いたくなる内容でした (中信) (平成24年) (50代) (中学校)
- ・「食品機能と健康」：免疫力を高める食品や特定健康用食品等、最新の内容の講義でありがたかった (中信) (平成24年) (50代) (中学校)
- ・「食育」(午前は歯、午後は噛むこと)：身近な内容で講義も分かりやすかったから (中信) (平成25年) (40代) (小学校)
- ・「食育」：グラフ等の資料、授業でも活用しています (中信) (平成25年) (30代) (中学校)
- ・「食育」：新しい内容を知る事が出来て興味深かったです (北信) (平成23年) (30代) (小学校)
- ・「食育の講座」：すごく現実的よく分かった (北信) (平成25年) (50代) (小学校)
- ・「機能食品のこと」(農学部)；アレルギー対応にまでわたり丁寧にお話して下さった事と、食育教育にみならず、自分の体や家族の体を守る食事についてお話して下さったことに講師の先生の優しい人柄を感じたから (中信) (平成24年) (40代) (小学校)
- ・「農学部の講習」 (中信) (平成21年) (40代) (小学校)
- ・「食品のことについての講習」(農学部)：自分自身の興味のある内容だったから (中信) (平成24年) (40代) (小学校)

○<キャリア教育>

- ・「キャリア教育」 (北信) (平成21年) (40代) (特支)

○<その他>

- ・「電子教科書」：興味ある内容だった (南信) (50代) (小学校)
- ・「電子教科書って何だろう?」：電子教科書についていろいろと学ぶことができ、今後活用の機会があれば生かして行けそうだと感じた (中信) (平成24年) (40代) (小学校)
- ・「経営面の話」 (南信) (平成25年) (40代) (小学校)
- ・「認知症に関する講座」 (南信) (平成25年) (50代) (小学校)
- ・「特保の話?」(農学部) (南信) (平成24年) (40代) (小学校)
- ・「身近なデジタルカメラの活用で不思議なマイクロ世界の観察をもっと効果的に」：普段見られない映像を写真にしたり、パソコンに写したりして、授業でも使えそうであるし、私自身わくわくしたので (中信) (平成25年) (40代) (小学校)
- ・「地域の福祉の実態について」市町村により思った以上に違いがあり興味深かった。 (北信) (平成23年) (50代) (小学校)
- ・「アカウンティングの基礎」：学校生活では、得られない知識が得られた。世の中のことがわかった (南信) (平成24年) (平成25年) (40代) (中学校)
- ・「デジタルプリントの実習」 (中信) (平成24年) (50代) (中学校)
- ・佐久大学での講義 (東信) (平成25年) (40代) (中学校)
- ・繊維学部の選択講習 (東信) (平成25年) (30代) (小学校)

その他

- ・「専門研修に関わった講習」：やはり、その後の指導に直結するので (南信) (平成23年) (50代) (中学校)
- ・講師が熱心に講義して下さり新鮮でした (全ての講義) (南信) (平成24年) (50代) (小学校)
- ・農学部の先生の講習が熱心でおもしろかった (南信) (平成23年) (40代) (小学校)
- ・新しい理念や、実践に触れることができた。また、演習では、心ゆくまで制作することができ、学生とのわずかな時間の交流も、とても刺激になった。受け入れ可能ならば、毎年あっても良いと思う。県総合教育センターでの研修よりも、現場の質はたいへん高いものがあると思われました (南信) (平成22年) (50代) (中学校)
- ・「? 全国の様子」統計に基づいたものはとても説得力がありました

- （北信）（平成24年）（平成25年）（40代）（小学校）
- ・ 選択は自分で選んでいるので良いかと思う。しかし、抽選なので希望が叶わないときの選択講習はどうかと思う （北信）（平成24年）（40代）（中学校）
- ・ 「？」：勉強の分からない子どもの気持が分かりその点では勉強にない良かったです （北信）（平成25年）（50代）（小学校）
- ・ どの講習も自分の為になるものであり、授業にも役立つものであった （北信）（平成24年）（平成25年）（30代）（小学校）

[考察]

選択講習について、実に多岐にわたる学びをしていることがわかる。受講して良かったとの受け止めの内容に関しては、次のように大きく二つに分けられる。

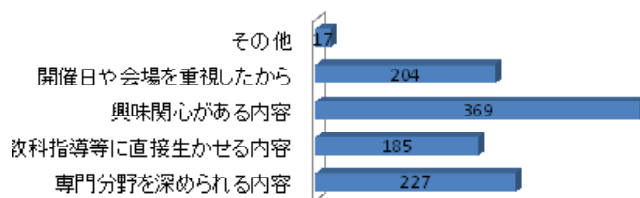
「1、教科等の指導の実践に直接つながるもの」

「2、その他の教育」

その他の教育の中は、「①専門を深く追究するもの」「②特別支援教育に関するもの」「③一般教養を高めるもの」「④心理学に関するもの」「⑤課題教育に関わるもの」「⑥実習やフールドワークを伴うもの（授業参観を含む）」などに分けることができる。

そこで、受講者が講座を選択する折りの資料となるよう「免許状更新講習募集要項内」に、上記の観点を入れて作成することが、受講生にとってより良いものとなるのではなかろうか？ このことは受講意欲を大事するという以上に免許更新講習の質の問題ともつながると思われる。

(タ) 選択講習を選択した理由（複数回答）＜円グラフ＞



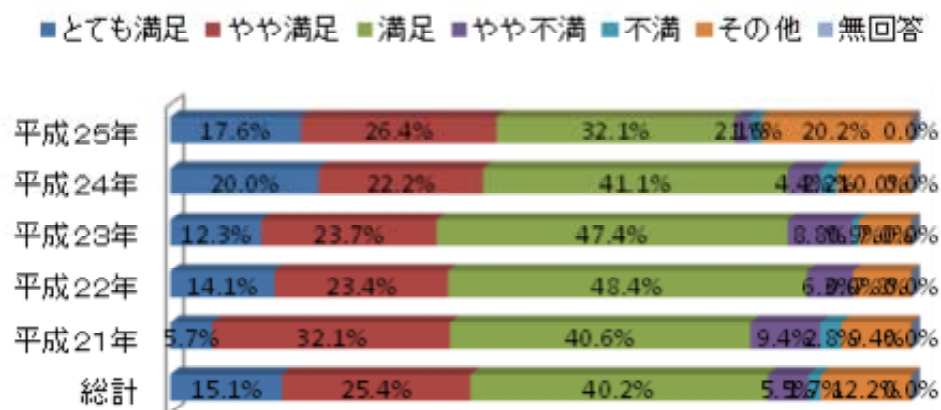
「興味・関心」が56.2%と高く、続く「専門分野」（34.6%）、「開催日・会場」（31.1%）、「教科指導等」（28.2%）の三観点には大きな差がない。開催日・会場と興味関心や専門、教科指導なのかの講習内容と照らし合わせ選択していることが伺える。

内容を選択する大事な手がかりとしての更新講習の案内に「専門」「教科等指導」「教養」等についてよりの確に表記する必要がある。

(3) アンケート集計結果の考察

(ア) 受講年度からみた考察

① 信州大学を受講しての満足度



満足がどの年度も7割強から8割で、講習全体としてみるとほぼ満足していると受け止められる。特に24年度、25年度は「とても～やや満足」が4割を越えているので、講習内容等が充実してきていると考えられる。

しかし、「その他」は「すべてを信州大学以外」で受講したものと考えられるので考察しない。

「やや不満」「不満」について記述から考察

< 21年度 >

- ・必修講習については、「教師の力量を上げるものとは感じられなかった」「一般教養的のもの」との指摘はあるものの、選択講習については、「現場に生かされない」「子どもへの指導にあまり役に立たない」「専門的過ぎる」「内容が難しい」等の指摘が多いことから、選択講習の内容が、受講者の意識とかけ離れたものがあり、不満の要因になったものと推察される。
- ・その他については、「居住地に近い会場の講習をやむを得ず受講した」「講座数も少なくあまり興味の無いものが多かった」「大学の先生も何を教えたらいかが分からないといった感じがありました」等、開始当初の講師側の受け止めも反映しているように思われる。
- ・また、不満の背景として、「更新講習自体に疑問を感じています」等制度への批判もある。

< 22年度 >

- ・選択講習について、「すぐに役立つような内容でなかった」「子どもへの指導にあまり役に立たない」「日々の指導に生かせる内容だったと問われると疑問です」「専門的す

ぎて日々の授業に活かせるものではなかった」「居住地に近い会場の講習をやむを得ず受講した」等の指摘が多く、21年度と同様に「不満」の要因は同じである。

- ・その他、「受講したいと思う講座が少なかった」「教える側の教授の方々も少し困ったような感じが出ていた」等、21年度同様の要因も続いている。

< 23年度 >

- ・「教育の現場にすぐ使えるものが少なかった」「現場に生きる（求めている）内容とずれがあった」等の指摘は、必修についてであるのか、選択についてであるのか不明である。しかし、選択講習については、「開催講座の数・種類が少ない」「今後の教育に生かさない内容のため」「実際の仕事には生かしようがない」「雑学的な教養としては勉強になるが日常にはあまり活用できず」と、21年度及び22年度と同様の指摘があった反面、「選択講習は満足いくものもあった」「内容が教育とはちがうが、視野は広がったが、」等の指摘もあり、選択の内容について肯定的な受け止めが出てくるようになった。
- ・その他については、「日程が合わず教科外のものを受講したため」との悩みや「受講してから3年が経過したが、その講習の内容が今の自分の中に大して残っていないことを考えると、受講したことで免許が更新される事の意味、免許更新制度の意味自体に疑問を感じる」等制度についての指摘や、「受けたい講座は希望者が多く抽選にもれてしまった」「第1希望の講座を受講出来なかった」等、選択講座の抽選という方法や「パワーポイントでの講義。暗くてメモも取れないのに、試験はA3一枚のレポート」等、受講環境への指摘など、更に、「宿泊をした。お金もかかり大変だった」「平等に開催しないことで、交通費・駐車代・移動時に差がでる」等、経費や公平感に関する指摘もあるようになり、3年目を迎え、受講者の意識に変化が表われてきている。

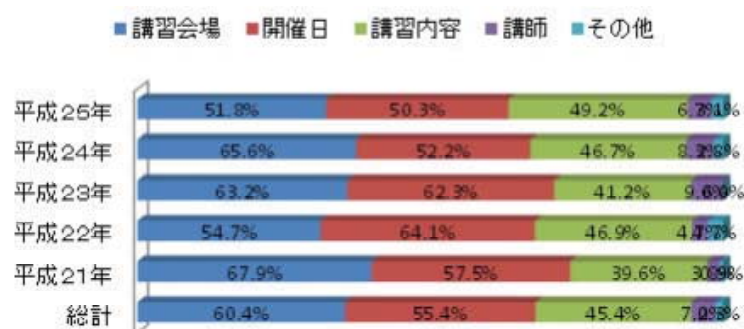
< 24年度 >

- ・選択講習について、「講習内容は専門的な内容を分かりやすく楽しく講義していたのが良かった」「大学数学を学ぶのはおもしろいが、やはり今現場で直接生かすことのできる講座が欲しい」等選択の内容について肯定的な受け止めが出てきている。反面「楽しみで出かけた選択講習が専門過ぎて分かりませんでした」との指摘もある。
- ・その他、「自分の教科や担任として役に立つと思い選択講習を選んだが全部落ちてしまい使わないだろうと思う講習を受けざるを得なかったため」「希望講座が受講出来ず二次募集で当たったところに仕方なく行った」「講座数が制限され、自分の専門分野に生かすことのできるものを受講できなかった」「希望講座が受講できない。抽選で決められるのではなく、せっかくの研修なので、希望の講座を受けられるようにしてほしい」等、抽選という方法についての不満が大きな要因となっている。また、「土、日ということ、その期間は部活もあり休養がとれないこと」等負担感に対する不満がある。
- ・内容に関する指摘と共に、自分の求めるものを受講したいという意識が強くなってきているものと受け止められる。

< 25年度 >

- ・必修講習について、「二日間の講座に一貫性がなく最後の振り返りをして自分の実践と結びつけていくような時間が一切無かった」との指摘がある。
- ・選択講習について、「現在の勤務にすぐ生かすことのできるものでは無かった」「分野によっては専門的すぎて理解が困難なものがあった」の指摘については、更新講習案内の説明を更に丁寧にする必要があると思われる。
- ・その他については、「希望したものを受講することができなかった」「内容どころか抽選で拾ってもらえませんでした」等、抽選という方法については前年と同様である。また、「講師の先生が専門的な言葉ばかり使っていてほとんど理解できませんでした。質問しても応えられない状態でした。その他の説明も不親切で困りました。他大学はもっと細かな配慮があり受講しやすかったです」「申し込みから受講までの煩雑さ」等に対する苦情がある。
- ・内容や講義方法に関する指摘と共に、受講したことを生かしたいという意識が強くなってきているものと受け止められる。

② 年度別信州大学を講習場所に選んだ理由（複数回答）



年度による違いはあるものの、「会場が近い」「開催日の都合が良い」が5割から6割である。長野県においてはこの二つの観点会場を選択する大きな観点である。23年度と25年度はほぼ拮抗、2

2年度と24年度は「会場の近さ」、22年度は「開催日の都合」が約10ポイント高い。理由は不明である。

上記二つの観点を重視しながら、「内容」（5割弱）も検討して選択している受講者の姿がうかがえる。内容への観点が年度を追うに従い上昇傾向にある。内容に関する講習案内の充実が更に求められている。

③ 受講後の様子（複数回答）

受講後の様子	総計	21年	22年	23年	24年	25年
意欲がわき新しい取り組みをしようとしている	35	5	3	3	15	9
講習で得た情報を周りの人に伝えている	1	0	0	1	0	0
教員として新たな取り組みをしている	56	7	4	14	19	11
その他	15	3	1	2	2	7
回答者総数	657	106	64	113	180	193

「新たな取り組みを始めた」（行動化）は15%前後で変化が少ない。これを高めるための内容や講習方法の工夫が更に求められるところである。

「意欲が高められた」と「情報を伝えた」は年度により逆の関係になっているのはなぜか。受講した選択講習の内容かも知れない。「その他」（1割強）については、記述から考察したい。

④ 来年度以降の充実のために
講習内容の充実（複数回答：三つ選択）

課題教育内容	総計		21年		22年		23年		24年		25年	
	人数	比	人数	比	人数	比	人数	比	人数	比	人数	比
幼児教育	142	21.6%	26	24.5%	16	25.0%	27	23.9%	36	20.0%	36	18.7%
教科指導	386	58.8%	64	60.4%	32	50.0%	64	56.6%	112	62.2%	113	58.5%
道德教育	549	83.6%	90	84.9%	56	87.5%	93	82.3%	144	80.0%	166	86.0%
特別活動	397	60.4%	72	67.9%	35	54.7%	71	62.8%	118	65.6%	100	51.8%
人権教育	364	55.4%	61	57.5%	41	64.1%	70	61.9%	94	52.2%	97	50.3%
生徒指導	298	45.4%	42	39.6%	30	46.9%	47	41.6%	84	46.7%	95	49.2%
福祉教育	46	7.0%	4	3.8%	3	4.7%	11	9.7%	15	8.3%	13	6.7%
安全教育	15	2.3%	1	0.9%	3	4.7%	0	0.0%	5	2.8%	6	3.1%
学校健康教育	205	31.2%	37	34.9%	14	21.9%	31	27.4%	52	28.9%	71	36.8%
国際教育	223	33.9%	32	30.2%	25	39.1%	50	44.2%	67	37.2%	49	25.4%
情報教育	102	15.5%	19	17.9%	9	14.1%	16	14.2%	29	16.1%	28	14.5%
環境教育	90	13.7%	17	16.0%	12	18.8%	19	16.8%	24	13.3%	18	9.3%
キャリア教育	22	3.3%	5	4.7%	4	6.3%	2	1.8%	6	3.3%	5	2.6%
特別支援教育	278	42.3%	42	39.6%	32	50.0%	53	46.9%	73	40.6%	78	40.4%
学校運営	93	14.2%	19	17.9%	8	12.5%	19	16.8%	27	15.0%	20	10.4%
学級経営	44	6.7%	11	10.4%	3	4.7%	8	7.1%	14	7.8%	8	4.1%
防災教育	83	12.6%	9	8.5%	7	10.9%	17	15.0%	28	15.6%	22	11.4%
いじめ防止	184	28.0%	35	33.0%	18	28.1%	33	29.2%	54	30.0%	43	22.3%
主権者教育	28	4.3%	1	0.9%	5	7.8%	5	4.4%	5	2.8%	12	6.2%
食育	22	3.3%	5	4.7%	2	3.1%	1	0.9%	6	3.3%	8	4.1%
その他	35	5.3%	6	5.7%	2	3.1%	5	4.4%	16	8.9%	6	3.1%
合計	657	100.0%	106	100%	64	100%	113	100%	180	100%	193	100%

充実内容について、どの年度も、

①教科指導 ②特別支援教育 ③生徒指導または学級経営 ④情報教育

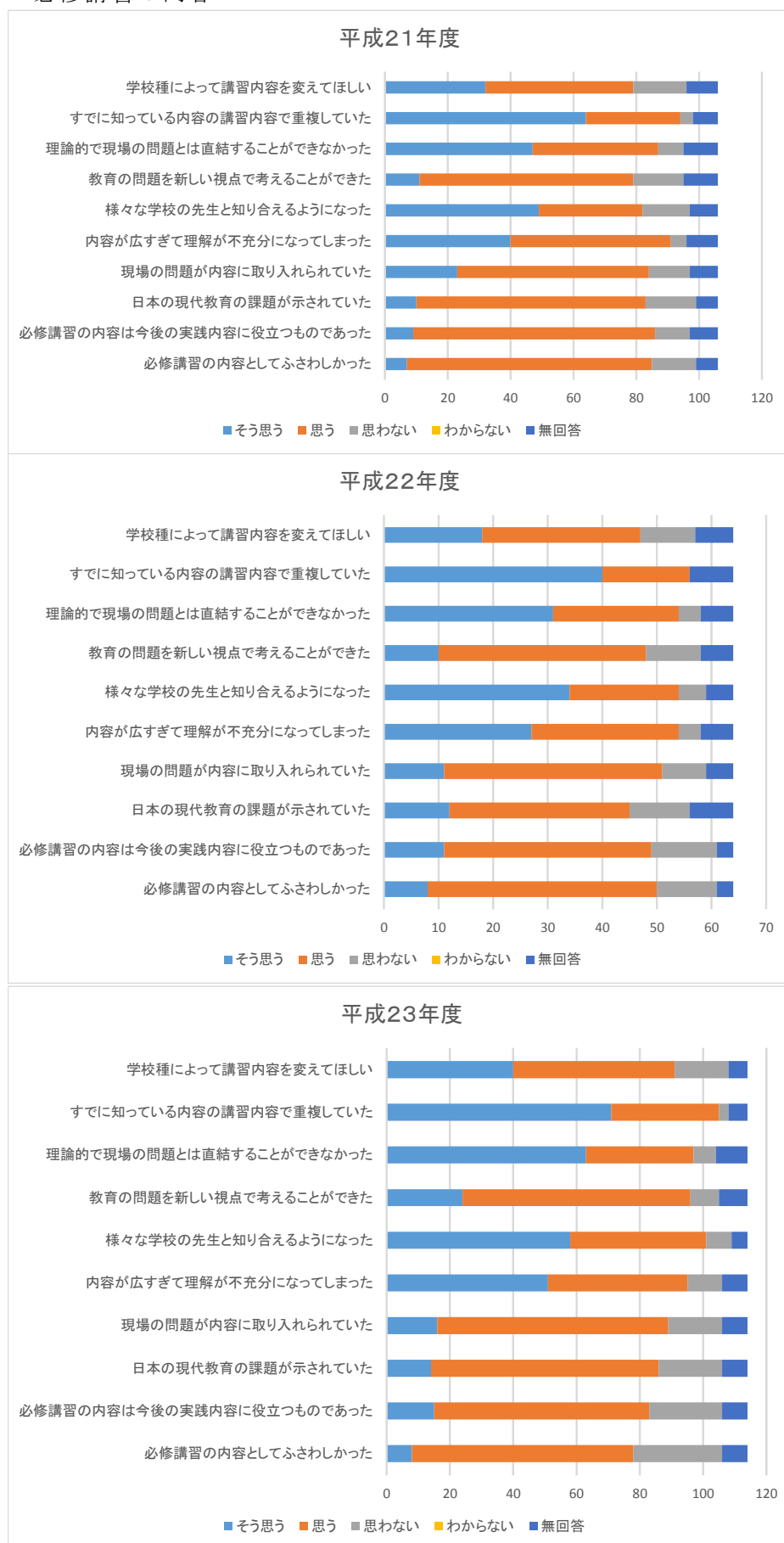
に希望が高く、続いて、キャリア教育、道德教育、人権教育、いじめ防止である。

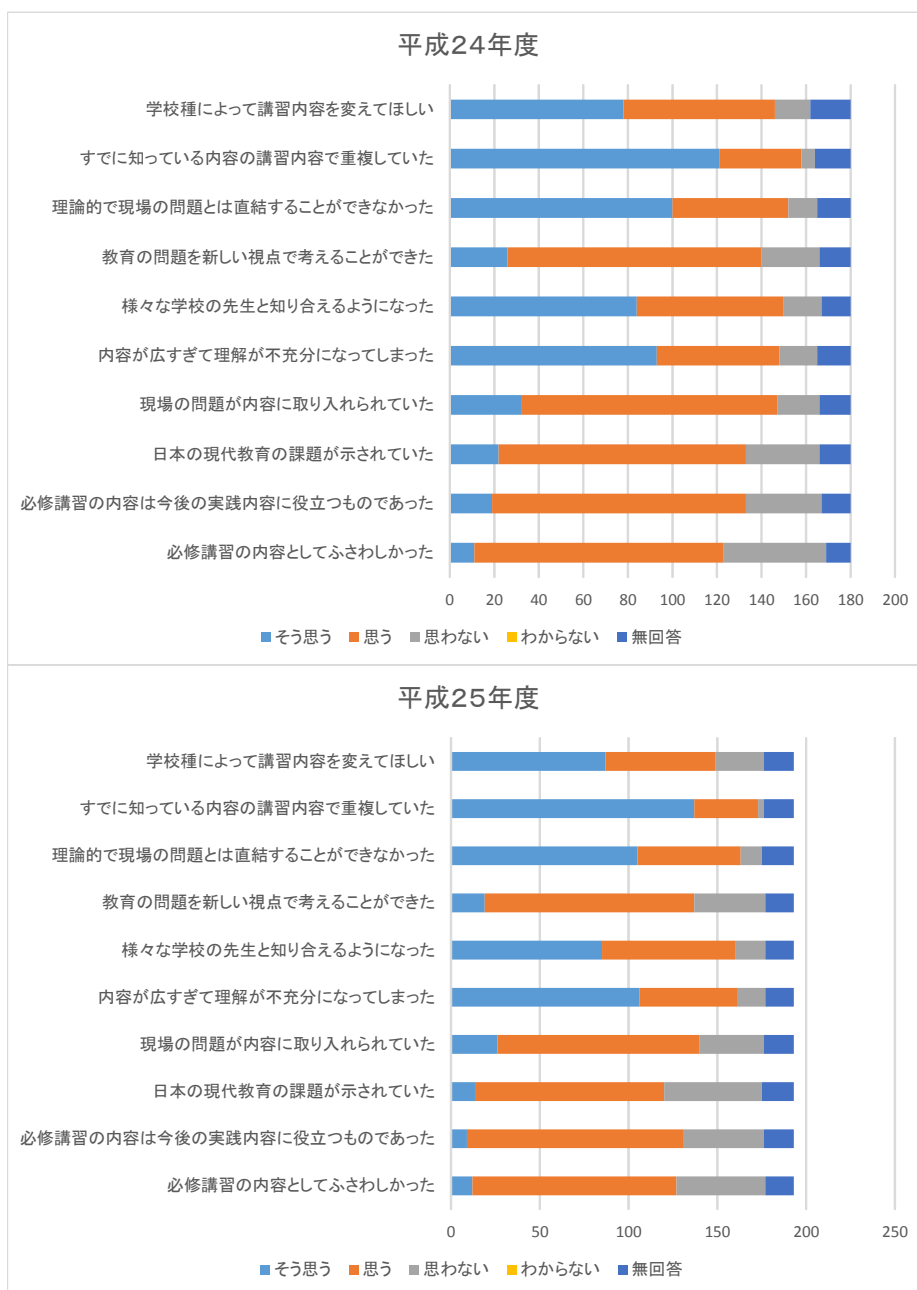
受講者側からすると日常指導に直結する内容への希望が高いが、キャリア教育、道德教育、人権教育、環境教育、学校運営、防災教育等については、日常指導を支える内容として、大学等講義する側が今後受講者の意識を高める必要がある。

問題点として、回答率が低下傾向が見られることである。主として必修の内容に関わると考えられるので重要である。要望しても内容が変わらないとするあきらめがあるのかも知れない。毎年度の講習終了時に行っている評価書（アンケート）を生かせる体制が必要である。

⑤ 免許更新のあり方

必修講習の内容





1) 必修の内容としてふさわしかった

	平成21年		平成22年		平成23年		平成24年		平成25年	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
そう思う	7	6.6%	8	12.5%	8	7.0%	11	6.1%	12	6.2%
思う	78	73.6%	42	65.6%	70	61.4%	112	62.2%	115	59.6%
思わない	14	13.2%	11	17.2%	28	24.6%	46	25.6%	50	25.9%
わからない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
無回答	7	6.6%	3	4.7%	8	7.0%	11	6.1%	16	8.3%
合計	106	100.0%	64	100.0%	114	100.0%	180	100.0%	193	100.0%

年度を追うに従い少しずつ評価が下がってきている。積極的評価（そう思う）は1割未満（22年度は1割以上）。当然「ふさわしいと思わない」は1割～2割と高くなる傾向

である。

講義時間の制約があるので、この評価を高めるためには、必修の内容を焦点化し、さらに、県の研修との棲み分けを検討する必要がある。

2) 今後の実践に役立つものであった

	平成21年		平成22年		平成23年		平成24年		平成25年	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
そう思う	9	8.5%	11	17.2%	15	13.2%	19	10.6%	9	4.7%
思う	77	72.6%	38	59.4%	68	59.6%	114	63.3%	122	63.2%
思わない	11	10.4%	12	18.8%	23	20.2%	34	18.9%	45	23.3%
わからない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
無回答	9	8.5%	3	4.7%	8	7.0%	13	7.2%	17	8.8%
合計	106	100.0%	64	100.0%	114	100.0%	180	100.0%	193	100.0%

年度を追うに従って「思う」が低くなっている。積極的な思う（そう思う）23年度～24年度に高い（1割強）。25年度は「役立つと思わなかった」割合が2割を越えている。講義内容が前年度までと大きく変わっていないとすれば、受講者の意識（教育に関わる社会情勢の変化）が影響しているようにも考えられる。

他の項目についても各年度の社会情勢の変化を確認しておく必要がある。

3) 今、考えなければならない日本の現代教育の課題が示されていた

	平成21年		平成22年		平成23年		平成24年		平成25年	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
そう思う	10	9.4%	12	18.8%	14	12.3%	22	12.2%	14	7.3%
思う	73	68.9%	33	51.6%	72	63.2%	111	61.7%	106	54.9%
思わない	16	15.1%	11	17.2%	20	17.5%	33	18.3%	55	28.5%
わからない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
無回答	7	6.6%	8	12.5%	8	7.0%	14	7.8%	18	9.3%
合計	106	100.0%	64	100.0%	114	100.0%	180	100.0%	193	100.0%

「思う」の範疇が7割台であるが、25年度は約10ポイント低い（62.2%）、また積極的評価（「そう思う」）が1割以下で、「示されていたと思わない」が他の年度より10ポイント高い。

設問の「今」と「日本の現代教育」に着目すると、講義がこの視点を明確にしていなかったのかもしれない。

4) 現場の問題が内容に取り入れられていた

	平成21年		平成22年		平成23年		平成24年		平成25年	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
そう思う	23	21.7%	11	17.2%	16	14.0%	32	17.8%	26	13.5%
思う	61	57.5%	40	62.5%	73	64.0%	115	63.9%	114	59.1%
思わない	13	12.3%	8	12.5%	17	14.9%	19	10.6%	36	18.7%
わからない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
無回答	9	8.5%	5	7.8%	8	7.0%	14	7.8%	17	8.8%
合計	106	100.0%	64	100.0%	114	100.0%	180	100.0%	193	100.0%

「取り入れられていたと思う」が約8割で、積極的評価（そう思う）が2割弱と合わせて考えると、必修においては、ほぼ現場の問題が取り入れられていたと判断できる。

5) 内容が広すぎて理解が不十分になってしまった

	平成21年		平成22年		平成23年		平成24年		平成25年	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
そう思う	40	37.7%	27	42.2%	51	44.7%	93	51.7%	106	54.9%
思う	51	48.1%	27	42.2%	44	38.6%	55	30.6%	55	28.5%
思わない	5	4.7%	4	6.3%	11	9.6%	17	9.4%	16	8.3%
わからない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
無回答	10	9.4%	6	9.4%	8	7.0%	15	8.3%	16	8.3%
合計	106	100.0%	64	100.0%	114	100.0%	180	100.0%	193	100.0%

どの年度も8割以上が理解不十分と感じている。また、積極的（「そう思う」）評価が年度を追うに従って高くなるので、講義内容が多方面にわたること講義時間の関係を再検討しなければならない。年度を追う毎に必修に対する受講者の目が厳しくなっているのかも知れない。（教育批判や次々と打ち出される教育施策の動向とも関係しているように思われる。）

（必修分野の内容を絞り込む視点で）講義が概括的かつ平板に説明的になされざるを得ない現状と受け止められる。

6) 様々な学校の先生方と知り合える機会となった

	平成21年		平成22年		平成23年		平成24年		平成25年	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
そう思う	49	46.2%	34	53.1%	58	50.9%	84	46.7%	85	44.0%
思う	33	31.1%	20	31.3%	43	37.7%	66	36.7%	75	38.9%
思わない	15	14.2%	5	7.8%	8	7.0%	17	9.4%	17	8.8%
わからない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
無回答	9	8.5%	5	7.8%	5	4.4%	13	7.2%	16	8.3%
合計	106	100.0%	64	100.0%	114	100.0%	180	100.0%	193	100.0%

触れあえる機会となったと受け止めている割合が約8割強であり、それなりに有意義な時間になったと考えられる。

講習にグループワーク等取り入れていることが、功を奏していると推測される。

7) 教育の問題を新しい視点で考えることができた

	平成21年		平成22年		平成23年		平成24年		平成25年	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
そう思う	11	10.4%	10	15.6%	24	21.1%	26	14.4%	19	9.8%
思う	68	64.2%	38	59.4%	72	63.2%	114	63.3%	118	61.1%
思わない	16	15.1%	10	15.6%	9	7.9%	26	14.4%	40	20.7%
わからない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
無回答	11	10.4%	6	9.4%	9	7.9%	14	7.8%	16	8.3%
合計	106	100.0%	64	100.0%	114	100.0%	180	100.0%	193	100.0%

「考えることができた」が7割を越えている。しかし、積極的受け止め（「そう思う」）が1割強なので充分とは言えない。

また、受講年度によるばらつきがあり、23年度はなぜ高いのか（「そう思う」「思う」で、84.3%と「思わない」7.9%）、一方25年度はなぜ低いのか（「そう思う」「思う」で、70.9%と「思わない」20.7%）、更新講習の大事な目的である講習内容であるだけに、講習内容を更に充実させるための課題として、とらえることが必要と思われる。

8) 理論的で現場の問題とは直結することができなかつた

	平成21年		平成22年		平成23年		平成24年		平成25年	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
そう思う	47	44.3%	31	48.4%	63	55.3%	100	55.6%	105	54.4%
思う	40	37.7%	23	35.9%	34	29.8%	52	28.9%	58	30.1%
思わない	8	7.5%	4	6.3%	7	6.1%	13	7.2%	12	6.2%
わからない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
無回答	11	10.4%	6	9.4%	10	8.8%	15	8.3%	18	9.3%
合計	106	100.0%	64	100.0%	114	100.0%	180	100.0%	193	100.0%

「現場の問題と直結できない」とする割合が8割半ば、特に23年度以後は「そう思

う」が5割を越えている。講習者と受講者の現場感覚の違いが現われている。講習担当の大学教員も受講者も、暗黙知を使って「はず」と「現状」の板挟みになっているとも推測される。

講義形態として、省察（振り返り）の時間の確保が必要と思われる。

9) すでに知っている内容の講習内容で、重複していた

	平成21年		平成22年		平成23年		平成24年		平成25年	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
そう思う	64	60.4%	40	62.5%	71	62.3%	121	67.2%	137	71.0%
思う	30	28.3%	16	25.0%	34	29.8%	37	20.6%	36	18.7%
思わない	4	3.8%	0	0.0%	3	2.6%	6	3.3%	3	1.6%
わからない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
無回答	8	7.5%	8	12.5%	6	5.3%	16	8.9%	17	8.8%
合計	106	100.0%	64	100.0%	114	100.0%	180	100.0%	193	100.0%

「知っている内容との重複」が8割強、「そう思う」が6割以上と、他の研修等で得ている内容であると感じている受講者の割合が非常に高い。

更新講習が「基本的な内容を」としていることからすると、必ずしも重複は趣旨と矛盾する内容ではないが、リニューアルとの関係からすると講習内容を再考し、レベルアップする必要がある。

10) 学校種によって講習内容を変えて欲しい

	平成21年		平成22年		平成23年		平成24年		平成25年	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
そう思う	32	30.2%	18	28.1%	40	35.1%	78	43.3%	87	45.1%
思う	47	44.3%	29	45.3%	51	44.7%	68	37.8%	62	32.1%
思わない	17	16.0%	10	15.6%	17	14.9%	16	8.9%	27	14.0%
わからない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
無回答	10	9.4%	7	10.9%	6	5.3%	18	10.0%	17	8.8%
合計	106	100.0%	64	100.0%	114	100.0%	180	100.0%	193	100.0%

どの年度も「変えて欲しい」とする割合が7割強、「そう思う」も23年度以後3割～4割と高くなっている。

全員が等しく受講すべき必修の内容と、学校種別により受講する必修と二立ての形態を工夫しなければならない。

必修講習の形式

1) 大学教員と現場の先生が共同で担当すると良い

	平成21年		平成22年		平成23年		平成24年		平成25年	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
そう思う	23	21.7%	16	25.0%	28	24.6%	58	32.2%	60	31.1%
思う	57	53.8%	30	46.9%	53	46.5%	75	41.7%	77	39.9%
思わない	17	16.0%	12	18.8%	25	21.9%	31	17.2%	36	18.7%
わからない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
無回答	9	8.5%	6	9.4%	8	7.0%	16	8.9%	20	10.4%
合計	106	100.0%	64	100.0%	114	100.0%	180	100.0%	193	100.0%

「大学と現場が共同が良い」と考える割合が7割、「そう思う」が24年度以後3割以上と高くなっている。「思わない」（大学教員の講義）が2割以下。24年度以後の状況から、前述の「理論的で現場の問題と直結しない」と合わせて考えると、必修においても共同（コラボレーション）の授業形態を工夫する必要がある。

2) 演習もあって勉強になった

	平成21年		平成22年		平成23年		平成24年		平成25年	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
そう思う	18	17.0%	13	20.3%	25	21.9%	23	12.8%	25	13.0%
思う	65	61.3%	35	54.7%	61	53.5%	99	55.0%	96	49.7%
思わない	13	12.3%	9	14.1%	19	16.7%	40	22.2%	53	27.5%
わからない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
無回答	10	9.4%	7	10.9%	9	7.9%	18	10.0%	19	9.8%
合計	106	100.0%	64	100.0%	114	100.0%	180	100.0%	193	100.0%

「勉強になった」が7割～6割。年度を追うに従い下がっている。また、「そう思う」は1割台である。一方、「演習が効果的でない」とする割合は1割台～2割台へと増加していることから、必ずしも「演習が効果的」ではないことがうかがえる。

むしろ、「自己の振り返り」（省察）の時間を確保することの方が、必要なのかも知れない。

3) 違った世代で話し合うチャンスがあればよい

	平成21年		平成22年		平成23年		平成24年		平成25年	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
そう思う	18	17.0%	11	17.2%	25	21.9%	41	22.8%	47	24.4%
思う	59	55.7%	41	64.1%	67	58.8%	98	54.4%	99	51.3%
思わない	19	17.9%	6	9.4%	13	11.4%	27	15.0%	31	16.1%
わからない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
無回答	10	9.4%	6	9.4%	9	7.9%	14	7.8%	16	8.3%
合計	106	100.0%	64	100.0%	114	100.0%	180	100.0%	193	100.0%

「違う世代で話し合うチャンス」を希望する割合が7割強～8割、「そう思う」が1割～2割と年度を追うに従い高くなっている。23年度以後この傾向が高くなる。

4) 各学校種の課題が共有できる場が欲しい

	平成21年		平成22年		平成23年		平成24年		平成25年	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
そう思う	14	13.2%	9	14.1%	11	9.6%	27	15.0%	31	16.1%
思う	68	64.2%	40	62.5%	73	64.0%	103	57.2%	117	60.6%
思わない	16	15.1%	8	12.5%	23	20.2%	36	20.0%	29	15.0%
わからない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
無回答	8	7.5%	7	10.9%	7	6.1%	14	7.8%	16	8.3%
合計	106	100.0%	64	100.0%	114	100.0%	180	100.0%	193	100.0%

設問が「学校種による課題の違いがある」との前提であるので、「課題共有の場が欲しい」とする割合は7割台、「そう思う」が1割強で、「思わない」が1割強である。

学校種による講座内容の要望を、今後確認していくことが、受講者の満足度を高めていくものとする。次年度から「必修」と「選択必修」に、校種別による必修選択講座を設けることで、この点はある程度解消できるものと考えられる。

5) グループディスカッションした結果は共有した方がよい

	平成21年		平成22年		平成23年		平成24年		平成25年	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
そう思う	22	20.8%	10	15.6%	21	18.4%	45	25.0%	44	22.8%
思う	66	62.3%	39	60.9%	69	60.5%	95	52.8%	107	55.4%
思わない	8	7.5%	8	12.5%	16	14.0%	23	12.8%	21	10.9%
わからない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
無回答	10	9.4%	7	10.9%	8	7.0%	17	9.4%	21	10.9%
合計	106	100.0%	64	100.0%	114	100.0%	180	100.0%	193	100.0%

必修において、どの程度「グループディスカッション」が取り入れられているか状況を把握できていないが、取り入れている場合は「共有した方がよい」が約7割強である。

講習の中での取り入れ方については、その後付けを確保する必要があると受け止めた。

6) 現場からの提案に大学教員がコメントするなどの内容がよい

	平成21年		平成22年		平成23年		平成24年		平成25年	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
そう思う	22	20.8%	20	31.3%	40	35.1%	47	26.1%	48	24.9%
思う	60	56.6%	31	48.4%	54	47.4%	96	53.3%	101	52.3%
思わない	14	13.2%	3	4.7%	11	9.6%	20	11.1%	25	13.0%
わからない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
無回答	10	9.4%	10	15.6%	9	7.9%	17	9.4%	19	9.8%
合計	106	100.0%	64	100.0%	114	100.0%	180	100.0%	193	100.0%

設問は「内容」について問うているが、結果をみると受講者は「形態について」回答しているのかも知れない。

「思う」が7割強、積極的に「そう思う」が2割～3割であるので、要望が高いと考えられる。

前述の「理論的で現場の問題と直結できない」「大学と現場の先生が共同で担当する」と合わせて考えると、必修であっても、現場が直面している問題（内容）受け止めての講義内容を希望しているものと思われる。

7) 様々な立場の方からの提言を聞き、討論する形が良い

	平成21年		平成22年		平成23年		平成24年		平成25年	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
そう思う	20	18.9%	13	20.3%	17	14.9%	40	22.2%	39	20.2%
思う	65	61.3%	37	57.8%	69	60.5%	107	59.4%	103	53.4%
思わない	12	11.3%	6	9.4%	19	16.7%	17	9.4%	29	15.0%
わからない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
無回答	9	8.5%	8	12.5%	9	7.9%	16	8.9%	22	11.4%
合計	106	100.0%	64	100.0%	114	100.0%	180	100.0%	193	100.0%

「討論形態」が良いが7割～8割弱、その内「そう思う」が約2割と高めである。

24年度と25年度では、10ポイントの違いがある。具体的な内容について確認してないので、理由は分らないが受講年度による受講者の意識に違いがあるものと考えられる。

「思わない」の原因が、「様々な立場の提言」にあるのか、「討論」にあるのかは不明である。

8) 県の認定した研修会の中から研修を選んで受講し、認定して欲しい

	平成21年		平成22年		平成23年		平成24年		平成25年	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
そう思う	7	6.6%	6	9.4%	8	7.0%	15	8.3%	28	14.5%
思う	46	43.4%	33	51.6%	54	47.4%	90	50.0%	91	47.2%
思わない	47	44.3%	22	34.4%	44	38.6%	57	31.7%	51	26.4%
わからない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
無回答	6	5.7%	3	4.7%	8	7.0%	18	10.0%	23	11.9%
合計	106	100.0%	64	100.0%	114	100.0%	180	100.0%	193	100.0%

「認定して欲しい」とする希望が5割～6割弱と低い。積極的に希望（「そう思う」）が1割以下である。また、希望しない（「思わない」）が約3割あり、年度を追うに従い低くなる傾向がある。県の研修と、更新講習は別のものであるという意識があるのかも知れない。

※ 必修講習の形式については、「必修の形式の多様化」と「必修内容への現場が直面している内容の取り入れ」を望んでいるものと思われる。

必修講習全体に関わる要望

1) 大学の講習が県で行う講習と重複している

	平成21年		平成22年		平成23年		平成24年		平成25年	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
そう思う	49	46.2%	27	42.2%	66	57.9%	109	60.6%	121	62.7%
思う	36	34.0%	22	34.4%	32	28.1%	36	20.0%	36	18.7%
思わない	5	4.7%	2	3.1%	1	0.9%	4	2.2%	9	4.7%
わからない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
無回答	16	15.1%	13	20.3%	15	13.2%	31	17.2%	27	14.0%
合計	106	100.0%	64	100.0%	114	100.0%	180	100.0%	193	100.0%

「重複している」との受け止めがほぼ8割、その内「そう思う」が5割以上であることや「思わない」が5%以下であることから、受講者には、更新講習と行政による研修は、どちらも教員にとっての研修では同じという意識があることもうかがわれる。

2) 自分の受けたい必修の内容が選択できると良い

	平成21年		平成22年		平成23年		平成24年		平成25年	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
そう思う	1	0.9%	3	4.7%	8	7.0%	14	7.8%	13	6.7%
思う	45	42.5%	25	39.1%	53	46.5%	84	46.7%	78	40.4%
思わない	53	50.0%	34	53.1%	49	43.0%	76	42.2%	85	44.0%
わからない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
無回答	7	6.6%	2	3.1%	4	3.5%	6	3.3%	17	8.8%
合計	106	100.0%	64	100.0%	114	100.0%	180	100.0%	193	100.0%

「選択できると良い」と「思わない」がほぼ半々である。必修は必修だから選択とは馴染まないとの考えであろうか。共通性や一律性との受け止めが感じられる。ここをどう意識改善していくか、必修と選択必修の具体で示すことが重要であろう。

3) グローバル社会の観点から今の学校に必要な話が聞きたい

	平成21年		平成22年		平成23年		平成24年		平成25年	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
そう思う	2	1.9%	1	1.6%	2	1.8%	9	5.0%	3	1.6%
思う	49	46.2%	29	45.3%	60	52.6%	98	54.4%	98	50.8%
思わない	47	44.3%	30	46.9%	48	42.1%	64	35.6%	75	38.9%
わからない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
無回答	8	7.5%	4	6.3%	4	3.5%	9	5.0%	17	8.8%
合計	106	100.0%	64	100.0%	114	100.0%	180	100.0%	193	100.0%

「思う」の範疇が5割弱、「思わない」が4割弱であり違いがない。ただ、年度を追うに従って「思う」が高くなる傾向がある。ただ、受講者にとって、「グローバル社会の観点」か「今の学校に必要な内容」かが、明確に意識されていないかもしれない。

4) 必修なのに日程によって違う内容ではおかしい

	平成21年		平成22年		平成23年		平成24年		平成25年	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
そう思う	36	34.0%	27	42.2%	47	41.2%	83	46.1%	74	38.3%
思う	43	40.6%	21	32.8%	38	33.3%	53	29.4%	64	33.2%
思わない	16	15.1%	10	15.6%	23	20.2%	27	15.0%	30	15.5%
わからない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
無回答	11	10.4%	6	9.4%	6	5.3%	17	9.4%	25	13.0%
合計	106	100.0%	64	100.0%	114	100.0%	180	100.0%	193	100.0%

「日程により違うのはおかしい」が7割強、「思わない」が1割強（23年度は2割）。必修は共通であるべきものとの意識が強いものと思われる。

5) 教育哲学的な話が基本にあるべきだ

	平成21年		平成22年		平成23年		平成24年		平成25年	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
そう思う	54	50.9%	35	54.7%	63	55.3%	100	55.6%	104	53.9%
思う	37	34.9%	22	34.4%	37	32.5%	55	30.6%	49	25.4%
思わない	4	3.8%	0	0.0%	5	4.4%	9	5.0%	15	7.8%
わからない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
無回答	11	10.4%	7	10.9%	9	7.9%	16	8.9%	25	13.0%
合計	106	100.0%	64	100.0%	114	100.0%	180	100.0%	193	100.0%

長野県の受講者の特徴かも知れないが、「基本にあるべき」が8割強、その内「そう思う」が5割以上であるので非常に高い。しかし、25年度は80%を割っている。また、無回答が68人（10.4%）いることは、注視しておかなければならない内容である。

6) 保護者からの苦情に対処できる演習講習が必要だ

	平成21年		平成22年		平成23年		平成24年		平成25年	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
そう思う	27	25.5%	18	28.1%	27	23.7%	45	25.0%	43	22.3%
思う	52	49.1%	33	51.6%	58	50.9%	89	49.4%	102	52.8%
思わない	20	18.9%	9	14.1%	22	19.3%	35	19.4%	30	15.5%
わからない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
無回答	7	6.6%	4	6.3%	7	6.1%	11	6.1%	18	9.3%
合計	106	100.0%	64	100.0%	114	100.0%	180	100.0%	193	100.0%

「必要だ」が7割強、その内「そう思う」が2割強である。ある程度要望が高いことがうかがえる。

なお、「思わない」が1割強ある。

「必修」の内容として「演習」の形態でどう受け止められているのか年度による違いはほとんどない。

7) 教員のメンタルヘルスについての話は必修だと思う

	平成21年		平成22年		平成23年		平成24年		平成25年	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
そう思う	19	17.9%	8	12.5%	20	17.5%	30	16.7%	33	17.1%
思う	54	50.9%	31	48.4%	62	54.4%	96	53.3%	102	52.8%
思わない	27	25.5%	19	29.7%	25	21.9%	39	21.7%	39	20.2%
わからない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
無回答	6	5.7%	6	9.4%	7	6.1%	15	8.3%	19	9.8%
合計	106	100.0%	64	100.0%	114	100.0%	180	100.0%	193	100.0%

「必修だ」とする割合は6割台、その内「そう思う」は2割以下である。また、「思わない」が2割台であることから、この要望はあまり高くない。行くとすれば選択必修の内容であろう。

8) いじめ、国際、発達等、今の教育課題と解決について知らせるべきだ

	平成21年		平成22年		平成23年		平成24年		平成25年	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
そう思う	4	3.8%	4	6.3%	3	2.6%	3	1.7%	13	6.7%
思う	57	53.8%	35	54.7%	60	52.6%	101	56.1%	106	54.9%
思わない	37	34.9%	22	34.4%	45	39.5%	66	36.7%	55	28.5%
わからない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
無回答	8	7.5%	3	4.7%	6	5.3%	10	5.6%	19	9.8%
合計	106	100.0%	64	100.0%	114	100.0%	180	100.0%	193	100.0%

設問では、「課題と解決」と二つの内容が問われている。「知らせるべき」が60%弱、その内「そう思う」が1割以下で、「思わない」が3割強であることからすると、あまり望んでいないと考えられる。

25年度「思わない」が約6ポイント下がっていることからすると、課題の指摘だけでなく、解決までを希望する傾向になりつつあると推測することもできる。

9) 今の必修講習は現場の指導や課題と直結していない

	平成21年		平成22年		平成23年		平成24年		平成25年	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
そう思う	53	50.0%	30	46.9%	52	45.6%	103	57.2%	106	54.9%
思う	35	33.0%	19	29.7%	47	41.2%	51	28.3%	48	24.9%
思わない	8	7.5%	9	14.1%	6	5.3%	10	5.6%	15	7.8%
わからない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
無回答	10	9.4%	6	9.4%	9	7.9%	16	8.9%	24	12.4%
合計	106	100.0%	64	100.0%	114	100.0%	180	100.0%	193	100.0%

「直結していない」とする割合が8割、その内「そう思う」が5割以上で、「思わない」が1割以下であるので、多くが直結していないと強く受け止めていると受け止めざるを得ない。22年が他年度と異なる傾向であるが、理由は分らない。

必修の内容が、基本的な事項を確認するという観点からすると、指導や課題と必ずしも直結する必要がないとの主張もうなづける。

前述の「理論的で現場の問題と直結できない」も同じ傾向であるが、「問題」と「指導や課題」の違いを受講者がどのように受け止めているのか定かでないが、これは必修の内容の問題であり、この設問は選択必修の内容を検討する問題であると思われる。

⑥ 信州大学の選択講習

○選択講習を選択した理由

	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年
専門分野を深められる内容	34.0%	37.5%	36.0%	35.0%	32.6%
教科指導等に直接生かせる内容	28.3%	25.0%	31.6%	23.9%	31.1%
興味関心がある内容	54.7%	64.1%	50.9%	61.7%	52.3%
開催日や会場を重視したから	34.9%	35.9%	36.0%	31.7%	23.8%
その他	1.9%	0.0%	2.6%	5.6%	1.0%

どの年度も選択理由の順番は、①「興味・関心」、②「専門」と「開催日・会場」、③「教科」である。

どの内容も、募集要項による「講習内容」が選択の重要な手がかりとなっていることがうかがえる。その意味で、案内に「知見を広げるための内容である」とか「教材研究や指導法等教科指導に関する内容である」とか「先端の学問分野である」等の記述をすることにより、受講目的をはっきり意識できる配慮が必要である。

(イ) 年代別との関係

① 信州大学を受講しての満足度

	30代		40代		50代	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
とても満足	18	12.7%	43	14.8%	38	17.0%
やや満足	39	27.5%	70	24.1%	58	26.0%
満足	53	37.3%	134	46.0%	77	34.5%
やや不満	16	11.3%	12	4.1%	8	3.6%
不満	1	0.7%	4	1.4%	5	2.2%
その他	15	10.6%	28	9.6%	37	16.6%

満足度は40代が30代、50代より6ポイント高いが、「とても満足」は年代が上がるに従って高くなる。

また、「とても満足～やや満足」では30代と50代がやや高めである。40代はまあまあこんなものかとの受け止めが多いのではないかと推察される。

一方、不満足度は30代が1割以上と、40代・50代に比べて7ポイントと高い。

大学時の講義内容とあまり変化していないことへの不満なのかも知れない。また、「その他」は「すべてを信州大学以外」で受講した人と考えられるので考察しない。

②「やや不満」「不満」の記述

< 30代 >

- 内容について…「理学部の講習を受講しましたが内容が専門的すぎて日々の授業に活かせるのもではなかった」「今後に役立つ内容があまりなかった。教員免許更新講習なのだから教員として役立てることが出来る内容が良い」「講習内容が一般的教養的なものであり教員の免許更新講習として疑問を感じる。目的に応じた講習になることを求めたい」「大学数学を学ぶのはおもしろいが、やはり、今現場で直接生かすことのできる講座が欲しい」「選択講習は満足いくものもあった」
- 方法等について…「二日間の講座に一貫性がなく最後の振り返りをして自分の実践と結びつけていくような時間が一切無かった」との指摘や、「受講したい講習は遠くでやっており、居住地に近い会場の講習をやむを得ず受講したため」「日程が合わず教科外のものを受講したため」「講座数が制限され、自分の専門分野に生かすことのできるものを受講できなかった」
- 制度について…「雑学的な教養としては勉強になるが日常にはあまり活用せず教職の更新に必要な疑問に思う。(制度も)」「受講してから3年が経過したが、その講習の内容が今の自分の中に大して残っていないことを考えるとそれを受講したことで免許が更新される事の意味、免許更新制度の意味自体に疑問を感じる」

※全体として、受講に対して前向きな受け止めや改善への意欲が感じられる。

< 40代 >

- 内容について…「必修講習では教師の力量を上げるものとは感じられなかったので」「大学でやったことをもう一度やることに」「仕事には全く生かしようがない内容である」「現場に生きる(求めている)内容とずれがあった」「日々の指導に生かせる内容だったと問われると疑問」「更新講習自体に疑問を感じています。受講したことが現場に活かされたと思わない。やるなら活かせる内容にして欲しい」「受講したいと思う講座が少なかった」「経済学部で受講したので「法と〇〇」のような内容で難しく授業等に生かせなかった」「楽しみで出かけた選択講習が専門過ぎて分かりませんでした」「繊維学部の講習内容は専門的な内容を分かりやすく楽しく講義していたのが良かったです」「分野によっては専門的すぎて理解が困難なものがあった」
- 方法等について…「南信地区での開催場所は開催講座の数・種類が少ない。平等に開催しないことで、交通費・駐車代・移動時に大きな差がでる。勤務にも影響します」「第1希望の講座を受講出来なかった」「講習代金がかかる」「土、日ということで、その期間は部活もあり休養がとれないこと」「希望講座を受講出来ず二次募集で当たったところに仕方なく行ったので」「内容どころか抽選で拾ってもらえませんでした」

※全体として、良さも感じつつ、問題点の指摘が多いように感じられる。

< 50代 >

- 内容について…「自分の職種の力を高めるような講座は多くが現場に必要な内容で良かった」(必修について)、「指導にあまり役立たない内容や専門的な内容過ぎるものもあった」「専門分野で興味を持てなかったものもあった」「あまり役に立つ内容ではなかった」「現場にすぐ使えるものが少なかった」「選択の内容が教育とはちがうものであったが視野は広がった」
- 方法等について…「宿泊でお金もかかり大変だった」「受けたい講座は希望者が多く抽選にもれてしまった」「選択できる講座が少ない」「自分の教科や指導に役に立つと思い選択講習を選んだが全部落ちてしまい使わないだろうと思う講習を受けざるを得なかったため」「選択講座が抽選で決められるのではなく、せつかくの研修なので、できるだけ希望の講座を受けられるようにしてほしい」「希望したものを受講することができなかった」「申し込みから受講までの煩雑さ」「暗くてメモも取れないのに、試験はA3一枚のレポート。受講環境を考えてほしい」「講師の先生が専門的な言葉ばかり使っていてほとんど理解できませんでした。質問しても応えられない状態でした。その他の説明も不親切で困りました。他大学はもっと細かな配慮があり受講しやすかった」

※全体的に、内容については、職務に直結する内容を期待している。抽選という方法についての不満が多い。また、講習会場や他大学との比較もある。

② 信州大学を受講場所を選んだ理由

	総計		30代		40代		50代	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
講習会場	397	60.4%	83	58.5%	173	59.5%	140	62.8%
開催日	364	55.4%	72	50.7%	170	58.4%	122	54.7%
講習内容	298	45.4%	55	38.7%	130	44.7%	113	50.7%
講師	46	7.0%	9	6.3%	23	7.9%	14	6.3%

①近い講習会場…約60% ②勤務等の都合による開催日…約55%

③講習内容…約45% の順番となっている。

会場については50代が若干高め、開催日については40代に高く出ている。学校における役割等からして講習日との期日を調整する姿が浮かぶ。主として選択講習に関わる講習内容と思われるが、年代が上がるに従って内容の観点が高くなることははっきり現われている。

③ 受講後の様子

	30代		40代		50代	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
意欲がわき新しい取り組みをしようとしている	51	35.9%	80	27.5%	74	33.2%
講習で得た情報を周りの人に伝えている	45	31.7%	115	39.5%	63	28.3%
教員として新たな取り組みをしている	20	14.1%	39	13.4%	43	19.3%
その他	16	11.3%	42	14.4%	31	13.9%
回答者数	142		291		233	

30代と50代は、意欲、情報、新たな取り組みの順であるが、40代は、情報、意欲、新たな取り組みの順である。

40代の学校における役割からすると、研究等で中心となつての活躍が期待されていることから、回答順も順当なものといえる。

50代の新たな取り組みは驚きであるし、大切にしたいところである。人に言うよりまず自分でという姿の表われだろか。

複数回答なので、精度の問題はあるが、無回答がどの項目についても半数以上いることから、今後、行動化につながる講習内容の工夫が必要である。

④ 来年度以降の充実のために

	30代	40代	50代
幼児教育	4.9%	4.1%	1.3%
教科指導	50.7%	42.6%	36.8%
道徳教育	20.4%	12.4%	12.6%
特別活動	8.5%	6.5%	5.8%
人権教育	9.9%	12.4%	14.8%
生徒指導	26.8%	31.6%	24.2%
福祉教育	3.5%	4.8%	4.0%
安全教育	2.1%	4.5%	2.7%
学校健康教育	2.8%	6.2%	5.8%
国際教育	4.2%	6.9%	9.9%
情報教育	21.1%	19.2%	23.8%
環境教育	4.9%	7.9%	10.8%
キャリア教育	16.9%	13.4%	13.9%
特別支援教育	30.3%	32.3%	39.5%
学校運営	4.9%	6.2%	1.8%
防災教育	4.9%	4.1%	5.8%
いじめ防止	7.0%	9.3%	13.0%
主権者教育	1.4%	0.7%	0.4%
食育	5.6%	7.9%	4.9%

要望の高い内容は、教科指導（42.3%）
 ・特別支援教育（34.4%）・生徒指導
 （28%）・学級経営（27.7%）・情報教育
 （21.2%）・キャリア教育（14.5%）
 ・道徳教育（14.2%）・人権教育（12.6%）
 ・いじめ防止（10.0%）の順である。
 教科指導、学級経営（幼児教育）は年
 代が上がるに従って割合が下がっていく。
 身につけた方策を生かしている表れや
 慣れと関係しているのかも知れない。
 特別支援教育（防災教育）は50代がや
 や高い。これまでとの違い「現場での新
 たな必要感」を感じているのかも知れな
 い。
 生徒指導（安全教育、学校運営、食育）
 は40代が高めである。学校内で直接の関
 わりが他の年代より多いのかも知れない。
 道徳教育（主権者教育）は30代にやや高
 く、40代・50代は程同じ割合である。
 受講年度における違いはあまりないの

で、指導上の困難を表しているのかも知れない。

人権教育、いじめ防止（国際教育、環境教育）は年代が上がるに従い高くなる傾向がある。現象の裏にあることへの洞察力の必要性と考えることもできるが、指導のしにくさを表しているとも考えることもできる。

学校保健教育は40代、50代が高めである。

⑤ 免許更新のあり方

1) 必修の内容としてふさわしかった

	総計		30代		40代		50代	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
そう思う	63	9.6%	16	11.3%	27	9.3%	20	9.0%
思う	419	63.8%	87	61.3%	188	64.6%	144	64.6%
思わない	125	19.0%	29	20.4%	53	18.2%	43	19.3%
無回答	50	7.6%	10	7.0%	23	7.9%	16	7.2%
合計	657	100.0%	142	100.0%	291	100.0%	223	100.0%

「ふさわしかった」とする割合がほぼ7割、その内「そう思う」が1割未満である。まあ、こんな内容かという受け止めなのかもしれない。また、年代が上がるに従って下がる傾向がある。当然、「思わない」は2割程度で年代が上がるに従って高くなる。無回答も含めると約3割に近い受講者が満足していないことになり、そのこと自体が大きな問題である。何をふさわしいと思わなかったのか、期待していた内容は何なのかについて、探る必要がある。

2) 今後の実践に役立つものであった

	総計		30代		40代		50代	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
そう思う	63	9.6%	16	11.3%	27	9.3%	20	9.0%
思う	419	63.8%	87	61.3%	188	64.6%	144	64.6%
思わない	125	19.0%	29	20.4%	53	18.2%	43	19.3%
無回答	50	7.6%	10	7.0%	23	7.9%	16	7.2%

「役立つものであった」が7割以上、その内、「そう思う」が約1割。年代による違いはほとんど無い。逆に「思わない」は約2割。基本的な内容が中心であるので、指導方法等直接的な内容を期待していたとすれば、講習者側と受講者の意識との違いは当然生じるものであると思われる。更に、実践への契機やきっかけとしてであることを伝える必要があるのかもしれない。

3) 今、考えなければならない日本の現代教育の課題が示されていた

	総計		30代		40代		50代	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
そう思う	72	11.0%	16	11.3%	29	10.0%	26	11.7%
思う	395	60.1%	85	59.9%	179	61.5%	131	58.7%
思わない	135	20.5%	30	21.1%	55	18.9%	50	22.4%
無回答	55	8.4%	11	7.7%	28	9.6%	16	7.2%
合計	657	100.0%	142	100.0%	291	100.0%	223	100.0%

「課題が示されていた」との受け止めが約7割、その内「そう思う」が約1割である。年代による違いはほとんど無いので、ほぼねらいは達成されていたと受け止められる。しかし、「思わない」が約2割ある、20代、30代に比べて50代がやや高い。

4) 現場の問題が内容に取り入れられていた

	総計		30代		40代		50代	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
そう思う	108	16.4%	25	17.6%	47	16.2%	35	15.7%
思う	403	61.3%	84	59.2%	181	62.2%	138	61.9%
思わない	93	14.2%	22	15.5%	37	12.7%	34	15.2%
無回答	53	8.1%	11	7.7%	26	8.9%	16	7.2%
合計	657	100.0%	142	100.0%	291	100.0%	223	100.0%

「取り入れられていた」が7割強、その内「そう思う」が1割半ば、年代による違いはほとんどない。「思わない」と無回答を合わせる。年代も2割程度は否定的にとらえているので、内容を再度検討することも必要である。

5) 内容が広すぎて理解が不十分になってしまった

	総計		30代		40代		50代	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
そう思う	317	48.2%	65	45.8%	143	49.1%	109	48.9%
思う	232	35.3%	54	38.0%	100	34.4%	78	35.0%
思わない	53	8.1%	12	8.5%	22	7.6%	19	8.5%
無回答	55	8.4%	11	7.7%	26	8.9%	17	7.6%
合計	657	100.0%	142	100.0%	291	100.0%	223	100.0%

「理解不十分」との受け止めが8割以上、その内「そう思う」が約5割で年代による違いは少ない。

今後、必修と選択必修等、更新講習全体の枠組みを再検討することも必要であろう。

6) 様々な学校の先生方と知り合える機会となった

	総計		30代		40代		50代	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
そう思う	310	47.2%	75	52.8%	138	47.4%	97	43.5%
思う	237	36.1%	40	28.2%	106	36.4%	90	40.4%
思わない	62	9.4%	17	12.0%	26	8.9%	19	8.5%
無回答	48	7.3%	10	7.0%	21	7.2%	17	7.6%
合計	657	100.0%	142	100.0%	291	100.0%	223	100.0%

「知り合える機会となった」が約8割、年代が上がるに従ってやや増加傾向がある。その内「そう思う」が5割近くであり、年代が上がるに従って低くなる傾向にある。

更新講習が学校種を超えて触れ合う機会となっていることに意味があると思われる。

7) 教育の問題を新しい視点で考えることができた

	総計		30代		40代		50代	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
そう思う	90	13.7%	19	13.4%	44	15.1%	27	12.1%
思う	410	62.4%	91	64.1%	176	60.5%	143	64.1%
思わない	101	15.4%	22	15.5%	41	14.1%	38	17.0%
無回答	56	8.5%	10	7.0%	30	10.3%	15	6.7%
合計	657	100.0%	142	100.0%	291	100.0%	223	100.0%

「新しい視点で考えることができた」とする割合はほぼ7割5分、その内「そう思う」が1割強で、40代がやや高めである。一応目標が達成されていると思われる。

8) 理論的で現場の問題とは直結することができなかった

	総計		30代		40代		50代	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
そう思う	346	52.7%	72	50.7%	155	53.3%	119	53.4%
思う	207	31.5%	44	31.0%	92	31.6%	71	31.8%
思わない	44	6.7%	15	10.6%	15	5.2%	14	6.3%
無回答	60	9.1%	11	7.7%	29	10.0%	19	8.5%
合計	657	100.0%	142	100.0%	291	100.0%	223	100.0%

「直結できなかった」とする割合が約8割強、その内「そう思う」が5割強で、いずれも年代が上がるに従って増加の傾向にあり、明日の授業にすぐ使えるものが研修という意識が強いと推測できる。

9) すでに知っている内容の講習内容で、重複していた

	総計		30代		40代		50代	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
そう思う	433	65.9%	86	60.6%	196	67.4%	150	67.3%
思う	153	23.3%	39	27.5%	63	21.6%	51	22.9%
思わない	16	2.4%	6	4.2%	6	2.1%	4	1.8%
無回答	55	8.4%	11	7.7%	26	8.9%	18	8.1%
合計	657	100.0%	142	100.0%	291	100.0%	223	100.0%

「重複している」と感じている割合が約9割、その内「そう思う」が6割強ある。更新講習、行政による研修、校内研修等の内容についての棲み分けを検討していく必要がある。

10) 学校種によって講習内容を変えて欲しい

	総計		30代		40代		50代	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
そう思う	255	38.8%	52	36.6%	108	37.1%	95	42.6%
思う	257	39.1%	58	40.8%	121	41.6%	77	34.5%
思わない	87	13.2%	21	14.8%	36	12.4%	30	13.5%
無回答	58	8.8%	11	7.7%	26	8.9%	21	9.4%
合計	657	100.0%	142	100.0%	291	100.0%	223	100.0%

「内容を変えてほしい」が7割5分、その内「そう思う」が約4割あるので、ある程度は希望していると考えられる。なお、年代による違いは少ない。

「そう思わない」が約1割強で、必修だから共通したものとの考え方かと思われる。

⑥ 必修講習の形式

1) 大学教員と現場の先生が共同で担当すると良い

	総計		30代		40代		50代	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
そう思う	185	28.2%	40	28.2%	80	27.5%	65	29.1%
思う	292	44.4%	63	44.4%	124	42.6%	104	46.6%
思わない	121	18.4%	29	20.4%	56	19.2%	36	16.1%
わからない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
無回答	59	9.0%	10	7.0%	31	10.7%	18	8.1%
合計	657	100.0%	142	100.0%	291	100.0%	223	100.0%

「共同で担当」が約7割、40代が7割7分とやや高い。その内「そう思う」が3割弱で、どの年代もほぼ同じである。一方、「思わない」が1割8分程で、年代が上がるに従い低くなっている。年代が上がるほど、共同で行うという意識は少なくなっている。

2) 演習もあって勉強になった

	総計		30代		40代		50代	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
そう思う	104	15.8%	24	16.9%	43	14.8%	37	16.6%
思う	356	54.2%	76	53.5%	151	51.9%	128	57.4%
思わない	134	20.4%	30	21.1%	67	23.0%	37	16.6%
わからない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
無回答	63	9.6%	12	8.5%	30	10.3%	21	9.4%
合計	657	100.0%	142	100.0%	291	100.0%	223	100.0%

「勉強になった」が7割強、その内「そう思う」が15%ほど。「思わない」が20代、30代がほぼ2割、50代は1割6分で差がある。50代は、演習という方法を肯定している傾向がうかがえる。

3) 違った世代で話し合うチャンスがあればよい

	総計		30代		40代		50代	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
そう思う	142	21.6%	28	19.7%	61	21.0%	53	23.8%
思う	364	55.4%	77	54.2%	165	56.7%	122	54.7%
思わない	96	14.6%	27	19.0%	38	13.1%	31	13.9%
わからない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
無回答	55	8.4%	10	7.0%	27	9.3%	17	7.6%
合計	657	100.0%	142	100.0%	291	100.0%	223	100.0%

「チャンスがあればよい」が7割5分ほど、その内「そう思う」が2割程度であるが、どちらも年代が上がるに従い高くなる。年代が上がるに従い、他の年代の意見も求めるようである。

4) 各学校種の課題が共有できる場が欲しい

	総計		30代		40代		50代	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
そう思う	92	14.0%	20	14.1%	37	12.7%	35	15.7%
思う	401	61.0%	80	56.3%	188	64.6%	132	59.2%
思わない	112	17.0%	32	22.5%	40	13.7%	40	17.9%
わからない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
無回答	52	7.9%	10	7.0%	26	8.9%	16	7.2%
合計	657	100.0%	142	100.0%	291	100.0%	223	100.0%

「共有の場」を求めている割合はほぼ7割5分、30代が低く、40代、50代が高くなっている。

「思わない」は30代で約2割になっている。学校種による「課題があること」を意識しながら、更新講習として「その共有を必要とするか否か」の形態上の問題ではなからうか。

学校種別の研修形態にすれば解決するのか、現在のように各校種が混ざっている中で、学校種の課題を取り上げることが意味があるのか、更に検討したい。

5) グループディスカッションした結果は共有した方がよい

	総計		30代		40代		50代	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
そう思う	142	21.6%	30	21.1%	61	21.0%	51	22.9%
思う	376	57.2%	83	58.5%	168	57.7%	125	56.1%
思わない	76	11.6%	20	14.1%	28	9.6%	28	12.6%
わからない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
無回答	63	9.6%	9	6.3%	34	11.7%	19	8.5%
合計	657	100.0%	142	100.0%	291	100.0%	223	100.0%

「結果を共有したほうが良い」が、約8割とどの年代も同じ傾向である。重要なことは、何のためにディスカッションという形態をとるかで、講座内容との関係を再考する必要がある。

6) 現場からの提案に大学教員がコメントするなどの内容がよい

	総計		30代		40代		50代	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
そう思う	177	26.9%	36	25.4%	80	27.5%	61	27.4%
思う	342	52.1%	78	54.9%	150	51.5%	114	51.1%
思わない	73	11.1%	16	11.3%	31	10.7%	26	11.7%
無回答	65	9.9%	12	8.5%	30	10.3%	22	9.9%
合計	657	100.0%	142	100.0%	291	100.0%	223	100.0%

「よい」とする意見が8割弱で、年代による差はほとんどない。「思わない」が約1割強で、前出「現場の問題が取り上げられていた」や前出「理論的で現場の問題と直結できない」等との関連で、現場の視点（悩み）を取り入れて欲しいとの希望であると考えられる。

7) 様々な立場の方からの提言を聞き、討論する形がよい

	総計		30代		40代		50代	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
そう思う	129	19.6%	28	19.7%	60	20.6%	41	18.4%
思う	381	58.0%	82	57.7%	170	58.4%	128	57.4%
思わない	83	12.6%	19	13.4%	30	10.3%	34	15.2%
わからない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
無回答	64	9.7%	13	9.2%	31	10.7%	20	9.0%
合計	657	100.0%	142	100.0%	291	100.0%	223	100.0%

「討論形式がよい」が約7割強、その内「そう思う」が2割弱、年代による差は少ない。「思わない」は1割強、40代がやや低めである。

8) 県の認定した研修会の中から研修を選んで受講し、認定して欲しい

	総計		30代		40代		50代	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
そう思う	64	9.7%	10	7.0%	25	8.6%	29	13.0%
思う	314	47.8%	69	48.6%	134	46.0%	110	49.3%
思わない	221	33.6%	53	37.3%	105	36.1%	63	28.3%
わからない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
無回答	58	8.8%	10	7.0%	27	9.3%	21	9.4%
合計	657	100.0%	142	100.0%	291	100.0%	223	100.0%

「認定して欲しい」とする割合が5割と意外に低い。その内「そう思う」は1割以下。両方とも50代がやや高い。「思わない」は約3割強で、年代が上がるに従い低くなっていく。

⑦ 必修講習全体に関わる要望

1) 大学の講習が県で行う講習と重複している

	総計		30代		40代		50代	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
そう思う	372	56.6%	73	51.4%	160	55.0%	139	62.3%
思う	162	24.7%	43	30.3%	78	26.8%	41	18.4%
思わない	21	3.2%	7	4.9%	11	3.8%	3	1.3%
わからない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
無回答	102	15.5%	19	13.4%	42	14.4%	40	17.9%
合計	657	100.0%	142	100.0%	291	100.0%	223	100.0%

「重複している」と感じている割合が8割以上で、その内「そう思う」が5割以上あるので重複感が非常に高い。トータルで見ると年代別での優位な差はないが、「そう思う」は年代が上がるに従って高くなり、「思う」は年代が上がるに従って低くなる。これは、年代が上がるほど、県の研修を多種類受けているためなのかもしれない。

2) 自分の受けたい必修の内容が選択できると良い

	総計		30代		40代		50代	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
そう思う	39	5.9%	6	4.2%	14	4.8%	19	8.5%
思う	285	43.4%	52	36.6%	121	41.6%	111	49.8%
思わない	297	45.2%	77	54.2%	140	48.1%	80	35.9%
わからない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
無回答	36	5.5%	7	4.9%	16	5.5%	13	5.8%
合計	657	100.0%	142	100.0%	291	100.0%	223	100.0%

「選択できると良い」がトータルで4割～5割、「思わない」が同じく4割～5割であるので、必修の選択の希望は半々であることがうかがえる。必修というものは共通であるべきであるという考えがあるのかもしれない。

なお、30代・40代と50代と差が大きいのは、初任者研修、や十年経験者研修の受講の有無が関係しているのかもしれない。

3) グローバル社会の観点から今の学校に必要な話が聞きたい

	総計		30代		40代		50代	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
そう思う	17	2.6%	2	1.4%	7	2.4%	8	3.6%
思う	334	50.8%	64	45.1%	147	50.5%	123	55.2%
思わない	264	40.2%	66	46.5%	119	40.9%	79	35.4%
わからない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
無回答	42	6.4%	10	7.0%	18	6.2%	13	5.8%
合計	657	100.0%	142	100.0%	291	100.0%	223	100.0%

「必要な話を聞きたい」の割合がトータルで4割～5割、「思わない」が3割～4割となっているので、聞きたいとする希望ややあるという傾向である。上記と同様年代が上がるに従って希望が高くなり、「思わない」が年代上がるに従って低くなる。やはり、初任者研修、や十年経験者研修の受講の有無が関係しているように思われる。

今後、「グローバル社会」という観点を講習の中で明示する努力は必要であると共に、年代別の講習を検討する必要があるように思われる。

4) 必修なのに日程によって違う内容ではおかしい

	総計		30代		40代		50代	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
そう思う	267	40.6%	48	33.8%	122	41.9%	97	43.5%
思う	219	33.3%	58	40.8%	91	31.3%	70	31.4%
思わない	106	16.1%	27	19.0%	47	16.2%	32	14.3%
わからない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
無回答	65	9.9%	9	6.3%	31	10.7%	24	10.8%
合計	657	100.0%	142	100.0%	291	100.0%	223	100.0%

「おかしい」の割合が7割強、その内約4割が「そう思う」である。「思わない」が2割以下であるので、必修は日程が変わっても同じ内容であるべきとする考え方が強い。年代が上がるに従って高くなる傾向がみられるが、30代と40代・50代に受けとめの違いがみられる。

5) 教育哲学的な話が基本にあるべきだ

	総計		30代		40代		50代	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
そう思う	356	54.2%	87	61.3%	153	52.6%	116	52.0%
思う	200	30.4%	37	26.1%	90	30.9%	73	32.7%
思わない	33	5.0%	6	4.2%	15	5.2%	12	5.4%
わからない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
無回答	68	10.4%	12	8.5%	33	11.3%	22	9.9%
合計	657	100.0%	142	100.0%	291	100.0%	223	100.0%

「あるべきだ」がトータルで8割以上であり、その内「そう思う」が5割強で、年代を問わず教育哲学的な話を強く求めていることがうかがえる。「そう思う」の30代が6割を超えている。40代・50代は5割代であるのでかなりの差がみられる。この要望がどこから、発せられているのかも含めて、今後探っていく必要がある。

6) 保護者からの苦情に対処できる演習講習が必要だ

	総計		30代		40代		50代	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
そう思う	160	24.4%	39	27.5%	70	24.1%	51	22.9%
思う	334	50.8%	63	44.4%	153	52.6%	117	52.5%
思わない	116	17.7%	32	22.5%	47	16.2%	37	16.6%
わからない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
無回答	47	7.2%	8	5.6%	21	7.2%	18	8.1%
合計	657	100.0%	142	100.0%	291	100.0%	223	100.0%

「苦情」の対応について、どの年代も7割以上の要望がある。演習という形態を問うているが講習内容としてで触れる必要があるということだろう。

7) 教員のメンタルヘルスについての話は必修だと思う

	総計		30代		40代		50代	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
そう思う	110	16.7%	29	20.4%	47	16.2%	34	15.2%
思う	345	52.5%	64	45.1%	155	53.3%	125	56.1%
思わない	149	22.7%	42	29.6%	61	21.0%	46	20.6%
わからない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
無回答	53	8.1%	7	4.9%	28	9.6%	18	8.1%
合計	657	100.0%	142	100.0%	291	100.0%	223	100.0%

「必修の内容」として受け止めている割合は6割から7割である。その内「そう思う」は2割以下であることや、「思わない」が2割であることを考えるとあまり強くは受け止めていないということだろう。選択必修の内容として考えることかもしれない。30代は意識がやや低めである。

8) いじめ、国際、発達等、今の教育課題と解決について知らせるべきだ

	総計		30代		40代		50代	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
そう思う	27	4.1%	5	3.5%	13	4.5%	9	4.0%
思う	359	54.6%	79	55.6%	156	53.6%	124	55.6%
思わない	225	34.2%	51	35.9%	100	34.4%	74	33.2%
わからない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
無回答	46	7.0%	7	4.9%	22	7.6%	16	7.2%
合計	657	100.0%	142	100.0%	291	100.0%	223	100.0%

「知らせるべき」の割合は全体で6割弱で、その内「そう思う」は1割以下、「思わない」が3割代であることを考えると、希望はあまり高くない。年代による違いも少ない。

9) 今の必修講習は現場の指導や課題と直結していない

	総計		30代		40代		50代	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
そう思う	344	52.4%	68	47.9%	150	51.5%	126	56.5%
思う	200	30.4%	50	35.2%	88	30.2%	62	27.8%
思わない	48	7.3%	16	11.3%	23	7.9%	9	4.0%
わからない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
無回答	65	9.9%	8	5.6%	30	10.3%	26	11.7%
合計	657	100.0%	142	100.0%	291	100.0%	223	100.0%

「直結していない」との受け止めが全体で8割以上、その内「そう思う」が5割強と高い。また、「思わない」が1割以下であるので、多くの受講者が「直結していない」と感じているということである。

「思う」の割合は、年代が上がるに従って高くなる傾向がみられる。これは、職務の経験年数によるものなのかもしれない。ただ、「直結」の意味を確認する必要もあるが、講習内容そのものの検討が必要である。

⑧ 選択講習を選択した理由

	総計		30代		40代		50代	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
専門分野を深められる内容	227	34.6%	44	31.0%	110	37.8%	73	32.7%
教科指導等に直接生かせる内容	185	28.2%	42	29.6%	91	31.3%	52	23.3%
興味関心がある内容	369	56.2%	61	43.0%	161	55.3%	146	65.5%
開催日や会場を重視したから	204	31.1%	52	36.6%	85	29.2%	66	29.6%
合計	657		142		291		223	

「興味・関心」はどの年代もトップであるが、年代が上がるに従い高くなる。第2番以後は、30代は第2番に「開催日・期日」、第3番の「専門」と「教科指導」はほぼ同じ割合、40代は、第2番に「専門」、第3番の「教科指導」、「開催日・会場」はほぼ割合、50代は、第2番に「専門」と「開催日・期日」がほぼ同じ割合で、第3番に「教科指導」となっている。

講座の募集案内の「一般教養を深める」「専門分野を深める」「教科指導に資する」等の記載が選択講習を選択するときの重要な手がかりとなるので、今後、一層ていねいな案内の工夫が必要であろう。

(ウ) 勤務校別との関係

信州大学を受講しての満足度

	総計		小学校		中学校		特別支援学校		その他	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
とても満足	99	15.1%	61	15.8%	35	14.2%	2	11.8%	1	12.5%
やや満足	167	25.4%	104	26.9%	58	23.6%	3	17.6%	2	25.0%
満足	264	40.2%	147	38.1%	105	42.7%	11	64.7%	1	12.5%
やや不満	36	5.5%	24	6.2%	9	3.7%	1	5.9%	2	25.0%
不満	11	1.7%	9	2.3%	2	0.8%	0	0.0%	0	0.0%
その他	80	12.2%	41	10.6%	37	15.0%	0	0.0%	2	25.0%
回答者数	657		386		246		17		8	

小学校、中学校ともに、「満足」が8割以上で満足度は高い。積極的満足（「とても満足」・「やや満足」）と消極的満足（「満足」）の割合が、小学校と中学校で逆転していることからすると、小学校の方が満足の度合いが高いと思われる。にもかかわらず、小学校の不満度は中学校より高い。

<参考> 特別支援学校は、特別支援教育の内容に直接講習内容が触れられているので「満足」が6割以上であるが、もっと詳しく触れて欲しいということだろうと思われる。その他は「満足度」が5割と極端に低くなっている。また、「不満」25%と非常に高い。その時点で直接教職に携わっていない受講者への内容をどうするか課題である。

「やや不満」「不満」の記述

<小学校>

○内容について

- ・必修については「教師の力量を上げるものとは感じられなかった」「自分の職種の力を高めるような講座は多くが現場に必要な内容で受講して良かった」との指摘がある。
- ・選択については、「実際の仕事には全く生かしようがない内容である」「子どもへの指導にあまり役立たない内容もあった」「教育の現場にすぐ使えるものが少なかった」「現場に生きる（求めている）内容とずれがあった」への要望として「やるなら活かせる内容にして欲しい」「教員免許更新講習なのだから教員として役立てることが出来る内容が良い」「教養としては勉強になるが職の更新に必要な疑問に思う」が上げられている。
- ・「難しく授業等に生かせなかった」。「専門的な内容過ぎるものもあった」「内容が専門的すぎて日々の授業に活かせるものではなかった」「楽しみで出かけた選択講習が専門過ぎて分かりませんでした」「分野によっては専門的すぎて理解が困難なものがあった」という内容の程度への戸惑いが見られる。一方「内容が教育とはちがうものであったが、視野は広がった」「選択講習は満足いくものもあった」との受け止めもある。
- ・また、講師の講義に関わって「専門的な内容を分かりやすく楽しく講義していたのが良かったです」「講師の先生が専門的な言葉ばかり使っていてほとんど理解できませんでした」との指摘がある。

○方法等について

「受けたい講座は希望者が多く抽選にもれてしまった」「第1希望の講座を受講出来なかった」「抽選で拾ってもらえませんでした」「自分の教科や指導に役に立つと思えば選択講習を選んだが全部落ちてしまい使わないだろうと思う講習を受けざるを得なかった」の不满に対して、「抽選で決められるのではなく、せつかくの研修なので、できるだけ希望の講座を受けられるようにしてほしい」との切実な要望がある。

また、「受講したい講習は遠くでやっており、居住地に近い会場の講習をやむを得ず受講した」等の実情もある。

○その他について

「申し込みから受講までの煩雑さ」「宿泊をした。お金もかかり大変だった」「講習代金がかかるから」「日程が合わなかったため」「他大学はもっと細かな配慮があり受講しやすかったです」との苦情もある。

○制度について

「受講してから3年が経過したが、講習の内容が今の自分の中に大して残っていないことを考えると免許が更新される事の意味、免許更新制度の意味自体に疑問を感じる」との指摘がある。

全体の中で、選択講習における講義内容のレベルの問題がある。校種別研修の検討が必要である。

< 中学校 >

○内容について

- ・必修については、「大学でやったことをもう一度やることに」「講習内容が一般的教養的なものであり教員の免許更新講習として疑問を感じる」という指摘がある。それに対して「目的に応じた講習になることを求めたい」「二日間の講座に一貫性がなく最後の振り返りをして自分の実践と結びつけていくような時間が一切無かった」との改善の要望がある。
- ・選択については、「実際になかなかすぐに役立つような内容でなかった」「日程が合わず教科外のものを受講したため」との指摘がある。

○方法等について

- ・「講座数が制限され、自分の専門分野に生かすことのできるものを受講できなかった」「希望講座が受講出来ず二次募集で当たったところに仕方なく行ったので」との指摘がある。

○その他について

- ・「パワーポイントでの講義。暗くてメモも取れないのに、試験はA3一枚のレポート。受講環境を考えてほしい」との指摘や、「南信地区での講座の数・種類が少ない、平等に開催しないことで、交通費・駐車代・移動時に大きな差がでる。勤務にも影響します」「土、日ということで、その期間は部活もあり休養がとれない」との訴えがある。
- 選択講座の内容のレベルについての不満は出されていないことが小学校との大きな違いである。

< 特別支援学校 >

○内容について

- ・選択について、「日々の指導に生かせる内容だったと問われると疑問です」がある。

○その他では、「後々使うことの無かった書籍をテキストとして購入しなければならなかった」との苦情がある。

< その他 >

特に記述はない。

信州大学を講習場所を選んだ理由（複数回答）

	総計		小学校		中学校		特別支援学校		その他	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
講習会場	397	60.4%	249	64.5%	132	53.7%	13	76.5%	3	37.5%
開催日	364	55.4%	225	58.3%	124	50.4%	10	58.8%	5	62.5%
講習内容	298	45.4%	188	48.7%	98	39.8%	7	41.2%	5	62.5%
講師	46	7.0%	26	6.7%	18	7.3%	2	11.8%	0	0.0%
その他	15	2.3%	4	1.0%	10	4.1%	1	5.9%	0	0.0%
合計	657	100.0%	386	100.0%	246	100.0%	17	100.0%	8	100.0%

小学校、中学校・特別支援学校ともに、「会場が近い」「開催日の都合がよい」「内容に興味をもった」「講師」の順である。小学校と特別支援学校においては、それぞれ有意な差がある。中学校においては「会場」と「開催日」ほぼ同じである。「講師」については専門性と関係している傾向がある。

小学校の割合に比べて中学校の割合が低い。複数選択であるが、絞って回答したのかも知れない。

受講後の様子

	総計		小学校		中学校		特別支援学校		その他	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
意欲がわき新しい取り組みをしようとしている	205	31.2%	128	33.2%	70	28.5%	6	35.3%	1	12.5%
講習で得た情報を周りの人に伝えている	223	33.9%	129	33.4%	87	35.4%	5	29.4%	2	25.0%
教員として新たな取り組みをしている	102	15.5%	51	13.2%	45	18.3%	4	23.5%	2	25.0%
その他	90	13.7%	54	14.0%	30	12.2%	3	17.6%	3	37.5%
合計	657	100.0%	386	100.0%	246	100.0%	17	100.0%	8	100.0%

小学校は3割が「意欲」と「情報」次いで1割強が「その他」と「新たな取り組み」、中学校は3割以上が「情報」次いで2割強が「意欲」3番に1割代で「新たな取り組み」「その他」である。

共通していることは「新たな取り組み」が低い傾向にあることである。今後、この割合を高める工夫が必要であるが必修の中でどのように可能になるか、むしろ選択必修や選択の内容になるのかもしれない。

<参考>特別支援学校とその他は「新たな取り組み」が、やや高い傾向がある。特別支援教育の場合、必修でも方法的な内容が含まれているのだろうと思われる。

来年度以降の充実のために

	総計		小学校		中学校		特別支援学校		その他	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
幼児教育	22	3.3%	18	4.7%	1	0.4%	2	11.8%	1	12.5%
教科指導	278	42.3%	162	42.0%	107	43.5%	6	35.3%	3	37.5%
道徳教育	93	14.2%	49	12.7%	41	16.7%	3	17.6%	0	0.0%
特別活動	44	6.7%	29	7.5%	13	5.3%	1	5.9%	1	12.5%
人権教育	83	12.6%	45	11.7%	35	14.2%	1	5.9%	2	25.0%
生徒指導	184	28.0%	94	24.4%	84	34.1%	4	23.5%	2	25.0%
福祉教育	28	4.3%	19	4.9%	6	2.4%	3	17.6%	0	0.0%
安全教育	22	3.3%	17	4.4%	5	2.0%	0	0.0%	0	0.0%
学校健康教育	35	5.3%	24	6.2%	10	4.1%	1	5.9%	0	0.0%
国際教育	48	7.3%	30	7.8%	16	6.5%	0	0.0%	2	25.0%
情報教育	139	21.2%	78	20.2%	55	22.4%	5	29.4%	1	12.5%
環境教育	54	8.2%	34	8.8%	16	6.5%	2	11.8%	2	25.0%
キャリア教育	95	14.5%	48	12.4%	45	18.3%	2	11.8%	0	0.0%
特別支援教育	226	34.4%	154	39.9%	55	22.4%	13	76.5%	4	50.0%
学校運営	29	4.4%	8	2.1%	19	7.7%	2	11.8%	0	0.0%
学級経営	182	27.7%	124	32.1%	55	22.4%	1	5.9%	2	25.0%
防災教育	32	4.9%	20	5.2%	12	4.9%	0	0.0%	0	0.0%
いじめ防止	66	10.0%	37	9.6%	28	11.4%	1	5.9%	0	0.0%
主権者教育	5	0.8%	3	0.8%	2	0.8%	0	0.0%	0	0.0%
食育	42	6.4%	32	8.3%	8	3.3%	1	5.9%	1	12.5%
その他	14	2.1%	8	2.1%	5	2.0%	1	5.9%	0	0.0%
合計	657		386		246		17		8	

各校種の希望順位についてみると、小学校は①教科指導・特別支援、②学級経営、③生徒指導・情報教育で、中学校は①教科指導、②生徒指導、③情報教育・特別支援・学級経営で、特別支援学校は①特別支援、②教科指導、③情報教育、④道徳教育・福祉教育、その他は①特別支援、②教科指導、③人権教育・国際教育・環境教育・学級経営である。

次に、小学校と中学校とを比較してみると、小学校が中学校より希望が高い項目は、幼児教育・福祉教育・特別支援教育・学級経営・食育で、中学校が小学校より希望が高い項目は、生徒指導・キャリア教育・学校経営である。

小学校と中学校がほぼ同じ割合の項目は、教科指導・道徳教育・特別活動・人権教育・安全教育・健康教育・国際教育・情報教育・環境教育・いじめ防止・主権者教育である。

特別支援学校の小学校・中学校より希望が高い項目は、特別支援教育・幼児教育・福祉教育・情報教育・学校経営で、その他は、幼児教育・人権教育・国際教育・環境教育・特別支援教育・食育である。

希望内容は、それぞれの学校種が置かれている状況が反映されていると読み取ることができ、その違いを意識して選択必修や選択講座の内容を検討していくことが重要であろう。

免許更新のあり方

1) 必修の内容としてふさわしかった

	総計		小学校		中学校		特別支援学校		その他	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
そう思う	46	7.0%	22	5.7%	22	8.9%	1	5.9%	1	12.5%
思う	417	63.5%	256	66.3%	146	59.3%	9	52.9%	6	75.0%
わからない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
無回答	45	6.8%	23	6.0%	19	7.7%	3	17.6%	0	0.0%
合計	657	100.0%	386	100.0%	246	100.0%	17	100.0%	8	100.0%

「ふさわしい」の受け止めが全体で約7割、で、その内「そう思う」が1割未満、「思わない」が2割以上であるので、ある程度ふさわしいとしていると受け止められる。

「ふさわしいと思う」の全体数は小学校、中学校、特別支援学校とやや下がる傾向がみられる。また、その他が約9割と高いが理由は不明である。

2) 今後の実践に役立つものであった

	総計		小学校		中学校		特別支援学校		その他	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
そう思う	63	9.6%	29	7.5%	29	11.8%	4	23.5%	1	12.5%
思う	419	63.8%	253	65.5%	151	61.4%	9	52.9%	6	75.0%
思わない	125	19.0%	75	19.4%	46	18.7%	3	17.6%	1	12.5%
無回答	50	7.6%	29	7.5%	20	8.1%	1	5.9%	0	0.0%
合計	657	100.0%	386	100.0%	246	100.0%	17	100.0%	8	100.0%

「役立つ」との受け止めが、全体で7割以上、「思わない」が2割以下であるので、ほぼ役立つと受け止めていると思われる。学校種による違いはほとんどない。その他の役立つとの受け止めが約9割と高いが、理由は不明である。

3) 今、考えなければならない日本の現代教育の課題が示されていた

	総計		小学校		中学校		特別支援学校		その他	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
そう思う	72	11.0%	37	9.6%	31	12.6%	4	23.5%	0	0.0%
思う	395	60.1%	235	60.9%	147	59.8%	8	47.1%	5	62.5%
思わない	135	20.5%	81	21.0%	48	19.5%	4	23.5%	2	25.0%
無回答	55	8.4%	33	8.5%	20	8.1%	1	5.9%	1	12.5%
合計	657	100.0%	386	100.0%	246	100.0%	17	100.0%	8	100.0%

「示されていた」との受け止めが全体で7割、「そう思う」が約1割、「思わない」が約2割ということから、ある程度「示されている」と受け止められる。特別支援学校は「そう思う」が2割以上、「思わない」も2割以上と、受け止めが分かれており、特別支援教育にかかわる内容の程度による違いが表れているものと思われる。

4) 現場の問題が内容に取り入れられていた

	総計		小学校		中学校		特別支援学校		その他	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
そう思う	108	16.4%	56	14.5%	49	19.9%	2	11.8%	1	12.5%
思う	403	61.3%	242	62.7%	142	57.7%	12	70.6%	7	87.5%
思わない	93	14.2%	57	14.8%	35	14.2%	1	5.9%	0	0.0%
無回答	53	8.1%	31	8.0%	20	8.1%	2	11.8%	0	0.0%
合計	657	100.0%	386	100.0%	246	100.0%	17	100.0%	8	100.0%

「取り入れられていた」が7割強～8割、「思わない」が約1割ということから、おおむね取り入れられていたと受け止めている。

小学校、中学校の差はみられないが、特別支援学校においては、「そう思う」「思うの」合計でみる肯定的評価の割合が変わらないが、「そう思う」が小・中学校より低いので、内容が特別支援学校で扱う範囲であるかという程度の問題であろうと推測される。

5) 内容が広すぎて理解が不充分になってしまった

	総計		小学校		中学校		特別支援学校		その他	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
そう思う	317	48.2%	185	47.9%	122	49.6%	8	47.1%	2	25.0%
思う	232	35.3%	133	34.5%	88	35.8%	6	35.3%	5	62.5%
思わない	53	8.1%	37	9.6%	15	6.1%	1	5.9%	0	0.0%
無回答	55	8.4%	31	8.0%	21	8.5%	2	11.8%	1	12.5%
合計	657	100.0%	386	100.0%	246	100.0%	17	100.0%	8	100.0%

「理解が不充分になった」が全体で8割以上、「そう思う」が約5割、「思わない」が1割以下であるので、理解が不十分になったと非常に強く感じている。学校種による違いは、ほとんどみられない。

6) 様々な学校の先生方と知り合える機会となった

	総計		小学校		中学校		特別支援学校		その他	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
そう思う	310	47.2%	172	44.6%	124	50.4%	10	58.8%	4	50.0%
思う	237	36.1%	152	39.4%	80	32.5%	4	23.5%	1	12.5%
思わない	62	9.4%	39	10.1%	21	8.5%	0	0.0%	2	25.0%
無回答	48	7.3%	23	6.0%	21	8.5%	3	17.6%	1	12.5%
合計	657	100.0%	386	100.0%	246	100.0%	17	100.0%	8	100.0%

「機会となった」が全体で8割以上、その内「そう思う」が約5割なので、多くの受講者が触れ合いを実感したものと思われる。

内容によって、様々な学校種の受講者が一緒に受講できる場と、学校種によって分かれて受講する場の二つが想定できるが、受講者同士が触れ合える講習形態を工夫するこ

とは重要である。無回答がどの校種でいることから、その深層を探ることも別の意味で重要と考える。

7) 教育の問題を新しい視点で考えることができた

	総計		小学校		中学校		特別支援学校		その他	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
そう思う	90	13.7%	50	13.0%	37	15.0%	2	11.8%	1	12.5%
思う	410	62.4%	247	64.0%	148	60.2%	10	58.8%	5	62.5%
思わない	101	15.4%	58	15.0%	40	16.3%	2	11.8%	1	12.5%
無回答	56	8.5%	31	8.0%	21	8.5%	3	17.6%	1	12.5%
合計	657		386		246		17		8	

「考えることができた」がトータルで7割以上、その内「そう思う」が1割以上、「思わない」も1割以上であるので、ほぼ新しい視点で考えることができたと受け止めている。

小学校、中学校、特別支援学校と満足度がやや下がる傾向にある。学校種による違いの理由は不明である。

8) 理論的で現場の問題とは直結することができなかった

	総計		小学校		中学校		特別支援学校		その他	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
そう思う	346	52.7%	207	53.6%	129	52.4%	6	35.3%	4	50.0%
思う	207	31.5%	120	31.1%	76	30.9%	7	41.2%	4	50.0%
思わない	44	6.7%	26	6.7%	17	6.9%	1	5.9%	0	0.0%
わからない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
無回答	60	9.1%	33	8.5%	24	9.8%	3	17.6%	0	0.0%
合計	657		386		246		17		8	

小学校中学校においては「直結できなかった」とする割合が8割以上で、その内「そう思う」が5割以上であるので、受講者の多数が「直結できなかった」と受け止めている。必修の性格上当然起こりうることである。受講者の期待する内容と、更新講習の目的の内容との違いであろう。

特別支援学校で「そう思う」が35.3%と低く出ているのは、特別支援教育の内容が取り上げられていたからだと考えられる。

9) すでに知っている内容の講習内容で、重複していた

	総計		小学校		中学校		特別支援学校		その他	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
そう思う	433	65.9%	259	67.1%	160	65.0%	10	58.8%	4	50.0%
思う	153	23.3%	89	23.1%	58	23.6%	3	17.6%	3	37.5%
思わない	16	2.4%	10	2.6%	6	2.4%	0	0.0%	0	0.0%
わからない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
無回答	55	8.4%	28	7.3%	22	8.9%	4	23.5%	1	12.5%
合計	657		386		246		17		8	

「思わない」が3%以下であるので、ほとんどの受講者が「重複している」と感じる。重複への感じ方の割合が小学校、中学校、特別支援学校と下がる傾向がある。理由は不明である。ただ、重複を改善というよりは、知っているとする内容をきちんと説明することが、更新講習の目的からして大事であろうと思う。

10) 学校種によって講習内容を変えて欲しい

	総計		小学校		中学校		特別支援学校		その他	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
そう思う	255	38.8%	158	40.9%	88	35.8%	7	41.2%	2	25.0%
思う	257	39.1%	153	39.6%	95	38.6%	4	23.5%	5	62.5%
思わない	87	13.2%	44	11.4%	40	16.3%	3	17.6%	0	0.0%
わからない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
無回答	58	8.8%	31	8.0%	23	9.3%	3	17.6%	1	12.5%
合計	657		386		246		17		8	

「学校種により内容を変えて欲しい」とする希望はある程度高いと受け止められる。小学校（80.5%）、中学校（74.4%）、特別支援学校（64.7%）と変えてほしいとする割合が下がっていく。通常、学校種の専門性が高くなることを考えると、逆であってもよいはずである。

必修講習の形式

1) 大学教員と現場の先生が共同で担当すると良い

	総計		小学校		中学校		特別支援学校		その他	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
そう思う	185	28.2%	107	27.7%	73	29.7%	4	23.5%	1	12.5%
思う	292	44.4%	169	43.8%	113	45.9%	5	29.4%	5	62.5%
思わない	121	18.4%	75	19.4%	41	16.7%	5	29.4%	0	0.0%
無回答	59	9.0%	35	9.1%	19	7.7%	3	17.6%	2	25.0%
合計	657	100.0%	386	100.0%	246	100.0%	17	100.0%	8	100.0%

小学校、中学校は「共同での担当形式」を希望する割合が、7割以上と高い。それに対して、特別支援学校は「共同での担当形式」を希望する割合が5割代で、「思わないが」約3割ある。「現場の問題が取り入れられていた」（8割以上）との関連を考えると、特別支援学校においては、特別支援教育の内容が相当取り入れられているので、現場の先生との共同というよりは、理論的な内容を求めているのかもしれない。

2) 演習もあって勉強になった

	総計		小学校		中学校		特別支援学校		その他	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
そう思う	104	15.8%	56	14.5%	45	18.3%	2	11.8%	1	12.5%
思う	356	54.2%	209	54.1%	138	56.1%	6	35.3%	3	37.5%
思わない	134	20.4%	83	21.5%	43	17.5%	6	35.3%	2	25.0%
無回答	63	9.6%	38	9.8%	20	8.1%	3	17.6%	2	25.0%
合計	657	100.0%	386	100.0%	246	100.0%	17	100.0%	8	100.0%

必修における「演習」という形式を良しとする受け止めについて、中学校7割、小学校6割強、特別支援学校4割強と校種によって差がみられる。実際の演習内容は不明であるが、具体を通しての学びが望まれている。必修あるいは学校種別研修を検討する際参考にしたい。

3) 違った世代で話し合うチャンスがあればよい

	総計		小学校		中学校		特別支援学校		その他	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
そう思う	142	21.6%	77	19.9%	61	24.8%	3	17.6%	1	12.5%
思う	364	55.4%	219	56.7%	129	52.4%	11	64.7%	5	62.5%
思わない	96	14.6%	56	14.5%	39	15.9%	1	5.9%	0	0.0%
わからない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
無回答	55	8.4%	34	8.8%	17	6.9%	2	11.8%	2	25.0%
合計	657	100.0%	386	100.0%	246	100.0%	17	100.0%	8	100.0%

「違う世代との話し合い」については7割強以上が、希望している。これを具体化するには、現行の必修の中で、各世代が含まれたグループ討議の場を設定する、校種別研修で各世代が含まれたグループ討議の場を設定する等が考えられる。今後世代別研修の内容を検討する際の参考にしたい。

4) 各学校種の課題が共有できる場が欲しい

	総計		小学校		中学校		特別支援学校		その他	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
そう思う	92	14.0%	45	11.7%	45	18.3%	2	11.8%	0	0.0%
思う	401	61.0%	246	63.7%	137	55.7%	10	58.8%	8	100.0%
思わない	112	17.0%	64	16.6%	45	18.3%	3	17.6%	0	0.0%
無回答	52	7.9%	31	8.0%	19	7.7%	2	11.8%	0	0.0%
合計	657	100.0%	386	100.0%	246	100.0%	17	100.0%	8	100.0%

全体のほぼ7割が、共有の場を希望しているが、前出の「学校種によって講習内容変えて欲しい」という希望と合わせて考えると、「各学校種の課題」について具体的に扱うことが必要であろう。

5) グループディスカッションした結果は共有した方がよい

	総計		小学校		中学校		特別支援学校		その他	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
そう思う	142	21.6%	79	20.5%	58	23.6%	3	17.6%	2	25.0%
思う	376	57.2%	221	57.3%	139	56.5%	11	64.7%	5	62.5%
思わない	76	11.6%	46	11.9%	30	12.2%	0	0.0%	0	0.0%
無回答	63	9.6%	40	10.4%	19	7.7%	3	17.6%	1	12.5%
合計	657	100.0%	386	100.0%	246	100.0%	17	100.0%	8	100.0%

「共有希望」が、全体の約8割で、学校種による違いは少ない。グループディスカッションという形態を取り入れた場合は、その結果について、報告をすることは当然であるように、他の形態を取り入れた場合同様であり、やりっぱなしにならないようにすることが重要である。

6) 現場からの提案に大学教員がコメントするなどの内容がよい

	総計		小学校		中学校		特別支援学校		その他	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
そう思う	177	26.9%	105	27.2%	66	26.8%	6	35.3%	0	0.0%
思う	342	52.1%	199	51.6%	129	52.4%	8	47.1%	6	75.0%
思わない	73	11.1%	42	10.9%	31	12.6%	0	0.0%	0	0.0%
無回答	65	9.9%	40	10.4%	20	8.1%	3	17.6%	2	25.0%
合計	657	100.0%	386	100.0%	246	100.0%	17	100.0%	8	100.0%

全体でみると約8割が希望していると同時に、学校種による違いは少ない。日々の実践に対しての客観的な評価を欲していると考えられる。

7) 様々な立場の方からの提言を聞き、討論する形が良い

	総計		小学校		中学校		特別支援学校		その他	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
そう思う	129	19.6%	71	18.4%	54	22.0%	3	17.6%	1	12.5%
思う	381	58.0%	227	58.8%	139	56.5%	10	58.8%	5	62.5%
思わない	83	12.6%	47	12.2%	35	14.2%	1	5.9%	0	0.0%
無回答	64	9.7%	41	10.6%	18	7.3%	3	17.6%	2	25.0%
合計	657	100.0%	386	100.0%	246	100.0%	17	100.0%	8	100.0%

全体的に7割強が希望しており、前出の大学教員からのコメントを求めているのと同様、他者による評価や単に理論を聞くのではなく具体を通して研修をしないと理解しづらいという意識が反映されているものと考えられる。更新講習で扱う内容量や時間を考えると、具現化するにはかなりの検討を要するが、講習を有意義なものにする観点からは大切な視点といえる。

8) 県の認定した研修会の中から研修を選んで受講し、認定して欲しい

	総計		小学校		中学校		特別支援学校		その他	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
そう思う	64	9.7%	31	8.0%	32	13.0%	1	5.9%	0	0.0%
思う	314	47.8%	184	47.7%	114	46.3%	12	70.6%	4	50.0%
思わない	221	33.6%	138	35.8%	77	31.3%	3	17.6%	3	37.5%
無回答	58	8.8%	33	8.5%	23	9.3%	1	5.9%	1	12.5%
合計	657	100.0%	386	100.0%	246	100.0%	17	100.0%	8	100.0%

小学校、中学校は「そう思う」「思う」を合わせて6割弱で、「思わない」が3割以上ということから、ほぼ半々と受け止められる。免許更新講習と県の研修とは違うという意識か、どちらも対して変わらないという意識なのか今回のアンケートからは判断しかねるが、受講料については批判的な考えが強いことをかんがみると、研修と講習をある程度分けて考えているのかも知れない。

一方、特別支援学校においては、「認定希望」7割強ある。特別支援にかかわる内容は重複する場合が多く、主催者や会場は問わずということなのかも知れない。

更新講習と県の研修等と何が、どう違うのかを再検討し、棲み分けをするのか、制度的に統合していくのかさらに検討が必要である。

必修講習全体に関わる要望

1) 大学の講習が県で行う講習と重複している

	総計		小学校		中学校		特別支援学校		その他	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
そう思う	372	56.6%	206	53.4%	153	62.2%	11	64.7%	2	25.0%
思う	162	24.7%	103	26.7%	53	21.5%	3	17.6%	3	37.5%
思わない	21	3.2%	13	3.4%	7	2.8%	0	0.0%	1	12.5%
無回答	102	15.5%	64	16.6%	33	13.4%	3	17.6%	2	25.0%
合計	657	100.0%	386	100.0%	246	100.0%	17	100.0%	8	100.0%

「重複している」は全体で8割以上で、その内「そう思う」が約6割で、学校種による違いはほとんど無く、多くの受講者が重複していると感じている。その他が低いのは県の研修の機会が少ないためだろうと思われる。

しかし、前出の「県の研修を認定して欲しい」が5割強であることと合わせて考えると、更新講習といわゆる研修とは違うものであるとの認識なのか、研修での内容に満足できていないのか再度検討する必要もある。

2) 自分の受けた必修の内容が選択できると良い

	総計		小学校		中学校		特別支援学校		その他	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
そう思う	39	5.9%	23	6.0%	16	6.5%	0	0.0%	0	0.0%
思う	285	43.4%	174	45.1%	105	42.7%	3	17.6%	3	37.5%
思わない	297	45.2%	170	44.0%	111	45.1%	12	70.6%	4	50.0%
無回答	36	5.5%	19	4.9%	14	5.7%	2	11.8%	1	12.5%
合計	657	100.0%	386	100.0%	246	100.0%	17	100.0%	8	100.0%

「選択できると良い」が全体で5割、その内「そう思う」が1割以下、「思わない」が4割強で、小学校と中学校においてはほぼ半々である。特別支援学校は「思わない」が7割以上、特別支援教育に関する内容は全員が共通に受講すべきであると考えているのかもしれない。

全体として考えると、必修は共通であるべきとの考えが根底にあるものと思われる。

3) グローバル社会の観点から今の学校に必要な話が聞きたい

	総計		小学校		中学校		特別支援学校		その他	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
そう思う	17	2.6%	7	1.8%	9	3.7%	1	5.9%	0	0.0%
思う	334	50.8%	198	51.3%	126	51.2%	5	29.4%	5	62.5%
思わない	264	40.2%	158	40.9%	95	38.6%	8	47.1%	3	37.5%
無回答	42	6.4%	23	6.0%	16	6.5%	3	17.6%	0	0.0%
合計	657	100.0%	386	100.0%	246	100.0%	17	100.0%	8	100.0%

「思う」が全体で5割強、「思わない」が約4割で、小学校と中学校においてはほぼ半々である。その他は約6割で、現在教職に就いていない受講者は広い観点で教育を受け止めているのかも知れない。特別支援学校は「思わない」が約5割で、小・中学校よりは若干否定的であるが、今回のアンケートからは理由は推測できない。

4) 必修なのに日程によって違う内容ではおかしい

	総計		小学校		中学校		特別支援学校		その他	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
そう思う	267	40.6%	155	40.2%	107	43.5%	4	23.5%	1	12.5%
思う	219	33.3%	131	33.9%	78	31.7%	6	35.3%	4	50.0%
思わない	106	16.1%	63	16.3%	38	15.4%	4	23.5%	1	12.5%
無回答	65	9.9%	37	9.6%	23	9.3%	3	17.6%	2	25.0%
合計	657	100.0%	386	100.0%	246	100.0%	17	100.0%	8	100.0%

「そう思う」「思う」を合わせると、小学校と中学校ともに7割以上、特別支援学校は、6割弱になり、多くがおかしいと受け止めている。担当講師の専門性もあるが、内容の統一も検討すべきである。

5) 教育哲学的な話が基本にあるべきだ

	総計		小学校		中学校		特別支援学校		その他	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
そう思う	356	54.2%	203	52.6%	144	58.5%	9	52.9%	0	0.0%
思う	200	30.4%	123	31.9%	67	27.2%	5	29.4%	5	62.5%
思わない	33	5.0%	20	5.2%	12	4.9%	0	0.0%	1	12.5%
無回答	68	10.4%	40	10.4%	23	9.3%	3	17.6%	2	25.0%
合計	657	100.0%	386	100.0%	246	100.0%	17	100.0%	8	100.0%

学校種によらず、「基本にあるべき」が、8割以上で、その内「そう思う」が5割以上ある。「思わない」は5%以下であるので、多くの受講者がそう考えている。ただ、その他は6割と低く、「思わない」が1割ある。現職との違いが表われている。

6) 保護者からの苦情に対処できる演習講習が必要だ

	総計		小学校		中学校		特別支援学校		その他	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
そう思う	160	24.4%	93	24.1%	61	24.8%	6	35.3%	0	0.0%
思う	334	50.8%	198	51.3%	120	48.8%	9	52.9%	7	87.5%
思わない	116	17.7%	67	17.4%	48	19.5%	1	5.9%	0	0.0%
無回答	47	7.2%	28	7.3%	17	6.9%	1	5.9%	1	12.5%
合計	657	100.0%	386	100.0%	246	100.0%	17	100.0%	8	100.0%

「必要だ」とする希望が小学校、中学校で7割以上、特別支援学校、その他では8割以上である。一人一人のニーズを大切にするという主張の中での苦悩や、報道等における影響が反映しているのかもしれない。理論というより、具体的事例と対処の基本や方法を希望しているものと受け止められる。

7) 教員のメンタルヘルスについての話は必修だと思う

	総計		小学校		中学校		特別支援学校		その他	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
そう思う	110	16.7%	64	16.6%	43	17.5%	3	17.6%	0	0.0%
思う	345	52.5%	209	54.1%	123	50.0%	9	52.9%	4	50.0%
思わない	149	22.7%	83	21.5%	61	24.8%	3	17.6%	2	25.0%
無回答	53	8.1%	30	7.8%	19	7.7%	2	11.8%	2	25.0%
合計	657	100.0%	386	100.0%	246	100.0%	17	100.0%	8	100.0%

「思う」がどの学校種もほぼ5割、「そう思う」と合わせると約7割で、あった方がよいのだろうという内容として受け止められる。内容的には校種による違いが想定できるので、選択必修の内容として検討すべきである。

8) いじめ、国際、発達等、今の教育課題と解決について知らせるべきだ

	総計		小学校		中学校		特別支援学校		その他	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
そう思う	27	4.1%	14	3.6%	10	4.1%	3	17.6%	0	0.0%
思う	359	54.6%	215	55.7%	131	53.3%	9	52.9%	4	50.0%
思わない	225	34.2%	129	33.4%	89	36.2%	4	23.5%	3	37.5%
無回答	46	7.0%	28	7.3%	16	6.5%	1	5.9%	1	12.5%
合計	657	100.0%	386	100.0%	246	100.0%	17	100.0%	8	100.0%

「知らせるべき」は小学校、中学校、その他は約5割強、特別支援学校は7割で、「今の教育課題」をどの観点でとらえたかによる違いがあるようである。それぞれの観点を丁寧に扱えば内容が多岐にわたり無理があるし、概要解説にすると深まりが無い。

必修、選択必修いずれ手扱うにしても、ないよう構成で工夫しなければならない事項といえる。

9) 今の必修講習は現場の指導や課題と直結していない

	総計		小学校		中学校		特別支援学校		その他	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
そう思う	344	52.4%	209	54.1%	126	51.2%	7	41.2%	2	25.0%
思う	200	30.4%	113	29.3%	81	32.9%	4	23.5%	2	25.0%
思わない	48	7.3%	27	7.0%	15	6.1%	5	29.4%	1	12.5%
無回答	65	9.9%	37	9.6%	24	9.8%	1	5.9%	3	37.5%
合計	657	100.0%	386	100.0%	246	100.0%	17	100.0%	8	100.0%

「直結していない」が小学校、中学校で8割以上、その内「そう思う」が5割以上で、多くの受講者がそう感じている。特別支援学校は「そう思う」「思う」を合わせると6割強、特に「思わない」が約3割が特徴的であるが、母数が少ないことからである、おそらく特別支援教育に関わる内容が具体的に話されているためと推測される。

ただし、必修の内容は性格上、本来すべてが直結すべき内容であるが、経験則で判断行動しがちな現場感覚からすると、机上の空論ととらえられやすいので、むしろ、省察の時間がどう確保され、自己にどう返されているのかが重要なポイントとなるといえる。

信州大学の選択講習

選択講習を選択した理由

	総計		小学校		中学校		特別支援学校		その他	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
専門分野を深められる内容	227	34.6%	120	31.1%	98	39.8%	6	35.3%	3	37.5%
教科指導等に直接生かせる内容	185	28.2%	111	28.8%	69	28.0%	2	11.8%	3	37.5%
興味関心がある内容	369	56.2%	228	59.1%	128	52.0%	9	52.9%	4	50.0%
開催日や会場を重視したから	204	31.1%	121	31.3%	73	29.7%	8	47.1%	2	25.0%
その他	17	2.6%	11	2.8%	5	2.0%	0	0.0%	1	12.5%
合計	657		386		246		17		8	

学校種によらず、1番の選択理由は「興味・関心」であり、その割合はほぼ同じである。2番目以下は、小学校は「会場・期日」「専門」「開催日・会場」で割合はほぼ同じで、中学校は「専門」で3番目が「開催日・会場」「教科指導」ほぼ同率である。

特別支援校は、1番の「興味・関心」と「開催日・会場」がほぼ同じ割合であるが、3番目の「専門」と4番目の「教科指導」とには差があるが、合科・総合的指導を主としている特質が表われていると推測される。

その他は2番目の「専門」「教科指導」が同じ割合で、3番目の「会場・開催日」との差がある。今後は、高等学校を含め、調査人数を増やして検討する必要がある。

(4) 要望と分析から見える課題

(ア) 教員免許更新講習のあり方についての課題

① 更新講習の基本的姿勢について

「最初はなぜこんなことをしなければと思っていましたが、いろんな体験や経験を積んだ現在の自分の状況の中で、講習を受けることで、今まで以上に実感として分ったり、なるほどと納得したり本当に楽しく学べました。聞くこと全てが新鮮で新たな教育活動に取り組む意欲もわき感謝の気持でいっぱいでした。これからも、常に何か新しい刺激を求めて自分自身の研修を重ねていきたいと思います」との50代の受け止めがある。反面「「ポジティブになれない」との指摘がある。

また、「受講後の様子」をみると、「講習で得た情報を回りの人（同僚）に伝えたり（33.9%）、受講することにより教育活動に新たな意欲付けとなった（31.2%）りすることは、更新講習が一定の成果を上げていることになるが、今後の更新講習の改善の観点として、受講者の行動化につながる（15.5%）内容や方法を一層工夫必要がある」。

不足しているから補ってやるではなく、教員の教職に対する意欲を高め教職に携わっていることの喜びを感じられる方向をベースに更新講習を構築する課題がある。

② 現職研修との振り替えについて

「必修講習全体に関わる要望」をみると、「大学の講習が県の研修と重複している」については、「重複している」との受け止めが81.3%と非常に高い。

反面、「必修講習の形式について」をみると、「県が認定した研修を認定するようにしてほしい」について、「認定してほしい」が57.5%、「思わない」が33.6%で、希望者が半数よりやや多い。満足度や全体感想の記述から、希望者がもっと多いのではないかと思われたが意外であった。

必修であるので、重複していることが直ちに問題ではないが、必修の内容を絞り込み概要や解説にならないよう更に精度をあげる必要がある。

更新講習における「必修の内容」と現職研修「県の研修の内容」「教育会の研修の内容」「校内研修の内容」の棲み分けを更に検討する課題がある。認定の可否については今後の課題といえる。

③ 学校種別等の講習形態について

「免許更新講習のあり方」をみると、「学校種によって講座内容をかえて欲しい」については、「変えて欲しい」が77.9%、で希望する割合が高い。また、「30代、40代、50代が、同時に同じ内容の研修を受けることはどうかと思う」や「支援員をしているので、取り組み方が少し違います」等、学校種別、年代別、その他も含めた職種別などの講習内容や形態についての課題がある。

④ 必修の選択について

「必修講習全体に関わる要望」をみると、「自分の受けたい必修の内容が選択できると良い」について、「選択できると良い」が49.3%、「思わない」が45.2%で半々である。

また、「必修なのに、日程によって違う内容の講習ではおかしい」については、「おかしい」が73.9%と高い。必修内容は受講者全てに共通であるべきとの考えであろう。

必修も内容により選択できるということについて理解を深めていくという課題がある。

⑤ その他について

「信州大学を受講しての満足度」にみるの不満足の原因として、「受講したい講習は遠くでやっており、居住地に近い会場の講習をやむを得ず受講したため」との指摘がかなりある。「地域別受講者数の割合」の項でも考察したように、「長野県の場合は、受講者の勤務場所と受講会場の距離が会場選択に大きな影響を与えている。交通の便や経費等も含めての選択結果であり地域差による不公平感は長野県内の受講者においては切実な問題である。

(イ) 必修領域についての課題

① 必修の内容について

必修の内容について「教職についての省察並びに子どもの変化、教育政策の動向及び学校の内外における連携協力についての理解に関する事項」（免許状更新講習規則第四条の一）であり、「基本的に学校種や教科等に関わらず、およそ教員として共通に求められる内容を中心とすることが適当である」（中央教育審議会「今後の教員養成・免許制度の在り方について答申」）を柱に構成されることとなっている。

「全体の満足度」をみると、21年度～25年度までの信州大学における更新講習の「満足度」は80.7%と高く、「免許更新講習のあり方」では「必修の内容としてふさわしいかった」が70.5%であることからすると、内容構成が適切であったと考えられる。

一方、「免許更新講習のあり方」の「内容が広すぎ理解が不充分になってしまった」が83.5%であり、「そう思う」が年度を追う毎に増加している。その原因は、「社会状況や学校教育が抱える課題、子どもの変化等に応じ、その時々で求められる教員として必要な資質能力に確実に刷新（リニューアル）する内容を含むものとする」（中央教育審議会「今後の教員養成・免許制度の在り方について答申」）と述べられていることにあるのではないかと推測する。

端的に指摘すると、開設者側が、例えば、環境教育やいじめ・不登校等の「課題に関わる教育」の内容を取り入れざるを得ない実情が強くなりつつあるからではないか。

例えば、「教育哲学的な話が基本にあるべきだ」とする考えが受講年度や年代及び学校種によらず、8割以上あること等、全員が「共通して受講する必修の内容」と、受講者が「選択して受講する必修の内容」を早急に検討しなければならないという課題がある。

また、「大学でやったことをもう一度やることに疑問」との指摘もあり、4年後には更新講習が2巡目となることを考慮すると、必修講習の内容は諸々の内容の再確認の性格があるから同じでよいのか、10年間で何がどう変化しているのか、今後の10年間でどう見通すのか等々必修講習の内容における重要な検討課題となる。

② 現場とのつながりについて

「免許更新講習のあり方」の「現場の問題が取り入れられていた」についてみると、「取り上げられていた」が77.7%で、肯定的に評価されている。

反面、「必修講習全体に関わる要望」の「今の必修講習は、現場の指導や課題と直結していない」についてみると、「直結していない」が82.8%で非常に高い。その原因として考えられるのは、「理論的で現場の問題と直結できなかった」について「直結できなかった」が84.2%であることから、現場の課題や指導に触れられているが理論的であり、現場の実情と食い違っているとの指摘なのかも知れない。

講習内容と現場との関連を、再度検討すべき課題がある。

③ 「省察」について

「教職についての省察」（免許状更新講習規則第四条の一）が、講習内容としてあるが、アンケートをみると「最後の振り返りをして自分の実践と結びつけていくような時間が一切無かった」との指摘がある。

教職についての振り返りについて、どのような内容をどのように扱うことが適正なのか、効果的なのか、再度検討すべき重要な課題といえる。

④ 試験について

アンケートでは、「必修講習の講師によって、講習後のテストの方法にあまりにも大きな差があり不満が残った。話や情報とテスト方法があまりにも食い違っていて、不公平感、不満を抱いた」「講習は教員の資質向上を目的としています。記憶力を試すようなテストをすることは本来の目的にそぐわない」等の指摘がある。

更新講習の質を高め、更新講習への信頼を確保するために、講習目的及び講習内容に即した試験の内容と形態を更に工夫することが課題である

（ウ） 選択領域についての課題

21年度から25年度までの受講者が、受講してから少なくとも1年以上経過し、実感として持ち続けている感想や、講習を受けて実践しての感想や意見であることを重く受け止めたい。

① 内容について

アンケートでは、「即授業に活かせる講座がたくさんあるとありがたいと思います」等、現場で即使える「教科・領域等日常の職務遂行にかかわる内容（方法を含む）」をとの要望が多い。

これは更新講習の目的である「最新の知識・技能の修得」が強く意識されている結果である。内容の構成については「教科指導、生徒指導その他教育の充実の関する事項」（免許状更新講習規則第四条の二）を柱とする内容に当たるものである。

「信州大学の選択講習に関するコメント」をみると、「教育に直結するものではなかったが、物の見方を変えるとという視点で興味深く楽しかった」や「普段はあまりとれない思索の時間となった」「学ぶことで自分でも知識が広がり」等の意見も多くある。

選択の内容構成としては、「教職に係わる内容」「専門分野を深める内容」「一般教養を高める内容」が考えられるのであるが受講者に理解されていないという課題がある。

別の観点から、「来年度以降の充実のために」をみると、①教科指導、②特別支援教育、③生徒指導（いじめ防止を含む）、④学級指導、⑤情報教育の順で要望が高く、日常の指導に直結する内容に意識が向いていることがうかがわれる。

また、「道徳教育」「人権教育」「特別活動」「キャリア教育」など、学校教育のベースとなる内容や、「環境教育」「学校運営」「防災教育」等は今後の教育を考えていく上で、課題とされている内容について、どう意識づけていくことが効果的なのか、今後検討していく余地がある。

② 受講選択の方法について

「全体の満足度」や「信州大学の選択講習に関するコメント」をみると、「希望しても受講できないものがいくつかあった」「選択希望講座が受講できないということが残念」等の指摘が多数あった。

開設者側の諸条件や講習の質の維持・向上と関係するところであるが、受講者の意欲との関係からして、どのように解消していくのか今後の大きな課題である。

③ 内容・形態等の多様さについて

「記者の生の声を聞いたり、実習したり、現場の見学など豊富な活動」「実験では高校・中学・小学校、他を上手にグループ編成してくださって化学反応の実験をすることが出来た」「信大附属松本小学校公開授業参加と授業に関わる講義で子どもの具体的な学びの姿を見ることが出来てとても良かった」「現地実習がありよかった」等の感想から、選択講習としての持ち味を生かすため、開設地域の特色を活用し、多彩な内容や形態・方法が更なる課題である。

(5) 免許更新制度高度化に向けた提案

(ア) 更新制度に関わる提案

- ①必修の内容を、免許状更新講習規則第四条の一及び中央教育審議会「今後の教員養成・免許制度の在り方について答申の「およそ教員として共通に求められる内容を中心とする」に絞り込み重点化を図ること。
- ②そのために「課題に関わる教育の内容」は、基本的には必修の領域とし、「選択必修」として扱うこと。
- ③学校種、年代、その他現在教職に就いていないケースを含め、学校種別、年代別、職種別の講習形態については選択必修において取り入れること。
- ④「更新講習」と法定研修（「初任者研修」「十年経験者研修」）及び現職研修（都道府県や市町村が主催する研修）や自己研修（「教育会研修」「校内研修」「自主研修」）についての棲み分けを体系化することが適当である。その主体は文部科学省とすること。

(イ) 必修領域における提案

- ①4年後に更新講習が2巡目となることを機会に、必修の内容を、10年間で何がどう変化してきたのか、今後の10年間の見通しは何が等々、講習内容をリニューアルすることが必要である。
- ②教育理論と教育現場の実際を関連づけた講習内容とすべく、大学教員と現場教師の共同など一層工夫するべきである。
- ③教職に係わる講習内容については、「省察の時間」を確保することが適当である。また、試験については、講習の目的と講習内容に即したものとすることが適当である。

(ウ) 選択領域における提案

- ①専門分野（教職関わる内容、学問や教科に関わる内容）、教科指導分野（教科教育法）、一般教養分野を準備し、受講者の選択の幅を広げることが適当である。その際、受講者が選択し易いよう「免許状更新講習募集要項」に、選択講習の「分野」と「ねらい」を明記することが適当である。
- ②受講選択決定に当たり、「抽選」という方法を避けることが望ましい。やむを得ず抽選をする場合は、例えば第1次希望が不可の場合は第2次希望は受け入れられるよう配慮すべきである。また、講習の質を担保との関係の中で、定員や開催日・会場等物理的な

な対応の改善も図ること必要がある。

- ③更新講習開設大学の実情によるが、実験や実習、フィールドワーク、学校における授業参観と検討会等、その地域の特性を生かした多彩な内容や方法・形態をすることが適当である。

5. 選択講習受講者へのアンケートから

選択講座の受講者に対して、文部科学省の事後アンケートに加えて、信州大学独自のアンケートを実施した。

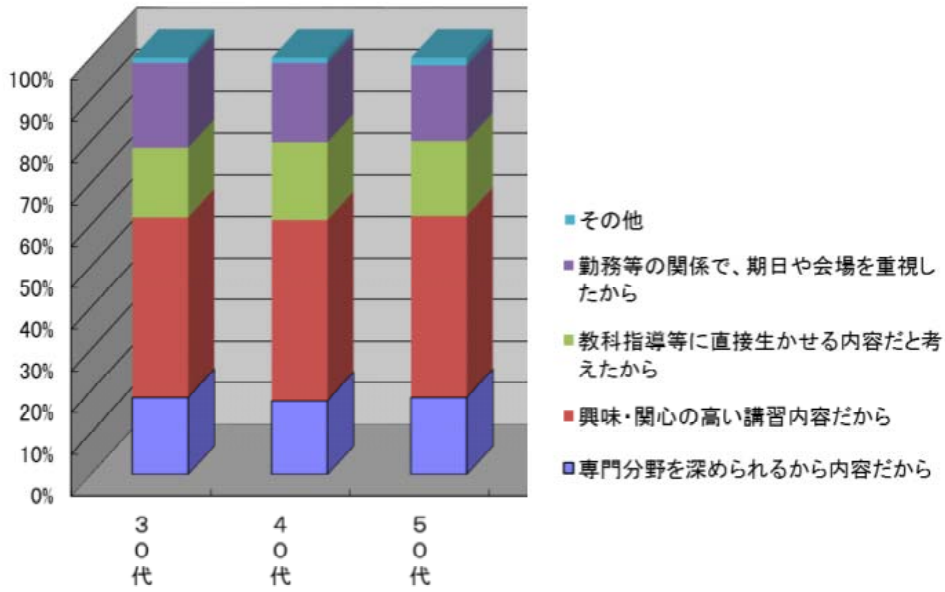
(1) 全体的傾向

学問系統	講習名等	受講者数	受講率	内容満足度	修得満足度
教育科学系 (11)	教育の本質と教師の役割－教職の専門性の基礎－(A)	40	80%	93%	95%
	教育の本質と教師の役割－教職の専門性の基礎－(B)	36	72%	93%	95%
	外国籍児童・生徒とともに学ぶ国際交流のあり方	13	26%	100%	92%
	教室内のコミュニケーションについて学んでみよう	44	88%	91%	95%
	教育のなかの「ケア」の視点	50	100%	92%	90%
	脳科学と特別支援教育(A)	71	142%	90%	89%
	脳科学と特別支援教育(B)	93	186%	91%	88%
	子どもを変える心理学－学習とカウンセリングの理論から－	47	94%	100%	98%
	コミュニケーションの障がいを疑似体験しよう(A)	90	180%	97%	99%
	コミュニケーションの障がいを疑似体験しよう(B)	89	178%	100%	100%
	障がいのある子どもの支援	139	278%	90%	86%
	教室内のコミュニケーションについて学んでみよう	44	88%	91%	95%
	小計	756	126%	94%	94%
教科教育学系 (25)	校種を貫く「伝統的な言語文化」を〈読み〉〈書く〉	44	88%	93%	91%
	文法を通して国語教科書を読む	35	70%	100%	100%
	地域学習のありかたを探る	21	105%	100%	100%
	ハザードマップを活用した防災地理教育講座	15	75%	100%	100%
	カルテ・座席表・抽出児による授業作り	40	80%	98%	95%
	算数・数学科における授業づくり	42	84%	98%	98%
	算数・数学科における実践的指導力の育成	24	80%	100%	96%
	地球から宇宙の果てまでの最新の宇宙像をみよう ～楽しい天文学習の創造に向けて～	36	72%	100%	94%
	小学校外国語活動内容論 基本の「き」	23	46%	100%	100%
	小学校外国語活動指導法 基本の「き」	51	102%	98%	98%
	音楽教育の過去・現在・未来	34	97%	100%	97%
	管楽器指導法及び指揮法	24	96%	96%	100%
	日本の子どもの歌の歴史～近代日本の音楽教育史をたどる～	54	135%	91%	87%
	小学校体育における教材づくりと授業分析	8	16%	100%	88%
	小学校体育に活かすスポーツ運動学の教材づくり	22	73%	100%	100%
	鑑賞教育を学ぶ	21	70%	95%	95%
	図画工作科における造形遊び－その理論と実践	44	88%	100%	98%
	道徳教育における実践的指導力の育成	25	83%	96%	96%
	たかが新聞されど新聞～NIE入門～(A)	91	182%	96%	97%

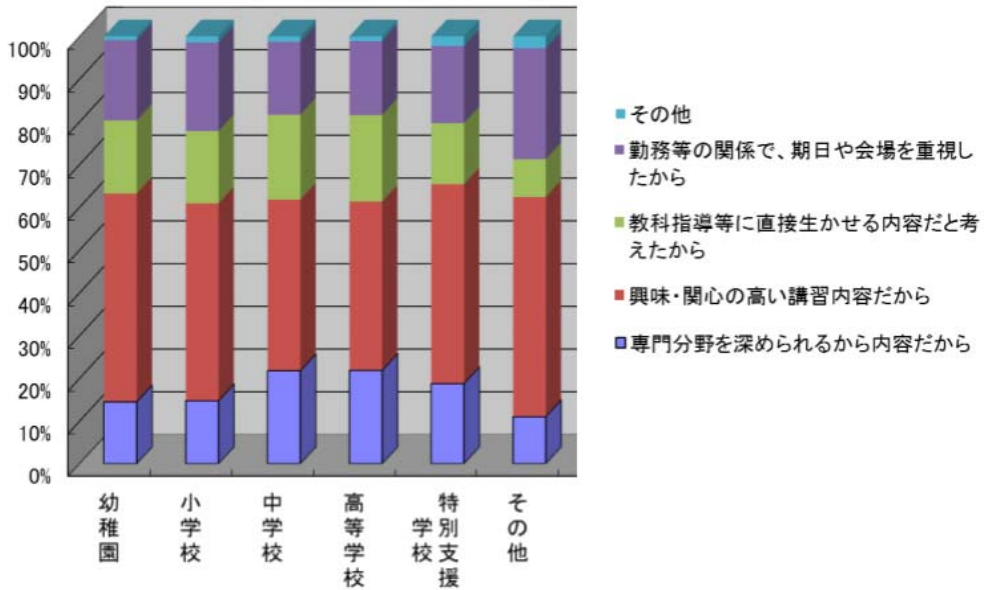
	たかが新聞されど新聞 ～NIE入門～ (B)	77	154%	96%	96%
	NIE入門 ～新聞活用で楽しい授業～	71	142%	100%	93%
	新聞を活用した教材開発 ―テーマ紙面の活用―	50	100%	94%	90%
	歴史館で教材開発(A)	46	92%	98%	93%
	歴史館で教材開発(B)	46	92%	100%	96%
	歴史館で教材開発(C)	45	90%	93%	96%
	小 計	989	93%	98%	96%
健康科学系 (13)	食品機能性の科学	28	56%	93%	89%
	アパレルと健康	13	26%	100%	92%
	長期集団宿泊活動の企画と指導	32	64%	100%	100%
	最新体力トレーニングの理論と実践	41	137%	98%	98%
	体育科目に応用できる感覚と運動の科学-理論と実践-	27	90%	100%	100%
	ストレッチングの理論と実践 (解剖学含む)	38	127%	92%	92%
	ニュースポーツ (フライングディスク) の指導法	29	97%	97%	97%
	ニュースポーツの思想と実践	48	96%	98%	94%
	ジョギングアンドウォークの指導法	42	140%	100%	98%
	子どもの健康管理(歯科指導とアレルギー)	67	134%	90%	87%
	子どもの健康と保健指導1	27	54%	93%	93%
	子どもの健康と保健指導2	33	66%	97%	97%
	保健学習と教育の交差	13	26%	92%	100%
	小 計	438	80%	96%	95%
工学系 (10)	電子教科書って何だろう？	35	70%	77%	91%
	ランドスケープデザインと防災からみた地域 ―新しい環境教育―	33	66%	88%	88%
	メカトロニクスの基礎	8	40%	75%	88%
	コンピュータを使わないプログラミング構想とコンピュータ を使うプログラミング演習	7	28%	86%	86%
	はじめて学ぶ繊維と感性	32	64%	94%	97%
	土木と市民生活	12	24%	92%	83%
	持続可能な社会を求めて (環境と技術の関係をとらえて)	31	62%	97%	94%
	衣食住で使用される色材	44	88%	95%	100%
	初めてのe-Learning (Moodle を使ったコース作成演習)	19	38%	95%	95%
	電気電子工学概論	12	24%	100%	100%
	小 計	233	52%	90%	92%
自然科学系 (23)	実数～その性質と作図可能な数～	29	58%	83%	86%
	みんなで数学史を見てみよう！	49	98%	94%	90%
	余りものには福がある―余りが語る数理 (小学校向)	7	14%	100%	100%
	余りものには福がある―余りが語る数理 (中・高等学校向)	9	18%	89%	89%
	やさしい数学を通して見た数理科学の諸相	34	68%	74%	79%
	低温のフシギな世界	25	89%	100%	100%
	超伝導の世界	7	14%	100%	100%
	磁石と磁界の科学	9	26%	100%	100%
	身の回りにある化学を発見しよう	26	65%	100%	96%
金属の腐食・防食の基礎 ―金属と酸性雨―	7	47%	100%	100%	

	身近な化学から先端科学の話と実験	32	64%	100%	100%
	元素科学：周期表と放射性元素	14	28%	86%	64%
	信州の野生動物問題	65	130%	92%	89%
	生物多様性を読み解く（身のまわりの生態学）	18	36%	78%	83%
	哺乳動物の生殖細胞の形成と進化	13	26%	77%	69%
	生物学教材としてのカイコと野蚕の利用	12	24%	100%	100%
	身近なデジタルカメラの活用で不思議なマイクロ世界の観察をもっと効果的に	37	93%	100%	100%
	地層の観察と記録の取り方	14	56%	100%	100%
	野外での地質観察	14	61%	100%	100%
	信州の火山	42	84%	95%	95%
	身近な製品の二酸化炭素排出量 ・地球温暖化の評価方法を学ぼう	11	22%	91%	100%
	気候変動のしくみ	20	40%	80%	90%
	天気図を書こう	12	40%	100%	100%
	小 計	506	51%	93%	93%
社会科学系 (9)	男女共同参画を考える	26	87%	100%	100%
	「戦争と平和」から20世紀を学ぶ	14	28%	100%	100%
	労働法・社会保障法の基礎知識	16	32%	100%	100%
	社会データを分析しよう－高校数学＋ α で－	15	30%	100%	100%
	スポーツ文化の再考	18	60%	94%	89%
	世界経済の歩み	23	46%	83%	87%
	地理で読み解く地方都市の現在	32	64%	88%	91%
	消費者教育にどう取り組むか(A)	22	44%	100%	95%
	社会科教育の背景としての国際経済学	7	14%	57%	57%
	小 計	173	42%	91%	91%
人文科学系 (8)	言語学から学ぶ英文法 Q & A	23	92%	96%	91%
	心理学からのクリティカル・シンキング入門	116	232%	98%	96%
	日本のアヴァンギャルド文学を読む	34	68%	100%	97%
	ピーターラビットと英語から英国社会を見る	76	152%	97%	92%
	オペラに関する講義と視聴	25	83%	92%	92%
	クマのプーさんを少し真面目に学んでみよう	41	82%	90%	90%
	グリム童話のルーツを探る	96	192%	84%	84%
	音声から見た方言	60	120%	71%	73%
	小 計	471	133%	91%	90%

「年齢」と「講座選択の理由」の関係

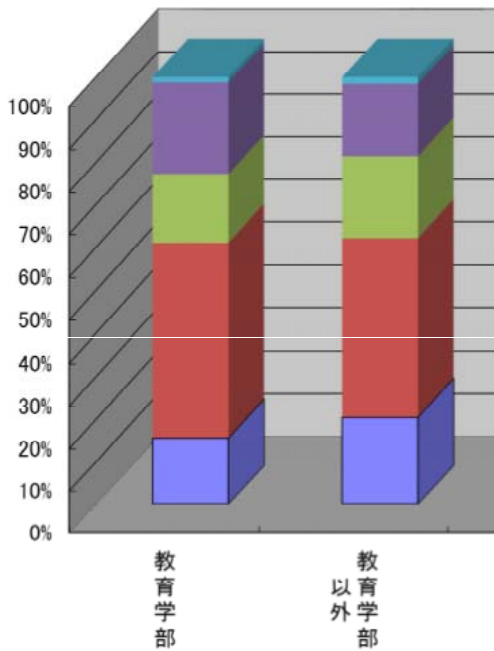


「勤務校」と「講座選択の理由」の関係

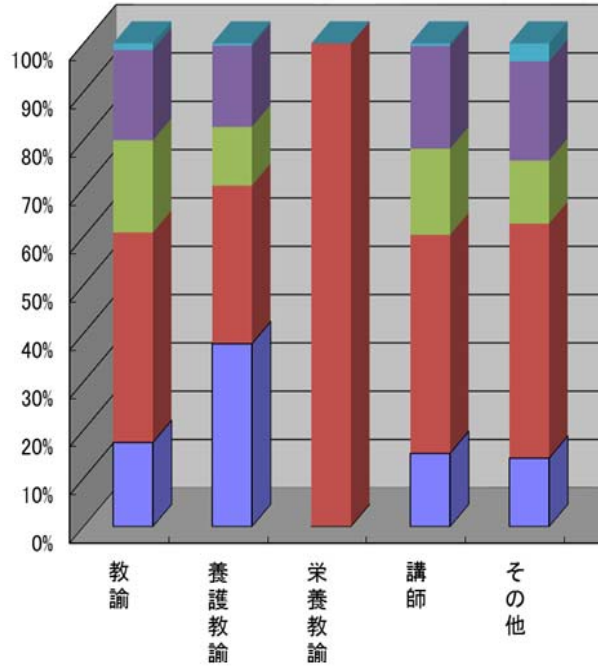


「職種」と「講座選択の理由」の関係

「出身学部」と「講座選択の理由」の関係

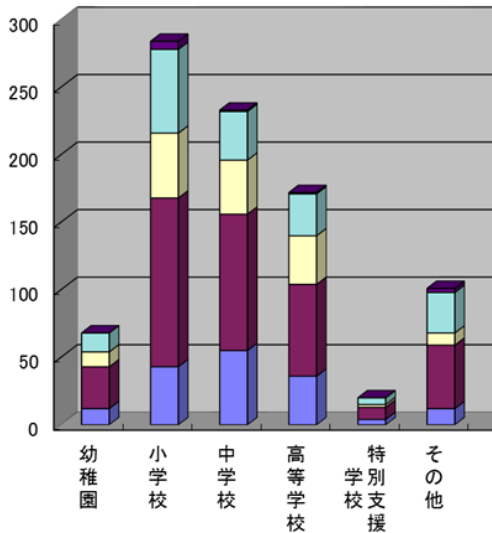


- その他
- 勤務等の関係で、期日や会場を重視したから
- 教科指導等に直接生かせる内容だと考えたから
- 興味・関心の高い講習内容だから
- 専門分野を深められるから内容だから



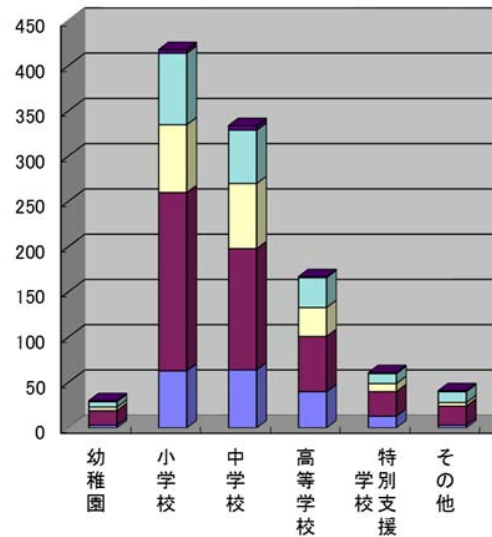
- その他
- 勤務等の関係で、期日や会場を重視したから
- 教科指導等に直接生かせる内容だと考えたから
- 興味・関心の高い講習内容だから
- 専門分野を深められるから内容だから

「年齢：30代」と「勤務校」と「講座選択の理由」の関係



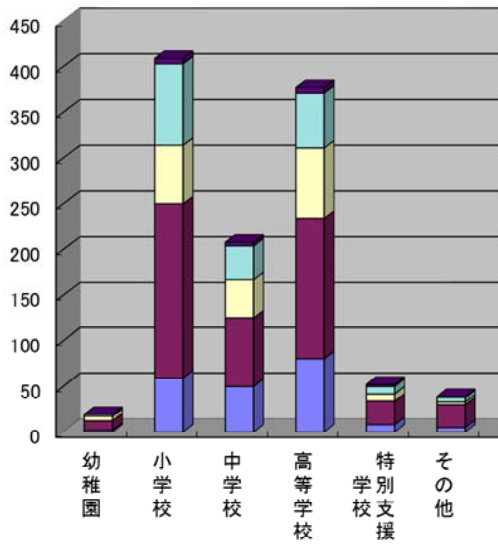
- その他
- 勤務等の関係で、期日や会場を重視したから
- 教科指導等に直接生かせる内容だと考えたから
- 興味・関心の高い講習内容だから
- 専門分野を深められるから内容だから

「年齢：40代」と「勤務校」と「講座選択の理由」の関係



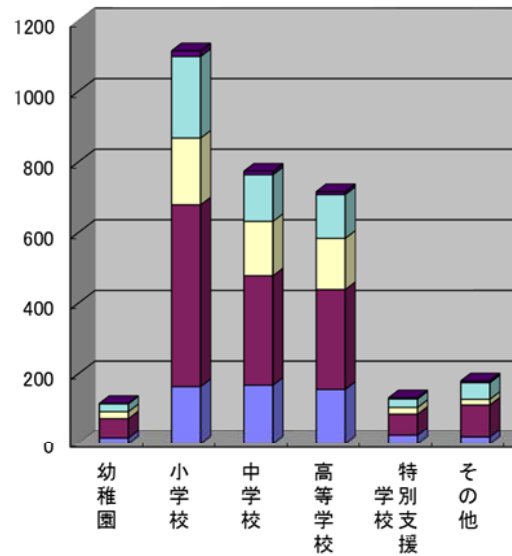
- その他
- 勤務等の関係で、期日や会場を重視したから
- 教科指導等に直接生かせる内容だと考えたから
- 興味・関心の高い講習内容だから
- 専門分野を深められるから内容だから

「年齢：50代」と「勤務校」と「講座選択の理由」の関係



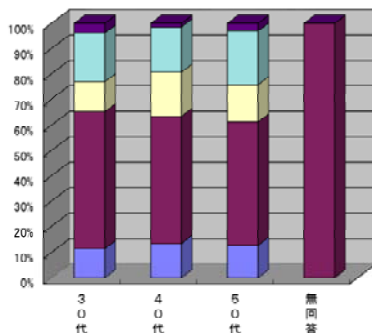
- その他
- 勤務等の関係で、期日や会場を重視したから
- 教科指導等に直接生かせる内容だと考えたから
- 興味・関心の高い講習内容だから
- 専門分野を深められるから内容だから

「年齢：(すべて)」と「勤務校」と「講座選択の理由」の関係



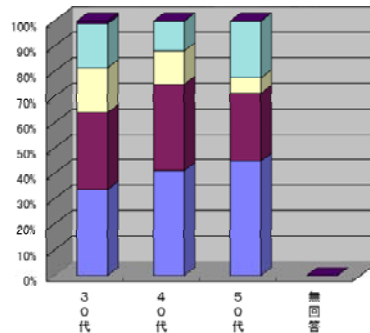
- その他
- 勤務等の関係で、期日や会場を重視したから
- 教科指導等に直接生かせる内容だと考えたから
- 興味・関心の高い講習内容だから
- 専門分野を深められるから内容だから

「取得免許状：小学校」と「年齢」と「講座選択の理由」の関係



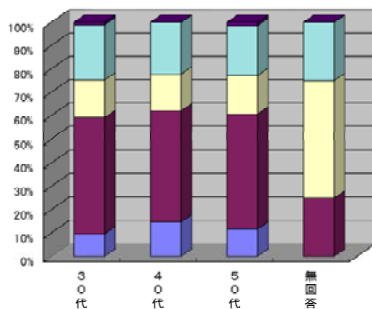
- その他
- 勤務等の関係で、期日や会場を重視したから
- 教科指導等に直接生かせる内容だと考えたから
- 興味・関心の高い講習内容だから
- 専門分野を深められるから内容だから

「取得免許状：養護教諭」と「年齢」と「講座選択の理由」の関係



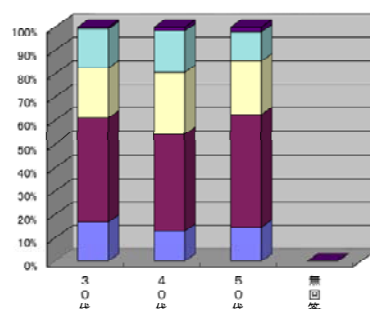
- その他
- 勤務等の関係で、期日や会場を重視したから
- 教科指導等に直接生かせる内容だと考えたから
- 興味・関心の高い講習内容だから
- 専門分野を深められるから内容だから

「取得免許状：国語」と「年齢」と「講座選択の理由」の関係

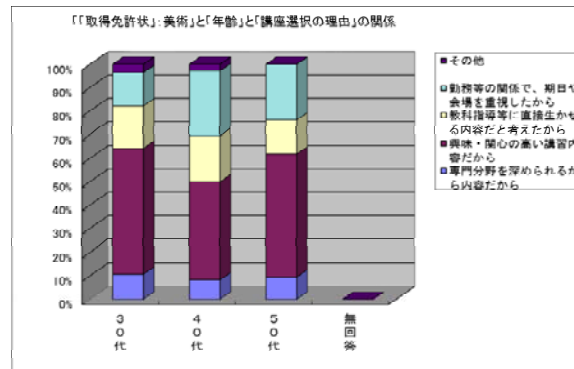
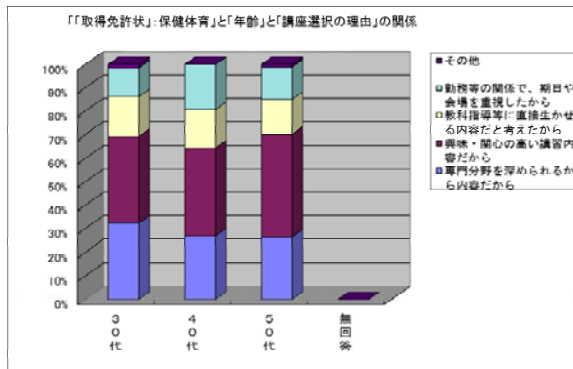
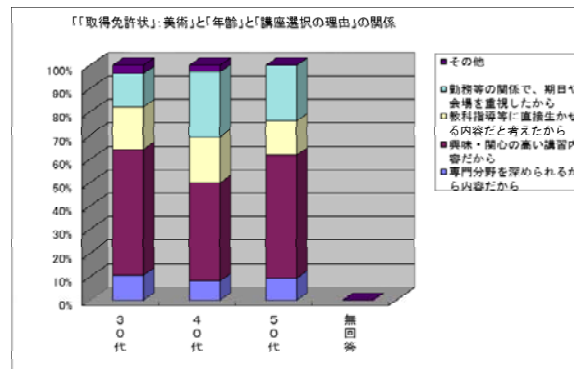
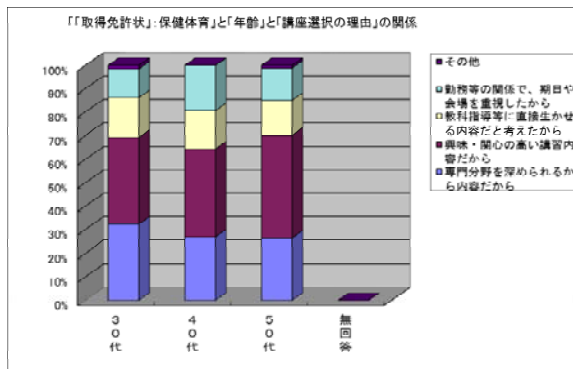
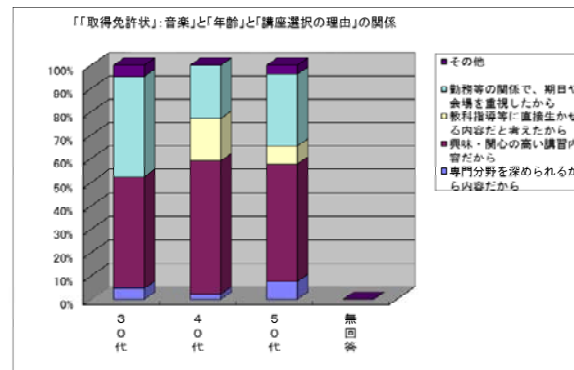
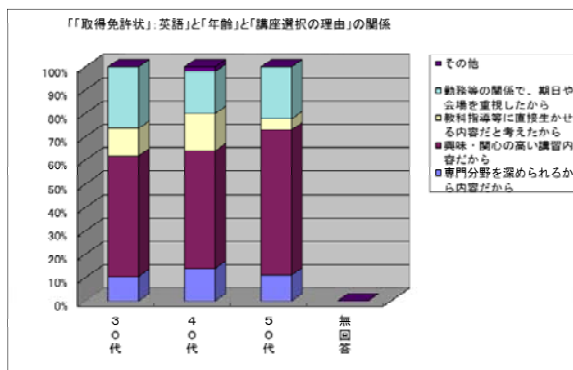
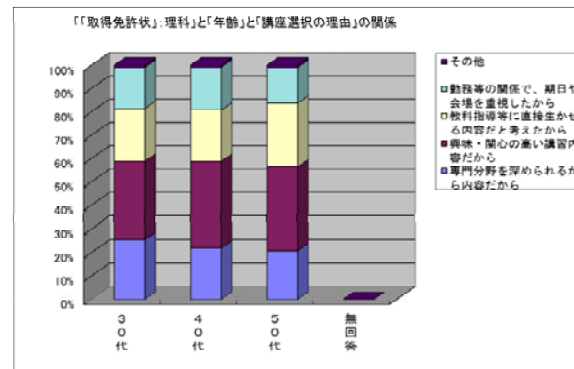
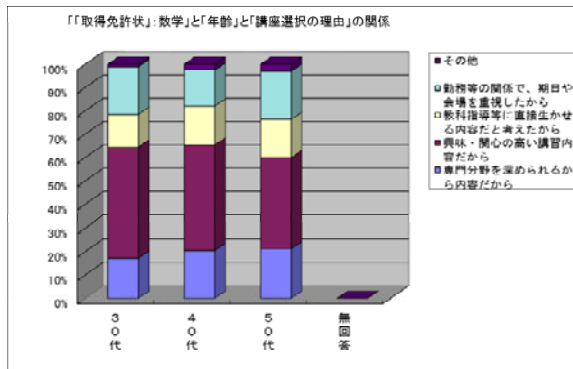


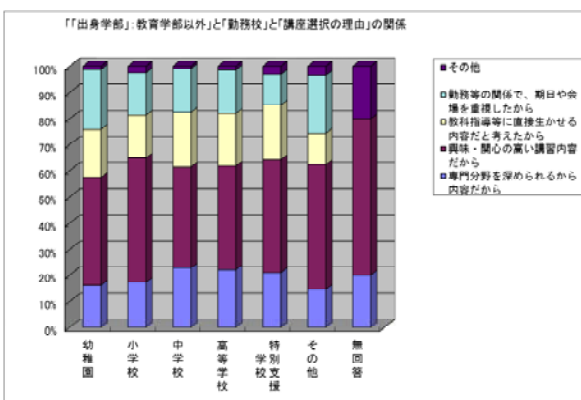
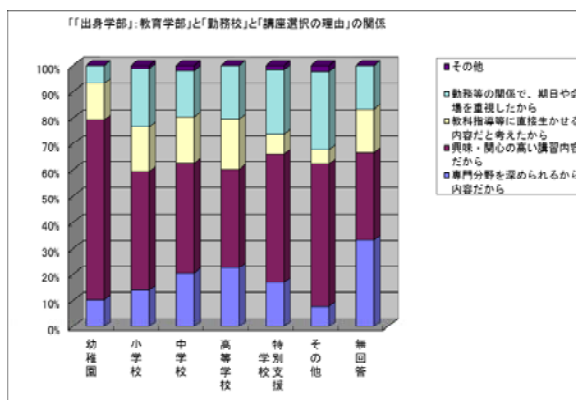
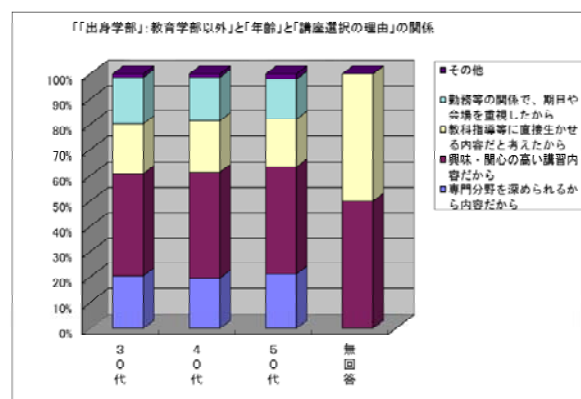
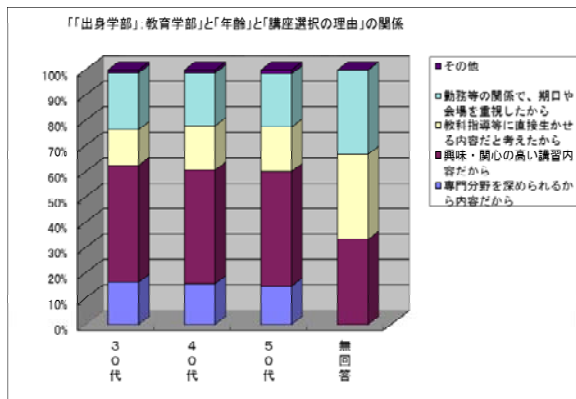
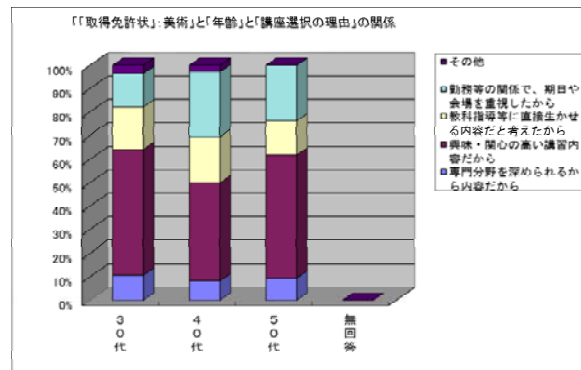
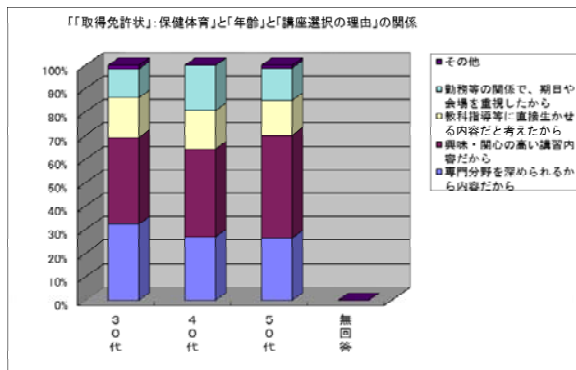
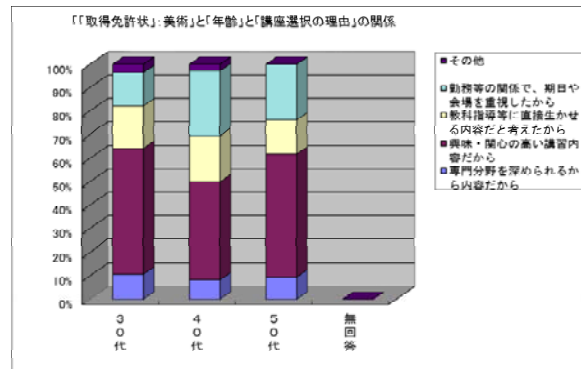
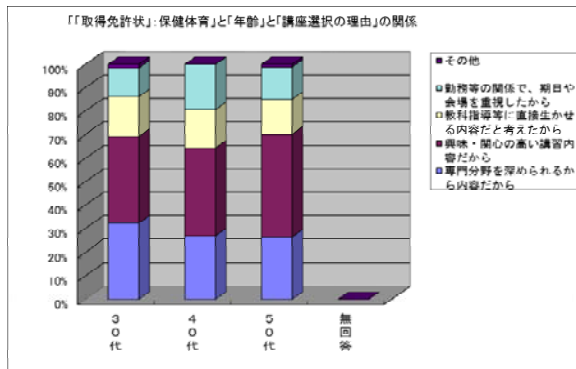
- その他
- 勤務等の関係で、期日や会場を重視したから
- 教科指導等に直接生かせる内容だと考えたから
- 興味・関心の高い講習内容だから
- 専門分野を深められるから内容だから

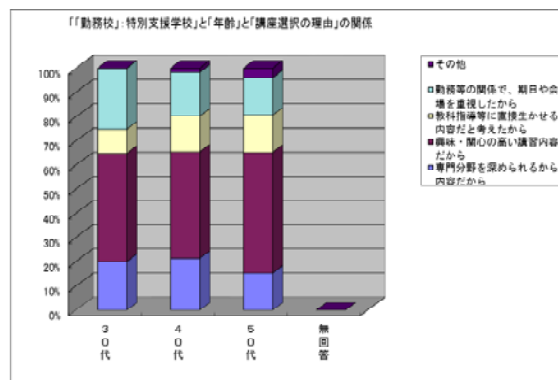
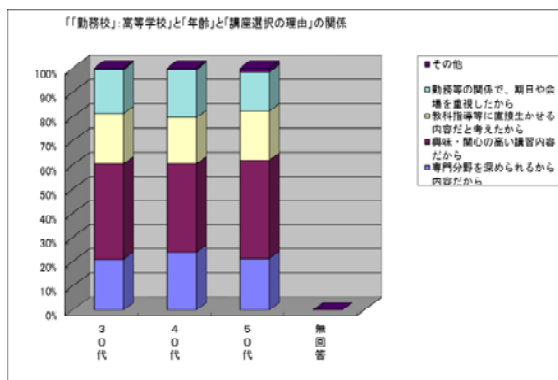
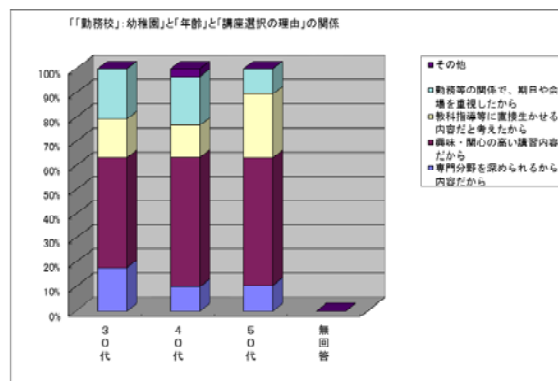
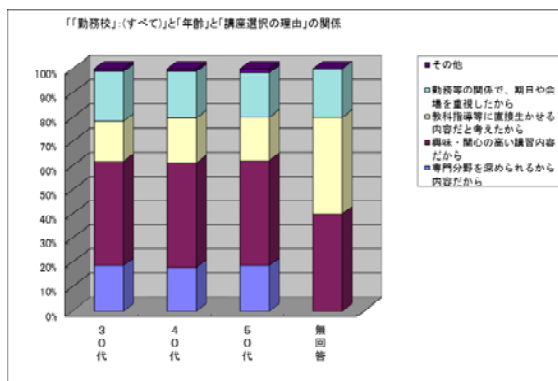
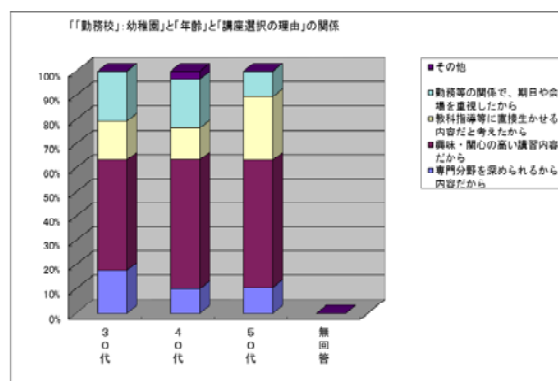
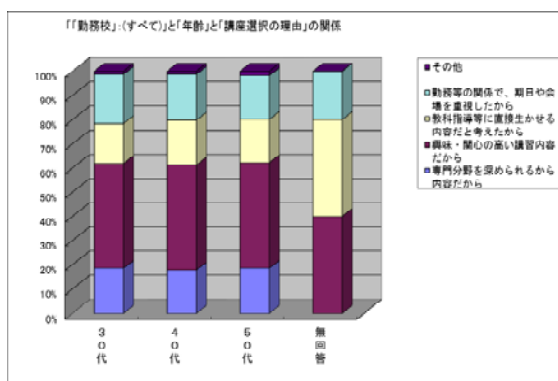
「取得免許状：社会」と「年齢」と「講座選択の理由」の関係



- その他
- 勤務等の関係で、期日や会場を重視したから
- 教科指導等に直接生かせる内容だと考えたから
- 興味・関心の高い講習内容だから
- 専門分野を深められるから内容だから







[考察]

全体的傾向として、受講者の満足度をみる限り大きな問題はないといえる。

ただし、専門学部開講の講座については、選択要因として日程と開講場所がかなり強くなっていることから、「この程度内容理解できるであろう」「自分の専門ではないが仕方ない」という感覚で、受講している受講者もかなりおり、「理解できなかった」「ついていくのが大変だった」というミスマッチが発生しているものも依然としてある状況である。

同時に、要項に示された講習概要が、担当講師のイメージしている内容と、現職教員がイメージする内容とに差異が発生し、満足度が下がってしまった受講者もいる。

反面、しかたなく日程でと場所で選択しまったが、実際に受講してみると興味がわいてきて、新たな視点を得ることができたという感想も多く、受講者の何が満足度を左右するかは、明確に分析できないのが実際である。

専門学部での講座開講に当たっては、事前に学習指導等との関連性を個別に担当講師に連絡しているが、学校教育とのつながりが薄い大学教員にとっては、最先端の研究成果を提示することはできても、学校教育の中での活用については触れることができず、その点で、受講者からどのように現場で扱ったらよいのか示してもらわないと受講した意味がないという不満の声が発せられてしまい、満足度や意欲が落ちてしまっている。

本年度は、「消費者教育」のように専門学部の教員が、教科内容について専門的な立場から講義した後、教科教育を専門とする教員が、教育現場での活用について講義並びに演習を行うという形態の講習を試行したところ、高い満足度が得られたことから、今後は教科内容専門と教科教育との協働による講座の検討を進めていくのも改善策の一つと考えられる。

教育学部開講の講座は、どの講座も満足度が高く、受講者とのミスマッチがほとんど発生していない。理由として考えられることは、アンケート記述にも多く示されているが、教育学部の教員は、教育現場とのかかわりが強いため、担当の講師がどのような内容を提供して切れるのかという内容について、多くの受講者（現職教員）が理解していることから、受講者の課題に則して選択していることである。

同時に、担当講師も、日々の学習指導や生徒指導の、どの位置にこの講習が位置づくかということについて、理解して講習を運営しているために、受講者としても現場に帰ってから、どこで生かすことができるというイメージを持ちやすく、満足度が高くなっているといえる。

また、附属学校園の授業を参観を組み込んだ講習も、具体的に接しながらの研修になるため、現職教員の研修感覚に訴えるものがあり、好評であったので、今後も継続並びに拡張を進めていくことが望ましい。

教育学部、専門学部を問わず、演習・体験活動を取り入れた講習は、具体を通じた講習のため実感を伴うと同時に、受講者が自分の教育実践のどこに取り入れられるかを考えながら受講していることから、満足度と達成感が高くなっている。

※個別データ並びに自由記述のデータは資料を参照。

Ⅲ. 現代的な教育課題に対応するための実践的な講習内容・方法の研究開発

カウンセリングの方法 (ビデオ教材)

ビデオを視聴することで、より良い傾聴の手法を身につけていただくことをねらいとして、付属のビデオを制作した。

活用方法については、以下のマニュアルを参照していただきたい。

「カウンセリングの方法」

近年、不登校・いじめ・学級崩壊・被虐待・発達障害など、教育現場での問題が多様化しています。

そのなかで、教師はカウンセリングマインドをもって、悩みや困難を抱える子どもや保護者と関わることが求められるようになってきています。

本資料は、仮想の教育相談事例を用いて、カウンセリングマインドをもった対応のポイントを示しました。ご視聴いただくことで、カウンセリングマインドやカウンセリングの方法について、リアルな理解につながると考えられます。

教育相談事例は、さまざまな学校種の教師が受講する教員免許状更新講習をはじめ、教師対象のカウンセリング研修、教職をめざす学生への授業等で活用できるよう、教師が子どもの様子を心配した保護者に対応する場面に設定しています。

これは、子どもとの教育相談では、学校種によって子どもの発達段階に大きく差があるため、相談内容や教師の対応に違いが出るためです。

もちろん保護者との教育相談でも、学校種によって相談内容は異なると思いますが、子どもの様子を心配した保護者に対応する際のポイントは、さほど違いがないと考えられます。

ここでは、中学生の保護者との教育相談事例ですが、中学校以外の教師にご視聴いただいても、カウンセリングの方法やポイントの理解に役立つと思います。

さて本資料は、1つの教育相談事例について「悪い聴き方」と「良い聴き方」、それぞれの解説から成っています。

教育相談事例の途中で、カウンセリングマインドをもった対応のポイントや、教師の心の声が画面上に表示されますので、注意してご覧ください。

「悪い聴き方」では、教師は保護者の話を聴かず、相談が終わっています。

「良い聴き方」では、担任がカウンセリングマインドをもって保護者の話を丁寧に聴き、保護者と教師の間に信頼が生まれています。なお詳細な内容は、次ページ以降に示しておりますので、ご参考ください。

この資料を活用していただくことで、少しでも多くの教師に、カウンセリングマインドをもった対応とはどのようなものか実感し、理解し、そして実践につながれば幸いです。

以下は、中学生の子どもの様子を心配した母親が、担任に相談する場面です。

悪い聴き方

発言者	発言内容	「担任心の声」、ポイント
母親 1	先生、今日はわざわざ時間をとっていただきまして、ありがとうございます。	
担任 1	いえいえ。今日はどうしました？	「面倒だなあ」
母親 2	あの、うちの子、学校でちゃんとやっていますか？	
担任 2	ええ。問題なく、元気にやっていますよ。	
母親 3	そうですか…	
担任 3	…	× 聞く態度に気をつけましょう
母親 4	あの、私の気にしすぎかもしれないんですけど、うちの子、2～3週間前ぐらいから、毎朝お腹が痛いと言ってトイレにこもって、学校に行きたがらないんです。	
担任 4	でも、休むことなく、ちゃんと出席してますよね。遅刻もないし、授業を休んでトイレや保健室に行くこともないですよ。	「心配性な母親ね」 × すぐに意見を否定しない
母親 5	今のところ、遅刻はさせたくないなと思って、私が急かして学校には行かせています。遅刻しそうなときは、いけないなとは思っているんですけど、学校の近くまで車で送ったりもしてまして。	
担任 5	…病院には行きましたか？	「過保護な母親ね…」
母親 6	いえ、まだ行っていません。	
担任 6	行ってみたらどうですか？	
母親 7	そうですね、はい…あの、でもうちの子、小さい頃から、特にお腹とか体が弱いというわけではないですよ。でも毎朝お腹が痛いって言うのは、もしかしたら学校に行きたくないとか、何か悩みがあるんじゃないかと思ひまして。息子に「何か悩みでもあるの？」って聞いてみたんですけど、本人は「ない」って言うんですよ。私の心配しすぎかなとは思うんですけども、このままいくと、もしかしたら不登校とかになるんじゃないかと思ひまして。	× 聴く態度に気をつけましょう

担任 7	・・・	「不登校？大げさな！」
母親 8	あの、先生の目から見て、うちの子どうでしょうか、大丈夫でしょうか？	
担任 8	佐藤くん、特に気になることはありません。友達との関係についても、私が見る限り問題ありませんよ、何年も子どもを見てきた私が言うんだから大丈夫ですよ。お母さんの気にしすぎではないですか。	× ちゃんと理解していないうちに安易に意見を伝えない
母親 9	そうですね……すみません。	
担任 9	そんなに気になるようでしたら、スクールカウンセラーに相談してみたらどうですか？話を聴いてくれますよ。	「面倒だから誰かに任せよう」
母親 10	はい……	
担任 10	そうしましょう、そうしましょう！ちょっとカウンセラーがいる時間を確認してみますね。	「よし！一件落着」

【解説】

担任は、母親の話をきちんと聴くことなく、「子どもに問題はなく過保護な保護者だ」と決めつけています。また、自分が母親や子どもに対応しようとする気はなく、面倒だからとスクールカウンセラーをすぐに紹介し、対応を任せようとしています。

母親の目線になると、「自分の気にしすぎではないか……」と思いつつ、勇気を出して担任の先生に相談しました。しかし担任は、母親の話を聴く様子はありません。さらに、すぐにスクールカウンセラーを紹介されたことで、たらい回しにされたような気持ちになり、担任を信頼する気持ちにはなれません。このような対応をされると、今後何か困ったことがあっても、相談しようという気持ちにはなれません。

良い聴き方

発言者	発言内容	「担任の心の声」、注意点
担任 1	佐藤くんのお母さん、学校まで来ていただいてありがとうございます。	○ まず相談に来てくれたことをねぎらいましょう
母親 1	こちらこそ、今日はわざわざお時間をとっていただいて、本当にありがとうございます。	
担任 2	いえいえ。今日はどうなされましたか？	○ 開かれた質問で話を引き出しましょう
母親 2	はい、あの、うちの子ですが、学校ではちゃんとやっていますでしょうか？	
担任 3	ええ。私からみて、特に気になる所はなく、元気にやっているように見えますよ。	
母親 3	そうですか……	「話しにくいことかしら……」
担任 4	お母さんからみて、何か気になることがおありなんですよね。 ゆっくりでいいので、教えてください。	○ 聴く姿勢を見せましょう
母親 4	はい。私の気にしすぎかもしれないんですが、息子が、2～3週間ぐらい前から、毎朝お腹が痛いと言って、トイレにこもって、あの、学校に行きたがらないんです。	
担任 5	そうですか、それは心配ですね。 佐藤くん、学校では授業を休んでトイレや保健室に行ったりすることもないですよ。 ちゃんと真面目に授業を受けています。 それに、毎朝お腹が痛いと言ったがらないということですが、佐藤くんは遅刻もないですよ。	○ 気持ちを推測し共感しましょう 「学校で気になることはないけれど私が気づいていないことがあるのかな……」
母親 5	はい。今のところ、遅刻させないように、私が急かして登校させています。 間に合いそうにない時は、車で学校の近くまで送ったりもしているんですけど……	
担任 6	そうですか。それで遅刻がなかったんですね。 それにしても、お母さんも毎朝、努力されていますね、大変でしょう。	「保護な気もするけれど母親なりにがんばっているのね」 ○ 対応の良し悪しはいったんおいて努力をねぎらいましょう
母親 6	そうなんです。 もう私が何度起こしても、グズグズしてちっとも起きてこないし、起きたら起きたで、今度はお腹が痛いと言ってトイレにこもってしまって、登校時間になってもち	

	つとも準備しないので、イライライライラしてしまっ	
担任 7	それはイライラしますね。	○ 共感しましょう
母親 7	はい。それでももう本当に、良くないなどは思っているんですけど、私つい毎朝怒鳴ってしまうんですよね。私が車で連れて行ったりするから、息子も甘えちゃってるところもあると思うんですけど、でも一度遅刻したり、学校を休んだりすると、そのままズルズルっと悪い方に行くんじゃないかと思ったら心配で。	「毎日たいへんそうだな・・・」
担任 8	お母さんは、一度遅刻や欠席をすると悪い方向に行くんじゃないかと心配だから、佐藤くんを怒鳴ったり、車で送ったりするんですね。あの、腹痛ということですが、病院で診てもらいましたか？	「母親も毎日がんばっているんだな」 「ところで身体は大丈夫なのかしら・・・」
母親 8	いえ、まだ行っていません。もともと特にお腹や身体が弱いということもないので。ですが、毎朝お腹が痛いって言うのは、学校に行きたくないとか、なにか悩みがあるんじゃないかと、私思うんですよね。それで、息子に「何か悩みがあるの？」って聞いてみるんですけど、息子は「ない」って言うだけで。今のところ、何とか学校に行っていますけれども、このままいくと、もしかしたら不登校とかになるんじゃないかと思ったら心配で。	
担任 9	お母さんは、佐藤くんが何か悩みがあって、お腹が痛いと言っているように思われるんですね。	○ 話をまとめましょう
母親 9	はい、そうなんです・・・	
担任 10	お母さんからみて、何か心あたりがありますか？	「どうしてすぐに悩みが原因と考えるのかしら」
母親 10	あの実は、小学校の時も、同じようにお腹が痛いと言って、学校を休んだことがあるんです。確か 4 年生の時でした。あの時も、毎朝お腹が痛いと言うので、学校を休ませていたんですけど、お昼ぐらいになると元気になりますし、病院に行っても特に問題がなかったんですよね。それで、学校に行きたくないからお腹が痛くなるのかな、と思ひまして。最初は聞いても何も言わなかったんですけど、結局、友達にからかわれるのが嫌で、学校に行きたくなくなつたみたいで。その時は、担任の先生にご相談して、結局、ちゃんと学校に行けるようになったんですけど。	「そうか！それで母親は心配していたのか」
担任 11	小学校の時に、今回と同じようなことがあったから、お	○ 共感しましょう

	<p>母さんも心配されているんですね。 話していただいて、ありがとうございます。 私の目からみて、これまでは気になる所はなかったのですが、明日から、気をつけて佐藤くんの様子をみてみますね。 お母さんの方でも、お家で気になるようなことがあればすぐに連絡してください。 お腹の痛みが、お母さんのおっしゃるように、悩みから来ているのかもしれませんが、身体のどこかが悪いという可能性もあると思います。 なので、一度病院でも診てもらった方がいいと思いますよ。 身体の方が何も問題ない、ということが分かれば、佐藤くんのお腹の痛みの理由をしっかりと考えることができますからね。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 打ち明けてくれたことに感謝しましょう ○ 今後の対応を伝えましょう ○ 相談を歓迎していることを伝えましょう 「母親の気持ちは分かったけれど何かの病気の可能性もあるな・・・」
母親 11	<p>確かにそうですね。 私も、小学校の時のことがあったので、今回も同じだと決めつけていたように思います。 まずは病院に行ってみたいと思います。</p>	
担任 12	<p>また病院に行かれたら、そこでどう言われたか、教えてください。</p>	
母親 12	<p>わかりました。またご連絡します。</p>	
担任 13	<p>お願いします。 もし心理的なものが原因ということでしたら、週 1 回スクールカウンセラーが来ているので、カウンセラーの先生に話してみるのもいいかもしれません。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 情報を提供しましょう 「私だけでは対応できないかもしれないから養護教諭や学年主任にも相談してみよう」
母親 13	<p>そういうこともできるんですね。また、考えてみます。 先生、今日は本当に、相談にのってもらって、ありがとうございました。 これからもどうぞよろしくお願いします。</p>	

【解説】

担任は、母親が相談に来たことをねぎらい、母親の気持ちに共感する言葉かけをしています。悪い例と同様に、母親が過保護ではないかと思う気持ちもありますが、母親の話を丁寧に聴いていくことで、心配している理由を知ることができ、本心から母親や子どもを心配する気持ちになりました。

母親の目線になると、担任の先生が丁寧に自分の話を聴いてくれたことで、今後も、何かあったらすぐに相談しようと思えます。問題は解決しませんでしたでしたが、信頼関係を築くきっかけとなりました。

資 料

平成26年度教員免許状更新講習受講者アンケート（文部科学省）

今後の教員免許状更新講習の改善のため、以下のアンケートに御協力いただきますようお願いいたします。

まず、回答にあたって、別紙1，別紙2のコード表を参照して、御自身の受講資格及び所有している全ての教員免許状について、該当する番号、記号を御記入ください。

なお、アンケートの内容については、信州大学免許更新支援センターが独自に設定しているものがありますので、合わせてご協力をお願いします。

※ 左詰めで御記入ください。

・受講資格

--	--	--	--	--

 年齢(○をつけてください)
1…30代 2…40代 3…50代

・所有している免許（お持ちの免許状について全て御記入ください。）

* 小学校教諭及び特別支援学校教諭は得意（専門）とする教科等をお書きください
()

回答は、本アンケートの ----- 線で囲まれた回答欄の該当する選択肢に○をつけてください。また、記述していただく箇所もありますので、御協力よろしくお願いします。

1. あなたの受講資格にあてはまるのはどれですか。

- (選択肢) a. 教育職員、または教育の職にある者【受講義務者】
b. 教員採用内定者
c. 教員勤務経験者
d. 認定こども園、認可保育園等に勤務する保育士
e. 教育職員になることが見込まれる者（教育委員会等が作成した臨時任用又は非常勤教員リストに登載されている者）
f. その他（ ）

2. 修了確認期限及び有効期間（以下、「修了確認期限等」という）は経過していますか。

- (選択肢) a. 受講期間内であり、まだ修了確認期限等は到来していない
b. 修了確認期限等はすでに過ぎている

3. 自身の更新時期（修了確認期限等）について、どのように確認されましたか。

- (選択肢) a. 都道府県教委、市区町村教委から通知等があった
b. 勤めている学校（園）の校長（園長）等から連絡があった
c. 文部科学省のホームページで調べた
d. 文部科学省に電話やメールなどで問い合わせた
e. 都道府県及び市区町村教委のホームページで調べた
f. 都道府県及び市区町村教委に電話やメールなどで問い合わせた
g. その他（ ）

4. 取得した教員免許状をどのように保管していますか。

- (選択肢) a. すぐに確認できる場所に保管している
b. すぐに確認はできないが、保管している場所は把握している
c. 保管している場所がすぐに思い当たらない
d. その他（ ）

5. 免許状所有者が更新講習の受講時期などを把握できるように、現行の教員免許状をカード化してはどうかとの意見がありますが、カードになった場合、どのような機能を期待しますか。

- (選択肢) a. 教員免許としての機能だけでよい
b. 公的な身分証明書としての機能
c. 民間企業等が提供するサービスを楽しむ機能
d. その他 ()

6. 修了確認期限等の延長により更新講習の受講時期が変わったり、また、平成21年4月以降に初めて免許状を授与された者（新免許状所有者）の場合は免許状の有効期間は最も遅く満了する有効期間に統一されるなど、次の更新時期などを正しく把握するためには、免許所持者としてお持ちの免許状の情報をしっかりと管理する必要がありますが、行政側にはどのようなサービスを期待しますか。

- (選択肢) a. インターネットで簡単に自分の免許状の情報を確認することができるサービスの提供
b. 新たな免許状の取得などにより有効期間が変更となった際に、更新講習の受講期間などの情報についても併せて提供
c. 申請に基づく全所有免許状の情報に係る証明書等の発行
d. その他 ()

7. 現在の更新講習においては、学校種・免許種にかかわらず共通に履修すべき内容を必修領域として受講することとされております。しかし、この必修領域については、扱う内容が多岐にわたり内容が薄いなどの意見があり、履修内容を精選すべきと言われております。そのため、教員にとって学ぶ必要性が高いと考える現代的な課題やテーマについては、学校種・免許種や教職経験に応じて履修内容を調整できる「選択必修領域」として新たに設けることを検討しております。現在の学校現場での必要性等から、あなたが受講を希望する研修内容はどれですか。(上位3つ選択)

- (選択肢) a. 学校を巡る近年の状況の変化
b. 学習指導要領の改訂の動向等
c. 法令改正及び国の審議会の状況等
d. 様々な問題に対する組織的対応の必要性
e. 学校における危機管理上の課題
f. 教育相談（いじめ及び不登校への対応に関するものを含む。）
g. 進路指導及びキャリア教育
h. 学校、家庭並びに地域の連携及び協働
i. 道徳教育
j. 英語教育
k. 国際理解及び異文化理解教育
l. 教育の情報化（情報通信技術を利用した指導及び情報教育（情報モラルを含む。）等）

8. 教員免許更新制の概要について、現在、文部科学省のホームページ等で周知を行っていますが、明瞭な情報提供を求める内容はどれですか。(複数回答可)

- (選択肢) a. 旧免許状と新免許状の考え方や違いについて
b. 修了確認期限等及びそれに付随する更新講習の受講期間について
c. 免許状の更新手続きについて
d. 更新講習の受講資格(受講対象者)について
e. 修了確認期限等を経過した場合の対応について
f. 更新講習の開設状況について
g. 更新講習の受講方法や受講すべき講習について
h. 修了確認期限等の延長及び更新講習の受講免除について
i. その他()

9. 教員免許更新制の概要について、どのような方法による情報提供を望みますか。

- (選択肢) a. 現在のホームページ掲載内容を明瞭にするだけで良い
b. いつでも確認できるリーフレット等を提供してほしい
c. 授与される免許状等(裏面等)に記載してほしい
d. とくに改善等の必要なし
e. その他()

10. 設問1において、「a. 教育職員、または教育の職にある者【受講義務者】」及び「d. 認定こども園、認可保育園等に勤務する保育士」以外の回答をした方に質問です。

10-1 免許状更新講習を受講した理由は何ですか。

- (選択肢) a. 今すぐにも教員になる意思があるから
b. 教員採用試験に合格、また、学校等から内定をもらったから
c. 修了確認期限等は過ぎてしまったが、将来、いつか教員になれるようにしておきたいから
d. 教員になるつもりはないが、免許の有効性を維持したいから
e. その他()

10-2 免許状更新講習の申込及び受講などで苦労したことは何ですか。

- (選択肢) a. 受講することができる資格を得ること
b. 受講すべき講習を開設している大学等を探すこと
c. 自分の都合にあった日程で開講している講習を探すこと
d. その他()

1 1. 設問 1 において、「d. 認定こども園、認可保育所等に勤務する保育士」と回答をした方に質問です。

1 1-1 免許状更新講習を受講した理由は何ですか。

- (選択肢) a. 勤務先の保育所が認定こども園となり、保育教諭になるから
b. 今すぐにも幼稚園等の教諭になる意思があるから
c. 修了確認期限等は過ぎてしまったが、将来、いつか幼稚園等の教諭になれるようにしておきたいから
d. 幼稚園等の教諭になるつもりはないが、免許の有効性を維持したいから
e. その他 ()

1 1-2 免許状更新講習の申込及び受講などで苦労したことは何ですか。

- (選択肢) a. 受講資格があることについての確認を取ること
b. 受講すべき講習を開講している大学等を探すこと
c. 自分の都合にあった日程で開講している講習を探すこと
d. その他 ()

1 2. 設問 1 において、「e. 教育職員になることが見込まれる者（教育委員会等が作成した臨時任用又は非常勤教員リストに登載されている者）」と回答をした方に質問です。

1 2-1 搭載されている名簿を作成しているところはどこですか。

- (選択肢) a. 都道府県教育委員会
b. 市区町村教育委員会
c. 学校法人
d. 私立学校関係団体 (団体名:)
e. その他 ()

1 2-2 名簿への搭載のために苦労したことは何ですか。

- (選択肢) a. 名簿に搭載する時期が定期的に決まっており、搭載までに時間を要した
b. 更新時期を過ぎている者や幼稚園免許所持者は名簿搭載の対象としていないなど、搭載できる名簿を作成している団体等がなかなか見つからなかった
c. 近い将来教員になる意思を示さない限り、名簿には搭載しないと言われた
d. その他 ()

ここからは、信州大学免許更新支援センター設定の独自のアンケート内容です。

1. 最新の教育事情について新しい知見に触れることができましたか
1 とてもそう思う 2 まあそう思う 3 あまりそう思わない 4 そう思わない

2. 最新の教育事情について新たに得た内容は何か

3. 最新の教育事情についてもっと触れて欲しいことは何か

4. 国の教育政策や世界の教育の動向について理解できましたか
1 とてもそう思う 2 まあそう思う 3 あまりそう思わない 4 そう思わない

5. 国及び世界の教育の動向で新たに得た内容は何か

6. 国及び世界の教育の動向でもっと触れて欲しいことは何か

7. 子ども観、教育観などについて理解が深まりましたか
1 とてもそう思う 2 まあそう思う 3 あまりそう思わない 4 そう思わない

8. 子ども観、教育観などの内容に触れて自分を見直そうと思ったことは何か

9. 子ども観、教育観などについてもっと触れて欲しいことは何か

10. 特別支援教育に関するものを含め、子どもの発達に関する脳科学、心理学等における 最新の知見を得ることができましたか
- 1 とてもそう思う 2 まあそう思う 3 あまりそう思わない 4 そう思わない
11. 子どもの発達に関する脳科学、心理学等で新たに得たことは何ですか
12. 子どもの発達に関する脳科学、心理学等でもっと触れて欲しいことは何ですか
13. 子どもの生活の変化を踏まえた課題を理解し、教科指導や生徒指導の改善をしようとする契機になりましたか
- 1 とてもそう思う 2 まあそう思う 3 あまりそう思わない 4 そう思わない
14. 教科指導や生徒指導について改善しようと思ったことがあったらお書きください
15. 教科指導や生徒指導の改善についてもっと触れて欲しいことは何ですか
16. 他の研修（総合教育センター研修、初任者研修、十年経験者研修、その他の研修）と重複している内容がありましたか
- 1 とても重複している 2 一部重複している 3 重複していない
17. 設問16で1もしくは2と回答された場合、他の研修と重複していると思われた内容は何か

設問は以上です。
御協力ありがとうございました。

[選択講習用アンケート]

平成26年度教員免許状更新講習受講者アンケート(文部科学省・信州大学)

このアンケートは、平成26年度文部科学省委託事業「免許更新制高度化のための調査研究事業」に基づいて、通常の受講後のアンケートに加えて実施するものです。趣旨をご理解いただき、ご協力をお願いします。

I 基本情報

(1)取得免許状等

- 1 幼稚園教諭 2 小学校教諭※ 3 中学校教諭(教科)
4 高等学校教諭(教科) 5 特別支援学校教諭※ 6 養護教諭 7 栄養教諭
※小学校教諭及び特別支援学校教諭は得意(専門)とする教科等をお書きください()

(2)年齢

- 1 30代 2 40代 3 50代

(3)勤務校

- 1 幼稚園(保育所) 2 小学校 3 中学校 4 高等学校 6 特別支援学校 7 その他

(4)職種

- 1 教諭 2 養護教諭 3 栄養教諭 4 講師 5 その他

II 調査項目

1 あなたが、教員免許状を取得した大学は、教育学部ですかその他の専門学部ですか。

- 1 教育学部 2 教育学部以外学部や免許状認定試験等

2 この講座を選択した理由は何ですか(複数回答可)

- 1 専門分野を深められる内容だから 2 興味・関心の高い講習内容だから
3 教科指導等に直接生かせる内容だと考えたから
4 勤務等の関係で、期日や会場を重視したから 5 その他

※その他を選んだ場合は具体的にお書きください。

3 講座選択の理由の観点から、この講習を受講しての感想をお書きください。(自由記述)

[更新講習修了者用アンケート]

「教員免許更新講習」修了者へのアンケート

1 受講年度 ア 平成 21 年 イ 平成 22 年 ウ 平成 23 年 エ 平成 24 年 オ 平成 25 年

2 受講場所 ア 全て信州大学 イ 一部信州大学 ウ 信州大学以外

3 受講が信州大学の場合 ア 教育学部 イ 教育学部以外

4 取得免許状等

ア 幼稚園教諭 イ 小学校教諭 ウ 中学校教諭（教科名 ）

エ 高等学校教諭（教科名 ） オ 特別支援学校教諭

カ 養護教諭 キ 栄養教諭

※小学校教諭及び特別支援学校教諭は得意（専門）とする教科等（ ）

5 年齢 ア 30代 イ 40代 ウ 50代

6 勤務校 ア 小学校 イ 中学校 オ 高等学校

エ 特別支援学校 オ その他

7 職種 ア 教諭 イ 養護教諭 ウ 栄養教諭 エ 講師 オ その他

8 信州大学の更新講習を受講しての満足度に当てはまるものを1つ選んで○をつけてください。

ア とても満足 イ やや満足 ウ 満足 エ やや不満 オ 不満

※ エ、オを選択された方は、その理由をお書きください。

9 本学での更新講習を選択した理由について、近いものに○をつけてください。（複数回答可）

ア 講習会場が近いから

イ 開催日の都合が良かったから

ウ 講習内容を見て興味を持ったから

エ 講師名を見て興味を持ったから

オ その他

※ オ その他 を選択された方はその理由をお書きください。

10 本学の更新講習を受講後、現在のあなたの様子を当てはまるものに○をつけてください。(複数回答可)

- ア 教員として意欲がわき、新しい取り組みをしようと思っている。
- イ 講習で得た情報を周りの人に伝えている。
- ウ 教員としての新たな取り組みを始めている。
- エ その他

※ エ その他 を選択された方は、現在の様子を具体的にお書きください。

11 来年度以降の本学の更新講習の充実のために、あなたの意見をお聞かせください。

(1) 講習の内容について、さらに充実を希望するものを三つ選んで○をつけてください。

- ア 幼児教育、
- イ 教科指導、
- ウ 道德教育、
- エ 特別活動、
- オ 人権教育、
- カ 生徒指導
- キ 福祉教育、
- ク 安全教育
- ケ 学校健康教育、
- コ 国際教育、
- サ 情報教育
- シ 環境教育
- ス キャリア教育
- セ 特別支援教育、
- ソ 学校運営
- タ 学級経営
- チ 防災教育
- ツ いじめ防止
- テ 主権者教育
- ト 食育
- ナ その他

※ ナ その他 を選択された方は、充実を希望する内容を具体的にお書きください。

(2) 講習の形式について、効果的と考える形式を1つ選んで○をつけてください。

- ア 講義のみ、
- イ 講義とグループ演習、
- ウ 講義と実習、
- エ 講義と実技
- オ e-Learning
- キ その他

※ キ その他 を選択された方は、講習の形式を具体的にお書きください。

13 今後の免許更新の在り方について、あなたのご意見をお聞かせください。(回答できる項目のみで結構です。)

※ 回答欄の数字の基準 3 そう思う 2 思う 1 思わない

(1) 必修講習について、あなたの考えにあてはまる数字に○を付けてください。

① 必修講習の内容について

- | | | | |
|---------------------------------|---|---|---|
| ・全員が受ける必修講習の内容としてふさわしかった。 | 3 | 2 | 1 |
| ・必修の講習内容は、今後の実践内容に役立つものであった。 | 3 | 2 | 1 |
| ・今、考えなければならない日本の現代教育の課題が示されていた。 | 3 | 2 | 1 |
| ・現場の問題が内容に取り入れられていた。 | 3 | 2 | 1 |
| ・内容が広すぎて、理解が不十分になってしまった。 | 3 | 2 | 1 |
| ・様々な学校の先生方と知り合える機会となった。 | 3 | 2 | 1 |
| ・教育の問題を新しい視点で考えることが出来た。 | 3 | 2 | 1 |
| ・理論的で現場の問題とは直結することができなかった。 | 3 | 2 | 1 |
| ・すでに知っている内容の講習内容で、重複してしまった。 | 3 | 2 | 1 |
| ・学校種によって、講習内容を変えて欲しい。 | 3 | 2 | 1 |

② 必修講習の形式について

- | | | | |
|-------------------------------|---|---|---|
| ・大学教員と学校現場の先生が共同で担当すると良い。 | 3 | 2 | 1 |
| ・演習もあって、勉強になった。 | 3 | 2 | 1 |
| ・違った世代で話し合うチャンスがあればよい。 | 3 | 2 | 1 |
| ・各学校種の課題が、共有できる場が欲しい。 | 3 | 2 | 1 |
| ・グループディスカッションした結果は共有した方が良い。 | 3 | 2 | 1 |
| ・現場からの提案に大学教員がコメントするなどの内容が良い。 | 3 | 2 | 1 |
| ・様々な立場からの方の提言を聞き、討論する形が良い。 | 3 | 2 | 1 |

・県が認定した研修会の中から研修を選んで、受講し認定して欲しい。	3	2	1
③ 必修講習全体に関わる要望			
・大学の講習が、県で行う研修と重複している。	3	2	1
・自分の受けたい必修の内容が選択できると良い。	3	2	1
・グローバル社会の観点から、今の学校に必要な話が聞きたい。	3	2	1
・必修なのに、日程によって違う内容の講習ではおかしい。	3	2	1
・教育哲学的な話が基本にあるべきだ。	3	2	1
・保護者からの苦情に対処できる演習講習が必要だ。	3	2	1
・教員のメンタルヘルスについての話は必修だと思う。	3	2	1
・いじめ、国際、学力、発達等今の教育課題と解決について知らせるべきだ。	3	2	1
・今の必修講習は、現場の指導や課題と直結していない。	3	2	1

(2) 信州大学の選択講習の中から、あなたが受けた講習で、ベスト3を選び、講習名書いてください。

(3) 受講された選択講習を、選択した理由は何ですか（複数回答可）

- ア 専門分野を深められる内容だと考えたから イ 教科指導等に直接生かせる内容だと考えたから
ウ 興味・関心のある内容だから エ 勤務等の関係で、開催日や会場を重視したから
オ その他（その他を選んだ場合は具体的にお書きください。）

14 教員免許更新講習についての感想やご意見がありましたら自由にお書きください。

[更新講習修了者の感想と意見（自由記述）]

○ただでさえ、日々忙しい業務に追われています。時間を割かれて良いもの、受講して良かったと思われる内容にしていただき、負担の無いよう考えていただけるとありがたいです。

(中信) (平成21年) (平成22年) (40代) (小学校)

○お金がかかる割に内容が活かされないことが多い。もっと学校で役立つ内容にして欲しいかやめて欲しい。また、C S Tの講座も免許更新に入れていただければ更に学ぶ意欲が高まりためになる。

(中信) (平成21年) (平成22年) (40代) (小学校)

○5年研や10年研や県のセンターでの研修などの受講をもって更新講習の受講に代替できるように是非制度を改めて欲しいと思います。

(中信) (平成21年) (30代) (小学校)

○センター研修を更新講習として認められれば良い。

・手続きが面倒です。

・必修が選択であることはおかしい。必修はすべての受講者が受けるから必修なのではないだろうか。

(中信) (平成21年) (30代) (中学校)

○自分に予定(10年研ともかさなっており)と会場の都合も考えて講座を選ばざるを得ず希望しても抽選にはずれてしまうこともありました。必ずしも受けたい物が受講できずというところがもう少し改善されると。

(中信) (平成21年) (30代) (中学校)

○この先もずっと続くのでしょうか?是非現場に行かせる内容のものをお願いします。

(中信) (平成21年) (40代) (小学校)

○現場教員の希望を取り入れて行えないだろうか。(中信) (平成21年) (40代) (小学校)

○制度化にあたって、最新の知識技能を身につけることが目的と説明があったことを記憶しています。自己負担もあることで少し魅力ある講座の提供を期待しています。(中信) (平成21年) (40代) (小学校)

○今日的な課題についてできるだけ具体的、実践的に扱っていただきたいです。

(中信) (平成21年) (40代) (小学校)

○参加しなければならない講習や研修の数が年々増え続けてきており職員、職場への負担が大きくなってきている。県総合センターの研修等も選択講習の単位として認めてもらえるとありがたい。

(中信) (平成21年) (40代) (中学校)

○本当に必要なのは教員の研修のために時間を使えるようにすることであり、その見直しが行われない中であまり必要性を感じずに受講するこの制度自体に莫大な予算を投じるのはおかしいと思います。

(中信) (平成21年) (40代) (中学校)

○たくさんの資料を後準備いただいたり、興味深いお話をしてくださった大学の先生方には感謝しています。今後もずっと続くなら、金銭的な負担や時間的な負担をもう少し軽減する対策をとって欲しいです。(中信) (平成21年) (40代) (特支)

○免許更新についてははじめは抵抗がありました。勉強になることがたくさんありいい機会をいただいたと思います。

(中信) (平成21年) (50代) (中学校)

○必修講習の講師によって、講習後のテストの方法にあまりにも大きな差があり、不満が残った。(当日、同一会場を受講した者のアンケートや感想で、不満と怒りが多かったことを記憶している。)話や情報とテスト方法があまりにも食い違っていて、不公平感、不満を抱いた者が多かったと思う。

講師が同一でないのは仕方ないにしても、評価の基準やテスト方法については統一するよう要望する。

・選択講習では、感想を述べたり、レポート形式でのまとめもあり、負担感が少なく、のびのびと自分の思いを記すことが出来てありがたかった。(中信) (平成22年) (平成23年) (50代) (小学校)

○日頃から教職員の研修は行われており改めて更新講習を実費で行うことに疑問が残ります。ただ教科の専門的な知識を講義するだけでは無く、大学で研究している実践的な内容に触れられる機会になればと願っています。(中信) (平成22年) (30代) (小学校)

○他の研修(10年研など)・学校の校務(研究、係)と重なると大変だと思う。

(中信) (平成22年) (30代) (特支)

○信州大学で行う講座については、長野県の地域性を踏まえた内容である方が良い。その方が教材研究としても役立つ。上記と同時に必修部分については、全国的に教育の課題になっていることについても取り上げて欲しい

(中信) (平成22年) (40代) (中学校)

○形式的なものになってしまっていると思う。 (中信) (平成22年) (50代) (小学校)

○無料であるべき。選択幅を広げて欲しい。 (中信) (平成22年) (50代) (中学校)

○教員として免許更新という制度が本当に必要であるか疑問を感じる。それより5年・10年件研のように、特定の条件がきたら受講する研修を充実した方が良いのではないかな？

(中信) (平成23年) (平成24年) (30代) (小学校)

○2年間にわたり更新講習を受けた。1年で終了させたかったが秋の講習は申し込みしたら抽選にはずれてしまった。夏は部活等で忙しいのに秋に受けられないのはとても残念な気がした。秋の講習の数も夏に比べると少ない。もっと講習の場を増やして欲しいです。

(中信) (平成23年) (平成24年) (40代) (小学校)

○大学の先生から専門的な内容を教えてもらうことも有意義で幅を広げることになりましたが、日所運の授業改善や子どもとの関わりをテーマにしたものもあるといいと思いました。校内外で行われている研修についても広く講習に位置づけていってもらえるとありがたいです。

(中信) (平成23年) (平成24年) (40代) (小学校)

○日常的に時間がないなか、ネットでの申し込みありがたかった。次回の実施もあるとすれば本人が忘れなうよう通知していただけるとありがたいです。県外の大学卒の場合で、認定講習で2種→1種に更新した証明書を手に入れるのに苦労しました。 (中信) (平成23年) (平成24年) (40代) (小学校)

○費用がもう少し低いとありがたい。 (中信) (平成23年) (平成24年) (40代) (中学校)

○養教対象の講習が少なくその中で選択し受講したところ日にちや講師が違うのに内容が重複するものが多くありました。出来れば内容が重複しないように講師の先生の間で調整していただけるとありがたいです。 (中信) (平成23年) (30代) (小学校)

○講義のみの講習は聞いているだけであまり頭に入らなかった。 (中信) (平成23年) (30代) (小学校)

○教員の資質向上につながるとは感じにくい。 (中信) (平成23年) (30代) (中学校)

○自分の専門分野の知識を深めたり、教科指導等に生かせそうな講習が受講出来マンネリ化している自分の指導を見直す機会となった。 (中信) (平成23年) (30代) (中学校)

○講習そのものは賛成だが、自分が本当に求めている内容を選択受講しそれを認定していただけるとありがたい。センター等の研修を認定して欲しい。 (中信) (平成23年) (40代) (小学校)

○必要なことだと思うが10年に一度必要かと言われると疑問を感じます。45~50歳くらいで一度行う程度で良いと思います。次の講習が53歳位なので、後10年もないかもしれないので労力とお金の負担が大きいです。 (中信) (平成23年) (40代) (中学校)

○研修内容は大変勉強になりました。免許更新講習はなんの為なのでしょうかね？教員は3万円もかけて免許更新までして頑張っているんだぞという世間へのアピールの為なのでしょうかね？ただの教員いじめなのでしょうかね？命をあずかる医師、看護師には資格更新させなくて良いのでしょうか？弁護士も警察官も消防士もです。無料の必修研修なら納得します。 (中信) (平成23年) (40代) (中学校)

○本当に現場で使える知識、情報を得る講習にして欲しい。大学の先生の大学生にするような内容では現場とかけ離れてしまっている。 (中信) (平成23年) (40代) (中学校)

○希望した講習では無く仕方なく選んだものであっても、受講してみると新たな視点を得られたり興味深い内容であったりした。どの甲州で会っても受けるだけの価値があると感じた。 (中信) (平成23年) (50代) (小学校)

○免許更新は必要ないと思います。 (中信) (平成23年) (50代) (小学校)

○センター研修などの研修会を講習に振り替えてほしい。専門教科の選択研修が少なく、あまり役に立っているとは思えません。 (中信) (平成23年) (50代) (中学校)

○近くの大学で受講出来ることはとてもありがたいです。信大が果たす役割はとても大きいと思います。

これからもアンケート等の声をお聞きいただきお願いします。 (中信) (平成23年) (50代) (中学校)

○講習単位の取り方(試験)をもっと厳密にすべきだと思う。 (中信) (平成23年) (50代) (中学校)

○講習は土日での参加で大変でしたが、授業で役立てることも出来、思ったより有意義でした。信大の先生方には工夫していただき本当にありがたかったです。

(中信) (平成24年) (平成25年) (30代) (小学校)

○毎年計画的に数単位講習を受ければ、1~2年間まとめて講習を受けなくても良くなるでしょうか。日程調整が思ったより難しいです。知り合いで日程が合わず希望ではなかったにもかかわらず東京まで講習を受けに行った先生もいました。免許が更新できなくなるのであればもっと受けやすくして行って

いただきたい。(中信)(平成24年)(平成25年)(40代)(小学校)
○必修について。教員の教養を高めるための講習と受け止めれば、内容もこれで良いと思うが、貴重な時間を割いて受講するのであれば出来れば明日からの教育実践につながる内容のものを学びたい、講師の先生方もとても工夫してくださっているだけに求める方向と与えられる内容が食い違っているのが残念。選択については、興味ある分野を選んで満足しています。充実した研修となりました。

(中信)(平成24年)(平成25年)(40代)(小学校)
○休日を使つての講習は大変なので、センター研修でも認めてもらえるようになると受けやすくていいと思いました。申し込みや手続きも簡単になると嬉しいです。

(中信)(平成24年)(平成25年)(40代)(小学校)
○学びたいことが学べるよう選択講習の内容を豊富に。各種研修会への参加で代替できるようにして欲しい。(中信)(平成24年)(平成25年)(40代)(小学校)

○選択講習で希望者の多い講座は回数を多くしていただけるとありがたいです。(中信)(平成24年)(平成25年)(40代)(小学校)
○希望が通らないので全員受け入れていただきたい。(中信)(平成24年)(平成25年)(40代)(小学校)
○日々の研鑽、自己更新にどの教員も努めていることが、免許更新には通話しない上に、日時、内容が指定された講習を自費で受講しなければならない不条理さは、受講回数を重ねても消えない。

(中信)(平成24年)(平成25年)(40代)(中学校)
○集中的に学習する意味で講習会は大事だと思いました。

(中信)(平成24年)(平成25年)(50代)(小学校)
○貴重な体験をさせていただきました。免許更新にとどまらず、知の探究的な講座も更に開設されると嬉しいです。(中信)(平成24年)(40代)(小学校)

○みなさんとお話し、自分の悩みが軽くなり、心がほぐれました。忙しく辛い思いをしているときほど、自分だけが不幸みたいにして思えて思考回路が自分勝手になるので、悩みを打ち明け合うだけでもみんな頑張っているんだと励まされ、勇気や元気をもらいました。昼休みなど偶然の出会いで席が近くになった方と自由に語らう時間も貴重なリフレッシュ勉強になりました。(中信)(平成24年)(40代)(小学校)

○受けなければ行けない講座をもう少し減らして欲しい。(中信)(平成24年)(40代)(小学校)
○現場の課題を即拾って取り上げてもらえるのとよりよいと思います。ただし企画して講義として下ろす時差があるのはやむを得ないかも知れません。英語の教科教育については県のセンター研修の高校や上級向けコースの方が実践的です。大学の先生ならではの様々な理論+現場を知っている教育センターの実技がミックスされると良いと思いました。どの大学の先生も丁寧に講義してくださった。世間のような教育界たたき目線で無く現場目線で良かった。(中信)(平成24年)(40代)(中学校)

○最初の年に身体を壊して、申し込んだものをキャンセルせざるを得なくなったが、2年間合ったので更新することが出来てほっとしている。(中信)(平成24年)(50代)(小学校)

○新しい考え方や時代感等学校勤務生活ではなかなか感じられないものを知る事が出来て良かったです。一緒になった高校の先生などとお話できて楽しかった記憶があります。

(中信)(平成24年)(50代)(小学校)
○受講してみれば充実して楽しい講習でした。私は常勤ではないので時間の余裕がありましたが、他の先生方は大変かと思いました。(時間も場所も)(中信)(平成24年)(50代)(中学校)

○更新講習の手続きがわかりにくく、大変でした。(中信)(平成24年)(50代)(中学校)
○嫌々いきました(正直…)けれども、学習は教えるより教わるほうが楽しくて、結局は、日々の指導に生かすことができて良かったです。今後も変化する社会に対応した内容をお願いします。

(中信)(平成24年)(50代)(中学校)
○受講料の軽減等を希望します。(中信)(平成24年)(50代)(中学校)
○学ばせていただきありがたかったです。(中信)(平成24年)(50代)(中学校)

○最初はなぜこんなことをしなければと思っていましたが、いろんな体験や経験を積んだ現在の自分の状況の中で、講習を受けることで、今まで以上に実感として分ったり、なるほどと納得したり本当に楽しく学べました。聞くこと全てが新鮮で新たな教育活動に取り組む意欲もわき感謝の気持ちでいっぱいでした。これからも、常に何か新しい刺激を求めて自分自身の研修を重ねていきたいと思います。

(中信)(平成24年)(50代)(その他)
○教育学部の内容と全学教育機構主催の内容との違いがあることを十分周知して欲しい。講師の研究し

ている内容を発表するだけの自己満足になっている講座も見られた。長野県の教育現場の課題は何で、それに対応するため必要なスキルを身につけたり、意識を変え足りするための内容を考えていきたい。

(中信)(平成25年)(30代)(中学校)

○講座は全て家から通いやすい松本キャンパスを選びました。受けた授業は長野キャンパスで行われていたりしましたが、日程と場所を優先して受講したクラスも楽しく学べる事が出来ました。一日中席に座っていることを考慮し飽きないように工夫された授業だったので、さすが大学にお先生は鞭撻者で知識が豊富だなと、同じ教える立場として刺激を受けました。(中信)(平成25年)(30代)(中学校)

○勉強になる講座であった。しかし、3万円以上の自費による負担、勤務上の負担を考えると、一刻もはやく無くしていただきたい。

(中信)(平成25年)(30代)(中学校)

○手続き等で時間をさく必要があったので大変だったのが、学べる良い機会となった。

(中信)(平成25年)(30代)

○必修講習では、医学部での先生から脳や頭部のけがについての講義をしていただき、わかりやすく、かつ、現場で事故がおこった場合に生かせる「内容で大変参考になりました。現場の活動や教育実践にいかせる内容を大切にあってくださっていて、ありがたかったです。

(中信)(平成25年)(40代)(小学校)

○選択講習は教育学部の講座を受講出来ると良い。日程との関係で他学部の講習も選択したが現場の実践には生かせずあまり満足できる内容ではなかった。更新講習の単位数を減らして欲しい。多忙なか、休日に受講に行くには負担感がある。

(中信)(平成25年)(40代)(小学校)

○希望した講座に通らないことがあった。できる限り落とすことなく受講出来るようにして欲しい。

(中信)(平成25年)(40代)(小学校)

○本当に必要なのでしょうかという疑問が残っています。そもそも何のためにはじめたのかというところに立ち返って、もっと現場にプラスになるような、と思ったりしますが、具体的に何がどうなれば良いかはよく分かりません。

(中信)(平成25年)(40代)(小学校)

○免許更新が本当に必要であるのか疑問に思います。別の研修などで良いのではないかと？

(中信)(平成25年)(40代)(中学校)

○無くして欲しい費用を考えると不要。

(中信)(平成25年)(40代)(中学校)

○免許更新のための講習として考えてみると、必修ではそのときの最新の情報を伝えてほしい。

(中信)(平成25年)(40代)(中学校)

○3万円を自己負担するのはおかしいので、県などの自治体が出して欲しい。

(中信)(平成25年)(40代)(中学校)

○研修は必要であるが免許更新という制度は必要ない。

(中信)(平成25年)(40代)(中学校)

○費用がかかりすぎる・希望する選択講習をとれるような工夫があればうれしい。(希望の集中した講習は、次年度以降、定員枠を増やしたり、開催日を増やしたり、松本と長野の両方の場所で行こうか。

(中信)(平成25年)(50代)(小学校)

○県で実施される研修会の内容と重複する部分もあり、研修会を選択講習の一部に充当してもらいたい。時間とお金の無駄をなくす意味で。

(中信)(平成25年)(50代)(小学校)

○受講前は面倒だなと思ったが自分の希望に合った講座と出会ったので有意義なものとなった。自己を振り返る良い機会となった。

(中信)(平成25年)(50代)(小学校)

○貴重な時間とお金を使ってのことなので実り多いものにしたい。講義、実習いろいろなものを取り入れて欲しい。

(中信)(平成25年)(50代)(小学校)

○夏休み中に講習を受けました。一週間という長い期間でしたが久しぶりに大学の研修を受け充実した日々でした。

(中信)(平成25年)(50代)(小学校)

○メールからの申し込みだけでなく、FAX郵送も認めて欲しい。(中信)(平成25年)(50代)(小学校)

○20代、30代、40代、50代が、同時に同じ内容の研修を受けることはどうかと思う。講師のお若い方のお話の内容は知っていることばかりだった。

(中信)(平成25年)(50代)(中学校)

○信大で講習を受けたいとも思ったのですが、パソコンを使っての申し込みがとても面倒でよく分からなかったため、FAXで申し込める他校の講習にしてみました。もう少し簡単だと思いました。

(中信)(平成25年)(50代)(中学校)

○現場とはちがった視点で講習が行われていて現場と直結しない面もあったが、客観的にはどのように見られていて、社会のニーズや世の中の流れに大して教育がどうあるべきかを考える機会になった。

- (中信) (30代) (中学校)
- 希望しても受講できないものはいくつかあった。受講できる人数・回数・期日をできるだけ増やしていただきたい。(中信) (40代) (小学校)
- 土・日の講習は、正直、休日がなくなることを考えるときつい。勤務にも関係するが、平日の方がありがたい。(中信) (40代) (中学校)
- あまりおもしろくなく形だけかと思ったが講座によっては大変勉強になるものもあった。(中信) (40代) (中学校)
- 選択講習が9月に集中してしまったので、8月から12月くらいまでの期間中の中で分散してできるようになるといいと思った。(中信) (50代) (小学校)
- 強制的かつ受講しなければ綿球失効という形の講習には反対ですが講習は役立つものや興味深いものもあると思います。講義型のもより、実習や制作、大学の現場など普段見られないものを見るなどがよいかと思います。(東信) (平成21年) (40代) (小学校)
- 必要の是非は考えた方がよいと思う。(東信) (平成21年) (50代) (中学校)
- 現場が多忙にならないように、時間数の減を要望します。(東信) (平成22年) (40代) (中学校)
- 手続きの大変さ、金銭的な負担、普段自ら参加する研修等の自己研鑽活動と大差のない教員免許更新制度そのものに反対です。「これを受けたから更新される」という部分のつながりが不明瞭で納得していない。(東信) (平成23年) (30代) (小学校)
- 賛否両論ありますが、受けたら受けただけのメリットはありました。ただ日程を組んだり、会場が遠かったりで、とても大変でした。(東信) (平成23年) (40代) (小学校)
- 人気のある講習に応募が集中し、抽選となる場合が多く、受講できないことが多かった。受講希望の多い講座は、回数を増やすなど対応していただけるとありがたい。(東信) (平成23年) (40代) (小学校)
- 日頃教材準備などの時間確保が難しいですので、演習に教材づくりなど、即授業に活かせる講座がたくさんあるとありがたいと思います。(東信) (平成23年) (40代) (小学校)
- この制度が始まって、まだ3年目の時で、この制度自体なくなるのか否かと言われていてやらされ感があったのも事実ですが、せつかくやるなら実りのあるものにといい、開催日や会場よりも、内容で選択し、受講しました。現場を離れ、講義を受けるのは新鮮で、どれも受けて良かったと思える内容でした。講師の先生によっては残念な講義もありました。熱意を持って私たちのために少しでも良かったと思えるようにと熱心に話をしてくださる先生は、こちらも気持ちが伝わり、充実感もありました。専門の方で、ただ文章を読んで進める講義は、内容が入ってきませんでした。(東信) (平成23年) (40代) (中学校)
- 選択講習での抽選はできるだけ避けていただきたい。東信 (平成23年) (40代) (中学校)
- 受講し、内容も自分のためになり、持ち帰った資料も、後で見返すときすぐ思い出せるような分かりやすいもので、有意義でリフレッシュできた5日間でした。(東信) (平成24年) (40代) (小学校)
- 選択講習に実技試験があり、受講生すべての技を見せていただけたのは、大変ありがたかった。(管楽器) (東信) (平成24年) (50代) (小学校)
- 教員の指導力向上につながる内容にしてほしい。(東信) (平成24年) (50代) (小学校)
- 多忙な中、時間の確保等、やはり大変です。(東信) (平成24年) (50代) (中学校)
- 自分が希望していた選択講習が抽選もれで受講できなかったのが残念だった。次の年に回して受講するかとも考えたが、1年で終わらせたかったのであきらめてた。人気のあるものは回数を増やしてもらえると嬉しい。抽選漏れを見越して三つ以上の講習を申し込んでいいことを知らず、三つまでしか申し込まず結果一つしか受講できないという結果だった。複数で申し込む人は優先順位をつけて申し込みと歌詞、より希望するものを受講できるようにできないものか。(東信) (平成25年) (40代) (小学校)
- 教育学部の講習内容は中途半端でつまらなく最悪でした。繊維学部、長野大学では、内容も良く考えてありとても勉強になりました。(東信) (平成25年) (40代) (小学校)
- 選択講習の内容についてはいろいろ工夫していただき興味深いものが多かったのですが、日程が限定されていること、希望が通るとは限らないこと、必修を含め負担はやはり大きく更新制度そのものの見直しを望みます。(東信) (平成25年) (40代) (小学校)
- 時々、大学の先生の講習を受ける機会は必要だと思います。(東信) (平成25年) (40代) (小学校)
- 教員として研修は非常に重要であると思うが、今の形では負担が大きすぎると思う。負担を軽減して

- いく方向で再考していただけるとありがたい。 (東信) (平成25年) (40代) (中学校)
- 確かに負担感はあるが、今のような更新講習であれば、日々の学校での業務にえいきょうするほどでもないので適当だと思う。講習の内容や会場がいろいろあると更に負担感は少なくなって良いと思う。 (東信) (平成25年) (40代) (中学校)
- 県外で講習を受けましたが新しい知識を得る事ができてよかったです。夏休みなどに受講できるので、私にとって負担にならなかったが金銭的に補助が出ると良いと思いました。同じ職種の方と(他県)出会う機会となり刺激となりました。講義も楽しく残りの教育生活 子どもの為にできることを頑張ろうと思いました。 (東信) (平成25年) (40代) (中学校)
- 大変な負担を正直感じております。更新講習の必要な方を抽出し実施すべきと思う内容も多かったです。大学の負担も大きいのではないのでしょうか。 (東信) (平成25年) (40代) (その他)
- 申し込みをしても外れる事があり残念。申し込み方法が分かるまでにかなり時間が必要で負担が大きい。夏休みの平日の講習を増やしていただけると受けやすい。 (東信) (平成25年) (50代) (小学校)
- 自分が常に学んでいく必要性を感じさせられました。 (東信) (平成25年) (50代) (小学校)
- 普段の生活の中で、講習や研修を受ける機会や、真剣に話を聞いて、自分の考えをまとめる機会が少ないので、良い経験になった。「認定」ということで緊張感をもって受講できた。 (東信) (平成25年) (50代) (小学校)
- 教科専門、専門外と幅がある知識を深められた。 (東信) (30代) (小学校)
- 広い視野で物事を多面的に思考判断できるよう、更に、研修を進めていきたい。 (南信) (平成21年) (30代) (小学校)
- 出来るだけとりやすいように日程や会場を設定して欲しい。 (南信) (平成21年) (30代) (小学校)
- 本当に必要か再考して欲しい (南信) (平成21年) (40代) (中学校)
- このアンケートの質問項目は+のものと-のものが混在しています。答えにくいです。理論的な部分も大切ですが、現場の指導に生かしたり、課題を解決したり出来るような講座であると良いです。 (南信) (平成21年) (40代) (中学校)
- 勉強になる機会とは思いますが、住んでいる地域によって、時間的・経済的な負担が増えることのないような配慮をお願いしたい。 (南信) (平成21年) (40代) (中学校)
- センター研修、他の研修も認めて欲しい。無料にするべきだと思う。 (南信) (平成21年) (40代) (その他)
- 講習は教員の資質向上を目的としています。記憶力を試すようなテストをすることは本来の目的にそぐわないのでやめていただく方向でお願いします。希望した講習が人数制限により、ほとんど受けることが出来ませんでした。希望者の多い講習も受講できるようにして欲しいです。教育に関する講習を受けたくても、(南信)東信地方の教諭は遠方というハンディーがあり、あきらめる者も多いという現状があります。遠方までいかなくても教育に関する講習がうけられるように会場を設けていただきたいです。 (南信) (平成21年) (50代) (小学校)
- 難しい内容もありましたが、免許更新そのものよりも、大学の先生方が我々のために用意して下さった講義を聴くことが出来た貴重な機会だったと思います。更新制度ではなく講習を用意して下さった大学の皆様に感謝しています。 (南信) (平成21年) (50代) (小学校)
- 受講手続き等全てパソコンからで初年度のため苦勞しました。せめて受講票は送ってもらいたかったです。妊娠中の方、育児休業中の方などには、丸一日堅いイスに座って講義を聴くことや家を空ける事が負担になると思います。受講を先へ送るなどの方法はないのでしょうか。 (南信) (平成21年) (50代) (小学校)
- 講義ではなく、レポート提出、面接などの方が、教員の資質向上が図られると思います。 (南信) (平成22年) (平成23年) (40代) (中学校)
- もう少し近くでしてくれるとうれしいです (南信) (平成22年) (平成23年) (50代) (小学校)
- 講習できる場所が増えるとよいです。 (南信) (平成22年) (30代) (小学校)
- 自分で選択しても定員が少なく、受講できない講習もいくつかあり、残念でした。受講した講習については新しい引き出しが増え、ありがたかった事を覚えています。(南信) (平成22年) (30代) (小学校)
- 外国語の教諭として選択できる講義が少なくて困りました。他の教科の講義に興味があっても中学校教諭が対象外でとれなかったのが、より興味のあるものが受講出来ると良いと思いました。 (南信) (平成22年) (30代) (中学校)

○教員が本当に必要としている事が受けられるものでなければ、それにかかる時間もお金も無駄と感じてしまう。お忙しい中講義をしてくださるのに、講師の先生方にも失礼になってしまうと思います。

(南信) (平成22年) (40代) (小学校)

○長野県総合教育センターで行っている研修講座でも単位になるシステムだと良い。

(南信) (平成22年) (40代) (小学校)

○時間数が多い上、日常勤務を行いながら土、日を利用して受講したが大変さを感じた。

(南信) (平成22年) (40代) (小学校)

○より一層、研修が深まる内容を求めます。

(南信) (平成22年) (40代) (中学校)

○更新講習のあり方を大学からも文科省に意見を述べると良いと思います。

(南信) (平成22年) (40代) (中学校)

○現場で直接役立つ講習も入れてもらえるとありがたい。

(南信) (平成22年) (50代) (中学校)

○特になし

(南信) (平成22年) (50代) (中学校)

○大学の先生の講義を受けることにより、様々な事項を相対化することが出来たと思う。現場の中だけにいてもなかなか難しい事だと思う。武者准教授の「今日の学校制度改革・教員制度改革」、川島教授の「登校支援を考える」は必修講習の講義であったが現場では知る事の出来ない、語られもしない内容で、まさに目からウロコであった。学んだなど言う気がした。

(南信) (平成22年) (50代) (中学校)

○農学部での講習を増やして欲しい。必修も選択ともに。

(南信) (平成23年) (平成24年) (30代) (小学校)

○参加する私たちが「何か学び取ろう」という意識で取り組む気持ちがないと参加しただけに…になってしまうと思いました。今回の研修で、多くの講師の先生にお世話になりましたが、免許講習の意義や現場の実情を理解した上で講義は、今後の意欲につながりました。

(南信) (平成23年) (平成24年) (40代) (小学校)

○下伊那から長野の教育学部は遠いので、農学部での講座や教育学部から農学部へ出張講座を増やしていただくとありがたい。

(南信) (平成23年) (平成24年) (40代) (小学校)

○専門的な内容についてお聞きできるのは貴重な機会だった。お金がかかるのは、しかたがないが、少なければ少ないほどありがたい。

(南信) (平成23年) (平成24年) (40代) (中学校)

○選択できるものが限られていた。本当に必要なのでしょうか？ 機をとらえての研修の方が身につくと思います。

(南信) (平成23年) (平成24年) (50代) (小学校)

○10年間やったらもうやめてもいいのではないかと思う。

(南信) (平成23年) (平成24年) (50代) (小学校)

○すぐに教室にいる子どもたちに結びつく講座が増えると良いと思う。講師の先生方は受けやすいようにとても気を配ってお話をしてくださった。

(南信) (平成23年) (平成24年) (50代) (小学校)

○夏休み中等に集中してやっていただけて良かった。(南信) (平成23年) (平成24年) (50代) (中学校)

○現場に生かされる実践的な講習をお願いします。(南信) (平成23年) (30代) (小学校)

○自己負担が多い (南信) は特に長野までの講習を受けるために前泊したりと非常に不便

(南信) (平成23年) (30代) (小学校) (特支)

○(南信) での開講を強く望みます。(南信) (平成23年) (30代) (中学校)

○全体の労力を考えるとなくても良いと思います。(まだ指導案書いて方がよいかな)

(南信) (平成23年) (30代) (中学校)

○講習内容について考えるのは大変だと思いますが人気があったり是非受けてみたいという講座が長野会場に集中していた気がします。(講座数も) 是非(南信) 地区の教員も近場で行ける講座を設けてください。

(南信) (平成23年) (40代) (小学校)

○金銭面で自費というのが大変です。補助ができるとありがたい。休日に講習ではなくセンター研修のようなものが振り変えられるようにして欲しい。

(南信) (平成23年) (40代) (小学校)

○講習にかかわらず、フリーにできると良い。(南信) (平成23年) (40代) (小学校)

○今すぐやめるべきである。(南信) (平成23年) (40代) (小学校)

○貴重な時間を使っての研修ですので、出来ることなら自分の専門性を高めることにつながる内容の研修を受講出来るとありがたいです。(勤務日、開催日会場から考え受講したのは、受講したのは大学レベルの特殊分野の内容のものになってしまいました。それは、それで、興味深くお話を聞ける部分もありましたが、すぐに自分の仕事に活かせるものではありません。)(南信) (平成23年) (40代) (小学校)

- 選択講習の人数に制限があり、受けられないと単位が取れないので、仕方なく他の講座を選ばないといけない事があり残念でした。(南信)(平成23年)(40代)(小学校)
- 交通費の支給がないため僻地勤務等で都市部に住んでいない際に講習のタイミングが合ってしまうと時間的・金銭的に負担が大きく不公平感が大きい。講習も内容ではなく会場や近さや開催日の都合を考慮して決めてしまいがちになってしまう。教育センターで実施にしている研修と振り変えていただくなど負担を軽減して欲しい。(南信)(平成23年)(40代)(小学校)
- 勤務時間、交通費、講習内容ができるだけ均等とされるよう配慮すべきです。
・この制度の効果を検証していただきたい。(南信)(平成23年)(40代)(中学校)
- 選択講習で筆記試験があったが、選択により筆記試験の具異数にばらつきがあった。筆記試験の回数は同じにすることが望ましいと思う。(南信)(平成23年)(50代)(小学校)
- 明日からの教育実践に直結するような講習内容の講座を増やして欲しい。(南信)(平成23年)(50代)(小学校)
- 校内での教職員の勤務は多忙を極めている。研修も大切だということは十分理解していますが、負担感がとてもあります。もっと簡略化につとめてください。(南信)(平成23年)(50代)(小学校)
- 研修会が多く内容も重複していることが多い中、そこのプラスとしての講習は、よほど内容の充実や実習、実技を交えたものにしないと「ああまたか」ということに練りかねないと思います。(南信)(平成23年)(50代)(中学校)
- 前政権の民主党の公約の通り廃止した方が良いと思います。(南信)(平成23年)(50代)(中学校)
- 必修では、大学生に戻ったときのように、教員とは、学校教育とは、ということを変更して学習できて良かったです。「よし、夏休み明けから頑張るぞ」という気持ちになりましたが、子どもの為に、日々の授業にいきる、すぐ活かせることも教えていただけるとありがたい。(南信)(平成24年)(平成25年)(30代)(小学校)
- 確かに自分自身が全く知らない分野もあり、学びがなかったとは思わないが、今後どういう形で免許更新がされていったらよいかと疑問に思った(南信)(平成24年)(平成25年)(30代)(小学校)
- いろいろな各分野の専門家を講師として呼んでくださり魅力ある話もためになる話も聞いた。(南信)(平成24年)(平成25年)(40代)(小学校)
- 勤務の関係で日程を考えないといけないのでそこを一番配慮して欲しい。たとえば、同じ講習同じ日程で行くと2年間の衣連れでも受講出来なくなるといったことを配慮して欲しい。選択講習の一つを科学特別振興機構で受講したが、また何度でも受講したいと思う内容だった、信大でもそういう講習を実施して欲しい。(南信)(平成24年)(平成25年)(40代)(中学校)
- 費用がかかる(南信)(平成24年)(平成25年)(50代)(小学校)
- 休日を6時間使い、交通費、受講料ともに自費で負担が大きい。貴大学には申し訳ないですが、制度の廃止を強く求めます。(南信)(平成24年)(平成25年)(50代)(小学校)
- (南信)に居住していると長野キャンパスまでの移動がとても大変だった。農学部キャンパスにも魅力ある講習があるとありがたい。(南信)(平成24年)(30代)(小学校)
- 何しろ大変でした。松本キャンパスまで6回はつらかったです。大学以外での講義も考えてもらいたい。(南信)(平成24年)(30代)(中学校)
- お金を取ってやらなくても現在の課題に照らして、総合教育センターが講座を開いているので、その講座を受講すれば良いので免許更新講習は必要ない。特に10年研の先生はかぶってくる。(南信)(平成24年)(30代)(中学校)
- 教員としては、負担が大きいと感じております。(南信)(平成24年)(30代)(中学校)
- 必要だと思うが、日程・開催会場などで選択肢は狭かった。手続き、申請など手間が多いように感じた。(南信)(平成24年)(30代)(中学校)
- 5年。10年研などと重なりがあると、研修に追われてしまう。校外の研修は思いの外重いです。特に担任をもっていると、他の先生にも負担です。日程を重視したため、会場が遠くなったり、交通費を考える、金銭的にも負担が多い。(南信)(平成24年)(30代)(中学校)
- 必要感のある講習内容になるといいのですが。(南信)(平成24年)(30代)(中学校)
- 日頃とはちがった内容で教職を学ぶことが出来、所属する中学以外の現状も知ることが出来有意義でした。演習より講義の方が多くの情報が得られます。時間が限られているので講義がありがたいです。資料が多く勝つ読みやすくとまっていて勉強になりました。(南信)(平成24年)(30代)(中学校)

○このようなアンケートを有効に使っていただき、次回の免許更新の際にはより魅力的な講習があればいいなと思いました。(南信)(平成24年)(30代)(中学校)

○形式的なものが先走り、必要感のあるものとは感じられません。楽ですが、個々の研究テーマを深められるような幅広い内容を受け入れてもらいたいと感じています。(南信)(平成24年)(40代)(小学校)

○手続きがよく分からないところがあったが文面などで丁寧に知らせていただいたことが良かった。研修の内容でよりそれぞれの専門の分野を深められる講座が今より多いと良い。(南信)(平成24年)(40代)(小学校)

○意外におもしろかった。が、講習に関わる費用が高額で悲しい。加えて、開催日、会場を最重要視せざるを得ないため、自分の免許とはあまり関係ない内容の講習をとり、それはそれでとても新鮮だったが、これで免許を更新させていただいて良いのかとも思った。たとえば、英語科だったら、ふだん時間の制約でとることができない「英会話集中ブラッシュアップ講座」や社会科なら自分の専門外の時代のことを学ぶ講座等、知識を豊かにできる内容があればよいなあと感じた。(南信)(平成24年)(40代)(中学校)

○負担が大きいかと思います。(南信)(平成24年)(40代)(中学校)

○学習の良い機会だととらえることが必要だと思います。受講費用が安くなって欲しいです。(南信)(平成24年)(40代)(中学校)

○やればやっただで意義はあると思うが、現場の忙しさを思うと、受講の適応範囲を広めても良いと思う。(南信)(平成24年)(50代)(小学校)

○決められた期間で受講申し込みのできた講座を受講するので必要を感じない講義も多かったように思います。大学の先生は専門には詳しくても、現場の諸問題、特におうちの人の対応や特別に配慮を必要とする子の対応について詳しい先生のお話を聞けると役に立つような気がします。(南信)(平成24年)(50代)(小学校)

○必要ない(あると言うことが前提のアンケートなので答えられない。)(南信)(平成24年)(50代)(小学校)

○駐車場について脳少し配慮していただけるとありがたい。(南信)(平成24年)(50代)(小学校)

○講習内容を提供される大学側は内容を吟味され適切でタイムリーな内容になるよう工夫されていて良かったと思うが自己負担をして10時間以上の高速の中でする制度は必要なく、研修学会等ですべきであり、後進性ドンには反対です。即廃止を願いたい。(南信)(平成24年)(50代)(小学校)

○現場の教師は毎日ががんばっています。夏休みや休日を返上して、受講しなければならないのはきついと思います。(南信)(平成24年)(50代)(小学校)

○費用が自己負担であることがおかしいと思います。(南信)(平成24年)(50代)(中学校)

○自分の身になる講習を受けたい。(南信)(平成25年)(30代)(小学校)

○教員免許更新制度はなくしてほしい。教育会や同好会、校内校外研修等、実践を通して学んでいる。大学の講義はほとんど実りがなく、日々の多忙化を加速させている。本来の仕事に向き合う時間が削られ、必要感のない形だけの講習は苦痛でストレスがたまる。本来の仕事に集中できる環境を作ってほしい。(南信)(平成25年)(30代)(小学校)

○学校現場が置かれている状況を踏まえ現状に即した内容の講習を受けたいと思います。(南信)(平成25年)(30代)(中学校)

○教授の専門の話を知ったり考えたりすることが基本であり、それは現場のニーズに基づいたものとそうでないものがあったと思います。が、それでよいと思います。(南信)(平成25年)(30代)(中学校)

○毎年行われている普通の研修のような印象を受ける。研修講座の種類が更に多くあるとありがたい。(南信)(平成25年)(30代)(中学校)

○現場で働きながらの受講にはかなりの負担があります。更新のあり方を再検討し、教職員の負担を軽減して欲しい。(南信)(平成25年)(40代)(小学校)

○受講する前は正直面倒くさいなと思っていましたが、受講後はおもしろかった、受講してよかったと思える内容でした。久しぶりに大学の講義室で1日みっちりでしたが、あのイスは大変疲れます。サーバーへの不正アクセスの件、今後更にセキュリティー面を強固にしてください。(南信)(平成25年)(40代)(小学校)

○時間、地理的環境、家庭の関係で、今回は放送大学での受講をしました。近くで受けられる内容が増えれば、信大での受講も可能になるかもしれません。(南信)(平成25年)(40代)(小学校)

- 日程的にもっとコンパクトになればありがたい。(南信)(平成25年)(40代)(小学校)
- 免許更新講習の存在自体には疑問があるが講習については勉強になりました。こういう機会に限らずこのような機会があれば良いと思いました。(南信)(平成25年)(40代)(小学校)
- 普段なかなか研修することの出来ないような内容の講習も選択することが出来、つがった視点の話を聞いたり職場以外の学校の先生とも意見を交わすことが出来、大変良い機会だったなあと感じています。(南信)(平成25年)(40代)(小学校)
- 道路事情で遅刻、または、様々な理由で講習日に受講できなかった時に、他の講座に振り替えてほしい。そのまま不認定にされるのは納得できない。(南信)(平成25年)(40代)(中学校)
- 金額や事務処理の負担が多い(南信)(平成25年)(40代)(中学校)
- 専門の教科や教育関係のものが松本や長野に集中しているので(南信)からは受けにくく理科に偏ってしまう。もっと各会場でも分けて開設していただくとありがたい。(南信)(平成25年)(50代)(小学校)
- 学習の場としては良かったが負担が大きかった。(南信)(平成25年)(50代)(小学校)
- 自分にとっては大変役立つ学習ができました。ありがとうございました。(南信)(平成25年)(50代)(小学校)
- 日々忙しい教職員にとっては、免許更新講習は負担です。(南信)(平成25年)(50代)(小学校)
- できるだけ近くの会場で受けられるようにしてほしい。宿泊して連日というのは、泊まる場所確保もたいへんだった。(南信)(平成25年)(50代)(小学校)
- 講習を受けることは自分の勉強になるので良いと思います。興味ある(専門のもの)講習(選択)我しく無く選んだ講習がとても難しい内容でした。(授業の分からない子どもの気持ちが分かりました。)(南信)(平成25年)(50代)(小学校)
- 廃止すべきである(南信)(平成25年)(50代)(中学校)
- 必修講習、選択講習ともに講師の先生方が大変意欲的に工夫された講義を展開していただき、私自身刺激を受け、自分の授業を見返す本当に良い機会となりました。すべての先生方が誠実な態度で講義をしていただいたことがとても印象に残っています。(南信)(平成25年)(50代)(中学校)
- 長野県は夏休みが短く、他県の選択研修を受けたいと思っても休まなければ(担任であれば2学期のはじめは無理)ならず、受講できなかった。選択は、久しぶりに大学生になった気分、自分の教科に関わる研修を深められて良かった。ただ、交通費や宿泊代など多大な出費がとてもたいへんです。(南信)(平成25年)(50代)(中学校)
- 最新の事情を知る上で良い機会であったが、多忙な折、講習時数の削減をお願いしたい。(南信)(平成25年)(50代)(中学校)
- 日常的な研修や実務で多忙なので、専門的な必要な内容に絞り時間的な負担を減らして欲しい。教員免許更新そのものがなくなると良いと思う。(南信)(平成25年)(50代)(中学校)
- 申し込んでもなかなか受講できない講座があるとのこと(職員間で話題になっている)希望した講座が受講できるような配慮をいただけるとありがたい。(東信)(平成21年)(平成22年)(50代)(中学校)
- はじめは乗り気ではなかったのですが、時事問題がこれからの子どもたちのおかれる状況など、これから私たちが知っての方が良い内容を知ることができ、勉強になりました。選択も新しいことが学べて良かったです。費用を負担すること、時間を費やすことを考えると、更新講習の方法や制度について、改善していただければありがたいもあります(東信)(平成24年)(平成25年)(40代)(小学校)
- 会議や鯛解凍の日程が入ったりして、時間的に厳しい面もありましたが、現代教育の現状、課題について学習する機会を与えていただきありがたかった。(東信)(平成24年)(平成25年)(40代)(中学校)
- 全体講義形式だったので、もっと小グループで、様々な校種や年代の先生と討論するような形式が良かった。(東信)(平成24年)(30代)(小学校)
- 人気のある講座は抽選もれしてしまって残念でした。そのために、仕方なく他の講習を…というのも失礼です。今、足りないものを学べる場として、活用できるのであれば、教員の資質向上になるのではないかと思います。教育学部の先生のお話はやはりわかりやすく勉強になりました。(東信)(平成24年)(30代)(小学校)
- 勤務校の近くに受講できる大学があるとありがたいと思います。(東信)(平成24年)(40代)(中学校)
- 大会の引率等ができない。(北信)越大会、体験入学、全国大会など考慮されないのか
- ・あまり更新講習というようにガチガチにシステム化しないでもらいたい。

- ・現場でとてもやりやすいということがありません。
- ・できることなら、研修は機会として良いと思うが、更新講習はやめてもらいたい。運転免許と同じように考えてもらっては困る。
(東信)(平成25年)(40代)(中学校)
- ただでさえ忙しいのに、このシステムによりさらに忙しくなるのは困る。
- ・目の前の生徒と向き合える時間や、目の前の生徒のために使える時間を削られるのは残念。専門性を高められるための研修などに参加した場合、免許講習のとしての単位認定にするなどの工夫をし、負担を減らす方向も教えていただけるとありがたい。
(東信)(平成25年)(40代)(中学校)
- この講習が本当に必要なのか、各方面で真剣に検討していただきたい。今のままの講習のあり方では、時間とお金の無駄だと感ずる。大学側は現場がどのような研修を望んでいるのか、丁寧にリサーチして欲しい。
(東信)(平成25年)(50代)(小学校)
- 信州大学は申し込み締め切りが早く受講できませんでした。(東信)(平成25年)(50代)(小学校)
- 夏休み等、長期休みを利用して研修したいと思います。申し込みが遅くなると定員がいっぱいで受けられないこともあると思われるので、定員に余裕を持たせてほしいと思います。受ける前は、しかたないという気持ちでしたが、なかなか勉強できない内容だったり、知らなかった(考えたことがなかった)内容だったり、学ぶことがたくさんありました。
(東信)(平成25年)(50代)(小学校)
- できるだけ、日を選択できるように、多いほどよい。
(東信)(平成25年)(50代)(小学校)
- 受講すべき大学等の専門性もあり、独自性も尊重されるべきと思うが、文部科学省が定め実施するものとして、ある程度共通に受講しなければならない内容(必修講習がそれにあたると思うが)が、どの大学等でも、共通になっていると良い。(教員免許更新講習全体の課題として)
(東信)(平成25年)(50代)(中学校)
- 貴重な時間とお金を使って受講するので、魅力ある講座を常に希望します。また、信大でもいろいろな学部を会場に、教育学部の先生が講座を開いてくだされば、いろんな地区の教員が受講しやすくなると思います。
(北信)(平成21年)(30代)(小学校)
- 日々の実践に直結する内容ならいいがなかなか思い通りの講習がない。時間的にも経済的にも負担が大きい。
(北信)(平成21年)(30代)(小学校)
- 時間、お金をかけて講習に参加しますので、日々の教育活動にプラスになるような講習になればと思います。内容、開式、参加者の心構えなど現場の教員のニーズに応えられるものになることを期待します。
(北信)(平成21年)(30代)(中学校)
- 費用の補助が欲しいです。
(北信)(平成21年)(30代)(中学校)
- 同じ年で受講する者と免除される物があることは少し納得出来ない。(40代の管理職主事)
(北信)(平成21年)(40代)(小学校)
- 必修も必要だと思うが、選択中心に意欲高まる参加型の研修が良いと思う。(北信)(平成21年)(40代)(小学校)
- 免許を複数持っているが、その時点で更新するものと更新しないものを選べると良いと思う。
(北信)(平成21年)(40代)(小学校)
- 日々忙しい中で講習を受けるのは大変なので、センター研修などの中で習得できるといいと思う。
(北信)(平成21年)(40代)(中学校)
- 市教委研修やセンター研修など幅広く研修を認めていく方向でどうかと思います。10年目というよりは10年間で取得するという研修でも良いのでは無いかと思います。特に選択研修は。
(北信)(平成21年)(40代)(中学校)
- 講習会を行うことが費用・時間等をかけるに見合った有効なものなのか検証を。(北信)(平成21年)(50代)(小学校)
- 講習を受けることについては研修を積むということであってもいいことだと思うが、更新講習を受けないと免許が失効するというのはおかしいと思う。ほかの免許などと同様に教員免許を取ったら失効しないというようにして欲しい。
(北信)(平成21年)(50代)(特支)
- 付属学校園の公開研究発表会の中に更新講習があるのは良いと思います。やはり我々の勝負するところは授業ですので、授業力アップが図れるような講習が増えていくと良いと思います。更に、専門の教科の授業力が伸びていくようにしていかれると良いと思います。
(北信)(平成22年)(平成23年)(30代)(特支)
- 夏休みに集中してやりたい。
(北信)(平成22年)(平成23年)(40代)(小学校)

○手続きがとても大変。お金を払って受講しているが負担が大きいと思う。必修の内容をもう少し工夫していただきたい。免許更新を行う意味がいまいちしっかり伝わっていない。大切な時間を使い、代金を支払っているにもかかわらず (北信) (平成22年) (平成23年) (40代) (特支)

○教科教育についての選択史が少ない。文学(小説)教材、説明文教材がほとんど無い。

(北信) (平成22年) (平成23年) (50代) (中学校)

○ただでさえ忙しい毎日免許更新講習は本当に必要なのかと考えています。大学側も大変そうで迷惑そうでした。今後検討していただけるとありがたいです。 (北信) (平成22年) (30代) (小学校)

○教科の内容を小学校なら小学校で生かせるものにしていただけるとありがたい。今の子どもたちに生かせる内容で。 (北信) (平成22年) (40代) (小学校)

○県で行う研修を免許講習の単位として認定するシステムにして欲しい。10年研、5年研などいろいろな研修と免許更新が重複してしまいとても大変そうであった。(北信) (平成22年) (40代) (小学校)

○受講希望が叶うように講座の設定をして欲しい。 (北信) (平成22年) (40代) (小学校)

○必修よりも選択の方が興味深く受講出来ました。自分から選んだ点と、教育現場に直結している内容では必ずしもないことが良かったと思います。教育現場から離れた視点で物事を考えられた時間が貴重でした。 (北信) (平成22年) (40代) (中学校)

○講習に関しては勉強になることも多く親切で適切な指導でありがたかった。しかし、負担となることが否めない。 (北信) (平成23年) (平成24年) (30代) (中学校)

○特別支援についてもっと勉強したいと思っているが受講希望が多くて希望通りにならない。もっと他団体がやっている研修会(カウンセラー協会)なども対象にして欲しい。

(北信) (平成23年) (平成24年) (40代) (小学校)

○希望する講習を受けられないという話をよく聞きます。希望が多い講座は回数を増やしていただけるとありがたい。 (北信) (平成23年) (30代) (小学校)

○興味ある内容でも勤務の関係で受講出来なかったり希望者が多くて受講出来なかったりして残念でした。 (北信) (平成23年) (30代) (小学校)

○講座はどれもおもしろかったです。料金が高い事を除けば行けたことに満足な物ばかりでした。一講座6000円というのだからやはり普段等は違うことを学びたいと感じます。また教師の技術向上もいいですが、学校そのもののシステムをもう少し考えて欲しい。時間外労働、安い賃金、人数の不足、この状態で教師にいろいろ課すだけで何かが変わるのでしょうか。教育は次の日本を作るために大切なことから、予算ももっと入れなければいい人材も流出すると思います。(北信) (平成23年) (30代) (中学校)

○お金がかかるのがネックですが普段忙しくてなかなか学ぶ機会が無いのでとても貴重だと思います。必修でも選択でもたくさんの方の事を教えていただき、とても為になりました。どれも受講して良かったと思いました。どの講義も最新事情が知れて勉強になりました。(北信) (平成23年) (30代) (中学校)

○このような機会があったために新たに知る事が出来る内容がたくさんだったのでありがたいです。今だからこそまた改めて大学で学びたいと思いました。 (北信) (平成23年) (40代) (小学校)

○現場における多忙さの中であればこの単位を取らなければいけないというのは正直負担を感じます。信大だけでは単位を取りきれず県外の大学にも行きました。 (北信) (平成23年) (40代) (中学校)

○研修等の機会は大切だと思うが受講すれば更新できる制度なので本当にやる意味があるのかは疑問。 (北信) (平成23年) (40代) (中学校)

○自分が抱えている課題からもっと内容を自由に選べるようになると良いと思う。

(北信) (平成23年) (50代) (小学校)

○必修講座でただ聞くだけという内容は正直苦しかった。(北信) (平成23年) (50代) (中学校)

○センター研修、市町村主催の研修も一日研修であれば免許更新講習の単位に認定して欲しい。

(北信) (平成24年) (平成25年) (30代) (小学校)

○お金をかけてまでも思いましたが、なかなか講習を受ける機会が無いので良い勉強になったと思います。 (北信) (平成24年) (平成25年) (30代) (中学校)

○どうしても夏休みや年末年始休業中に受講したいので、申し込みが7~8月、12~1月などお願いが集中してしまい抽選にはずれてしまうことが多く、1年間で+終了できず2年間にまたがってしまった。信大教育学部で開催されている講座は大変魅力があり2年間にまたがったとしても受講する価値は十分にあったと思います。 (北信) (平成24年) (平成25年) (40代) (小学校)

○妻と同じ講習に申し込みましたが片方しか通らず、別になってしまうという不具合があるので

一緒にしてもらえるとありがたい。(北信)(平成24年)(平成25年)(40代)(小学校)
○現場で子どもたちと接する中で教師がとれ得ている問題や課題となっていることについて、学ぶ場があるとありがたい。どちらかというとそれぞれの教授の専門分野を伝えているという印象が強い。講習を受けるのもいいが毎日が多忙な中で一人一人への負担は大きくなるばかりです。

(北信)(平成24年)(平成25年)(40代)(小学校)
○県や市で行う研修も認定して欲しい。夏休み中に受講出来る講習が多いとありがたい。

(北信)(平成24年)(平成25年)(40代)(小学校)
○普段なかなか研修することが出来ない内容を勉強する機会でもとても有意義であった。しかし、日程を組むのが大変でした。

(北信)(平成24年)(平成25年)(40代)(中学校)
○夏休みに往かざるを得ないことが多いのですが部活動が出来ないなど教育活動に支障もある。(北信)(平成24年)(平成25年)(40代)(中学校)

○休日に参加するのは大変ですが研修が減っている今日とてもありがたいことだと思います。

(北信)(平成24年)(平成25年)(40代)(中学校)
○現在の時間ぐらいがベストだ。それ以上は負担になる。

(北信)(平成24年)(平成25年)(50代)(小学校)
○厳しい状況下で強いられて出て行くのでニーズに合った内容を増やしたり、より幅広い情報や内容(学外の講師や場)を選択できるようにして欲しいです。(北信)(平成24年)(平成25年)(50代)(小学校)
○今直面している問題に役立つようなハウツーものも一つ位ぐらいあれば良かった。専門の方のお話を聞いて見識が広まる場であったという意味では良かった。

(北信)(平成24年)(平成25年)(50代)(小学校)
○講義とグループ演習、講義と実技などの形式が良いと思いました。継続して行ってください。

(北信)(平成24年)(平成25年)(50代)(小学校)
○講習をするにも手間と時間を捻出しなければなりません。講習すればしたなりの収穫はありますが、それよりも多忙化している勤務の毎日です。教材準備や自己研修の時間も不十分です、それを改善することが先だと思います。

(北信)(平成24年)(平成25年)(50代)(小学校)
○更新講習にかかる費用と時間に見合った内容であるかどうか、それが大切では無いか。教員の資質向上の為の制度であるならば、個人が費用を負担するのではなく、採用権者がその費用を負担すべきである。

(北信)(平成24年)(平成25年)(50代)(小学校)
○日常学校内にいるだけでは気づかないことや知らずに過ごしていることに目を開かされたり、他校の先生方と話し合う機会を与えていただいて新たに勉強することが多く実りの大きな講習でした。

(北信)(平成24年)(平成25年)(50代)(中学校)
○選択したものが、もっと希望が通るようにしてもらいたい。(北信)(平成24年)(30代)(小学校)
○幼稚園教諭から高等学校教諭までまでの違った見方を知れるのは新しい発見があり視野も広がった。その反面、心理学できなもの(児童生徒の実態など)でなく知識を深める講習の場合は、内容が大学の専門過ぎてすぐ使えたり、日頃に生かせる場面がなく残念。もう少し分けてすぐに生かせる深い内容にってもらえるとありがたい。

(北信)(平成24年)(30代)(小学校)
○日本の新しい取り組みについての情報が欲しい。実際の授業に生かすことを考えると、何を、どう教え、どう評価するか、が明確である方が良い。

(北信)(平成24年)(30代)(小学校)
○このような機会講習を受けること自体は良いのだが、免許更新のための費用が結構かかってしまうのは何とかならない物もの。

(北信)(平成24年)(30代)(中学校)
○現場の様子を実際に見ていただいて講義内容の充実を図ってもらえればと思います。(北信)(平成24年)(30代)(中学校)

○学校の教育現場とかけ離れた内容の講習もありに数とお金をかけてする研修なのだからもっと論と現実の課題をリンクさせたお話を聞いたかった講習もありました。しかし、ほとんどはより専門的な研修をすることが出来るその資料は大事に持って今後生かしていく予定です。

(北信)(平成24年)(40代)(小学校)
○臨時での学校に来ている先生の対応を明確にして欲しい。大学へ質問の電話をしたら、対応が雑で少し不愉快に思った。

(女性)(北信)(平成24年)(40代)(小学校)
○新しい内容をもっと取り入れられる内容にして欲しい。時間、会場、講師の問題もあるが、一つの講座の参加人数を少なく、講義とグループ演習または実技等も取り入れた、内容を絞った講座を多く開設

- し、受講者が必要と思える免許更新講習にしていきたい。(北信)(平成24年)(40代)(小学校)
- 是非について疑問(北信)(平成24年)(40代)(中学校)
- 積極的に講習費を払って受けたいものではないかなと思っています。(北信)(平成24年)(40代)(中学校)
- 2年で全単位の履修は厳しいと思います。10年間で毎年少しづつ自主研修を行い履修証明のような物を出してもらってそれで更新講習とすればゆとりが生まれると思います。(北信)(平成24年)(40代)(中学校)
- 大学側では協力していただいていたと思います。更新講習という形ではなく、日頃の研修でタイアップしてやっていけることが望ましいと思いました。(北信)(平成24年)(40代)(中学校)
- 希望者が多いことで1年で受講出来なかった。同じ内容で2回開催する講習があると良い。(北信)(平成24年)(40代)(中学校)
- 免許取得後から退職の間に一回やれば良いと思います。10年に一度は大変だし、不公平間と無駄があるように思います。(北信)(平成24年)(40代)(中学校)
- 講習を受けたことを、実際生かすことは難しい。でたい講習を受けられなかった。人数が多くてということだったようだが、研修したい内容のものを受講したかったので残念に思った。(北信)(平成24年)(50代)(小学校)
- 新しい教育的課題や情報を学ぶ機会となり得るものがあつた。一方でこの更新講習が教員の資質向上につながるかは疑問である。(北信)(平成24年)(50代)(小学校)
- 選択の人数を増やして欲しい。(北信)(平成24年)(50代)(小学校)
- 自分で申し込んで、手続きして、日程を合わせてと大変である。もう少し簡単にできないものかと思う。(北信)(平成24年)(50代)(小学校)
- 講習の受講料がもう少し安くなると良いと思います。(北信)(平成24年)(50代)(小学校)
- 最初はおっくうでしたが、大変勉強になり目から鱗という講座もありました。事務的手続きがネットだけというのは少し戸惑いました。(北信)(平成24年)(50代)(中学校)
- 必修講座では発達障害の子どもに関する講座が多かった。特に広汎性発達障害に子どもが増えている現状を踏まえており特別支援クラスの担任としてはとても良い勉強になった。(北信)(平成24年)(50代)(中学校)
- この制度は今後も続くのでしょうか。負担になる部分も多いように感じます。(北信)(平成24年)(50代)(中学校)
- 教職員側の理解が不足している部分を大学の先生に教わることが出来ありがたかった。現場ですぐに必要な考え方や子どもたちの理解の仕方が大変勉強になりました。心理学の視点から子ども理解をする講習も大変ありがたかったです。(北信)(平成25年)(30代)(小学校)
- グループ討議や実技が楽しく参考になりました。(北信)(平成25年)(30代)(小学校)
- 美術史、現代文学などの講座をとりましたが、もう少し、現場の授業に直結する内容にして欲しかったです。(北信)(平成25年)(40代)(小学校)
- 希望した講習は人気が高く抽選にもれてしまった。そのような講座はニーズも高いので複数回開催して欲しい。(北信)(平成25年)(40代)(小学校)
- その年度で受講する人数はおおよそ見当がつくと思いますので、せめて必修ぐらいは受けさせていただけると願います。(北信)(平成25年)(40代)(小学校)
- 現状から言うと負担はとても大きい。しかし参考になる部分もある。教員にとって未来を照らしてくれるような内容を望みます。(北信)(平成25年)(40代)(小学校)
- なれすぎの中で新しい空気を入れるにはいいのかも知れませんが、選択しても講習したいものに入れず、いくつもの遠くの場所に休日にお何度も通うようになりました。受講回数が多く大変でした。講習したいものが選択出来るよう講座回数を増やすなど対応があると良いと思います。(北信)(平成25年)(40代)(小学校)
- 他県で受講しました。県内での受講と違って、異校種や異なる土地での現状など情報を得る事ができよかったです。(北信)(平成25年)(40代)(中学校)
- 毎回このようなアンケートを採っているのに、またこのようなアンケートをする必要があるのか？免許更新制度の見直し、改善を強く要望します。(北信)(平成25年)(40代)(中学校)
- 費用がかかり負担でした。国等で補助してもらえるとありがたいです。

- (北信) (平成25年) (50代) (小学校)
- 開催期間歯夏休み期間だとありがたいが、なかなか希望する講座がその期間になかったので残念だった。久しぶりの大学での講義をお聞きして興味ある分野の研修が深められた。
(北信) (平成25年) (50代) (小学校)
- 選択講習でもっと現場の課題や研究に結びつく内容の者があっても良いと思いました。
(北信) (平成25年) (50代) (小学校)
- 良い刺激を受けその後の教育への活力となる。
(北信) (平成25年) (50代) (小学校)
- 久しぶりに大学生に戻った気分になり新鮮でした。学ぶ事はこれからも必要と思いました。
(北信) (平成25年) (50代) (小学校)
- この制度そのものに反対。様々な形で研修を自主的に行っており、自分なりに資質向上を図ってきた。強制的とも思える講習には多に疑問。
(北信) (平成25年) (50代) (小学校)
- どうして教員ばかり免許の更新があるのか。医師免許も更新性にしましょう。教員をいじめると国の未来にかけがれが落ちます。こんなばかげたことやめましょう。全て安倍晋三のはかりごと。あの人はこの国をどうしようとしているのか。だから長州は。
(北信) (平成25年) (50代) (小学校)
- 最後の試験の暗記に気持が集中して、午後は見返すなどしてしまうので、試験内容は論文形式で良いのではないかと思った。
(北信) (平成25年) (50代) (小学校) (特支)
- これだけのお金と時間をかけてやる意味があるのか本当に疑問です。もう少し教員のニーズに合った研修の位置づけが欲しいと思います。10年ごとに研修を受けることは大切だと思いますが、社会人と仕事の常識を学ぶ研修も必要だと思います。職員のモラルが問われているだけに位置としてのあり方を工場させる研修、講習になって欲しいと願います。(大学の方も大変だと思いました。)
(北信) (平成25年) (50代) (小学校)
- 大学の講師によって内容の新しい、古いの差があると思った。(北信) (平成25年) (50代) (小学校)
- 希望する内容(講習)がほとんど通らず再募集の講義になった。受講すると良さもあったが、希望する講義を受けてみたかった。
(北信) (平成25年) (50代) (小学校)
- 少ない人数でも開催して欲しい。
(北信) (平成25年) (50代) (中学校)
- 免許更新そのものに疑問を感じています。
(北信) (平成25年) (50代) (中学校)
- 免許教科に限らずいろいろな分野の内容を学べるのは良いと思いました。
(北信) (平成25年) (50代) (中学校)
- 信大を希望しましたが予約が取れませんでした。希望してとれるといいなと思いました。
(北信) (平成25年) (50代) (中学校)
- 免許更新の為に金と時間を使う現在の制度は教員にさらなる負担を求める物になっている。自分が選択捨て受講した選択研修は大変充実したものでした。
(北信) (平成25年) (50代) (中学校)
- ここまでお金をかけてやることではない。なくすべきだと考える。現場はますます厳しい状況です。多くの職員が様々な事に追い込まれたような感覚を基ながら日々頑張っている状況です。ゆとりというものはないのでしょうか。
(北信) (30代) (中学校)

[信州大学教員免許更新支援センター研究スタッフ]

赤羽 貞幸	副学長（理事）（センター長）
小山 茂喜	総合人間科学系教授 ※
庄司 和史	総合人間科学系教授
荒井 英治郎	総合人間科学系准教授
田村 徳至	総合人間科学系講師
河野 桃子	総合人間科学系講師
神谷真由美	総合人間科学系講師

※研究並びに報告書作成責任者

[外部評価委員]

谷田部 玲生	桐蔭横浜大学	スポーツ健康政策学部	教授
田部 俊充	日本女子大学	人間社会学部	教授
二川 正浩	東京家政大学	家政学部	准教授
渡部 竜也	東京学芸大学	教育学部	准教授
玉川 隆雄	長野市教育センター	主任指導主事	

文部科学省委託事業
「平成26年度免許更新制高度化のための調査研究事業」
報告書

編著者 信州大学免許更新支援センター

発行者 信州大学免許更新支援センター
〒390-8621
長野県松本市旭3-1-1
Tel 0263-35-4600

発行日 平成27年3月31日

制作 株式会社コンテンツビジョン
〒380-0836
長野県長野市南県町680
Tel 026-238-7272